

八幡山遺跡群発掘調査報告書

—第11・12・13・14次調査—

2004

新津市教育委員会

例 言

- 1、本書は新潟県新津市大字古津・金津に所在する八幡山遺跡群はちまんやま－古津八幡山古墳ふるつ はちまんやま・八幡山遺跡－の確認調査報告書である。
- 2、発掘調査は新津市教育委員会が調査主体となり、第11次調査（平成12年度）・第12次調査（平成13年度）・第13次調査（平成14年度）・第14次調査（平成15年度）を実施した。
- 3、平成12年度から平成15年度に確認調査を、平成15年度に報告書作成に係る整理作業を行った。調査体制は第Ⅰ章に記した。
- 4、出土遺物・発掘調査に関する記録は新津市教育委員会が一括して保管している。遺物注記は第11次：00古津八幡山古墳、第12次：01古津八幡山古墳、第13次：02H、第14次：03Hとし、トレンチ名・遺構名・層位名等を併記した。
- 5、本書の編集は渡邊朋和が行い、高野裕子が補佐した。図版レイアウトは、遺構図版は高野、石器図版は立木宏明、写真図版を含むその他を渡邊が行った。執筆分担は以下のとおりである。
第Ⅰ章1・3・第Ⅱ章（渡邊）、第Ⅰ章2・第Ⅲ章・第Ⅳ章2・3（高野）、第Ⅳ章1・4A・C（渡邊）、第Ⅳ章4B（立木）第Ⅴ章（株）古環境研究所、第Ⅵ章（渡邊）である。
- 6、調査における遺構図面は、平面図は測量業者に委託して作成し、それ以外は調査補助員が作成し調査員が記録した。遺構図面の校正・編集は渡邊の指示のもと高野が行った。
- 7、本書で報告する遺物の抽出は、弥生土器を主としたために、縄文土器は代表的なものに限っている。弥生土器は細片に至るまで全て図化した。縄文土器は、14次10Tは一部、11Tは全く図化を行っていない。石器に関しても代表的なものに限っている。
- 8、土器実測図作成は阿部泰之・調査補助員の協力を得て渡邊が行った。石器実測図作成は一部を業者に委託して立木が行った。
- 9、本書で用いた発掘調査写真は各調査担当者が撮影したものである。ただし、写真図版（扉）は（株）オリスが撮影したものを使用した。遺物写真は佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に撮影を依頼した。
- 10、遺構図面・遺物図面の作成に関しては（株）オリスに委託し、デジタルトレースを行った。
- 11、調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。（所属・敬称略、五十音順）






赤澤徳明・甘粕 健・石川日出志・石田守之・春日真実・北村 亮・小林達雄・笹沢正史・品田高志・鈴木俊成・関 雅之・高橋 保・滝沢規朗・田中耕作・田海義正・中島栄一・芳賀利仁・橋本博文・藤巻正信・増子正三・三ツ井朋子・吉田博行・八藤後智人

（株）小川組・（株）セビラス・（株）ミナミジオマック・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

凡 例

- 1、本書は本文・別表と巻末図版（図版・写真図版）からなる。
- 2、本書で示す方位はすべて真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載した図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては原図の作成者・作成年を示した。
- 3、本文の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4、遺構番号は現場で付したものを本報告にあたり、新たに付け直した。基本的に調査年次毎に通し番号を付しているが、環濠のように旧調査の遺構に対応できる場合には、新たな遺構番号を付さず、旧調査の遺構番号を用いたものがある。

また、同一環濠であると考えていたものが、別の環濠になったり、別の竪穴住居であると考えていたものが一つの竪穴住居であると確認されたりしたために、旧報告とは遺構名が一部変更になっているものがある〔渡邊他2001〕。
- 5、土層の土色観察は『新版 標準土色帖』〔農林水産技術会議事務局監修1967〕を用いた。
- 6、土器実測図で口径復元に不安があるものについては、中軸線の両側に空白を作って区別した。実測図の表記方法は〔渡邊他2001〕による。
- 7、個別遺構図面の縮尺は古墳平面図1/150、断面図1/80、竪穴住居1/60・1/80、環濠平面図1/200、断面図1/80、土坑1/20・1/40とした。
- 8、遺構図面で用いたスクリーンパターンは以下のとおりである。

	攪乱・木根・旧トレンチ		コンクリート		盛土		焼土		環濠黒色土
---	-------------	---	--------	---	----	--	----	---	-------
- 9、遺構図面で用いた遺物ドット図は、土器を●、複数接合している土器を▲、石器を■で示している。

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査経過	3
3 調査体制	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
1 地理的環境	5
2 周辺の遺跡	5
第Ⅲ章 第11次・12次調査－古津八幡山古墳の調査－	7
1 概 要	7
2 遺 構	7
3 遺 物	7
第Ⅳ章 第13次・14次調査－八幡山遺跡の調査－	8
1 概 要	8
2 北地区の遺構	9
A 環 濠	9
B 竪穴住居	12
C 方形周溝墓	16
D 土 坑	16
3 北東地区の遺構	16
A 竪穴住居	16
B 土 坑	17
4 遺 物	19
A 縄文土器・弥生土器	19
1) 北地区の遺物	19
2) 北東地区の遺物	22
B 土製品・石器・石製品・ガラス製品	23
1) 土 製 品	23
2) 石器・石製品	23
3) ガラス製品	25
C 須恵器・土師器	25
第Ⅴ章 自然科学分析－第13次調査－	26
1 土層とテフラ	26

2	植物珪酸体分析	28
3	花粉分析	32
4	珪藻分析	34
5	種実同定	37
6	樹種同定	37
第Ⅵ章	ま と め	42
1	古津八幡山古墳	42
2	八幡山遺跡	42
A	遺 構	42
B	遺 物	43
引用・参考文献		46
別 表		
1	弥生時代環濠一覧表	49
2	弥生時代竪穴住居一覧表	49
3	弥生時代その他の遺構一覧表	49
4	縄文時代竪穴住居一覧表	49
5	縄文時代の遺構一覧表	49
6	竪穴住居柱穴計測表	50
7	環濠計測表	50
8	土器観察表	51
9	土製品観察表	62
10	石器・ガラス製品観察表	62
11	石器組成表	63

挿 図 目 次

第1図	秋葉遺跡弥生土器(1/3)	6
第2図	第14次3T土層断面図(1/80)	11
第3図	第13次12T S I 1308弥生土器(1/3)	13
第4図	第13次S I 03 S 21 (S I 1401) 弥生土器(1/3)	15
第5図	第14次10T S I 1409縄文土器(1/3)	22
第6図	土製品(2/3)	24
第7図	土層柱状図	27
第8図	植物珪酸体分析結果	30
第9図	植物珪酸体の顕微鏡写真	31
第10図	花粉ダイアグラム	33

第11図	花粉・孢子顕微鏡写真	35
第12図	珪藻化石顕微鏡写真	35
第13図	炭化材の顕微鏡写真（1）	38
第14図	炭化材の顕微鏡写真（2）	40

表 目 次

第1表	八幡山遺跡群発掘調査の流れ	1
第2表	八幡山遺跡群発掘調査経緯	2
第3表	調査体制	4
第4表	八幡山遺跡整備基本構想策定委員会	4
第5表	13T内環濠B区におけるテフラ検出分析結果	27
第6表	植物珪酸体分析結果	30
第7表	花粉分析結果	33
第8表	珪藻分析結果	36
第9表	樹種同定結果	39
第10表	八幡山遺跡群の遺構変遷と弥生時代後期編年試案	44

図 版 目 次

図版1	八幡山遺跡周辺の旧地形図（1/25000）
図版2	八幡山遺跡と周辺の遺跡（1/15000）
図版3	第1次～14次調査位置図（1/2500）
図版4	遺跡全体図（1/2500）
図版5	遺構全体図（1/1000）
図版6	北地区遺構全体図1 第11次・12次・14次調査（1/500）
図版7	北地区遺構全体図2 第11次・12次・13次・14次調査（1/500）
図版8	北地区遺構全体図3 第13次・14次調査（1/500）
図版9	北地区遺構全体図4 第13次・14次調査（1/500）
図版10	北東地区遺構全体図1 第14次調査（1/500）
図版11	古津八幡山古墳全測図 第11次・12次調査（1/800）
図版12	古津八幡山古墳個別実測図1 第11次・12次調査 S D1101・S K1102・S K1103・S D1201・S D1202・S K1203（1/80・1/150）
図版13	北地区個別実測図1（外環濠D） 第14次調査 S D1402（1/80）
図版14	北地区個別実測図2（外環濠D） 第14次調査 S D1402（1/200）
図版15	北地区個別実測図3（外環濠A・B） 第13次調査 S D0901・S D03N05（1/80・1/200）
図版16	北地区個別実測図4（外環濠C） 第13次調査 S D03 S10（1/200）
図版17	北地区個別実測図5（外環濠C） 第13次調査 S D03 S10（1/80）
図版18	北地区個別実測図6（内環濠B） 第13次調査 S D1011（1/80・1/200）

- 図版19 北地区個別実測図7 (内環濠A・竪穴住居) 第13次調査 SD03S16・SI1307・SI1308 (1/60)
- 図版20 北地区個別実測図8 (竪穴住居) 第13次調査 SI1307・SI1308 (1/40・1/60)
- 図版21 北地区個別実測図9 (竪穴住居・土坑) 第13次調査 SI1309・SK1310 (1/20・1/40・1/60)
- 図版22 北地区個別実測図10 (竪穴住居) 第13次調査 SI1311・SI1312・SI1313 (1/40・1/80)
- 図版23 北地区個別実測図11 (竪穴住居) 第14次調査 SI1401 (1/10・1/40・1/60)
- 図版24 北地区個別実測図12 (方形周溝墓) 第13次調査 SX1303・SX1304 (1/40)
- 図版25 北東地区個別実測図1 (竪穴住居) 第14次調査 SI1407・SI1408・SI1409・SD1412・SK1419 (1/40・1/60・1/80)
- 図版26 北東地区個別実測図2 (土坑・溝・ピット) 第14次調査 SK1415・SK1416・SK1417・SK1422・SK1423・SK1424・SK1425・Pit (1/40・1/80)
- 図版27 北地区弥生土器実測図1 第13次調査 2T・3T・4T、7TSD03S10 (1/3)
- 図版28 北地区弥生土器実測図2 第13次調査 8T・10T・11TSD03S10 (1/3)
- 図版29 北地区弥生土器実測図3 第13次調査 9TSD0901、14TSD03N05 (1/3)
- 図版30 北地区弥生土器実測図4 第13次調査 12TSI1307 (1/3)
- 図版31 北地区弥生土器実測図5 第13次調査 12TSI1307 (1/3)
- 図版32 北地区弥生土器実測図6 第13次調査 12TSI1307 (1/3)
- 図版33 北地区弥生土器実測図7 第13次調査 12TSD03S16 (1/3)
- 図版34 北地区弥生土器実測図8 第13次調査 13T・15TSD1011、17T、18TSI1311・SI1312 (1/3)
- 図版35 北地区弥生土器実測図9 第13次調査 18T、19TSI1313 (1/3)
- 図版36 北地区弥生土器実測図10 第13次調査 16TSI1309・SK1310 (1/3)
- 図版37 北地区弥生土器実測図11 第14次調査 1TSI1401 (SI03S21)、2T・4T・5T (1/3)
- 図版38 北地区弥生土器実測図12、北東地区遺物実測図1 第14次調査 8T・9T、10TSI1407・SK1419 (1/3)
- 図版39 北地区弥生土器実測図13 第14次調査 3TSD1402 (1/3)
- 図版40 北地区弥生土器実測図14 第14次調査 3T・12T・14T・15TSD1402 (1/3)
- 図版41 北地区弥生土器実測図15 第14次調査 13T・16TSD1402 (1/3)
- 図版42 北地区弥生土器実測図16、古津八幡山古墳遺物実測図1 第11次・12次・14次調査 16T、17TSD1402、古津八幡山古墳 (1/3)
- 図版43 北東地区縄文土器実測図1 第14次調査 10TSI1409 (1/3)
- 図版44 北東地区縄文土器実測図2 第14次調査 10TSI1409 (1/3)
- 図版45 石器実測図1 第13次・14次調査 (2/3)
- 図版46 石器実測図2 第13次・14次調査 (1/2)
- 図版47 石器実測図3 第13次・14次調査 (1/3・2/3)
- 図版48 石器実測図4 第13次・14次調査 (1/3)
- 図版49 塩辛遺跡弥生土器実測図 (1/3)
- 図版50 塩辛遺跡土器実測図 (1/3)

写真図版目次

扉	八幡山遺跡周辺航空写真(2001年撮影)
写真図版1	北地区第13次調査 7 T S D03 S10 10 T S D03 S10
写真図版2	北地区第13次調査 9 T S D0901・14 T S D03 N05 12 T S D03 S16、S I 1307・S I 1308
写真図版3	北地区第13次調査 13 T S D1011 15 T S D1011
写真図版4	北地区・北東地区第14次調査 1 T S I 03 S21 (S I 1401) 10 T S I 1407・S I 1408
写真図版5	北地区第14次調査 13 T S D1402 3 T S D1402
写真図版6	北地区・北東地区第14次調査 17 T S D1402 10 T 北側
写真図版7	古津八幡山古墳第11次調査 航空写真 1 T 2 T 3 T 4 T
写真図版8	古津八幡山古墳第12次調査 トレンチ全景 Hライン Kライン Lライン
写真図版9	北地区第13次調査 2 T 全景 2 T S I 1301 4 T 全景 5 T 全景 6 T 全景
写真図版10	北地区第13次調査 3 T S X1303・S X1304 3 T S X1303 3 T S X1304
写真図版11	北地区第13次調査 7 T S D03 S10
写真図版12	北地区第13次調査 7 T S D03 S10
写真図版13	北地区第13次調査 8 T・10 T・11 T S D03 S10 10 T S D03 S10
写真図版14	北地区第13次調査 10 T S D03 S10
写真図版15	北地区第13次調査 9 T S D0901・14 T S D03 N05
写真図版16	北地区第13次調査 14 T S D03 N05 9 T S D0901
写真図版17	北地区第13次調査 12 T S D03 S16、S I 1307・S I 1308 12 T S I 1307
写真図版18	北地区第13次調査 12 T S D03 S16
写真図版19	北地区第13次調査 13 T S D1011
写真図版20	北地区第13次調査 15 A B C T S D1011 15 T S D1011
写真図版21	北地区第13次調査 16 T 全景 16 T S I 1309 16 T S K1310
写真図版22	北地区第13次調査 18 T 全景 18 T S I 1311 18 T S I 1312 19 T S I 1313 20 T
写真図版23	北地区第14次調査 1 T S I 03 S21 (S I 1401)
写真図版24	北地区第14次調査 2 T 全景 4 T S K1404 4 T 全景 4 T S K1403 5 T 全景 8 T 全景
写真図版25	北地区第14次調査 9 T 全景 9 T S D1405
写真図版26	北東地区第14次調査 10 T S I 1407・S I 1408 10 T S I 1407 10 T S I 1408 10 T S K 1419 10 T
写真図版27	北東地区第14次調査 10 T 北側 10 T S K1416abc 10 T 40区Pit 1・10 T S I 1409
写真図版28	北東地区第14次調査 11 T 11 T S K1424 11 T S K1423 11 T 15区Pit 1
写真図版29	北地区第14次調査 6 A B T S D0901、風倒木 6 A T S D0901 6 A T 風倒木 6 A B T 全 景 7 T 全景
写真図版30	北地区第14次調査 13 T S D1402
写真図版31	北地区第14次調査 3 T 全景 3 T
写真図版32	北地区第14次調査 3 T S D1402
写真図版33	北地区第14次調査 12 T S D1402 14 T S D1402 15 T S D1402

- 写真図版34 北地区第14次調査 17T S D1402 16T・17T 16T S D1402
- 写真図版35 北地区第13次・14次調査
- 写真図版36 北地区第13次調査
- 写真図版37 北地区第13次・14次調査
- 写真図版38 北地区第13次調査
- 写真図版39 北地区第13次調査
- 写真図版40 北地区第13次調査
- 写真図版41 北地区第13次調査
- 写真図版42 北地区第13次・14次調査
- 写真図版43 北地区第14次調査
- 写真図版44 北地区第14次調査
- 写真図版45 北東地区第14次調査 縄文土器
- 写真図版46 北地区第13次・14次調査 石器

第1章 序

1 調査に至る経緯 (第1表・第2表)

第1次調査～第10次調査 八幡山遺跡群は土砂採取に伴う昭和62年の第1次調査によって発見され、翌年までに実施した第2次～第5次調査によって、日本海側最北の大規模な弥生時代の高地性環濠集落と大形古墳が存在することが明らかとなった。また、環濠が数ヶ所検出され、幾重にも巡る可能性が指摘された。このように遺跡の重要性が詳らかになるにつれて、全国規模の遺跡保存運動が起こったが、紆余曲折を経て、平成2年度に遺跡の主要部分略全域が保存されるということで決着した。第1次～第8次調査はこのような開発を前提とした確認調査・本調査として行った。その後、平成5・6年には、遺跡の範囲や環濠の繋がりを確認することを目的とした第9次・10次調査を実施した〔渡邊他2001〕。

八幡山遺跡は、平成2年～4年度には自治省のふるさとづくり事業の選定を受けて「花と遺跡のふるさと公園整備事業」として、園路・堅穴住居・環濠の整備がなされた。不明確な部分についても推測による復元がされる等の一部に問題はあるものの、今では歴史教育の場として小中学校に広く活用されている。また、平成7年8月25日には新潟都市計画公園「5・5・51号花と遺跡のふるさと公園」として約43haが都市計画決定され、八幡山遺跡と周辺の新潟県立埋蔵文化財センター・新潟県立植物園等が市内の総合的な文化ゾーンとなるに至っている。

第11次調査・第12次調査 平成12年3月8日、新潟県環境対策課と初めて国設新津酸性雨測定所の撤去について協議し、コンサルタント会社による施工計画原案作成後、再度協議を行うこととする。6月21日、施工計画書原案を基に環境庁大気保全局大気規制課・県環境対策課・県文化行政課と再度協議し、市教委が確認調査を早急に実施し、調査結果に基づいて施工計画書を検討することとなった。7月に確認調査を実施し（第11次調査 第Ⅲ章に詳述）、調査結果に基づいて、10月～12月に施工方法について協議を行う。12月22日付け環大第326号で文化保護法第57条の3第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知。『旧国設新津酸性雨測定所解体工事施工計画書』が環境庁大気保全局長から出され、これに対し平成13年1月12日教文1006号で県教育長から工事立会の指導。市教委は基礎部分撤去について工事立会で対応し、重要な遺跡であることから十分な記録を取るために確認調査を追加して実施することとし、3月～4月に基礎工事撤去に伴う確認調査を実施した（第12次調査 詳細は第Ⅲ章に詳述）。

第13次調査・第14次調査 国指定史跡申請のために、遺跡範囲・性格・環濠の繋がりを明らかとすることを主目的として、第13次・14次調査を行った。平成14年度の第13次調査では外環濠・内環濠の各末端部分を検出し、また環濠と堅穴住居の重複関係を初めて確認し、環濠と堅穴住居が必ずしも同時存在ではないことが

第1表 八幡山遺跡群発掘調査の流れ

年度 遺跡名	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994		2000	2001	2002	2003	文 献
	昭和62年	昭和63年	平成1年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	
古津八幡山古墳	1次				測量調査					11次	12次			平成4年測量調査報告書刊行、本書
北地区	1次・2次	3次					9次	10次				13次	14次	平成13年報告書刊行、本書
南地区		4次・5次		6次・7次	8次									平成13年報告書刊行
北東地区	1次												14次	平成13年報告書刊行、本書

確認調査
 確認調査・本調査
 本調査

明確となった。そして、平成15年度の第14次調査では八幡山遺跡整備基本構想策定委員会を立上げ、委員会で調査ヶ所を設定し、国指定の手続き・指定後の活用方法について話し合った。調査の結果、古津八幡山古墳北西斜面で新たな環濠を確認し、八幡山遺跡の北側にある埋葬地遺跡で、弥生時代の竪穴住居2棟が初めて検出され、八幡山遺跡と一連のものとして考えるべきであると推察されるに至った。埋葬地遺跡に関しては、調査終了後に遺跡名を抹消し、八幡山遺跡北東地区として扱うこととし、八幡山遺跡範囲変更の手続きを行った。

第2表 八幡山遺跡群発掘調査経緯

年次	調査年	調査区	おもな成果	調査面積
1次	1987 (S62) 9.28~10.9	北地区 北東地区	市教育委員会による確認調査(担当 県文化行政課戸根) 八幡山城跡-古墳の可能性を指摘 盛土下から竪穴住居検出 八幡山遺跡の発見	502㎡
2次	1987 (S62) 11.24~12.8	北地区	市教委(担当 川上)による確認調査	77㎡
	1988 (S63) 3.8		八幡山遺跡発見通知を文化庁に提出	
3次	1988 (S63) 6.23~9.16	北地区	市教委による確認調査(担当 川上) 環濠・竪穴住居・前方後方形周溝墓等の検出	3,317㎡
4次	1988 (S63) 9.21~10.3	南地区	市教委による確認調査(担当 川上・荒木) 遺物出土、「狼煙台」とされる焼土坑の検出	207㎡
5次	1988 (S63) 11.9~11.18	南地区	市教委による確認調査(担当 伊與部) 竪穴住居の検出	156㎡
6次	1990 (H2) 5.26~7.9	南地区 (記録保存)	市教委による発掘調査(担当 川上)	6,500㎡
7次	1990 (H2) 7.23~8.10	南地区 南西地区	県文化行政課・市教委による確認調査(担当 渡邊) 南地区で環濠・竪穴住居等の調査 遺跡の範囲拡大	13,180㎡ (第6次調査分含む)
8次	1991 (H3) 5.20~10.31	南地区 (記録保存)	市教委による発掘調査(担当 渡邊) 竪穴住居・焼土坑の検出	9,000㎡
	1991 (H3) 6.25~8.31	北地区	古津八幡山古墳の測量調査(古津八幡山古墳調査団 代表新潟大学甘粕教授) 墳丘長約60mの2段構築の造出し付円墳と推定	
9次	1993 (H5) 9.21~11.5	北地区	市教委による確認調査(担当 渡邊) 環濠が古墳の東側・北東斜面に100m以上延びることを確認	372㎡
10次	1994 (H6) 9.16~11.14	北地区	市教委による確認調査(担当 渡邊) 環濠の確認 初めて方形周溝墓2基検出	590㎡
11次	2000 (H12) 7.3~7.7	北地区	市教委による古津八幡山古墳の確認調査(担当 立木) 環境省の大気観測所撤去に伴う事前確認調査	15.08㎡
12次	2001 (H13) 3.16~5.18	北地区	市教委による古津八幡山古墳の確認調査(担当 立木) 環境省の大気観測所撤去に伴う確認調査	46.18㎡
13次	2002 (H14) 6.3~10.7	北地区	市教委による確認調査(担当 渡邊) 外環濠・内環濠の各末端を確認し、各所で分断していることを確認 竪穴住居と環濠の重複関係を確認	843.9㎡
14次	2003 (H15) 5.23~10.23	北地区 北東地区	市教委による確認調査(担当 渡邊) 古津八幡山古墳の北西斜面で新たな環濠を確認 北東地区(旧 埋葬地遺跡)で弥生時代の竪穴住居を検出	1,060.25㎡ (北地区 698.54㎡、 北東地区 361.71㎡)

2 調査経過

第11次調査 平成12年6月28日付け教生第291号で発掘調査の通知を提出。7月3日(月)国設酸性雨新津測定所周辺にトレンチ5ヶ所設定し人力で掘削開始、3T・4Tで落ち込みを各1ヶ所確認。弥生・古墳・古代の土器が出土。7日(金)新潟大学甘粕健名誉教授・橋本博文教授来跡。各トレンチに川砂を搬入し、埋め戻しを行い調査終了。

第12次調査 平成13年3月15日付け教生第665号で発掘調査の通知を提出。16日(木)建物解体作業開始。4月10日(火)基礎部分解体作業開始。17日(火)橋本教授来跡。23日(月)基礎撤去終了し、トレンチ状部分の壁面・床面を精査し、溝・土坑・ピットを確認。古墳墳丘面と推測される層から弥生時代後期以降の土器が出土。24日(火)～26(木)セクション写真撮影。25日(水)甘粕名誉教授・橋本教授来跡。27日(金)セクション図作成。5月1日(火)・2日(水)全体写真撮影。7日(月)～9日(水)測量業者による平面測量。10日(木)～18日(金)川砂を搬入し、埋め戻しを行う。器材を撤収し調査を終了。

第13次調査 平成14年5月29日付け教生第145号で発掘調査の報告を提出。6月3日(月)調査予定トレンチ周辺の草刈り・現況写真撮影後、人力掘削に入る。6日(木)～10日(月)3Tで遺構が検出されたが、部分的に拡張した結果、方形周溝墓と判明。20日(木)7TでSD03S10環濠の南端を確認。7月4日(木)新潟県教育庁文化行政課田海義正・滝沢規朗主任調査員来跡。12日(金)～8月28日(水)9T・14TによりSD0901環濠とSD03N05環濠が繋がらないことが判明。7月12日(金)～9月10日(火)13TでSD1011環濠がさらに西へ延びていることが判明し、15AT・BT・CTの順で調査した結果、15CTで環濠末端を検出。7月12日(金)～9月19日(木)12TでSD03S16環濠南端と竪穴住居を検出。19日(金)文化庁記念物課坂井秀弥主任調査官・県文化行政課滝沢主任調査員来跡。8月6日(火)橋本教授による7T環濠土層剥ぎ取り。7日(水)～10月4日(金)西側・南側斜面に16T・17T・18T・19T・20Tを設定したが新たな環濠は無く、16T・18T・19Tで竪穴住居を検出。8月8日(木)橋本教授来跡。12日(月)杉木に落雷。16日(金)7T環濠土層剥ぎ取り。28日(水)甘粕名誉教授来跡。9月13日(金)調査終了トレンチから川砂を搬入し、埋め戻し開始。21日(土)明治大学石川日出志教授他8名来跡。10月4日(金)～7日(月)器材撤収・後片付けをし、調査を終了した。

第14次調査 平成15年5月21日付け教生第138号で発掘調査の報告を提出。北東地区(埋葬地遺跡)は7月18日付け教生第306号で発掘調査の報告を提出。5月23日(金)トレンチを設定し、草刈り開始。現況写真撮影後、人力掘削。27日(火)～6月24日(火)1Tで環濠は検出されず、西尾根に環濠が存在しないことが判明。SI03S21竪穴住居を再調査。6月2日(月)～5日(木)2Tにより北西斜面には内環濠SD1011の他に環濠が無いことが判明。6月12日(木)橋本教授来跡。24日(火)～7月17日(木)第13次3T・4Tの北東側で竪穴住居の有無を確認するために5T・8Tを設定したが検出されず。4T・9Tにより北側に新たな条溝は検出されず。7月1日(火)甘粕名誉教授・橋本教授来跡。22日(火)～10月21日(火)10T・11T調査。10Tでは弥生時代2基と縄文時代1基の竪穴住居検出。11Tは縄文時代の遺構が主体。11日(月)第1回八幡山遺跡整備基本構想策定委員会。9月5日(金)調査終了トレンチから川砂を搬入し、埋め戻し開始。7日(日)現地説明会。24日(水)～10月21日(火)古墳北側の3Tで新たな環濠を検出。12T・13T・14T・15T・16T・17Tで繋がりを確認。西端は舗装道路を隔てた16Tで確認し、遺跡の範囲が若干拡大することとなった。10月11日(土)3T(SD1402)環濠土層剥ぎ取り。20日(月)東北学院大学辻秀人教授来跡。22日(水)・23日(木)器材撤収・後片付けをし、調査を終了した。

3 調査体制 (第3表・第4表)

調査体制は第3表のとおりである。また平成15年度から設置した委員会は第4表のとおりである。

第3表 調査体制

調査年次	調査年度	担 当	氏 名
第11次調査	平成12年度	調 査 担 当	立木宏明 (生涯学習課主事)
		調 査 員	山田貴子 (生涯学習課嘱託)
		調 査 主 体	新津市教育委員会 (教育長 中村 博)
		事 務 局	酒井峰雄 (生涯学習課長)
第12次調査	平成13年度	調 査 担 当	立木宏明 (生涯学習課主査)
		調 査 員	高野裕子 (生涯学習課嘱託)
		調 査 主 体	新津市教育委員会 (教育長 松井 弘)
		事 務 局	石崎義郎 (生涯学習課長)
第13次調査	平成14年度	調 査 担 当	渡邊朋和 (生涯学習課主査)
		調 査 員	高野裕子 (生涯学習課嘱託) 石田守之 (株)ミナミジオマック調査員)
		調 査 主 体	新津市教育委員会 (教育長 松井 弘)
		事 務 局	羽生隆夫 (生涯学習課長)
第14次調査	平成15年度	調 査 担 当	渡邊朋和 (生涯学習課主任)
		調 査 員	高野裕子 (生涯学習課嘱託)
		調 査 員	阿部泰之 (生涯学習課嘱託) 7～9月整理担当
		調 査 主 体	新津市教育委員会 (教育長 松井 弘)
		事 務 局	羽生隆夫 (生涯学習課長)
調査補助員		佐藤祐輔・渡辺大介 (明治大学学生)、小池勝典・渡邊武文・土屋徹也 (新潟大学学生)、斉藤友紀 (京都橘女子大学学生)、青野満穂子・五十嵐智子・伊藤操子・小柳勢伊子・川瀬純子・斉藤明子・須貝律子・田中暁穂・田村由実子・遠山直美・森岡綾子・山田正子・帆刈奈緒子・波多野裕美・渡辺絵理 (新津市遺跡調査室パート)	

第4表 八幡山遺跡整備基本構想策定委員会

氏 名	担 当	
甘 粕 健	考 古	新潟大学名誉教授
小 林 達 雄	考 古	國學院大學教授 (新潟県立歴史博物館長)
石 川 日出志	考 古	明治大学教授
飛 田 範 夫	造 園	長岡造形大学教授
小 林 正 吾	植 物	新潟大学元教授 (にいつ森林文化アドバイザー)
伊 藤 文 男	文 化 財	新津市文化財調査審議会委員長
川 田 喜一郎	地 元	金津地区区長会代表 (塩谷区長)
坂 井 秀 弥	指 導	文化庁文化財保護部記念物課主任調査官
北 村 亮	指 導	新潟県教育庁文化行政課埋蔵文化財係長
藤 卷 正 信	指 導	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長
石 崎 義 郎	新 津 市 役 所	新津市企画調整課長
大 戸 三 男	新 津 市 役 所	新津市都市整備課長
長谷川 勇 一	新 津 市 役 所	新津市農・産業振興課長
榎 本 泰 伸	新 津 市 役 所	新津市市民生活課長
松 井 弘	事 務 局	新津市教育委員会教育長
羽 生 隆 夫	事 務 局	新津市教育委員会生涯学習課長
目 黒 正	事 務 局	新津市教育委員会生涯学習課長補佐
荒 木 政 幸	事 務 局	新津市教育委員会生涯学習課文化財係長
田 中 茂 夫	事 務 局	新津市教育委員会生涯学習課文化財係主任
渡 邊 朋 和	事 務 局	新津市教育委員会生涯学習課文化財係主任
立 木 宏 明	事 務 局	新津市教育委員会生涯学習課文化財係主査

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

新津市は新潟県のほぼ中央、新津丘陵の北端に位置し、市域の大半は平坦な沖積平野と市域の4分の1を占める起伏の小さな丘陵（新津丘陵）とからなっている。市域の西を信濃川、東を阿賀野川が流れ、北は両河川が最も近接した位置に両河川を繋いで流れる小阿賀野川を挟んで、県都新潟市と境を接している。現在日本海までは直線距離で約20kmの位置にある。

新津丘陵は南南西から北北東に延びる丘陵の北端部、加茂川以北にあたる。標高300m以下の起伏の小さな山地・丘陵で、菩提寺山以南では標高200～280mと比較的高く、その以北では高度を下げ、北端の秋葉山付近では標高70～80mとなり沖積面に没する。また、台地は丘陵縁辺に小規模に分布し、低地には自然堤防などの微高地が複雑に発達する。これらの地形は最終氷期後期以降の海水準変動と信濃川・阿賀野川・能代川などが頻繁に氾濫を繰り返した状況を示していると考えられている〔新津市史1989〕。

八幡山遺跡は新潟県新津市大字古津字八幡腰・戸畑・鳥撃場・初越他に所在する。新津丘陵の北西端に位置し、樹枝状に延びた支丘陵のうち、大略北北西に延びた通称「金津丘陵」の北半部に立地する。丘陵東側に金津谷が拡がり、丘陵に沿って金津川が北流する。遺跡のある支丘陵は標高54.5mを頂部とし、北西・西・東・南に尾根が続く。北西に延びた尾根は穏やかに下降し、その先端付近には古津八幡山古墳が築かれている。この北西方向の尾根と東方向の尾根の間には北東向きの緩斜面が150m四方の範囲に広がり、ここが弥生時代の集落の中心となっている（北地区）。また北東斜面下方の標高約25m、南北約100m・東西約40mの平坦な台地上からは、第14次調査で弥生時代後期の竪穴住居が2基検出され、八幡山遺跡と一体として捉えるべき遺跡であることが明らかとなった（北東地区）。

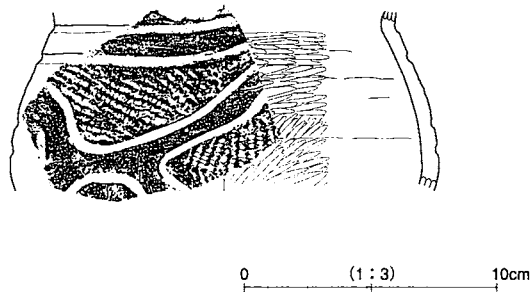
南方向の尾根は、幅20m、長さ70m程の瘦尾根を経て、北西から南東方向に延びた幅40～50m、長さ200mの尾根へと連なっている。この尾根は中央部付近から東側にかけて僅かに高度を上げ、南東端の標高53mを頂部とした後、北東に向きを変えた緩斜面へと広がる。竪穴住居8基が頂部から幾分下がった標高約50mの北東斜面を中心として検出された（南地区）。

八幡山遺跡の西には信濃川によって形成された越後平野が眼下に広がり、遠く弥彦山・角田山を望むことができる。信濃川左岸にある緒立八幡神社古墳・菖蒲塚古墳・山谷古墳・稲場塚古墳などの前期古墳や大沢遺跡・山谷古墳下層遺跡などの高地性集落と対峙する位置にある。また阿賀野川を遡れば会津盆地に至る。新津市は信濃川・阿賀野川の両大河川が近接する位置にあり、弥生時代においても軍事・交通の要所であったと推測することは容易である。

2 周辺の遺跡

市内では現在90ヶ所の遺跡が確認されている。旧石器・縄文・弥生時代の集落遺跡・遺物散布地と古代・中世の生産遺跡は丘陵上や丘陵裾部・台地上に立地し、古代・中世の集落遺跡は沖積平野の微高地に立地する。古墳時代前期終末には丘陵縁辺や沖積平野上の微高地に集落が営まれることが明らかになってきた。

旧石器時代の遺跡 八幡山遺跡第3次調査〔渡邊他2001〕や草水町2丁目窯跡の調査でナイフ形石器・石刃



第1図 秋葉遺跡弥生土器 (1/3)

などが散発的に出土している。市内では他に旧石器時代の遺跡は登録されていない。丘陵上や丘陵裾部に立地する。

縄文時代の遺跡 市内で20遺跡あり、標高10～30m程の丘陵上・丘陵裾部や台地上で、平野部からさほど離れない場所に立地する遺跡が多い。調査事例の増加により市内で草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の各時期の遺跡の存在が確かめられた。愛宕沢遺跡では草創期の石

斧が纏まって検出された〔立木2004〕(注1)。遺跡の存続時期は採集資料による限りでは、縄文時代中期あるいは中期から後期前葉の遺跡が多い。八幡山遺跡北東地区からも後期前葉の土器が出土している。

弥生時代の遺跡 市内で7遺跡が確認されている。平成15年度に2遺跡の注目すべき発見があった。まず、新津丘陵北端の秋葉遺跡から中期前葉の土器が発見されたが、現状では市内で最古の弥生土器である(第1図)。また、八幡山遺跡の麓にある塩辛遺跡で中期後葉の土器が纏まって検出された(図版49)。下水道工事立会に伴う小規模な調査であるものの、古墳時代後期(図版50)・平安時代の土器も出土しており、扇状地に各時代の遺跡が重畳的に形成されている。また、八幡山遺跡が形成される直前の遺跡として重要である。

後期には金津丘陵の八幡山遺跡・居村C遺跡(D・E地点)〔川上1996、渡邊1997、渡邊他2001〕の他に、丘陵裾部に立地する舟戸遺跡や、1.2km程北に位置する山境遺跡からも土器が出土しており、八幡山遺跡周辺に小規模な遺跡が点在していた可能性が高い。

古墳時代の遺跡 市内で10遺跡が確認されている。八幡山遺跡の北西端には、集落廃絶後に古津八幡山古墳〔甘粕・川村他1992〕が築かれている。墳丘長約60mの造出し付円墳と考えられており、現在確認できる新潟県内最大の古墳である。近接して舟戸遺跡・高矢C遺跡があり、両遺跡とも丘陵縁辺や台地の端部に立地し、前期末頃の土師器が出土している。舟戸遺跡では前期末頃の竪穴住居が数基検出されており、古墳との関係が注目される〔川上1995〕。また、沖積平野に立地する沖ノ羽遺跡〔高橋保1996〕・上浦B遺跡・結七島遺跡等の平安時代の生活面の下から古墳時代前期・中期の遺物・遺構が検出されている。前述したように、平成15年度に塩辛遺跡から古墳時代後期(6世紀中頃)の土器が纏まって出土しており(図版50)、八幡山遺跡・古津八幡山古墳と古代の金津丘陵製鉄遺跡群を繋ぐ時代の遺跡として重要である。

古代の遺跡 奈良・平安遺跡の遺跡は、市内で45遺跡確認されている。主に平野部に立地する集落遺跡と丘陵裾部に立地する製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡等の生産遺跡がある。

丘陵裾部の生産遺跡としては、北東側斜面には須恵器・土師器窯跡が分布し、新津丘陵窯跡群と呼称されている。一方、丘陵北西側の金津地区では7遺跡9地点以上から製錬炉(箱形炉・壺型炉)と多数の木炭窯が検出され、金津丘陵製鉄遺跡群と呼称されている。相伴遺物と炉形態や木炭窯の形態・構造などからみて8世紀から12世紀にかけての遺跡と考えられる。

中世の遺跡 市内で25遺跡確認されている。平野部の微高地に立地する集落跡、丘陵裾部に立地する山城・製鉄関連遺跡がある。自然堤防上の遺跡は現在の居住域と重なるためか、実体は今一つ明らかでない。城館跡は8ヶ所を数える。江内遺跡〔春日他1996〕や内野遺跡の発掘調査〔立木他2002〕で、14世紀から15世紀に至る中世集落の一部が明らかになった。

近世の遺跡 集落跡は平野部の微高地に立地し、中世と同じく現在の住居域と重なるためか、実体は不明瞭である。江内遺跡の発掘調査で17世紀前半から営まれる近世集落の一部が明らかになった。

注1 草水町2丁目窯跡の範囲から草創期の遺物が検出された南東側の範囲を分離したものである。

第Ⅲ章 第11次・12次調査—古津八幡山古墳の調査—

1 概 要

古津八幡山古墳の墳頂部に設置された国設新津酸性雨測定所撤去に伴い、平成12年7月に確認調査（第11次調査）、平成13年3月～4月に基礎工事撤去に伴う立会調査・確認調査を実施した（第12次調査）。調査の結果、昭和50年の設置当時も山城（古墳ではなく中世の山城と考えられていた。）の上に施設を造ることから、掘削を最小限度に留めるように配慮がされており、掘削は建物の基礎部分に限定されていることが判明した。また、当時の設計図どおりに施工されていることも明らかとなった。第12次調査は基礎部分の幅約1m・深さ約80cmのトレンチ状の調査となった。層序は1層：表土、2層：極暗褐色土、3層：暗褐色土、4層：暗褐色土であり、3層以下が古墳盛土と考えられる。出土遺物は平安時代の土師器が主体であり、主体部と推測される遺構も検出されなかった。

2 遺 構

トレンチ状の調査区のために検出された遺構の詳細は不明な部分が多い。何れも墳丘面である3層上面より上層からの掘り込みである。

SD 1101 (図版12・42)

G10-5 (11次3T) に位置する溝。未掘のため形態・深さは不明である。確認面で最大幅は1mを測る。SD1201に繋がる可能性がある。土師器無台椀(452・454)が出土。

SK 1102 (図版12)

G10-5 (11次3T) に位置する土坑。未掘のため形態・深さは不明である。確認面で最大径は72cmを測る。土師器無台椀が出土。

SK 1103 (図版12)

H10-6 (11次4T) に位置する土坑。未掘のため形態・深さは不明である。確認面で最大径は58cmを測る。遺物は出土していない。

SD 1201 (図版12)

G10-5、H10-1・6 (12次調査区) に位置する溝。幅1.07m・深さ64cmを測る。遺物は出土していない。

3 遺 物

出土した遺物は何れも小片で、図示できたものは少ない(450～455)。450は高杯か器台の有段脚部、451は佐渡小泊産の須恵器無台杯、452～454は土師器無台椀、455は弥生土器底部である。452・454以外は12次調査の床・壁面精査の際に出土したものである。

第Ⅳ章 第13次・14次調査—八幡山遺跡の調査—

1 概 要

国指定史跡申請の基礎資料とするために、第13次・第14次調査では遺跡の範囲を明確にすること、そして環濠の繋がりを明らかにすることを目的として確認調査を実施した。第13次調査では後者を、第14次調査では前者を主目的とした。

内環濠 第13次調査では内環濠の繋がりを確認するために、それ以前に判明していた環濠の周囲にトレンチを設定した。その結果、北東斜面の12Tで環濠の南東端を、北西斜面の13T・15A・B・C Tで環濠を検出し、15C Tで南西端を確認した。北西斜面の16T・17Tでは環濠が検出されず、南西斜面の18～20Tでも検出されなかったため、内環濠は13次12Tから15C Tの範囲に限定されることが明らかとなった。内環濠は第3次調査で土橋状の部分が検出されているので、そこを挟んで南東側を内環濠A（SD03S16）、北西側を内環濠B（SD1011）と呼称することとした。また、北西斜面は急傾斜ではあるが15Tの下に段状の地形が認められ、更に外側に環濠が存在する可能性が考えられたが、14次2Tで無いことを確認した。また西尾根にも14次1Tで無いことを確認した。

外環濠 外環濠の繋がりを確認するために、第13次調査ではSD03N05・SD03S10間に2T～4Tを設定したが、環濠は検出されず、両者が繋がらないことが明らかとなった。そして周囲にトレンチを設定した結果、14TでSD03N05の北西端を検出し、9Tから北側のSD0901とは別遺構であることが分かった。SD03S10は7Tで南東端を、8T・10T・11Tの調査により11Tで北西端を検出した。このことにより、古津八幡山古墳を捲く外環濠A（SD0901）と約70m離れた南側の外環濠C（SD03S10）、そして、外環濠Aの南側に5m程ずれて繋がらない全長わずか15m程の外環濠B（SD03N05）に分かれることが判明した。

外環濠A（SD0901）は、第9次調査で北西端を検出していたが、上記のように環濠が各所で分断することが明らかになり、土橋を挟んでさらに西側に伸びる可能性が生じたために、第14次調査で西側にトレンチを設定した（3T・6T・7T・12T～17T）。その結果、SD0901の15m程内側（山側）で新たな環濠が検出され、外環濠D（SD1402）とした。環濠の東端は古墳裾部に位置するために確認していないが、西端は道路西側の16Tで確認することができた。

この他に、新たな環濠（条溝）を確認するために、北東地区に繋がる北東沢と宮浦沢間の尾根（14次9T）、北側の宮浦沢・寺前沢間の尾根（14次4T）にトレンチを設定したが、無いことを確認した。また、東尾根（13次5T）でも検出されなかった。

これまでの調査により、環濠の断面形は、基本的に底面の狭いV字形であるが、末端近くでは皿形や逆梯形になる部分があることが明らかとなった。

竪穴住居 第13次調査では北地区で7基、第14次調査では北地区で1基、北東地区で3基が新たに検出された。北東地区では初めて竪穴住居が検出され、埋葬地遺跡を八幡山遺跡と一体のものとして捉える根拠となっている。なお、北東地区北端で検出されたSI1409は縄文時代後期前半に属するものである。13次12Tでは2基の竪穴住居（SI1307・SI1308）と内環濠（SD03S16）が重複して検出され、環濠と竪穴住居に時期差があることが明確となった。

外環濠の内側、特に内環濠内側では遺構密度が高く、遺物量も多く、この中のトレンチでは必ずと言って

よい程、竪穴住居が検出される。13次12Tでも2基が重複していることが確認された。一方で環濠外側では竪穴住居は無く、遺物量も極めて少なく、S I 03N08周辺では新たな竪穴住居は検出されなかった。

方形周溝墓 10次5Tで検出されたS X 1004・S X 1005方形周溝墓の広がりを確認するために東尾根にトレンチを設定したが(13次5T・6T)、新たな方形周溝墓は検出されなかった。外環濠Bと外環濠Cの間に設定した13次3Tで新たに方形周溝墓1基(S X 1303・S X 1304)が検出された。

遺物 第14次調査でS I 03S21(S I 0401)から、法仏式の壺が床面から検出されたが、第3次調査では天王山式系の精製赤彩壺が出土しており、両者の伴存と、天王山式系赤彩壺の特別な扱われ方が確認できた。また本遺構からは石鏃が8点、石鏃未成品が5点検出され、石鏃製作遺構の可能性もある。また、完形石鏃8点中アメリカ式石鏃が3点と高い比率である。この他に、ガラス玉が2点、石包丁の可能性のある石器が出土した。

2 北地区の遺構

A 環濠

SD03S16 内環濠A (図版19)

G16-9、G17-4(13次12T)の北東斜面、標高50m前後の位置に構築されている。第10次調査時に10Tで環濠が検出されたが、12Tでは確認できず、この間に環濠末端があると推測された。そこで、第13次調査では10次10Tと12Tを繋ぐ形で13次12Tを設定したところ、環濠の南東端を確認することができた。末端部分ではS I 1307竪穴住居Pit6を切っており、S I 1307の貼床が環濠側で存在しないこと、S I 1307の覆土に環濠掘削土と推測される黄褐色土が堆積していることから、S I 1307を切って構築されているものと判断した。また、S I 1308とも近接しており、同時存在は考え難いが、重複関係がなく、先後関係は不明である。環濠は検出範囲を完掘せずに、末端部分をA区、未掘部分を挟んで北側をC区と設定して調査した。13次12Tの環濠C区は10次10Tで遺構調査途中だった部分である。

環濠末端の形態は確認面で半円形、底面で隅丸方形を呈する。規模は、全長約23m、上幅1.7m前後、深さは末端部分のA区が1.23m、C区で1.06mとやや差はあるが、底面標高はそれぞれ49.29m・49.25mと略一定である。断面形はA区・C区とも逆梯形を呈する。方向はN-13°-Wで、この北側で山側に屈曲する。

土器はA区では5・6層、C区では3～5・8層で多く出土している(図版33 182~205)。C区の3～7層から187・189・190・193・200・203、8層から182・183・185・191、9層から184・205が出土している。A区では1～6層から186・188・192・197・198・199・201a・201b・201c・204、8・10・11層から202が出土している。石器は不定形石器(図版46 45)・軽石製石製品(図版47 62)があり、何れもA区1～6層からの出土である。この他に礫石が4点1394g出土している。

SD1011 内環濠B (図版18)

H14-7、H15-2・3(13次13T)、H15-3・4(13次15AT)、H15-4・9(13次15BT)、H15-9(13次15CT)の北斜面、標高50.4~51.2mの位置に構築されている。内環濠Aとは土橋を挟んで直線状に繋がる。当初この環濠は北西急斜面に至って無くなるものと推測し、13Tを設定したものの環濠末端を検出できず、北西急斜面の落ち際に順次トレンチを設定した(15A・B・CT)。杉木がありトレンチが制約されたが、15CTで環濠南端を確認することができた。16・17Tでは環濠が検出されなかったため、土橋ではなく15CTが内環濠Bの末端であることが確認された。なお、13Tでは環濠は検出範囲を完掘せずに東側をA

区、未掘部分を挟んで西側をB区と設定して調査した。

環濠規模は全長約57m、上幅は13T A区で2.78m、15C Tでは2.00mとなり末端に向かって狭まっている。深さは13T B区で1.37m、15B Tで1.66mとなり環濠末端に向かってやや深まるが、底面標高は約49mと略一定である。断面形は13T・15B TではV字形に近い底面の狭い逆梯形を呈し、15A Tでは逆梯形、末端の15C Tでは浅い逆梯形となる。環濠末端はトレンチ幅が狭く底面まで調査できていないが緩やかに立ち上がる。環濠壁面は、13T B区は粘質土であるものの、A区から粘質土となり、15Tは砂質土となっている。方向は13Tでは直線的でN-53°-E、15A Tからはわずかに山側へ屈曲して等高線と平行になりN-34°-Eである。

出土土器は多くはなく(図版34 214~218、220~229)、13T A区6層から216・218、15層から217、B区1・2層から215、8層から214が出土している。15A T 2層から223・224・226・229、15B T 1~4層から227・228、5・6・8層から222、6・8・9・13層から221・225が出土している。石器は13T A区最上層から石鏃(図版45 13)、また石鏃未成品が2点あり、A区6層から27、1・4・6層から32が出土している。この他に15A T 1層から砥石(図版48 71)、15B T 10~14層から両極石器(図版46 54)が出土している。この他に礫石が2点646g出土している。

SD03S10 外環濠C (図版16・17)

G19-2・7(13次7T)、G17-1(13次8T・11T)、G17-1・6(13次10T)の東斜面、標高47.3~47.8mの位置に構築されている。当初、外環濠B(SD03N05)に繋がると推測していたが、2T・3T・4Tの調査により両者が繋がらないことが判明した。北端は第3次調査で検出されたG17-6から順に8T・10T・11Tを設定し、11Tで確認した。南端は10次6Tを南側に拡張する形で設定した7Tで確認した。7Tでは検出範囲を完掘せずに末端部分をA区、未掘部分を挟んでC区と設定した。環濠末端の形態は、南端が上面・底面とも隅丸方形となり、北端では上面・底面ともに半円形を呈す。

規模は全長約54m、上幅は南端の7T A区で最大2.48mを測る。断面形は南端の7T A区ではU字形、C区ではV字形、10TでV字形から皿形に変化し、11Tでは非常に浅い皿形となる。深さも7T A区で1.70m、10Tでは1.18mから0.58mと急に浅くなり、北側末端では36cmを測る。底面標高は46.1~46.9mと略一定である。7Tでは土層剥ぎ取りの際に入れたサブトレンチにより地山の断層が確認された。この断層は遺構覆土にはないことから環濠構築以前に生じたものと考えられる。方位は8T・10T・11Tは3次調査時に検出された環濠と同様にN-21°-Wを示す。7Tでも等高線と平行になりN-18°-Eである。

7Tからは出土土器が多い(図版27・28 11~21・23・27~35・41~44)。A区6層から14・16・18、14層を中心に11~13、13層から19が出土しており、出土状況を見ると山側からの流れ込みであろう。石器はC区1・2層から砥石(図版48 72)が出土している。この他に礫石が18点18905gあり、そのうちの13点がA区3~8層で出土している。10Tの土器は上層からの出土が多い(27~35)。Dライン3層から32、Eラインの1~4層から27、2・3層から30、4層から28・29・31、7層から33・34、7・8層から35が出土している。石器はEライン1・2層から石鏃(図版45 12)、3層からナイフ形石器(1)・黒曜石が出土している。この他に礫石が4点1263g出土している。

SD03N05 外環濠B (図版15)

第3次調査区と、第9次調査のG12-6・7グリッドで検出されたSD03N05が直線で繋がらないために、屈曲して繋がるのか、別の環濠であるかを確認するために調査を行った。まず13次9Tを設定し、第9次調査の環濠は屈曲せずに直線的に南東へ延びていることが判明した。その後、立木があるために立木を挟んだ南側に14Tを設定したが、この環濠は繋がらず、かわって第3次調査のSD03N05の北西端を検出した。こ

のにより、第9次調査環濠は未調査部分に南東端が存在することが明確となり、第3次調査のSD03N05とは別の環濠であることが判明した。そこで第9次調査の環濠をSD0901（外環濠A）としてSD03N05とは別遺構として取り扱うこととした。

SD03N05はG12-7、G13-2（13次14T）の北西斜面、標高40.3mに構築されている。SD0901の南東端の南西約2mに北西端が位置する。第3次調査でSD03N05の南東端が検出されており、全長は約16mと短い。14Tでは環濠を完掘せず末端部分をA区、未掘部分を挟んでC区と設定して調査した。環濠末端の形態は上面で半円形、底面で隅丸方形を呈す。断面形はA区・C区共に逆梯形であるが、第3次調査ではV字形であったことから、SD03S10（13次10T）と同じように14Tの南東側で深くなるものと推測される。Eライン南側は第3次調査のトレンチ跡であり、50cm畦を残して設定した2×3mのトレンチで第3次調査の再確認をしたがV字形になっていたので、この間で急激に深くなるのであろうか。規模はC区で上幅1.96m、下幅1.08m、深さは山側で0.94mを測る。底面標高39.36mである。方位はN-26°-Wである。

出土土器は比較的多い（図版29 57~76）。最上層から68・70・74、A区1層から59・66、2層から58、4~6c・9層から63、5層から64、C区の1・2層から65・69・71・76、4・5層から75、7b層で67が出土している。この他に礫石が5点3497g出土している。

SD0901 外環濠A（図版15）

G12-6・7（13次9T）の北東緩斜面に構築されており、標高は39.8mを測る。南東端は前述したように13次9T・14T間と推測され、北西端は、14次3T・7Tで環濠が検出されなかったことから、14次6ATで第9次調査トレンチを再調査し、再確認した。また、6BTにある土坑は風倒木であることが判明した。このことにより、古津八幡山古墳を捲く全長約100mの環濠となる。現状



第2図 第14次3T土層断面図 (1/80)

では環濠の山側（内側）が段状に高くなり、環濠が巡る位置がテラス状となっている。9 Tでの環濠規模は、上幅2.22m、下幅1.38mを測り、断面形は逆梯形を呈す。深さは山側で1.35mと浅く、底面標高は38.4mとなる。方位はN-20°-Wである。なお、9 Tよりも北側では断面V字形となるのが第9次調査で確認されている。

出土土器は多くなく（図版29 48~54）、Aライン1層から48・51~54、2層から49・50が出土している。

S D 1402 外環濠D（図版13・14）

古津八幡山古墳北側で環濠の有無を確認するため3 Tを設定したところ、段状の平坦面で環濠が検出され、この環濠の繋がりを確認するため順次トレンチを設定した。13Tから東側は古墳の墳丘裾部にあたるために東端は未確認である。南西端は舗装道路を隔てた場所で検出し、現時点での全長は約101mを測る。

環濠は段状平坦面の山側（内側）に構築されており、13Tでは山側に4 mもの段差が見られた（第3図）。このことから、環濠を構築するには、まず斜面を掘削して平坦面を造り、その平坦面の山側寄りに環濠を掘り、掘削土砂を山側斜面上に盛上げたものと推察される。環濠内側では、環濠の深度に盛土の高さが加わることになり、環濠底面から斜面上方までは6 mもの高低差が生じることになる。実際、発掘調査中も環濠の山側で出入りすることは、滑って不可能であった。

S D 1402はG 8-10、G 9-5（14次3 T）、H 7-6、H 8-1（14次12T）、G 8-9（14次13T）、H 6-3・4、H 7-8・9（14次14T）、H 7-10（14次15T）、I 9-1（14次16T）、H 7-10、H 8-5・10、I 8-6（14次17T）の北斜面・北西斜面、標高40.2~36.1mの位置に構築されている。環濠上幅は1.83~2.53mを測る。深さは1.68~2.17mとばらつきはあるが、底面標高は13Tで38.45m、16Tで35.66mと東から西にかけて低くなる。断面形は13TでU字形、12T・17TでV字形、3 T・14TでV字形に近い底面の狭い逆梯形を呈す。方位は13T・3 TでN-72°-W、12TでN-81°-W、14TでN-73°-E、15T・17TでN-5°-Eを示し、古墳を取り巻くように西から南へと変化する。

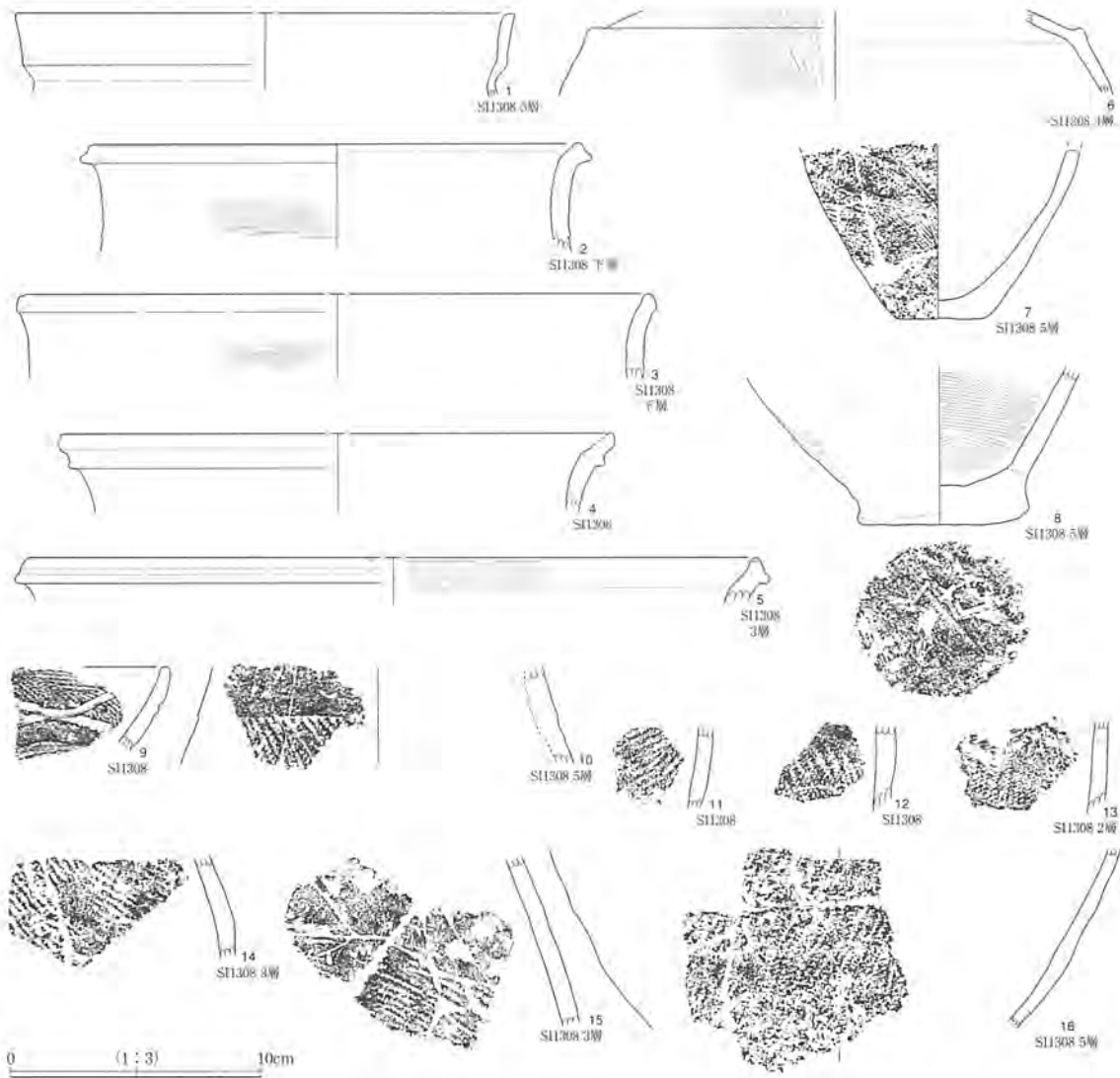
16Tでは環濠上層部が削平されており、他で見られるように確認面での黒色土は極少量しか残存していなかった。また、地山と覆土の土色に変化が乏しく環濠壁面の検出に苦慮した。地山・覆土ともに黄褐色土がブロック状に混入しているが、土のしまり具合により地山の判別をした。16Tは側溝・舗装道路により調査区の拡張が困難であった。このため環濠の検出を主軸方向に対して直角に行なうことができず、環濠末端の形態は不明である。3 T・13T・14T・15T・17Tでは底面標高より20~60cm上がったレベルで黒色土の堆積が見られるが、3 Tでの遺物の出土状況から黒色土以下の土砂の堆積は比較的早かったものと推測する。

出土土器は多い（図版39~42）。3 T Hラインの3・5・8層から377・390 c、5・7・8層から366・375・382・386、7・8層から365・372~374・380・387・390 a、12・14・16~18層から369が、14層から368、Jラインの5・6・10層から371・384・385・388、5・6・10・12層から389・390 b、6・10層から370・379、10・12層から381が出土している。370・379は、出土レベルは異なるものの、同一層位から出土した完形壺で、共伴したものと考える。13T 1層から412、2~7層から410・411・413~417・419~422・424 a・424 b・426~428・430~432、4~6・8・10・13層から418・423・429、16~18層から425が、この他に剥片・黒曜石・礫が出土している。

B 竪穴住居

S I 1307（旧S I 1007・旧S I 1009）（図版19・20）

G 16-9・10、G 17-4・5（13次12T）の北東緩斜面に構築され、山側に周溝が巡る竪穴住居である。S D 03 S 16（内環濠A）との重複関係を明確にし、竪穴住居の全形を確認するために調査区を拡張した結果、



第3図 第13次12TSH1308弥生土器 (1/3)

10次10TのS I 1007と10次12TのS I 1009が同一遺構であることが判明した。また、内環濠Aによって北東半分が切られており、堅穴住居覆土には環濠の掘削土である黄褐色粘質土がブロック状に堆積していることから、堅穴住居よりも環濠の方が新しいと判断された。(位置的にはCラインI層の上にあたる。)さらに、S I 1307南東部分はS I 1308に切られているが、S D03 S 16とS I 1308との新旧関係は不明である。

規模は南西辺と西隅・南隅が残存する壁溝と支柱穴P 1・P 4 aの位置から、長軸6.24m、短軸5.6m程度で平面形態は隅丸方形と推測される。主軸はN-34°-Wである。壁面・壁溝は南西辺と西隅・南隅が残り、cラインで壁高は41cm、壁溝は11cmを測る。壁溝は南隅で二重に巡り、分岐点で天王山式系の完形壺が出土している(172)。西隅は二又に分かれ、一方は北西辺に延び、もう一方は北へ延びる。床面は粘土による貼床が行なわれている。柱穴は床面からの深さが60cmを測るP 1・P 4 aが支柱穴と考えられる。炉は検出されなかった。P 6が貯蔵穴となる可能性はあるが床面中央に位置するため疑問が残る。その他に南西側(山側)に築かれた周堤を隔てた位置に約7.5mにわたって弧状の周溝が検出された。cラインでは上幅94cm、下幅32cm、深さ58cmを測る。

調査区南隅にはS I 1307周溝に切られる溝が2条あるが未調査のために詳細は不明である。

出土土器は多い(図版30~32・80~181)。壁溝から170~172、周溝最上層から99~101・110・113、周溝上

層から80・94・96・114、周溝下層から93・102b・105・106・116～118等が出土している。Pit 4 aからは176・177が出土している。また、周溝上層から球状土製品（第6図3）が出土している。石器は石鏃（図版45 10・11・17・25）・石鏃未成品（図版45 26）・不定形石器（図版46 35・36・38～40・44・48・50）、剥片・黒曜石・磨石がある。この他に礫が41点16990g出土している。

S I 1308（図版19・20）

G17-4（13次12T）の北東緩斜面にある竪穴住居で、S I 1308を切っている。S D03 S16環濠とも近接しているために前後関係があると考えられるが、重複関係が無く分からない。規模は一部を検出したに過ぎないために不明であり、平面形態も円形の可能性があるが、本遺跡では類例が1基も無く明らかでない。壁面はIラインで壁高35cm、壁溝は18cmを測る。床面は粘土による貼床が行なわれている。柱穴は検出していない。また主軸と炉・貯蔵穴も部分的調査のために不明である。

土器は多くないが床面近くからの出土が比較的多い（第3図）。2層から13、3層から5・14・15、4層から6、5層から1・7・8・10・16が出土している。この他に剥片、礫が1点ある。

S I 1309（図版21）

H16-4・5（13次16T）の北西斜面に構築されている。2m幅のトレンチ調査で壁溝・貼床・柱穴が検出されたものである。

規模は不明。形態は貯蔵穴と考えられる土坑と主柱穴と考えられるP1・P2の位置から6.8×6.8m程度の隅丸方形と推測される。主軸はN-50°-Wである。壁面はaラインで壁高53cm、壁溝は20cmを測る。床面は粘土による貼床が行なわれている。柱穴は主柱穴と考えられるP1が床面からの深さ62cm、P2では1mを測る。炉は部分的調査のために不明である。南東辺で検出された土坑が貯蔵穴と考えられ、南東辺中央に位置するものと推測される。平面形は円形を呈し、直径85cm、深さ35cmを測る。

出土土器は比較的多い（図版36 273～294）。貯蔵穴から278・279・282、1層から273・280・281・289・293・294、I e・1層から288・290、9層から275、11層から277が出土している。また、1層から土製紡錘車（第6図2）が出土している。石器は石鏃（図版45 4・15）・不定形石器（図版46 49）・砥石（図版47 67）、剥片がある。この他に礫が9点2142g出土している。石包丁様石器（図版47 60）は包含層出土として取上げているが、本竪穴住居から出土した可能性が高いものである。

S I 1311（図版22）

H17-10（13次18T）の南向き緩斜面に構築されている。2m幅のトレンチ調査のため全体は不明であるが、柱穴と壁面・貼床から竪穴住居と判断した。

規模・形態・主軸は部分的調査のために不明。壁面は32cmが残る。床面は粘土による貼床が行なわれている。ピットは検出したが主柱穴は未調査のために不明。炉・貯蔵穴も未調査のために不明。

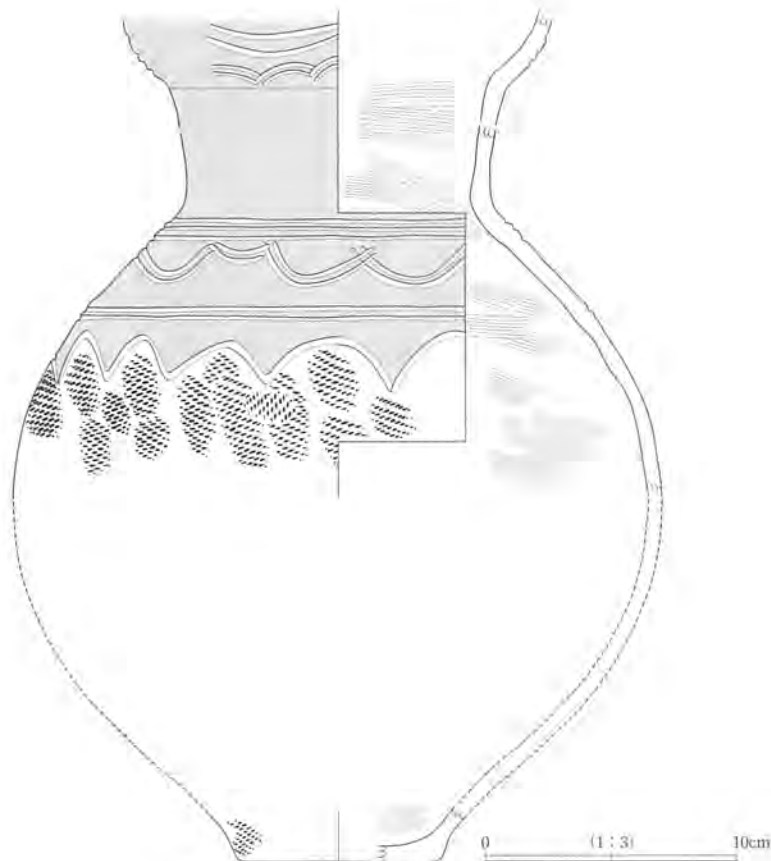
出土土器は少なく（図版34 235～245）、2層から235・236・242が出土している。石器は石鏃（図版45 18）・石鏃未成品（31）がある。この他に礫が1点3405g出土している。

S I 1312（図版22）

H17-10、H18-5、I 18-1（13次18T）の南向き緩斜面に構築されている。2m幅のトレンチ調査のため全体は不明であるが、柱穴と壁面・貼床から竪穴住居と判断した。サブトレンチの調査に留まり、南側は畑造成の段切りによって削平されている。壁面は28cmが残る。また、北側1m程の位置に周溝と考えられる溝が検出された。

出土土器は少なく、図示できるものは1点である（図版34 246）。この他に石鏃（図版45 3）がある。

S I 1313（図版22）



第4図 SI03S21 (SI1401) 弥生土器 (1/3)

H18-4 (13次19T) の南向き緩斜面に構築された竪穴住居である。1 m幅のトレンチ調査のために全体は不明であるが、柱穴・貼床から竪穴住居と判断した。

規模・形態・主軸は部分的調査のために不明である。壁面は削平されているが、13cmの壁高を測る。床面は粘土による貼床が行なわれている。ピットは多数検出されたが主柱穴は不明である。炉は未調査のために不明であるが、長軸1.16m、短軸60cmのブロック状の焼土塊が検出されたが、床面から浮いた状態であるため竪穴住居に伴うものかではないと考えられる。貯蔵穴はP14が貯蔵穴になる可能性がある。

出土土器は多くない(図版35 258~268)。上層から258・261

が出土している。石器は石錐(図版45 33)・両極石器(図版46 51)・剥片がある。

S I 03 S 21 (S I 1401) (図版23)

I 16-8・9 (14次1T) の南向き緩斜面に構築された竪穴住居である。第3次調査時に東西方向の幅50cmのトレンチによって、床面と壁面の立上りから竪穴住居であると判断されており、この際に炉・柱穴の一部が調査されていた。また、天王山式系赤彩壺が床面から完形で出土していたために(第4図)、天王山式系土器が伴う確実な竪穴住居として住居形態・構造を明らかにすることを目的として第14次調査を実施した。当初2m幅のトレンチを設けたが、竪穴住居であることを確認し、拡幅したものである。なお、北側にある土坑は第1次調査トレンチの跡と推測される。

規模・形態は北辺から東辺にかけて残存する壁面と主柱穴であるP2・P9・P11・P12の位置より長軸5.7m、短軸5.5mの隅丸方形に復元できる。主軸はN-73°-Wである。壁面は北辺から東辺にかけて残存し、壁高はCラインで29cmを測る。壁溝はdラインで床面からの深さ7cmを測る。東辺中央には木の根による攪乱が見られた。床面は粘土による貼床が行なわれ、P2周辺では良好に遺存していたが、P11周辺では薄く残るだけであった。柱穴は床面からの深さが60cm前後を測るP2・P9・P11・P12が主柱穴となる。炉は床面中央で検出され、近くから凹石(図版48 74)が出土している。炉の北側には不整形を呈する焼土遺構があり、6cm程の深さまで被熱していたので、鍛冶関連遺構の可能性を考えて、サブトレンチの土砂を水洗したが、鍛造剥片等の鍛冶関連遺物は検出されなかった。貯蔵穴は東辺中央の土坑が貯蔵穴となる。平面形は円形を呈し、直径94cm、深さ50cmを測る。北側の床面から約30cmの礫が出土した。

出土土器は比較的多い(図版37 301~318)。貯蔵穴から307・314~318、3・5層から302・307、3層から304~306・308~310・312、4層から303・311が出土している。301は床面から出土した完形壺で、第4図と

共に竪穴住居に伴うものとする。石器は石鏃（図版45 2・5・6・19・20・22・23）・石鏃未成品（図版45 28～30）・石錐（図版45 24・34）・管玉（図版47 57）・不定形石器（図版46 41～43・47）・楔形石器（図版46 53）・石核（図版46 55）・磨石（図版48 73）・凹石（図版48 74）、この他に剥片・黒曜石が出土している。石鏃7点、石鏃未成品3点と多く、所謂アメリカ式石鏃が3点もあり比率が高いことが注目される。

C 方形周溝墓

S X 1303・S X 1304（図版24）

G15-1（13次3T）の北東向き斜面、標高42.2～42.5mの位置に斜面と並行して構築されている。2m幅のトレンチでは竪穴住居の周溝との識別が困難なために調査区を拡幅した結果、方形周溝墓の周溝（S X 1303）と主体部（S X 1304）と判断したものである。検出されたのは山側の南西溝と主体部のみで他3辺の周溝は確認できなかった。

S X 1303は長軸2.96m、短軸90cm、深さ33cmを測り、断面形はU字形を呈す。主軸方向はN-36°-Wである。S X 1304は長軸2.34m、短軸1.05m、深さ25cmを測る。底面は山側が高く谷側が低く傾斜しており、また、木根による攪乱が激しく、主体部とするには疑問の余地を残している。主軸方向はN-35°-Wである。

出土土器は僅かであり、図示できるものは無い。8が周辺から出土している。

D 土 坑

S K 1310（図版21）

H16-4（13次16T）に位置する不整楕円形の土坑で西側の一部を段切りによって削平されている。長軸1.03m、短軸62cm、深さ23cmを測る。標高52.0mの北西斜面に構築されている。

遺物は1個体の甕（図版36 295）と礫が2点553g出土している。

3 北東地区の遺構

A 竪穴住居

S I 1407（図版25）

北東地区C11-10、C12-5（14次10T）の平坦な場所に構築されており、南西にS I 1408が隣接する竪穴住居である。周囲はかつての墓地造成に伴い上部が若干削平されているために、遺物包含層は殆ど存在しない。2m幅のトレンチを4m幅に拡幅して発掘調査を行なったが、西辺・北西隅は未調査である。

規模は南辺から東辺にかけて残存する壁溝と、主柱穴と考えられるP1・P2・P3・P4の位置から長軸4.8m、短軸4.5mで、平面形態は隅丸方形と推測される。主軸方位はN-88°-Eである。なお、土層断面から東辺壁溝はS K 1419を切っていると判断されたが、平面では確認していない（Eライン）。壁溝は南辺から東辺にかけて検出され、eラインで確認面から6cmを測る。また南辺から東辺にかけては壁溝寄り中央よりも一段高く検出され、その高さはcラインで確認面から3cm程である。床面は粘土による貼床が行なわれているが極めて薄く、中央部分でのみ認められた。柱穴は配置から主柱穴と推測したP1・P2・P3・P4以外は未調査である。4基は床面からの深さが50～60cmを測る。床面中央に焼土があり、炉跡と考えられる。南西隅にある土坑が貯蔵穴であろう。現存長85cm、深さは46cmを測る。

遺物は(図版38 338~351)、は弥生土器の他に縄文土器(343・344・346~349)が出土しているが、縄文時代の遺構もしくは包含層を切って構築されているからであろう。石器は剥片・黒曜石が出土している。

S I 1408 (図版25)

C11-10、C12-1(14次10T)の平坦な場所に構築されており、S I 1407に隣接する竪穴住居である。同様にかつての墓地造成に伴い上部が若干削平されているために、遺物包含層は存在しない。拡幅せず2m幅のトレンチ調査のため詳細は不明である。北西辺・北隅・東隅の壁溝により竪穴住居と判断したものである。壁溝北西辺北側はS D1412によって切られており、壁溝東隅はS K1411に切られる。

規模は長軸5.45m、短軸5.2m程で、平面形態は隅丸方形と推測される。主軸方位はN-32°-Eである。壁面・床面は削平されているために不明。壁溝はBラインで確認面から9cmが残存し、溝が二重に巡っていることから、同一場所による建替えの可能性はある。柱穴・炉・貯蔵穴は検出されなかった。

遺物は壁溝から縄文土器が極少量出土した。

S I 1409 (図版25)

位置はB9-3・4・8・9(14次10T)の北東向き斜面上に緩斜面上に構築されている。2m幅のトレンチで遺構確認後、幅30cm程のサブトレンチの調査で壁面と壁溝が検出されたこと、床面がほぼ水平なことから竪穴住居と判断したものである。縄文時代後期前葉に属するものである。

規模・形態・主軸方位は部分的調査のために不明である。壁面の遺存状態は良好で山側で壁高89cmを測る。谷側の壁面は認められない。床面は、貼床は行なわれていないと推測されるが、黄褐色土で硬くしまる。柱穴・炉・貯蔵穴は部分的調査のために不明。

遺物はサブトレンチの調査にもかかわらず、非常に多量の縄文土器が出土した(図版43・44・第5図)。2層から474・485・499・504、2・3・5層から493・495、3層から458・459・461・465~467・470・472・475~477・479・484・487・490・492・496・503、3・5層から457・460・462~464・468・471・473・494・500・502・505・506、5層から469・478・480~483・486・488・489・491・497・498・501が出土している。土器は三十稲場式を全く含まず、新潟編年の南三十稲場式、関東編年の堀之内1式新段階に属する極めて良好な資料である。石器は磨製石斧・剥片が出土している。

B 土 坑

S K1419以外の土坑は完掘せず半截に留まり、S K1419も土層観察用畦を残している。

S K 1415 a・b、10 T 37区 Pit 1 (図版26)

C11-3(14次10T)に位置し、平坦な場所に構築されている。土層断面からはS K1415 a・Pit 1・S K1415 bの順で構築されたと推測される。深さはS K1415 aで10cm、S K1415 bで19cm、Pit 1で52cmを測る。出土土器は全て縄文土器である(図版38 356)。またS K1415 aでは剥片が1点出土している。

S K 1416 a・b・c (図版26)

C11-3(14次10T)に位置し、平坦な場所に構築されている。土層断面から新旧関係は認められず、同時に存在していた可能性が高い。深さはS K1416 aで26cm、S K1416 bで33cm、S K1416 cで11cmを測る。覆土には地山と同じ明黄褐色土がブロック状に混入していることから(3層)、自然堆積ではなく意図的に埋められたものと推測される。出土土器は全て縄文土器である(図版38 357・358)。石器はS K1416 aで剥片が1点出土している。

S K 1417 a・b (図版26)

C11-3(14次10T)に位置し、平坦な場所に構築されている。土層断面からはS K1417 bがS K1417 a

に切られているように見える。深さはSK1417aで43cm、SK1417bで15cmを測る。遺物は縄文土器が出土している（図版38 359）。

SK 1419（図版25）

C11-10、C12-5（14次10T）に位置し、平坦な場所に構築された長楕円形の土坑である。長軸1.90m、短軸52cm、深さ36cmを測る。主軸方位はN-12°-Eである。Eラインの1層はSI1407壁溝に相当すると考えられることから、SK1419はSI1407に切られていると考えられる。遺物は上層では縄文土器・弥生土器（図版38 338~342・345・350）の他に剥片が1点と赤色顔料と思われる礫が1点出土している。下層からは縄文土器（351）の他に剥片が1点と土製紡錘車が1点（第6図1）出土している。土製紡錘車が下層から出土していることから弥生時代の遺構と推測される。

SK 1422（図版26）

C10-4（14次11T）に位置し、平坦な場所に構築された土坑である。深さ10cmを測る。遺物は縄文土器が20点出土している。

SK 1423（図版26）

C9-9、C10-4（14次11T）に位置し、平坦な場所に構築された楕円形の土坑である。長軸69cm、短軸40cm、深さ25cmを測る。遺物は縄文土器が6点と礫が1点出土している。

SK 1424（図版26）

C9-9（14次11T）に位置し、平坦な場所に構築された不整形の土坑である。弥生土器と縄文土器が出土している。深さは52cmを測る。覆土には黄褐色土がブロック状に混入していることから（2・4・8・11層）、意図的に埋められたものと推測される。遺物は縄文土器が156点と剥片が7点・黒曜石が1点出土している。

SK 1425（図版26）

C9-9（14次11T）に位置し、平坦な場所に構築された土坑である。深さは24cmを測る。遺物は縄文土器が16点出土している。

10T 34区Pit 1（図版26）

C11-4（14次10T）に位置し、平坦な場所に構築された楕円形のピットである。長軸43cm、短軸33cm、深さ20cmを測る。縄文土器が1点と弥生土器が16点、礫が1点出土している。

10T 40区Pit 1（図版26）

C11-3（14次10T）に位置し、平坦な場所に構築された円形のピットである。長軸47cm、短軸45cm、深さ55cmを測る。縄文土器が26点出土している。

10T 40区Pit 2（図版26）

C11-3（14次10T）に位置し、平坦な場所に構築されたピットである。深さ36cmを測る。遺物は縄文土器が6点出土している。

10T 41区Pit 1（図版26）

C11-2（14次10T）に位置し、平坦な場所に構築されたピットである。深さ34cmを測る。遺物は縄文土器が3点出土している。

11T 10区Pit 1（図版26）

C9-4（14次11T）に位置し、平坦な場所に構築された楕円形のピットである。長軸46cm、短軸36cm、深さ56cmを測る。遺物は縄文土器が34点出土している。

11T 15区Pit 1（図版26）

C9-5（14次11T）に位置し、平坦な場所に構築された不整楕円形のピットである。長軸90cm、短軸81

cm、深さ77cmを測る。遺物は縄文土器が172点の他、剥片が1点と礫が4点出土している。

4 遺 物

A 縄文土器・弥生土器

1) 北地区の遺物

a) 環濠出土土器

SD03S16 内環濠A (図版33)

13次12Tから出土したもので(182~205)、A群(182~194)・B群(197~205)がある〔渡邊他2001〕。190は口縁有段部が長く延びる高杯杯部で、5層から出土している。3期~4期に属するものであろう。191・192は小形の高杯か器台、189は壺、193は台付鉢である。赤彩されるものが多い。197は内面にも縄文を施文する内湾複合口縁部である。201は大きく外傾し幾分内湾する口縁部である。口縁端部と口縁部下端の突帯に棒状工具による斜めのキザミを入れる。201cにより突帯下部に狭くナデを入れるものの、頸部にも口縁部同様に縄文を施文していることが分かる。広口長頸壺であろう。187・189は中下層、197・201は上中層出土である。

SD1011 内環濠B (図版34)

13次13T(214~218)・15T(220~229)から出土したものであるが出土遺物は少ない。13TにはA群(218)・B群(215~217)・C群(214)があり、15TにはA群(220・222~225)・B群(228・229)・C群(221・226・227)がある。218・222は小形高杯。220は大形壺の有段口縁部である。B群215・216は無地文・ハケメ地文に連弧文を描くもの。214は長胴の広口長頸壺体部、221・226・227は広口長頸壺の口縁部であろう。

SD03S10 外環濠C (図版27・28)

13次7T(11~21)・8T(23)・10T(27~35)・11T(41~44)から出土したものである。7TにはA群(11~17)・B群(20)・C群(18・19)がある。中層以下の出土が多い。11~13の甕は口縁有段部下端を肥厚させ、僅かに内湾し、擬凹線文を入れる甕で、肩部にハケキザミを入れる。1期新段階であろう。8TにはB群(23)、10TにはA群(28~32)・B群(33・34)・C群(27)がある。上層からの出土が多い。27はくの字口縁甕で、口縁部内外を屈曲部以下まで横ナデとする。29は小形有段口縁鉢。11TにはA群(41)・B群(42~44)がある。7T中層の出土遺物は環濠の掘削時期を考える上で重要である。

SD03N05 外環濠B (図版29)

13次14Tから出土したもので(57~76)、A群(57~61)・B群(63・68~72・74)・C群(62・64~67・75・76)がある。68・70・74は最上層、57・64・67・73・75は下層出土である。57は長頸壺・59は有段口縁鉢。有段部が長く、4~5期であろう。67は平行沈線文が入る壺口縁部。C群は、67以外は広口長頸壺になろう。75は内外面ハケメの長胴壺体部である。

SD0901 外環濠A (図版29)

13次9Tから出土したもので(48~54)、A群(51~55)・B群(56)・C群(48・49)がある。上中層から出土したものである。52は高杯、54は有段口縁の大形壺であろう。48は口縁端部ヘラキザミ、内外面板ナデの口縁部。口縁部外面を狭く肥厚させ、破片下端に凹線状の浅い沈線で構図を描く。内面に炭化物が付着する。50は突帯部に細い竹管状施文具で連続刺突文を加える。

S D 1402 外環濠D (図版39~42)

14次 3 T (365~390)・12 T (396~403)・13 T (410~432)・14 T (405)・15 T (406~409)・16 T (433~438)・17 T (446・447) から出土したものである。3 TにはA群 (365・366・368~374・378)・B群 (379~381・384~390)・C群 (367・382・383) がある。3 T 370・379は6層下面から出土した完形壺で、共伴するものと考えられる。369は下層出土である。365・366は甕口縁部で口縁部が比較的薄く外傾する。368は肩部にハケキザミを入れるもので、刻みの手法は412に似る。370は有台有段口縁壺。有段部の屈曲が強く、頸部は短く、体部中位に最大径を持つソロバン玉状の器形となる。低い脚が付くものであろう。2期新段階から3期であらう。371も内外面赤彩の壺口縁部。379は頸部無文のB群精製壺。文様帯間区画文を欠く。I文様帯は3本沈線による上向きの連弧文4単位と2本沈線による下向きの連弧文、II文様帯も同じく2本単位の対向する連弧文4単位を入れる。II a文様帯はナデ。I・II文様帯ともに、構図・単位が乱れており、ナデにより沈線が一部消されている。その後、充填縄文・ハケメである。内面はハケメの後ナデ。369は頸部の屈曲が強い甕。B群380は縦位突帯の貼付がある赤彩壺で2段の有段部に刺突列を入れる。12 TにはA群 (396~399)・B群 (400・403)・C群 (401・402) があり、突帯貼付のある404は系統不明。13 TにはA群 (410~416)・B群 (422~432)・C群 (421) がある。413は内外面ミガキ・赤彩の鉢。415は壺・416は脚部で共に赤彩される。422は複合口縁部が幅広のもので、本遺跡では少ない。15 TにはA群 (406・407)・C群 (408) があり、16 TにはA群 (436)・B群 (437)・C群 (433・434・438) がある。433は肩部に幅広のハケキザミ、口縁部はナデ調整で幾分内湾する甕。434は複合口縁の壺。外面縦ハケ。C群438は広口長頸壺。口縁端面取り、波状口縁で、複合口縁部横ハケ、頸部ナデ、体部横ハケとする。内面は横ハケで口縁部のみナデ調整をする。

b) 堅穴住居出土土器

S I 1307 (旧 S I 1007・旧 S I 1009) (図版30~32)

13次12 Tで検出された堅穴住居で、第10次調査で検出された2基の堅穴住居が同一遺構であることが判明した。多量の土器が出土しており、周溝 (80~140)・覆土 (141~169)・壁溝 (170~172)・ピット (173~181) に分けて図示した。

周溝にはA群 (80~92)・B群 (93~106・117~137)・C群 (107~116) がある。80は口縁有段部と肩部にハケキザミを施し、有段口縁部下端を肥厚させ、僅かに内湾する甕。2期古段階であらう。93は幅狭の内湾口縁部に交互刺突文を入れ、円形浮文を貼付する。磨耗が激しいが頸部は無文となるらしい。94~97も内湾口縁部下端に交互刺突文を入れ、連弧文を描くもの。連弧文の交点には逆への字状の三叉文。98は外傾する口縁部に連弧文。107~114はハケメ・ナデ調整の内湾状口縁部で、甕もしくは広口長頸壺。115・116は外傾するものである。101は内面にも縄文を施文する本遺跡では希少例。124は壺頸部の(上)下を連続刺突文で画し、中央の波状押引文で上下に分割する。

覆土にはA群 (141~143・145~152)・B群 (156~158・163~169)・C群 (144・159~162) がある。146は大形の高杯杯部。144はC群有段状複合口縁部である。159~162は横ハケの施された口縁部。159・160は幾分内湾し、161・162は直立するものである。周溝出土のような内湾の強いものは見られない。

壁溝にはA群 (170)・B群 (172) がある。170は有段擬凹線文壺口縁部。172は壁溝内部から出土したB群甕。I文様帯下端のみ立体的な交互刺突文であるが、他は一条の沈線に沿って上下から刺突を加えた変容した交互刺突文を入れる。I文様帯上端は連弧文か。II a文様帯中央にも交互刺突文を入れ上下に2分する。II・III文様帯間は横位沈線文を入れ、III文様帯上端に波状押引文を施す。天王山遺跡の狭義の天王山式よりも年代的に下ることは間違いなく、S X 1005と同期の1期新段階もしくは2期古段階に位置づけられるもの

と考える。

Pit 4 aからはA群(175・180)・B群(176)・C群(177)が出土している。175は有段口縁壺で外面ミガキ・赤彩。177は外面縦ハケの甕で、頸部は小破片による復元である。C群であろう。

S I 1308 (第3図)

13次12Tで出土したもので、遺物は多くないが床面近くからの出土が多い(1~16)。A群(1~8)・B群(9~16)がある。1~5は甕口縁部。9はハケメ地文に背中合わせの連弧文を入れる内湾口縁部である。10・15は頸部無文の壺であろう。

S I 1309 (図版36)

13次16Tで出土したもので、多量の土器が出土しているが、小破片が多く、図示できるものは多くはない(273~294)。A群(273~282)・B群(287~294)がある。278・279・282は土坑出土。278は鉢の有段口縁部。282は大形の壺である。288は燃糸文地文に連弧文、289は縄文側面押圧、290は幅広の口縁部下端に連続刺突を入れるものである。

S I 1311 (図版34)

13次18Tで出土したもので(235~245)、A群(235~237)・B群(241~243)・C群(238~240)がある。237は突帯の付く大形壺。238は内外面横ハケの内湾状複合口縁部である。

S I 1312 (図版34)

13次18Tで出土したもので、B群(246)がある。内外面横ハケ地文に口縁部と頸部に横位沈線文を入れる。

S I 1313 (図版35)

13次19Tで出土したもので(258~268)、A群(258~261)・B群(262~268)がある。258・261は土坑付近から出土したものである。258は口縁部擬凹線文、頸部縦ハケの大形壺。260・261は器台脚部。260は縦ハケを残す。262は縄文地文に横位沈線文を施した内湾口縁部で頸部無文とするもの。263・264は縄文施文の複合口縁部で、口縁部下端は、263は交互刺突文、264は連続刺突列である。

S I 03S21 (S I 1401) (図版37・第4図)

14次1Tから出土したもので、出土土器は比較的多い(301~318)。A群(301~303・318)・B群(307~312・315~317)・C群(304~306・314)がある。307・314~318は土坑出土。301は床面出土である。301は有段口縁の大形壺。外面板ナデ状のハケメで、一見するとミガキのように見える。304・305は口縁部ハケメの外反口縁甕。306・314はくの字状口縁甕で、口縁部縄文、頸部屈曲部にハケキザミを入れる。頸部は無文。第4図は第3次調査の際にトレンチ調査で出土したB群赤彩壺である。交互刺突文が無く、2本描連弧文を入れ、体部はLR縄文を施文する。内面ハケメ。1期新段階~2期古段階であろう。

c) 土坑

S K 1310 (図版36)

13次16Tの土坑から出土したものである。口縁部が幾分内湾状となるC群くの字状口縁甕(295)。外面縦方向のナデ、内面横方向の板ナデである。外面には指頭痕を残す。スス・炭化物が付着する。

d) その他

138・329・336・337は縄文土器である。254~256は須恵器杯、257は土師器小甕である。439は16T包含層出土の甕。3片による復元実測図である。口縁部から体部上半に櫛描波状文、体部下半を無文とする。櫛描

波状文の条数は5～6条で、向かって右から左に施文し、振幅が少なく丁寧に密に入れる。胎土は褐色で混入物が少なく、他とは異なる感じを受ける。中部高地系の箱清水式であろう（注1）。443は内外面赤彩の有台部。ナデ調整であること、器壁が比較的厚いことからB群と考える。

2) 北東地区の遺物

a) 竪穴住居

S I 1407 (図版38)

14次10Tから出土したものである(343・344・346～349)。図示できたもので、弥生土器は343のみで、他は全て縄文土器である。

S I 1409 (図版43・44)

14次10Tでサブトレンチの調査で出土したものである(456～501)。精製深鉢(456～490)・鉢(491)・注口部(492)・粗製深鉢(493～501)がある。三十稲場式を全く含まず、新潟編年の南三十稲場式、関東編年の堀之内1式新段階に並行する。

b) 土坑

S K 1415 a・b (図版38)

356は縄文土器である。

S K 1416 a・b・c (図版38)

357・358は縄文土器である。

S K 1417 a・b (図版38)

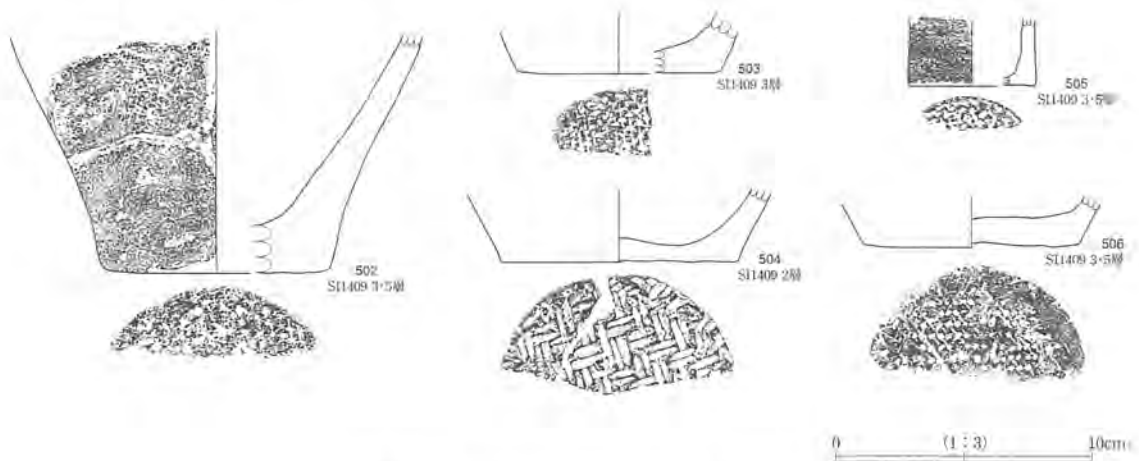
359は縄文土器である。

S K 1419 (図版38)

14次10Tで出土したもので(338～342・345・350・351)、338～342は弥生土器、345・350・351は縄文土器である。

c) その他

344～351・354～360・364は縄文土器である。352は14次10T34区Pit 1出土の高杯杯部である。



第5図 第14次10T SI1409 縄文土器 (1/3)

B 土製品・石器・石製品・ガラス製品

1) 土製品 (第6図)

3点出土している。内訳は土製紡錘車2点、玉状の土製品1点である(別表9)。先回報告分〔渡邊他2001〕と合わせて、八幡山遺跡全体で土製紡錘車6点、玉状の土製品2点となる。

1は断面両凸レンズ状の土製紡錘車である、若干表面が膨らむ。約1/6が残存している。直径は約50mm前後に復元される。表裏面は無文、器面が粗いため調整等は確認できない。側面に沈線が一条ある。2は断面両凸レンズ状の完形土製紡錘車である、若干表面が膨らむ形状を持つ。直径は約50mmである。表裏面、側面ともに無文である。器面が粗く調整等は不明である。3は直径約29mm程度に復元される玉状の土製品である。器面の剥落が進み、表面の調整は不明である。器体中心に径約4mmの貫通穴が焼成前に穿孔されている。

2) 石器・石製品 (図版45～48)

今回報告する石器・石製品は第13次・14次調査において出土した資料である。古津八幡山古墳を主体とする確認調査の第11次・12次調査では石器は出土していない。

石器は総数525点出土している。そのうち旧石器時代のナイフ形石器1点、および縄文時代、時代不明石器114点を除外すると総数410点が弥生時代の石器と推定される。第1次～10次調査分をあわせると八幡山遺跡での弥生時代石器総点数は723点である。石器点数は別表11に示し、石器・ガラス製品の観察表は別表10に示した。

分類は第1次～10次調査報告の分類〔渡邊他2001〕に整合性を持たせている。今回の報告で新たに確認された弥生時代石器形態は凹石・礫器・石錘・石包丁様石器である。それ以外に追加される石器形態はない。

ナイフ形石器 (図版45 1)

1点出土している。珪質凝灰岩を石材とした二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、先端および末端を古く欠損している。腹面側からの調整で二側縁に成形されている。調整角は左側縁41～68度、右側縁61～75度である。先回報告の2点とあわせて、計3点のナイフ形石器が確認されたことになるが、時期的には他の2点と同様に後期旧石器時代後半のA T降灰後の石器であると考えられる。

石鏃 (図版45 2～25)

24点図化した。基部形態により3分類し、さらに細分を行っている。

A類(2～6)ーアメリカ式石鏃である。2・3・4は完形である。2・3は先端を先細に加工していることが特徴的である。4は小形の形態で基部が大きく、再加工品の可能性がある。5は表面左下方を新しく欠損している。6は先端部が古く欠損する。

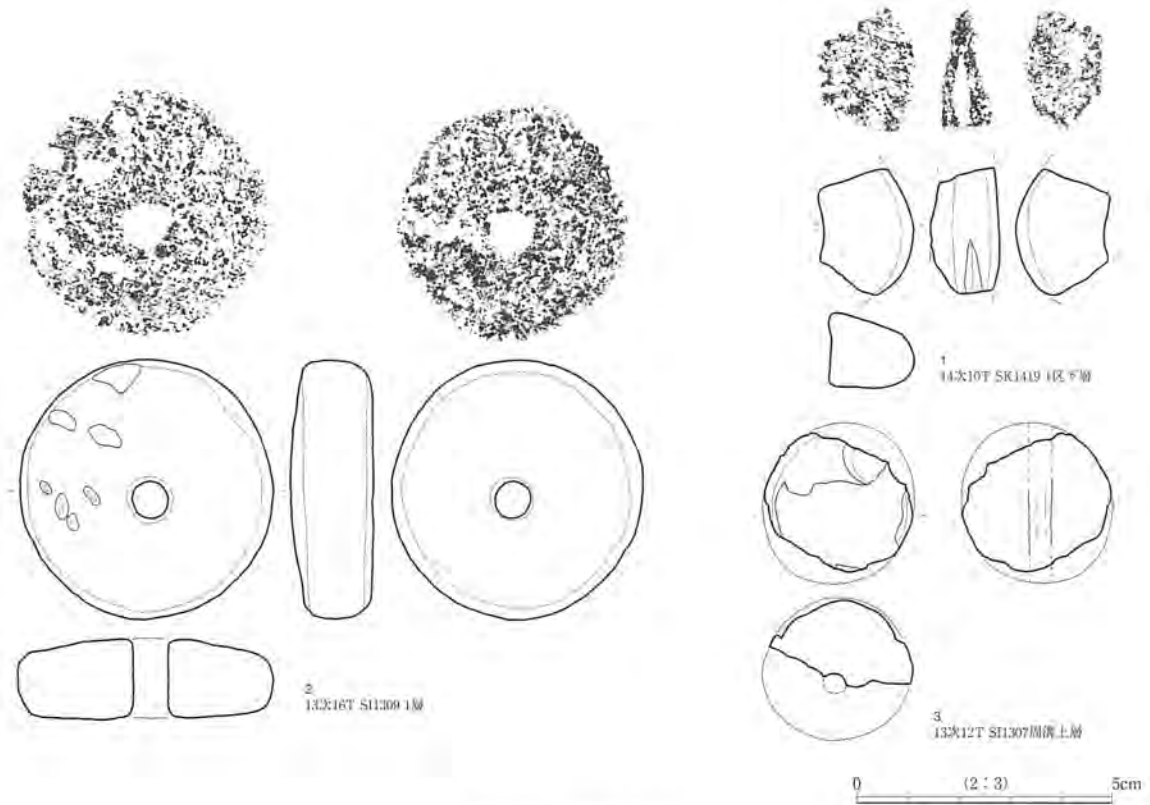
B類(7～18・25)ー有茎鏃である。さらに3細分される。

B1類(15)ー凹基有茎鏃である。15は基部が古く欠損する。

B2類(7～9・13・16・17)ー平基有茎鏃である。7・8は完形品である。9は先端部に槌状剥離痕が残る。13は先端部に擦痕が残り、石鏃としての機能が終了した後、石錘として利用された資料である。16は先端部を古く欠損し、17は先端・末端を古く欠損する。

B3類(10～12・14・18)ー凸基有茎鏃である。10～12は略完形品である。14は先端部を古く欠損する。18は先端・末端を古く欠損する。

B4類(25)ー凸基有茎片袖鏃である。25は比較的大形の石鏃である。基部の片袖に抉りがある。



第6図 土製品 (2/3)

C類 (19~22) - 無茎鏃である。さらに2細分される。

C 1類 (19・20) - 凹基無茎鏃である。19は先端を新しく欠損する。20は先端を古く欠損する。

C 2類 (21・22) - 平基無茎鏃である。21は先端を古く欠損する。22は先端を古く欠損し、末端を新しく欠損する。

不明 (23・24) - 23は両端を欠損する。24は黒曜石製の先端部のみの資料である。

石鏃未成品 (図版45 26~32)

7点図化した。26は有茎鏃の未成品である。29~32は無茎鏃の未成品である。

石錐 (図版45 33・34)

2点図化した。33は剥片を素材とし、両面からの剥離によって先端部を作出している。34は棒状の形状で先端に回転痕が残る。

不定形石器 (図版46 35~50)

16点図化した。基本的な分類は塩沢町五丁歩遺跡の不定形分類表に従った〔高橋1992〕。全点を観察していないため、細分類は行っていない。また、欠如する分類も同様な理由で生じている。

A類 (47・48)、B類 (38)、C類 (36)、E類 (35・44・50)、F類 (37・40・41・42・45・46・49)、H類 (43)、K類 (39) である。全て剥片を素材としている。50はE類としたが、剥片素材の石錐の可能性もある。

楔形石器 (図版46 51~54)

4点図化した。53は黒曜石の剥片を素材としている。51は折断痕が残る。

石核 (図版46 55)

1点図化した。55は礫面を一部残すことから、礫を素材とした石核である。4面の剥離痕が残り、打面転移を繰り返し、サイコロ状の形態となっている。

大型蛤刃石斧 (図版47 56)

大型蛤刃石斧の刃部片である。1点出土している。礫面が大きく残り、礫素材であることが分かる。

管玉 (図版47 57)

1点出土している。1/4程度破損している。復元径約9.5mm程度の管玉である。良質な緑色凝灰岩を用いている。破損面は破損後に剥離されており、何らかの行為が行われている。

石包丁様石器 (図版47 60)

1点出土している。60は石包丁様石器とした石器形態である。凝灰岩を石材として、穿孔部位と刃部の一部が残る。全体に研磨痕が残り、刃部には稜上に擦痕がある。高倍率での顕微鏡では残存部位にはコーンゲロスが確認されなかった(注2)。完形品の全体形はおそらく体の中心に穴が1～2孔あき、楕円形あるいは半月形の石包丁様になると考えられるが、確証が得られず、「石包丁様石器」とした。

軽石製石製品 (図版47 61・62)

2点図化した。61・62ともに軽石を石材とした石製品である。擦痕等は明確に観察されない。

砥石 (図版47 64～69、図版48 70～72)

9点図化した。形態が多様なため細分類は行っていない。大きく、凝灰岩等を石材とする手持ち砥石(64～68)と安山岩などを石材とする置砥石(69～72)に分けられる。

擦石 (図版48 73)

1点図化した。擦石の半欠品である。

凹石 (図版48 74)

1点図化した。自然礫を用い5ヶ所の凹部を持つ。

3) ガラス製品 (図版47)**ガラス玉** (図版47 58・59)

2点出土している。58は小形ガラス玉である。色調は不透明なコバルトブルー、59は小形ガラス玉である、58より法量が小さい。色調は半透明なコバルトブルーである。

C 須恵器・土師器 (図版35)**須恵器無台杯** (254・255)

254は内外面ロクロナデの須恵器無台杯である。胎土から新津産と推測される。胎土から新津産と推測される。底部ヘラ切り。255も内外面ロクロナデの須恵器無台杯で、254と同一個体の可能性がある。

須恵器有台杯 (256)

内外面ロクロナデの須恵器杯。体部の立上がりから有台杯と推測される。

土師器小甕 (257)

内外面ロクロナデの土師器小甕である。底部回転糸切りである。

注1 笹沢正史氏にご教示を受けた。

注2 2004年1月31日～2月1日に新潟県埋蔵文化財センターで行われた石器使用痕研究会の席上、多数の使用痕研究者に観察頂いた結果である。

第V章 自然科学分析—第13次調査—

1 土層とテフラ

A はじめに

新津市域とその周辺には、妙高・浅間・沼沢沼などの火山、さらには中国地方や九州地方に分布する火山などから噴出したテフラ (tephra, 火山, いわゆる火山灰) が数多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代だけでなく、遺構や遺物の層位や年代などについても知ることができるようになっている。そこで八幡山遺跡においても、微化石などの分析に先立って、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析により指標テフラの検出同定を試みるようになった。地質調査の対象となった地点は、7T外環濠・13T内環濠B区・13T内環濠A区・12T内環濠・12T竪穴住居周溝の5地点である。

B 土層層序 (第7図)

7T外環濠 7T外環濠の覆土は、下位より若干色調が暗い褐色土 (層厚11cm)・暗灰褐色土 (層厚7cm)・若干色調が暗い褐色土 (層厚15cm)・炭化物混じりで若干色調が暗い褐色土 (層厚37cm)・若干色調が暗い褐色土 (層厚16cm)・褐色土 (層厚21cm)・暗褐色土 (層厚13cm)・色調が特に暗い暗褐色土 (層厚15cm)・暗褐色土 (層厚6cm) からなる。

13T内環濠B区 13T内環濠B区の覆土は、下位より橙褐色土 (層厚12cm)・暗灰褐色土 (層厚16cm)・灰褐色土 (層厚7cm)・橙褐色土 (層厚7cm)・砂混じり橙色土 (層厚3cm)・若干色調が暗い褐色土 (層厚7cm)・橙褐色土 (層厚3cm)・炭化物混じりで若干色調が暗い褐色土 (層厚20cm)・炭化物混じり褐色土 (層厚22cm)・若干色調が特に暗い暗褐色土 (層厚7cm)・暗褐色土 (層厚17cm) からなる。

13T内環濠A区 13T内環濠A区の覆土は、下位より橙褐色土 (層厚16cm)・灰褐色土 (層厚14cm)・橙褐色土 (層厚7cm)・灰色がかった褐色土 (層厚7cm)・灰褐色土 (層厚11cm)・灰色がかった褐色土 (層厚11cm)・灰褐色土 (層厚19cm)・灰色がかった褐色土 (層厚17cm)・炭化物混じり暗灰褐色土 (層厚9cm)・若干色調が暗い灰褐色土 (層厚9cm)・暗灰褐色土 (層厚12cm) からなる。

12T内環濠 12Tで認められた環濠の覆土は、下位より赤褐色土粒子に富む褐色土 (層厚7cm)・赤褐色土粒子混じり灰褐色土 (層厚7cm)・土器混じり灰褐色土 (層厚16cm)・灰褐色土 (層厚15cm)・灰色がかった褐色土 (層厚22cm)・灰褐色土 (層厚11cm)・暗灰褐色土 (層厚13cm)・若干色調が暗い灰褐色土 (層厚13cm)・より色調が暗い灰褐色土 (層厚5cm) からなる。

12TSI1307竪穴住居周溝 12T竪穴住居周溝の覆土は、暗灰褐色土 (層厚16cm以上) からなる。

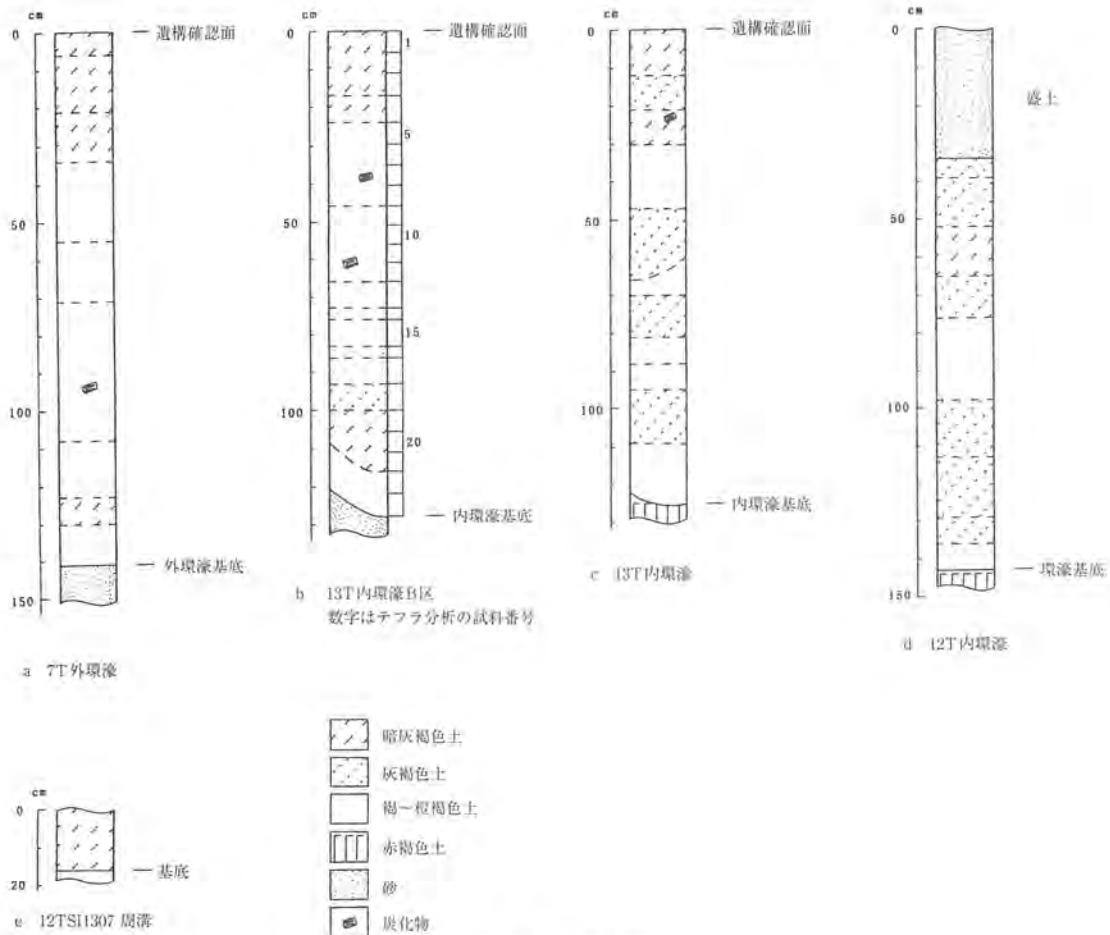
C テフラ検出分析

1) 分析試料と分析方法

第5表 13T内環濠B区におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
内環濠	1	-	-	-	-	-	-
	3	-	-	-	+	pm	透明
	4	-	-	-	-	-	-
	5	-	-	-	+	pm	透明
	7	-	-	-	-	-	-
	9	-	-	-	+	md	透明
	11	-	-	-	-	-	-
	13	-	-	-	-	-	-
	14	-	-	-	-	-	-
	15	-	-	-	-	-	-
	16	-	-	-	-	-	-
	17	-	-	-	+	bw	透明
	18	-	-	-	-	-	-
	19	-	-	-	+	md	透明
21	-	-	-	+	pm	白	
23	-	-	-	-	-	-	

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm. bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型.



第7図 土層柱状図

13T内環濠B区の層位や年代に関する資料を得るために、基本的に5 cmごとに設定採取された試料のうち、16点についてテフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

- a) 試料10 gを秤量。
- b) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- c) 恒温乾燥器により80℃で乾燥。
- d) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や特徴を観察。

2) 分析結果 (第5表)

テフラ検出分析の結果を第5表に示す。分析の対象となった13T内環濠B区の覆土試料から、軽石やスコリアは検出されなかった。一方火山ガラスは、試料21・19・17・9・5・3でごく少量ずつ認められた。試料21には白色のスポンジ状に発泡した軽石型、試料19や試料9には無色透明の分厚い中間型、試料17には無色透明のバブル型、さらに試料5および試料3には無色透明の繊維束状の軽石型ガラスが含まれている。ただし、指標テフラの降灰層準を示唆するような、顕著な濃集層準は認められなかった。

D まとめにかえて

13T内環濠B区の覆土から検出された火山ガラスについては、量が非常に少なく、屈折率測定などで指標テフラとの同定を行うことも難しい状況にあった。しかしながら、新津市域では約5,000年前(放射性炭素年代)に沼沢火山から噴出した沼沢1テフラ〔Nm-1, 只見川第四紀研究グループ1966 a・1966 b, 町田・新井1992〕に二次的に由来するテフラ粒子のほか、多くの指標テフラが降灰していると考えられる。弥生時代以降でも、福島県会津地方とその周辺で検出されている6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ〔Hr-FA, 新井1979, 坂口1986, 早田1989, 町田・新井1992〕、または6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名伊香保二ツ岳軽石〔Hr-FP, 新井1962, 坂口1986, 早田1989, 町田・新井1992〕などの榛名火山や浅間火山に由来するテフラ、さらに915年に十和田火山から噴出したと考えられている十和田a火山灰〔To-a, 大池ほか1966, 大池1972, 町田ほか1981〕などが検出される可能性もあり、今後よりテフラの保存状態の良い泥炭地などを含め多くの地点で調査分析の行われることが望まれる。

2 植物珪酸体分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山2000〕。

B 試料 (第8図)

試料は7T外環濠・13T内環濠B区・12T内環濠・12T縦穴住居周溝の4地点から採取された11点である。

C 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原1976〕を用いて、次の手順で行った。

- a) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- b) 試料約1gに対し直径約40 μ mのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- c) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- d) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- e) 沈底法による20 μ m以下の微粒子除去
- f) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- g) 検鏡・計数

同定は400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数はガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10⁻⁵g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

1) 分類群（第6表、第8図a～d、第9図）

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第6表および第8図a～dに示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す（第9図）。

〔イネ科〕 イネ・キビ族型・ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科-タケ亜科〕 ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）・クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）・ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）・未分類等

〔イネ科-その他〕 表皮毛起源・棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）・未分類等

2) 植物珪酸体の検出状況

7T外環濠 環濠の埋土底部（試料1・2）ではミヤコザサ節型が比較的多く検出され、試料1ではイネやクマザサ属型、試料2ではキビ族型も検出された。イネの密度は700個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている3,000個/gを下回っている。

13T内環濠B区 環濠の埋土底部（試料12）ではミヤコザサ節型が比較的多く検出され、ウシクサ族Aやクマザサ属型なども検出された。埋土下部（試料7～11）でも、おおむね同様の結果であるが、試料11ではミヤコザサ節型が増加しており、試料9と試料10ではキビ族型も検出された。また、試料10と試料11では海綿骨針〔宇津川ほか1979〕も検出された。おもな分類群の推定生産量によると、クマザサ属型およびミヤコザサ節型が優勢となっていることがわかる。

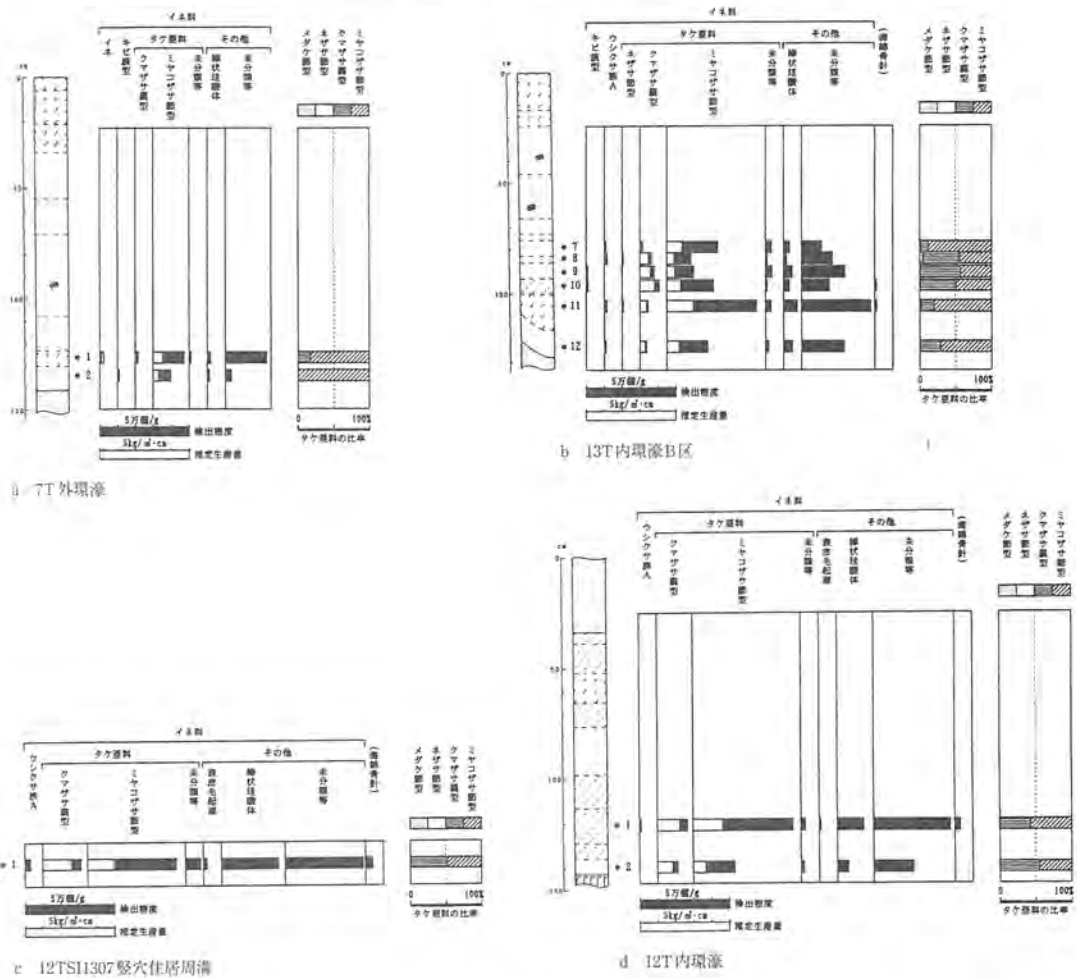
12TSI1307堅穴住居周溝 堅穴住居周溝の基底直上（試料1）ではミヤコザサ節型が多量に検出され、ク

第6表 植物珪酸体分析結果

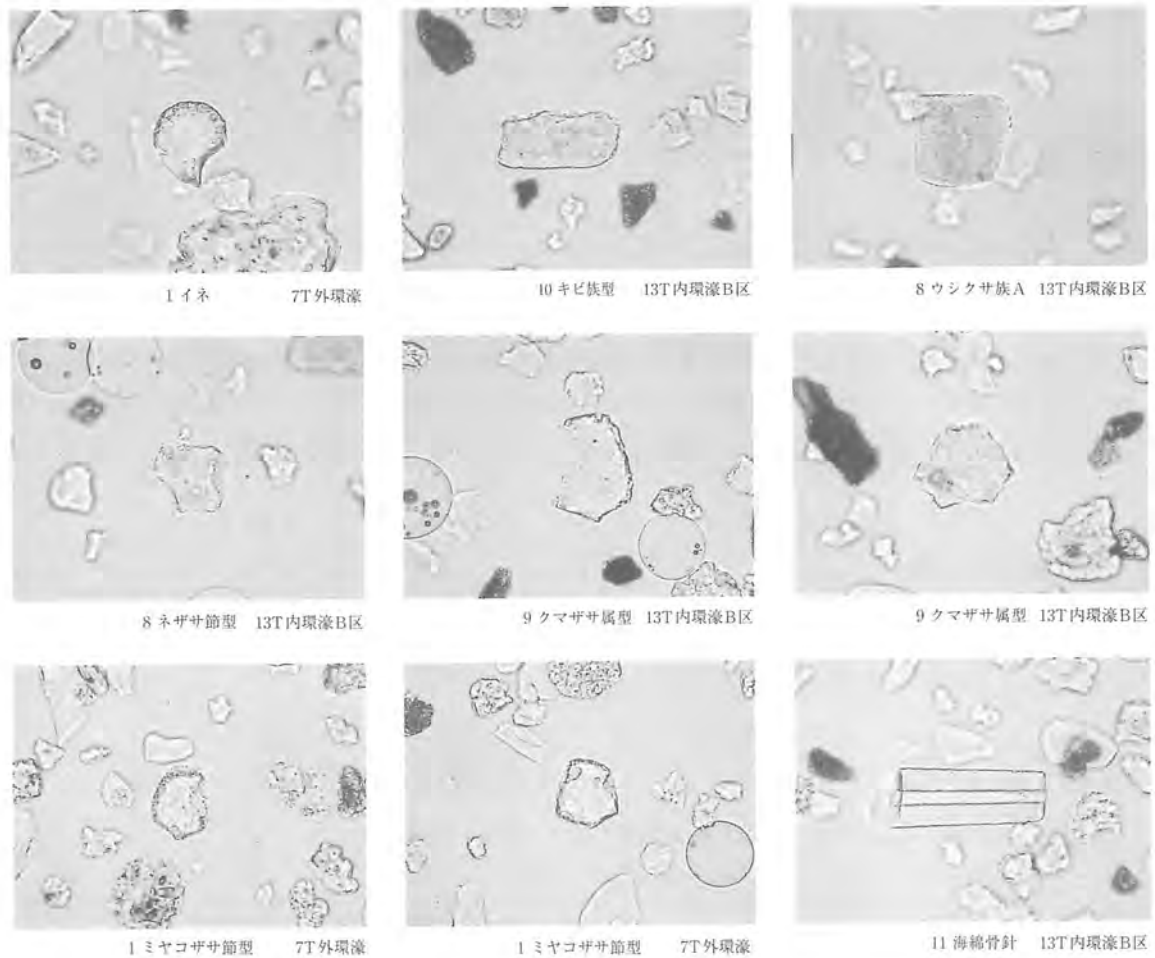
検出密度 (単位: ×100個/g)		7T外環濠		13T内環濠B区						12T内環濠		12T周溝
分類群	学名	1	2	7	8	9	10	11	12	1	2	1
イネ科 Gramineae (Grasses)												
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	7										
キビ族型	Panicaceae type		8			6	7					
ウシクサ族A	Andropogonaceae A type			7	14			13	7	7		22
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)												
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				7			7				
クマササ節型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	14		15	64	78	108	46	37	168	113	212
ミヤコササ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	172	98	284	135	149	260	498	227	553	232	498
未分類等	Others	7		30	7	32	7	26	15	21	14	81
その他のイネ科 Others												
表皮毛起源	Husk hair origin									7		15
棒状珪酸体	Rod-shaped	14	8	30	14	45	29	72	44	140	56	307
未分類等	Others	222	30	105	164	233	145	374	227	420	218	432
(海綿骨針)	Sponge						7	7		28		37
植物珪酸体総数	Total	437	143	471	406	543	557	1035	557	1316	633	1566

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm)		7T外環濠		13T内環濠B区						12T内環濠		12T周溝
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.21										
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				0.03			0.03				
クマササ節型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	0.11		0.11	0.48	0.58	0.81	0.34	0.27	1.26	0.84	1.59
ミヤコササ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	0.52	0.29	0.85	0.41	0.45	0.78	1.49	0.68	1.66	0.70	1.49

タケ亜科の比率 (%)		7T外環濠		13T内環濠B区						12T内環濠		12T周溝
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>											
ネササ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				4			2				
クマササ節型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	17		12	52	57	51	18	29	43	55	52
ミヤコササ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	83	100	88	44	43	49	80	71	57	45	48



第8図 植物珪酸体分析結果



第9図 植物珪酸体の顕微鏡写真

50 μm

マザサ属型も比較的多く検出された。また、ウシクサ族Aや海綿骨針なども検出された。おもな分類群の推定生産量によると、クマザサ属型およびミヤコザサ節型が優勢となっていることがわかる。

12T内環濠 環濠の埋土底部（試料2）ではクマザサ属型やミヤコザサ節型が比較的多く検出された。埋土下部（試料1）では、ミヤコザサ節型が大幅に増加しており、ウシクサ族Aや海綿骨針なども検出された。おもな分類群の推定生産量によると、クマザサ属型およびミヤコザサ節型が優勢となっていることがわかる。

E 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

弥生時代後期とされる環濠および堅穴住居の埋土の堆積当時は、クマザサ属（ミヤコザサ節を含む）などのササ類を主体としてキビ族やウシクサ族なども見られるイネ科植生であったと考えられ、比較的乾燥した環境であったと推定される。クマザサ属は氷点下5℃程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている〔高槻1992〕。遺跡周辺にこれらのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

7T外環濠の埋土からは少量ながらイネが検出された。このことから、当時は遺跡周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で環濠内にイネの植物珪酸体が混入したものと推定される。13T内環濠B区・12T内環濠・12T堅穴住居周溝からは、海綿動物に由来する海綿骨針が検出された。このことから、

何らかの形で海綿（スポンジ）が利用されていた可能性も考えられるが、密度が比較的低いことや、海綿骨針については堆積環境との関係に未解明な部分もあることから、確定的なことは言えない。

3 花粉分析

A はじめに

花粉分析は一般に低湿地の堆積物を対象として比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物等を対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉等の植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試料

試料は7 T外環濠・13 T内環濠B区・12 T内環濠・12 T 堅穴住居周溝の4地点から採取された7点である。

C 方法

花粉粒の分離抽出は、〔中村 1973〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

- a) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- b) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- c) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- d) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- e) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- f) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- g) 検鏡・計数

検鏡は生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、〔島倉1973〕および〔中村1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科・亜科・属・亜属・節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。

D 結果

1) 分類群（第10図、第7表）

出現した分類群は、樹木花粉9、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉8、シダ植物孢子2形態の計20である。分析結果を第7表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

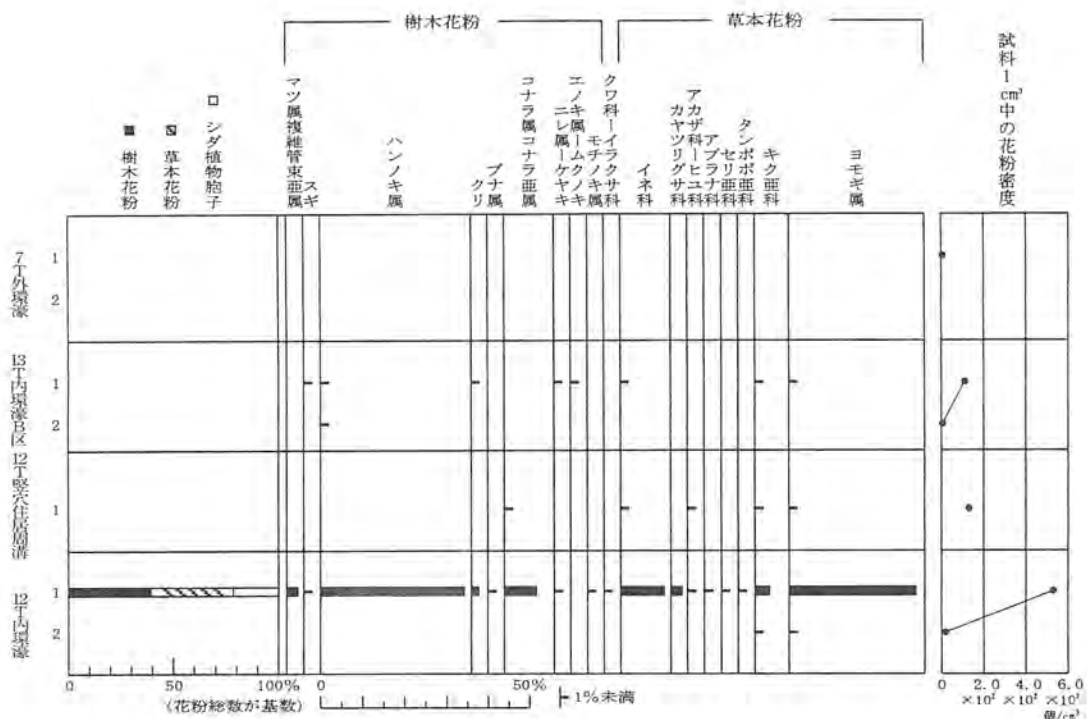
〔樹木花粉〕 マツ属複維管束亜属・スギ・ハンノキ属・クリ・ブナ属・コナラ属コナラ亜属・ニレ属ーケヤキ・エノキ属ームクノキ・モチノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕 クワ科ーイラクサ科

〔草本花粉〕 イネ科・カヤツリグサ科・アカザ科ーヒユ科・アブラナ科・セリ亜科・タンポポ亜科・キク

第7表 花粉分析結果

分類群		7T外環濠		13T内環濠B区		12T扇溝		12T内環濠	
学名	和名	1	2	1	2	1	1	2	
Arboreal pollen	樹木花粉								
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属							3	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ			1				1	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属			4	1			40	
<i>Castanea crenata</i>	クリ			1				2	
<i>Fagus</i>	ブナ属							1	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属					1		9	
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ			2				1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ			1					
<i>Ilex</i>	ミズノキ属							1	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉								
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科							1	
Nonarboreal pollen	草本花粉								
Gramineae	イネ科			1		12		12	
Cyperaceae	カヤツリグサ科							3	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科					1		1	
Cruciferae	アブラナ科							1	
Apioidae	セリ亜科							1	
Lactucoideae	タンポポ亜科							1	
Asteroidae	キク亜科			2		1		4	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属			3		3		35	
Fern spore	シダ植物胞子								
Monolate type spore	単葉溝胞子			4	1	2	30	1	
Trilate type spore	三葉溝胞子			1			2		
Arboreal pollen	樹木花粉	0	0	9	1	1	58	0	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0	0	0	1	0	
Nonarboreal pollen	草本花粉	0	0	6	0	17	58	2	
Total pollen	花粉総数	0	0	15	1	18	117	2	
	試料1cm ² 中の花粉密度	0.6	(-)	1.1	0.6	1.3	5.3	1.8	
		$\times 10^4$	(-)	$\times 10^4$	$\times 10^4$	$\times 10^4$	$\times 10^4$	$\times 10^4$	
Unknown pollen	未同定花粉	1	0	3	0	0	1	1	
Fern spore	シダ植物胞子	0	0	5	1	2	32	1	
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	



第10図 花粉ダイアグラム

亜科・ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕 単条溝孢子・三条溝孢子

2) 花粉群集の特徴 (第11図)

7 T 外環濠 環濠の埋土底部(試料1・2)では花粉がほとんど検出されなかった。

13 T 内環濠 B 区 環濠の埋土底部(試料2)では花粉がほとんど検出されなかった。埋土下部(試料1)ではハンノキ属・ニレ属・ケヤキ・イネ科・キク亜科・ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。

12 T S I 1307 竪穴住居周溝 竪穴住居周溝の基底直上(試料1)ではコナラ属コナラ亜属・イネ科・キク亜科・ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。

12 T 内環濠 環濠の埋土底部(試料2)ではキク亜科やヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。埋土下部(試料1)では、樹木花粉と草本花粉の出現率が同程度であり、シダ植物孢子の出現率も比較的高い。樹木花粉ではハンノキ属が優占し、コナラ属コナラ亜属・マツ属複維管束亜属・クリなどが伴われる。草本花粉ではヨモギ属やイネ科が優占し、キク亜科・カヤツリグサ科などが伴われる。

E 花粉分析から推定される植生と環境

12 T の環濠埋土の堆積当時は、ヨモギ属を主としてイネ科・キク亜科・カヤツリグサ科なども生育する比較的乾燥した環境であったと考えられ、周辺にはハンノキ属を主としてナラ類(コナラ属コナラ亜属)、ニヨウマツ類(マツ属複維管束亜属)、クリなどが生育する森林が分布していたと推定される。

その他の試料では花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

4 珪藻分析

A はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌・岩石・コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度・酸性度・流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

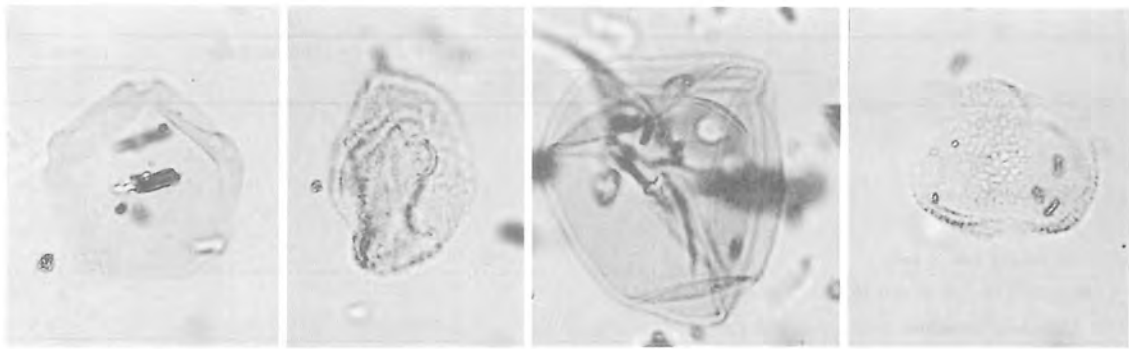
B 試料

試料は7 T 外環濠・13 T 内環濠 B 区・12 T 内環濠・12 T 竪穴住居周溝の4地点から採取された7点である。

C 方法

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

- a) 試料から乾燥重量1 gを秤量
- b) 10%過酸化水素水を加え、加温しながら1晩放置

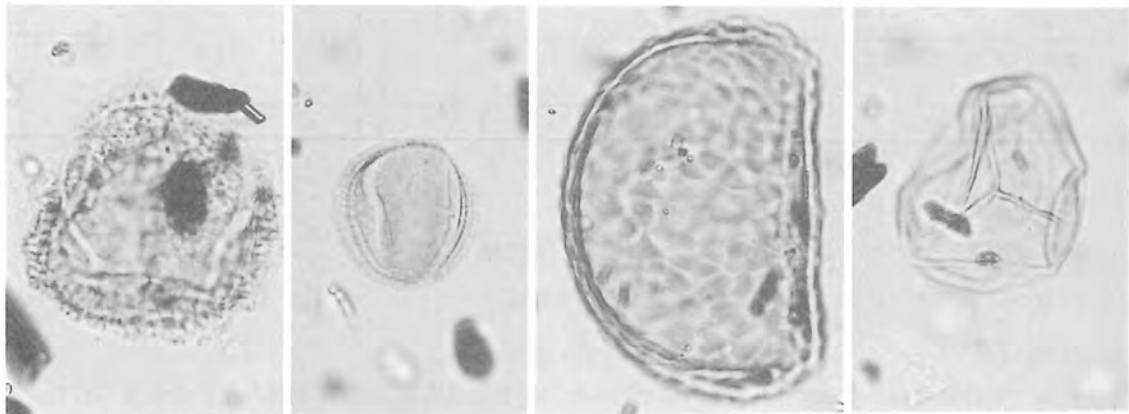


1 ハンノキ属

2 コナラ属コナラ亜属

3 イネ科

4 アブラナ科



5 キク亜科

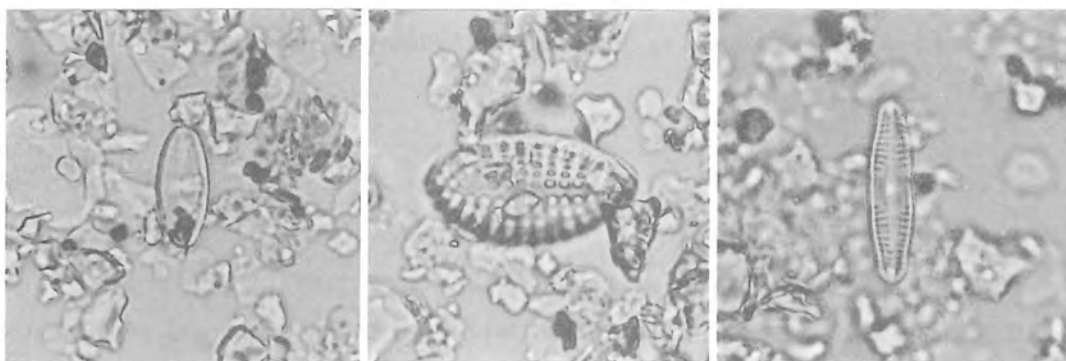
6 ヨモギ属

7 シダ植物単条溝胞子

8 シダ植物三条溝胞子

10 μm

第11図 花粉・胞子顕微鏡写真



1 *Navicula mutica*

2 *Cocconeis scutellum*

3 *Pinnularia subcapitata*

10 μm

第12図 珪藻化石顕微鏡写真

第8表 珪藻分析結果

分類群	7T外環濠		13T内環濠B区		12T 堅穴住居周溝	12T内環濠	
	1	2	1	2	1	1	2
貧塩性種（淡水生種）							
<i>Navicula mutica</i>					1		
<i>Neidium</i> sp.			1		1		
<i>Pinnularia</i> sp.			1				
<i>Pinnularia subcapitata</i>			2		1		
真-中塩性種（海-汽水生種）							
<i>Cocconeis scutellum</i>					1		
合計	0	0	4	0	4	0	0
未同定	(-)	(-)	2	(-)	(-)	(-)	(-)
破片	(-)	(-)	(-)	(-)	4	(-)	3
試料 1 cm ³ 中の殻数密度	(-)	(-)	2.4	(-)	1.6	(-)	(-)
	(-)	(-)	×10 ³	(-)	×10 ³	(-)	(-)
完形殻保存率 (%)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

- c) 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗
d) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥
e) マウントメディアによって封入し、プレパラート作成
f) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1000倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査した。

D 結果（第8表・第12図）

出現した珪藻は真～中塩性種（海～汽水生種）1分類群、貧塩性種（淡水生種）3分類群である。計数された珪藻の学名と個数を第8表に示す。以下に出現した主要な分類群を記す。

〔貧塩性種〕 *Navicula mutica*、*Neidium* sp.、*Pinnularia* sp.、*Pinnularia subcapitata*

〔真-中塩性種〕 *Cocconeis scutellum*

7 T 外環濠 環濠の埋土底部（試料1・2）では珪藻は検出されなかった。

13 T 内環濠 B 区 環濠の埋土底部（試料2）では珪藻は検出されなかった。埋土下部（試料1）では、貧塩性種の *Neidium* sp.、*Pinnularia* sp.、*Pinnularia subcapitata* が検出されたが、いずれも少量である。

12 T S I 1307 堅穴住居周溝 堅穴住居周溝の基底直上（試料1）では貧塩性種の *Neidium* sp.、*Pinnularia* sp.、*Pinnularia subcapitata*、真～中塩性種の *Cocconeis scutellum* が検出されたが、いずれも少量である。

12 T 内環濠 環濠の埋土下部（試料1）では珪藻は検出されなかった。埋土底部（試料2）では、珪藻の破片がわずかに検出された。

E 珪藻分析から推定される堆積環境

分析の結果、各遺構の堆積物からは、珪藻がほとんど検出されなかった。このことから、当時の遺構内は珪藻の生育に適さない乾燥した堆積環境であったと推定される。なお、12T 堅穴住居周溝から検出された *Cocconeis scutellum* は、藻に付着する海水生ないし汽水生であることから、集落で利用された藻や塩などに起因する可能性も考えられる。

5 種実同定

A はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

B 試料

試料は7 T外環濠・13T内環濠B区・12T内環濠・12T 堅穴住居周溝の4 地点から採取された7点である。

C 方法

以下の方法で、種実の抽出と同定を行った。

- a) 試料200ccに水を加えて泥化
- b) 攪拌した後、0.25mmの篩で水洗選別
- c) 双眼実体顕微鏡下で検鏡・計数

同定は形態の特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科・属・種の階級で示した。

D 結果および考察

分析の結果、種実はいずれの試料からも検出されなかった。種実が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で種実などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

6 樹種同定

A はじめに

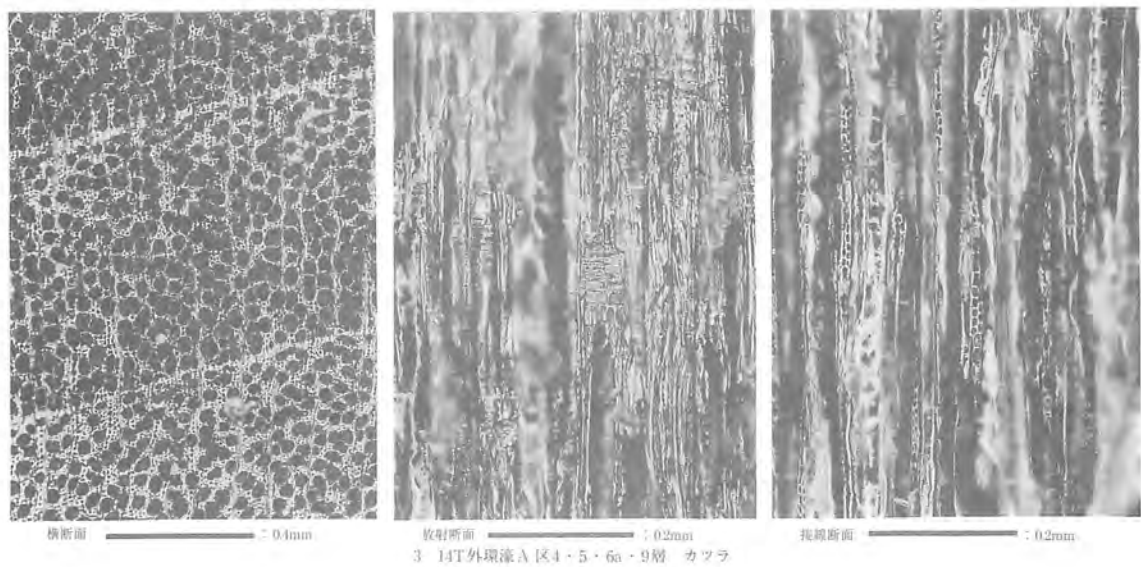
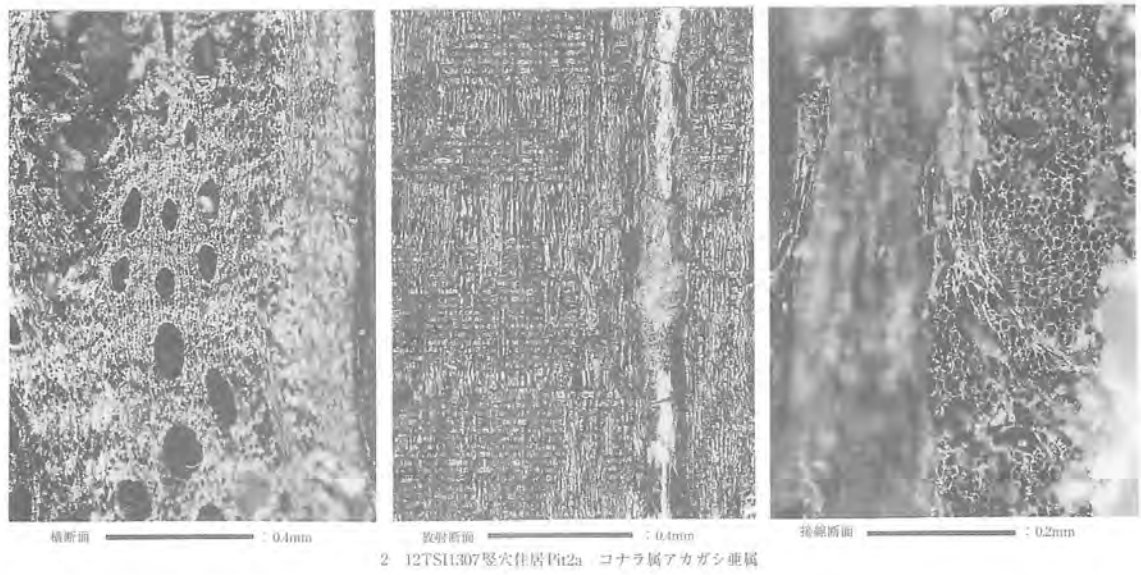
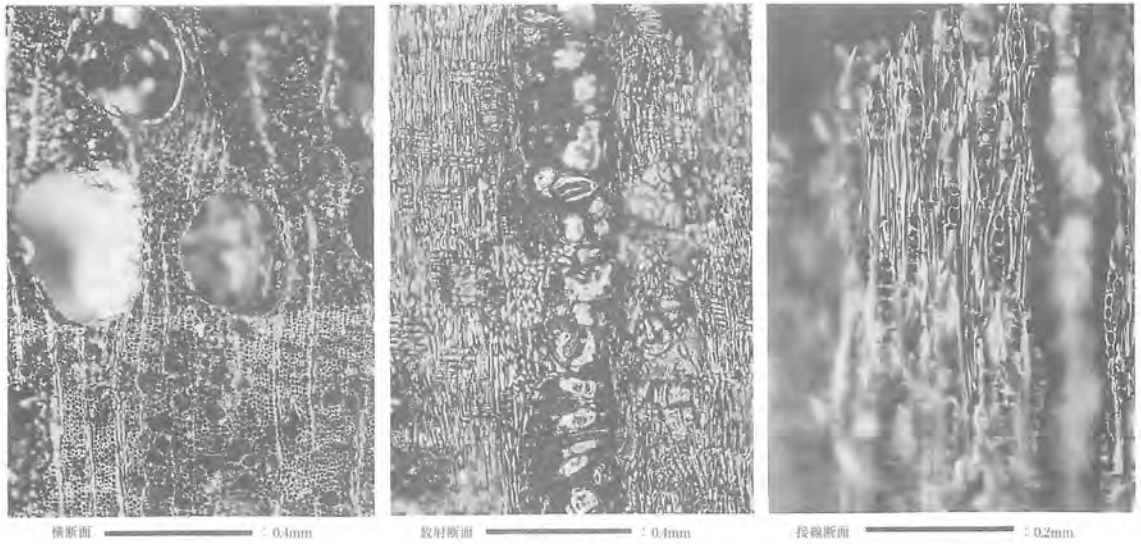
木材はセルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

B 試料 (第9表)

試料は、12T・13T・14Tの堅穴や環濠内から出土した炭化材7点である。試料の詳細を第9表に示す。

C 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面・放射断面・接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。



第13図 炭化材の顕微鏡写真(1)

第9表 樹種同定結果

試料	結果 (学名/和名)	
12TSI1307下層	<i>Hamamelis japonica</i> Sieb. et Zucc.	マンサク
12TSI1307Pit2a	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属
12TSI1307Pit4a	<i>Ilex</i>	モチノキ属
12T内環濠A区5・6層	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ
13T内環濠A区4c層	<i>Prunus</i>	サクラ属
13T内環濠A区4c層	<i>Prunus</i>	サクラ属
14T外環濠A区4・5・6a・9層	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ

D 結 果

結果を第9表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に解剖学的特徴を記す。

・クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 (第13図1)

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部・本州・四国・九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築・家具・器具・土木・船舶・彫刻・薪炭・椎茸ほだ木など広く用いられる。

・コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 (第13図2)

横断面：中型から大型の道管が、1～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ・イチイガシ・アラカシ・シラカシなどがあり、本州・四国・九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

・カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科 (第13図3)

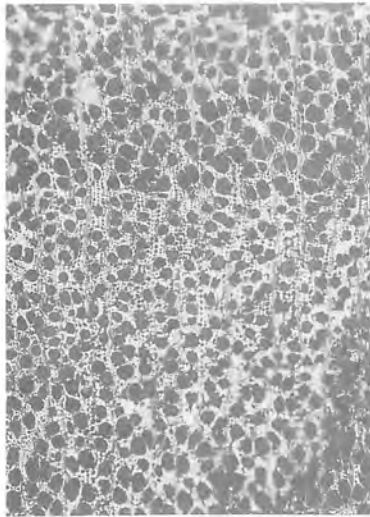
横断面：小型で薄壁の角張った道管が、単独ないし2～3個複合してかなり密に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40本ほどである。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、2細胞幅である。

以上の形質よりカツラに同定される。カツラは北海道・本州・四国・九州に分布する。落葉高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmであるが、大きいものは高さ35m、径2mに達する。材は軽軟で靱性であり加工しやすく、建築材などに用いられる。

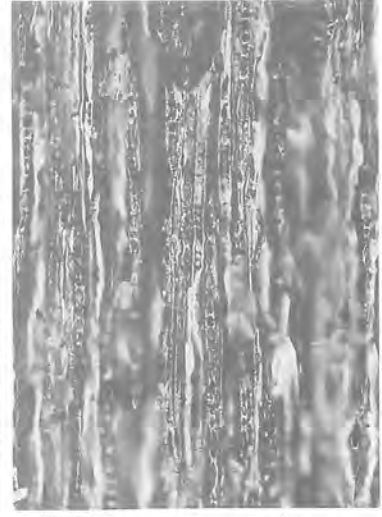
・マンサク *Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc. マンサク科 (第14図4)



横断面 : 0.4mm

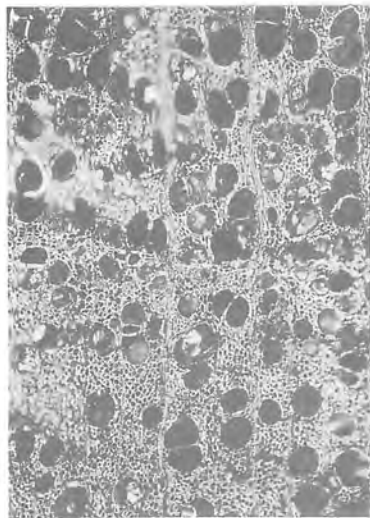


放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm

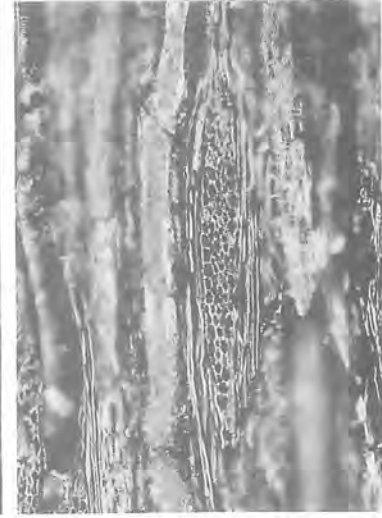
4 12TS11307 鑿穴住居下層 マンサク



横断面 : 0.4mm

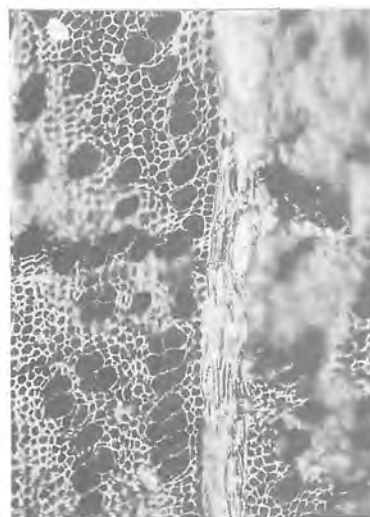


放射断面 : 0.2mm

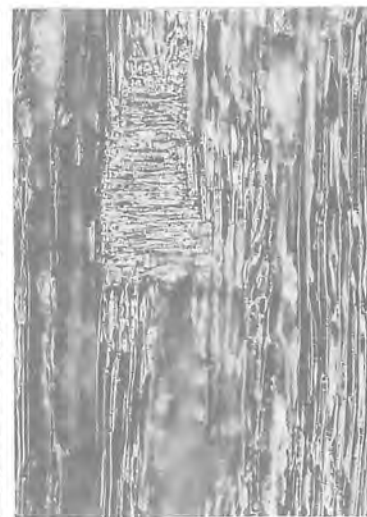


接線断面 : 0.2mm

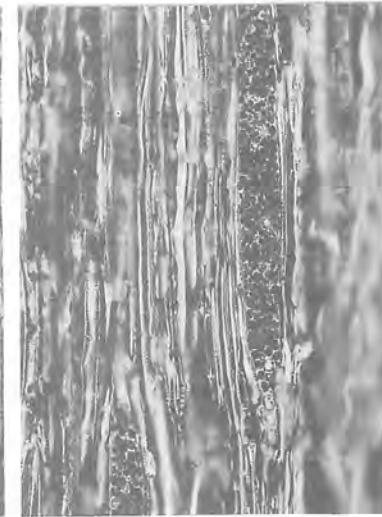
5 13T内環漆A区4c層 サクラ属



横断面 : 0.2mm



放射断面 : 0.2mm



接線断面 : 0.2mm

6 12TS11307 鑿穴住居 Pit4a モチノキ属

第14図 炭化材の顕微鏡写真(2)

横断面：小型でやや角張った道管が、ほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10～20本程度である。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、単列の異性放射組織型で、10数個の平伏細胞と、1～数個の直立細胞からなる。

以上の形質より、マンサクに同定される。マンサクは本州・四国・九州の山地に分布する。落葉の低木または高木で、通常高さ2～5mであるが、大きいものは高さ12mに達する。

・サクラ属 *Prunus* バラ科 (第14図5)

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2～3個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は、同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～5細胞幅である。

以上の形質よりサクラ属に同定される。サクラ属には、ヤマザクラ・ウワミズザクラ・シウリザクラ・ウメ・モモなどがあり、北海道・本州・四国・九州に分布する。落葉の高木または低木である。

・モチノキ属 *Ilex* モチノキ科 (第14図6)

横断面：小型でやや角張った道管が、単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径はあまり変化しない。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40ぐらいである。道管および木繊維の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、直立細胞のみからなる単列のものと、2～6細胞幅で上下の縁辺部の1～3細胞高が単列の多列のものからなる。

以上の形質よりモチノキ属に同定される。モチノキ属は常緑または落葉性の高木または低木で、モチノキ・クロガネモチ・イヌツゲなどがあり、北海道・本州・四国・九州に分布する。なお、モチノキは常緑高木で高さ15m、径50cmに達する。やや堅硬な材で、旋作・器具・彫刻などに用いられる。

E 所 見

分析の結果、竪穴から出土した炭化材はマンサク1点、コナラ属アカガシ亜属1点、モチノキ属1点、環濠から出土した炭化材はクリ1点、カツラ1点、サクラ属2点と同定された。いずれの樹種も温帯に分布する樹種で、コナラ属アカガシ亜属とモチノキ属は温帯の下部の暖温帯に分布する照葉樹林の構成要素である。竪穴から出土したマンサクとモチノキ属は中低木、コナラ属アカガシ亜属は高木であり、いずれも硬質な材で、建築材にも適している。

第Ⅵ章 ま と め

1 古津八幡山古墳

第11次・12次調査により、墳頂部に設置された国設新津酸性雨測定所建設の影響は予想以上に少なく、基礎部分の幅約1m・深さ約80cmに限定されることが判明した。第1次調査では地表下1.2m程の位置から弥生時代後期終末の竪穴住居が検出されており、その上の古墳盛土が確認されている。今回は測定所撤去による緊急調査のために、古墳盛土上面までで発掘調査を止めており、古墳時代以前の遺構は検出されなかった。主体部等の確認は今後の課題である。

2 八幡山遺跡

A 遺 構

第10次調査までに、八幡山遺跡北地区で環濠4条（外環濠2条・内環濠1条・条溝1条）・竪穴住居26基・方形周溝墓2基・前方後方形周溝墓1基・土器棺墓1基・土坑2基、南地区で環濠1条（条溝1条）・竪穴住居11基・風倒木1基が検出されている。

第13次・14次調査の成果は以下のとおりである。

内環濠は、北東斜面の13次12Tで内環濠A南東端を、北西斜面の15CTで内環濠B南西端を確認した。北西斜面の13次16T・17T、南西斜面の13次18～20T、西尾根の14次1Tの調査によりこの区域には環濠が無いことを確認した。

外環濠は、SD03N05・SD03S10間に13次2T～4Tを設定したが、環濠は検出されず、両者が繋がらないことが明らかとなった。13次14TでSD03N05の北西端を検出し、13次9Tにより北側から延びるSD0901とは別遺構であることが分かった。また、SD03S10は13次7Tで南東端を、13次11Tで北西端を検出した。このことにより、古津八幡山古墳の北東斜面を捲く外環濠A（SD0901）と約70m離れた南側の外環濠C（SD03S10）、そして、外環濠Aの南側に5m程ずれて繋がらない全長わずか15m程の外環濠B（SD03N05）に分かれることが判明した。さらに、第14次調査では古津八幡山古墳北側の外環濠Aの15m程内側（山側）にある大きな段の下で新たな環濠が検出され、外環濠D（SD1402）とした。この環濠は丘陵斜面をL字形に掘って造られた平坦面に構築されたもので、山側に寄せて掘られているものと考えられた。段の下にある環濠は第9次調査で確認された外環濠Bでも同様であり、山側の段と環濠の深さによる相乗効果を意図したものと推察する。

環濠の断面形は、基本的に底面の狭いV字形であるが、末端近くではU字形や逆梯形・皿形になる部分があることが明らかとなった。また、北地区北側・北東地区の追加調査でも新規の環濠は検出されなかった。

竪穴住居は、第13次調査では北地区で7基、第14次調査では北地区で1基、北東地区で3基（1基は縄文時代）が新たに検出された。北東地区では初めて竪穴住居が検出され、旧埋葬地遺跡を八幡山遺跡と一体のものとして捉える根拠となっている。13次12Tでは2基の竪穴住居（SI1307・SI1308）と内環濠A（SD

03S16)が重複して検出され、環濠と竪穴住居に時期差が存在することが遺構の重複関係から明確となった。第14次調査までに検出された弥生時代の竪穴住居総数は、北地区で32基、北東地区で2基・南地区で11基の、合計45基となる。

14次1Tは、第3次調査S I 03S21でB群赤彩壺が床面から出土していたことから天王山式系に限定される竪穴住居が存在するか、存在するとすれば如何なる平面形態であるかを確認するために行ったものであるが、完形のA群有段口縁壺が床面から出土し、天王山式系に限定されないこと、竪穴住居の平面形態は隅丸方形であることが判明した。今までの確認調査でB群のみ出土の竪穴住居、平面形態が円形の竪穴住居は検出されていない。

方形周溝墓は、10次5TのS X1004・S X1005方形周溝墓の広がりを確認するために東尾根にトレンチを設定したが、新たな方形周溝墓は検出されず、外環濠B・外環濠C間で新たに方形周溝墓1基(S X1303・S X1304)が検出された。竪穴住居と同時期であり、居住域と墓域が明確には分かれませんが、竪穴住居数に比べ検出数が格段に少ないことから、他の別の場所一平地・丘陵上や沖積地上一に墓域が存在するものと推測される。墓域が何処に存在するのか、今後明らかにしていかなければならないと考えている。

B 遺 物

以前に示した編年案〔渡邊他2001〕に合わせて、第13・14次調査で検出された遺構の所属時期を入れた(第10表)。A群(北陸系)・B群(天王山式系)・C群(在地折衷系)と大別して考えている。

13次7TSD03S10外環濠C中層のA群11~13は、口縁有段部が短く直立し、下端を肥厚させ、有段部に擬凹線文を入れるもので、1期新段階に位置づけられると考える。環濠覆土は山側からの流れ込みと考えられる自然堆積であり、これらが環濠底面よりも浮いた状態で出土していることから、外環濠Cの掘削時期がそれ以前に遡ることは明白であろう。このことは、2期古段階に位置づけた10次5TのS X1004方形周溝墓の周溝覆土に、外環濠Cの掘削土が堆積していたことと矛盾しない。また、環濠の掘削時期が1期新段階以前に遡ることによって、1期新段階としたS X1005方形周溝墓・2期古段階としたS X1004・S X1006土器棺墓共に外環濠Cの外側として、居住域とは区別して墓域が選地されたことを示すものである。

13次12T S I 1307・14次1T S I 03S21(S I 1401)でA群2期古段階とB群の共伴が確認され、これまでの並行関係を裏付けるものである。

13次12T S D03S16内環濠Aでは下層からA群とB群が出土したが、A群の赤彩比率が高く、190のように有段部が長く伸びる高杯の形態から4期に位置づけられるものを含む。また、2期古段階のS I 1307竪穴住居を切っており、内環濠Aの掘削時期が2期古段階以降であることが確かめられた。4期の遺物が下層から出土したことから、この頃まで環濠が機能していたものと考えますが、この付近は緩斜面で土砂の堆積が急速に進まなかったことも一因であろう。

14次SD1402外環濠Dでは上層からA群4期とB群の共伴が確認され、4期には環濠の埋没が進んでいたことを示すものとする。急斜面であり、地山が砂質土であることから堆積が急速に進んだことに拠るものであろう。これまでの確認調査により、八幡山遺跡の環濠は前述の内環濠Aを除き、概ね4期には上層まで土砂が堆積し、環濠として機能していなかったものと推測される。

この他に注目される土器として、14次16Tで中部高地系の櫛描文が出土した(439)。上越市裏山遺跡では弥生時代後期の中部高地系土器は数点しか出土しておらず、上越市域では弥生時代後期後半は北陸系が主体で、中部高地系は主体とはならないことから、信濃川経由で内陸部からもたらされたものであろう(注)。本遺跡では初めての出土であり、鹿角装鉄剣〔豊島2003〕の系譜を考える際に重要であると考えられる。巻町大

第 10 表 八幡山遺跡群の遺構変遷と弥生時代後期編年試案

茨城県 (磯老澤2000・鈴木2002)	福島県			八幡山遺跡					新潟県			越後 (坂井・川村1993)	南能登 (橋本1995)	南加賀 (田島1986)	型式						
	浜通り	中通り	会津	時期	第13次・14次	A 群			B 群	C 群	下越					上越・中越	新潟県 (滝沢2000)				
						環濠	竪穴住居	その他の遺構													
	伊勢林前式		中開津																		
東中根堂山	輪山式	天王山	和泉能登	1期古	13次7 TSD03S10 中下層		SI03N08・SX03N0 4の一部		SI03S20	SD03S16上層・SX 1005	SX1005・SI0804	石動 石動 石動	六地山の 一部	後生山3 住	1期	6期	1群	猫橋式			
東中根大和田・ 高野寺畑				1期新																	
東中根清水				1期新																	
十王台1a式	八幡台式	明戸	屋敷	2期古	14次1 TSI03S21? 13次12TSI1307		SI03S02・SI03S21・ SI03N02・SI0603	SX1004	SI03S02・SI03S21・ SI03N02・SX1006	SI03N02・SX1004・ SI0603周溝	大沢B' K12溝	裏山4号 竪穴	古 2期	7期	2群	法仏式					
十王台1式 (十王台段階)		明戸	屋敷	2期新		SD03S10・SD03S2 5覆土中下層	SI03S03・SI03S05・ SI03N01・SI0602		SI0602・SD03S25 覆土中下層	SI03N01・SI0602・ SD03S10覆土上層・ SD03S25覆土中下層	大沢B' 1住	斐太2住					新	3 4	(+)		
十王台1式 (紅葉段階)			屋敷11号土 坑の一部	3期	13次12TSI1308?		SI03S06・SI03N03・ SI1003		SI1003	SI03N03・SD03N0 5		斐太10土 坑	3期 新	8期	1 2	3群	月影式				
十王台2式				4期	13次12TSD03S16・ 13次15TSD1011? 13次14TSD03N05? 14次SD1402	SD03S16 (SD1011) 覆土上中 層	SI0703		SI0705	SI0701		横山1・ 3住	4期	3 4	4群						
統十王台式	本屋敷2住	稲荷塚1住・館ノ内2周・中 西SK02・05・宮東SK01・04		5期				10次7 T	居村DSKY1			緒立B3住・CS1150下部・S K138・168・183・326・328	II-1	9期	1	5群	白江式				
		稲荷塚1・2周溝・中西2・4・6 住・宮東4号周溝・男壇3周溝										緒立CSX94A・B 4 住・SD167・272						II-2	2	6群	
		中西5・7住・杵ヶ森古 墳・男壇1周溝										緒立B2住・CSX24・ 27						II-3	3	7群	古府ク ルビ式
		宮東1周溝・男壇1墳																III	4	8群	
																		IV		9群 10群	高島式

沢B遺跡方形周溝墓出土の中部高地系櫛描文〔甘粕・小野1982〕や、南魚沼郡塩沢町下田遺跡〔塩沢町1997〕・来清東遺跡〔安立2001〕・六日町小栗山遺跡〔中川1954〕・北魚沼郡堀之内町春日平遺跡・古林古墳群周辺遺跡〔梅川1996・堀之内町1997〕の天王山式（系）土器は示唆的である。

この他に、ガラス玉2点、石包丁の可能性のある石器等は本遺跡では初めて検出されたものである。

注 上越市の状況に関しては笹沢正史氏にご教示を受けた。

引用・参考文献

- 安立 聡 2001 『県道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 来清東遺跡 塩沢町埋蔵文化財報告書第19輯』塩沢町教育委員会
- 甘粕 健・小野 昭編 1981 『大沢遺跡B'・B地区の調査概報』巻町・湯東村教育委員会
- 甘粕 健・川村 浩司 1992 『古津八幡山古墳I 1991年測量調査報告』新津市教育委員会
- 猪狩忠雄 2000 「福島県における弥生後期の土器編年」『第9回東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年』東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会・福島県立博物館
- 石川日出志 1990 「天王山式土器編年研究の問題点」『北越考古学』第3号 北越考古学研究会
- 石川日出志 2000 「天王山式土器弥生中期説への反論」『新潟考古』第11号 新潟県考古学会
- 石川日出志 2001 「弥生後期湯舟沢式土器の系譜と広がり」『北越考古学』第12号 北越考古学研究会
- 石田明夫・中村五郎 1993 『国道121号線改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書 屋敷遺跡—平安時代集落の調査—会津若松市文化財調査報告書第30号』会津若松市教育委員会
- 梅川勝史 1997 「第1編先史・古代と中世の堀之内 第3章中央集権化する魚沼の民 第1節魚沼盆地の農耕民 3古墳発生前夜」『堀之内町史 通史編 上巻』堀之内町
- 海老澤稔 2000 「茨城県における弥生後期の土器編年」『第9回東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年』東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会・福島県立博物館
- 大越道正 1990 『東北横断自動車道遺跡調査報告10 能登遺跡 南原B遺跡 村西遺跡 大村古墳群 福島県文化財調査報告書第242号』福島県教育委員会
- 小野 昭編 1982 『大沢遺跡・II—第3次調査概報—』新潟大学考古学研究室
- 春日真実他 1996 『磐越自動車道関係報告書 江内遺跡 新潟県埋蔵文化財調査報告書第76集』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子正典・滝沢規朗・丸山一昭 1999 「第3章弥生時代・古墳時代 第2節土器 第3項弥生後期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新津市教育委員会
- 木島 勉 1987 「新潟県後生山遺跡」『日本考古学年報』38 日本考古学協会
- 木本元治他 1991 『東北横断自動車道遺跡調査報告13 和泉遺跡 横沼西遺跡 福島県文化財調査報告書第263集』福島県教育委員会
- 楠 正勝 1996 「弥生時代中期後葉から古墳時代前期前半の土器」『西念・南新保IV』金沢市・金沢市教育委員会
- 小池義人他 2000 『上信越自動車道関係発掘調査報告書VII 裏山遺跡 新潟県埋蔵文化財調査報告書第96集』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 駒井和愛・吉田章一郎 1962 『斐太』慶友社
- 駒形敏朗他 1987 『横山遺跡』長岡市教育委員会
- 上越市史編さん委員会 2003 『上越市史 資料編2 考古』上越市
- 鈴木正博 1976 a 「「十王台式」理解のために—分布圏西部地域を中心に—」『常総台地』7 常総台地研究会
- 鈴木正博 1976 b 「「十王台式」理解のために(2)—前号の追加1とリュウガイ第IV群a類土器について—」『常総台地』8 常総台地研究会
- 鈴木正博 2002 「「伊勢林前式」研究の漂流と救済の型式学—「土器DNA関係基盤」から観た「伊勢林前式」並行の所謂「天王山式系」土器群—」『茨城県考古学協会誌』第14号 茨城県考古学協会
- 鈴木正博 2002 「「十王台式」と「明戸式」—茨城県遺蹟から観た「十王台1式」に並行する所謂「天王山式系」土器群の実態—」『婆良岐考古』第24号 婆良岐考古同人会
- 関 雅之 1972 『滝ノ前遺跡 新潟県村上市滝ノ前遺跡緊急調査概報』村上市教育委員会
- 高橋保雄 1992 「石器類」『関越自動車道関係発掘調査報告書 五丁歩遺跡・十二木遺跡 新潟県埋蔵文化財調査報告書第57集』新潟県教育委員会
- 高橋保雄他 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡II(B地区) 新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢規朗 1994 「新井市斐太遺跡群の出土土器について」『新潟考古』第5号 新潟考古学会

- 滝沢規朗 2000 「新潟県における弥生後期の土器編年」『第9回東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年』東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 福島県立博物館
- 田中 靖・丸山一昭 1999 「第3章弥生時代・古墳時代 第2節土器 第2項弥生中期後半」『新潟県の考古学』高志書院
- 辻 秀人他 1984 『明戸遺跡発掘調査概報 福島県立博物館調査報告第8集』福島県教育委員会
- 立木宏明 2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 坪井清足 1958 「福島県白河市天王山遺跡」『弥生式土器集成 資料編1』東京堂出版
- 寺村光晴 1956 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 國學院大學考古学会
- 栃木英道・森 由美子・滝川重徳 1995 『谷内・杉谷遺跡群』石川県埋蔵文化財センター
- 豊島直博 2003 「弥生時代の鹿角装鉄剣」『東国史論』第18号 群馬考古学研究会
- 中村五郎 1976 「東北地方南部の弥生式土器編年」『東北考古学の諸問題』東出版寧楽社
- 新津市史編さん委員会 1989 『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』新津市
- 日本考古学協会新潟大会実行委員会編 1993 『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会
- 藤谷 誠他 1991 『東北横断自動車道遺跡調査報告12 屋敷遺跡 福島県文化財調査報告書第262集』福島県教育委員会
- 馬目順一 1979 「入門講座 弥生土器—東北 南東北5—」『考古学ジャーナル』159 ニューサイエンス社
- 山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』先史考古学会
- 吉田博行 1995 『杵ガ森古墳・稲荷塚遺跡』会津坂下町教育委員会
- 渡邊朋和 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明他 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会

引用・参考文献 (第V章)

- 新井房夫 1962 「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編』10, p.1-79.
- 新井房夫 1979 「関東平野北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』no.157, p.41-52.
- 安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42, p.73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6, p.23-45.
- 宇津川徹・細野 衛・杉原重夫 1979 「テフラ中の動物珪酸体“Opal Sponge Spicules”について」『ペドロジスト』第23巻第2号, p.134-144.
- 大池昭二 1972 「十和田火山東麓における完新世テフラの編年」『第四紀研究』11, p.232-233.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 1966 「馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰」『第四紀研究』5, p.29-35.
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店, p.248-262.
- 小杉正人 1986 「陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—」『植生史研究』第1号, p.29-44.
- 小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27, p.1-20.
- 佐伯 浩・原田 浩 1985 「針葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版, p.20-48.
- 佐伯 浩・原田 浩 1985 「広葉樹材の細胞」『木材の構造』文永堂出版, p.49-100.
- 坂口 一 1986 「榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器」『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』群馬県教育委員会p.103-119.
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集, 60p.
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣, 296p.
- 杉山真二 1987 「タケ亜科植物の機動細胞珪酸体」『富士竹類植物園報告』第31号, p.70-83.
- 杉山真二 2000 『植物珪酸体(プラント・オパール)』考古学と植物学 同成社, p.189-213.
- 早田 勉 1989 「6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害」『第四紀研究』27, p.297-312.
- 高槻成紀 1992 『北に生きるシカたち—シカ、ササそして雪をめぐる生態学—』どうぶつ社.

- 只見川第四紀研究グループ 1966 a 「福島県野沢盆地の浮石質砂層の基底部より産出した木材の¹⁴C年代－日本の第四紀研究層の¹⁴C年代XXVI－」『地球科学』82, p. 8－9.
- 只見川第四紀研究グループ 1966 b 「只見川・阿賀野川流域の第四系の編年－とくに沼沢浮石層の層位学的諸問題について」『第四紀』8, p.76－79.
- 中村 純 1973 『花粉分析』古今書院, p.82－110.
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集, 91p.
- 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9, p.15－29.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 1981 「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51, p.562－569.
- 町田 洋・新井房夫 1992 『火山灰アトラス』東京大学出版会, 276p.
- 南木陸彦 1993 「葉・果実・種子」『第四紀試料分析法(日本第四紀学会編)』東京大学出版会, p.276－283.
- 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成」『植生史研究特別』第1号, 植生史研究会, 242p.
- Asai, K. & Watanabe, T. 1995 Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, p.35－47.
- Lowe, R. L. 1974 Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Reserch. Center.
- Hustedt, F. 1937－1938 Systematische und ologische Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. *Arch. Hydrobiol, Suppl.* 15, p.131－506.
- Patrick, R.eimer, C. W. 1966 The diatom of the United States, vol. 1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.
- Patrick, R. eimer, C. W. 1975 The diatom of the United States, vol. 2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No. 13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.

別表1 弥生時代環濠一覽表

地区	遺構名	調査年次	トレンチ	位置	断面形態	最大幅	深度	底面標高	主軸方位	標高	備考	斜面方向	遺構図版	写真図版	土器図版
北 地 区	S D03 S 10	13次	7 T	G 19-2・7	U字形・V字形	2.48	1.70	46.08	N-18°-E	47.8		東	16・17	1	27
	S D03 S 10	13次	8 T	G 17-1	V字形	2.15	0.88	46.84	N-21°-W	47.7		北東	16・17	13	28
	S D03 S 10	13次	10 T	G 17-1・6	V字形・逆梯形	1.97	1.18	46.16	N-21°-W	47.3		北東	16・17	1・13・14	28
	S D03 S 10	13次	11 T	G 17-1	皿形	1.92	0.54	46.86	N-21°-W	47.4		北東	16・17	13	28
	S D03 S 16	13次	12 T	G 16-9, G 17-4	逆梯形	1.72	1.23	49.29	N-13°-W	50.5		北東	19	2・17・18	33
	S D03 N05	13次	14 T	G 12-7, G 13-2	逆梯形	1.96	0.94	39.36	N-26°-W	40.3		北西	15	15・16	29
	S D0901	13次	9 T	G 12-6・7	逆梯形	2.22	1.35	38.40	N-20°-W	39.8		北西	15	2・15・16	29
	S D1011	13次	13 T	H 14-7, H 15-2・3	V字形	2.78	1.37	49.05	N-53°-E	50.4		平坦	18	3・19	34
	S D1011	13次	15A T	H 15-3・4	逆梯形	2.48	1.43	49.03	N-34°-E	50.5		北西	18	3・20	34
	S D1011	13次	15B T	H 15-4・9	V字形	2.23	1.66	49.06	N-34°-E	50.7		北西	18	3・20	34
	S D1011	13次	15C T	H 15-9	逆梯形	2.00	1.16	50.02	N-34°-E	51.2		北西	18	3・20	34
	S D1402	14次	3 T	G 8-10, G 9-5	V字形	1.83	1.99	37.55	N-72°-W	39.5		北	13・14	5・31・32	39・40
	S D1402	14次	12 T	H 7-6, H 8-1	V字形	2.53	2.04	36.32	N-81°-W	38.4		北	13・14	33	40
	S D1402	14次	13 T	G 8-9	U字形	2.18	1.75	38.45	N-72°-W	40.2		北	13・14	5・30	41
	S D1402	14次	14 T	H 6-3・4, H 7-8・9	V字形	2.36	2.10	35.38	N-73°-E	37.5		北	13・14	33	40
	S D1402	14次	15 T	H 7-10	V字形	2.00	1.77	34.45	N-5°-E	36.2		北西	13・14	33	40
	S D1402	14次	16 T	I 9-1			1.68	35.66		37.3		北	13・14	34	41
	S D1402	14次	17 T	H 7-10, H 8-5・10, I 8-6	V字形	2.08	2.17	33.90	N-5°-E	36.1		西	13・14	34	42

(長さ・深度・標高:m、面積:㎡)

別表2 弥生時代竪穴住居一覽表

地区	遺構名	調査年次	トレンチ	位置	形態	長軸	短軸	深度	主軸方位	床面積	標高	備考	斜面方向	遺構図版	写真図版	土器図版
北 地 区	S I 1301	13次	2 T	G 16-2									北東		9	
	S I 1307	13次	12 T	G 16-9・10, G 17-4・5	隅丸方形	6.24	(5.6)	0.35	N-34°-W	(34)	51.3	周溝(南西辺)、貯蔵穴(中央)	北東	19・20	2・17	30・31・32
	S I 1308	13次	12 T	G 17-4	(円形)			0.35			50.8		北東	19・20	2・17	第3図
	S I 1309	13次	16 T	H 16-4・5	隅丸方形	(6.8)	(6.8)	0.53	N-50°-W		53.6	貯蔵穴(南東辺中央)	北西	21	21	36
	S I 1311	13次	18 T	H 17-10				0.32			53.5		南	22	22	34
	S I 1312	13次	18 T	H 17-10, H 18-5, I 18-1				0.28			51.6	周溝(北辺)?	南	22	22	34
	S I 1313	13次	19 T	H 18-4				0.13			53.1		南	22	22	35
	S I 03 S 21 (S I 1401)	14次	1 T	I 16-8・9	隅丸方形	(5.7)	(5.5)	0.29	N-73°-W	(27)	51.8	貯蔵穴(東辺中央)・炬・4本主柱	南	23	4・23	37
	S I 1407	14次	10 T	C 11-10, C 12-5	隅丸方形	(4.8)	(4.5)		N-88°-E	(20)		貯蔵穴(南西隅)・炬・4本主柱	平坦	25	4・26	38
	S I 1408	14次	10 T	C 11-10, C 12-1	隅丸方形	5.45	(5.2)		N-32°-E	(27)			平坦	25	4・26	38

(長さ・深度・標高:m、面積:㎡)

別表3 弥生時代その他の遺構一覽表

地区	遺構名	調査年次	トレンチ	位置	形態	長軸	短軸	深度	主軸方位	種別	標高	備考	斜面方向	遺構図版	写真図版	土器図版
北 地 区	S K 1302	13次	2 T	G 16-2				0.39		土坑	46.3		北東			
	S X 1303	13次	3 T	G 15-1		2.96	0.90	0.33	N-36°-W	方形周溝墓(周溝)	42.5		北東	24	10	
	S X 1304	13次	3 T	G 15-1		2.34	1.05	0.25	N-35°-W	方形周溝墓(主体部)	42.2		北東	24	10	
	S K 1305	13次	11 T	G 17-1	円形	0.75	0.65	0.29		土坑	47.2		北東			
	S K 1306	13次	11 T	G 17-1						土坑			北東			
	S K 1310	13次	16 T	H 16-4		1.03	0.62	0.23		土坑	52.0		北西	21	21	36
北東地区	S D 1410	14次	10 T	D 12-1				0.17	N-8°-W	溝	26.1		平坦			

(長さ・深度・標高:m)

別表4 縄文時代竪穴住居一覽表

地区	遺構名	調査年次	トレンチ	位置	形態	長軸	短軸	深度	主軸方位	標高	備考	斜面方向	遺構図版	写真図版	土器図版	
北東地区	S I 1409	14次	10 T	B 9-3・4・8・9				0.89					北東	25	27	43・44・第5図

(長さ・深度・標高:m)

別表5 縄文時代の遺構一覽表

地区	遺構名	調査年次	トレンチ	位置	形態	長軸	短軸	深度	主軸方位	種別	標高	備考	斜面方向	遺構図版	写真図版	土器図版
北 地 区	S K 1433	14次	9 T	D 12-10				0.12		土坑	24.9		平坦			
	S K 1411	14次	10 T	C 12-5, D 12-1				0.22		土坑	26.0		平坦			
	S K 1415a	14次	10 T	C 11-3				0.10		土坑	26.1		平坦	26		
	S K 1415b	14次	10 T	C 11-3				0.19		土坑	26.1		平坦	26		38
	S K 1416a	14次	10 T	C 11-3				0.26		土坑	26.1		平坦	26		
	S K 1416b	14次	10 T	C 11-3				0.33		土坑	26.1		平坦	26	27	
	S K 1416c	14次	10 T	C 11-3				0.11		土坑	26.1		平坦	26	27	38
	S K 1417a	14次	10 T	C 11-3				0.43		土坑	26.1		平坦	26		38
	S K 1417b	14次	10 T	C 11-3				0.15		土坑	26.1		平坦	26		38
	S K 1419	14次	10 T	C 11-10, C 12-5		1.90	0.52	0.36	N-12°-E	土坑	26.1		平坦	25		
	S X 1421	14次	11 T	C 10-4				0.27			25.8		平坦			
	S K 1422	14次	11 T	C 10-4				0.10		土坑	25.8		平坦	26		
	S K 1423	14次	11 T	C 9-9, C 10-4	楕円形	0.69	0.40	0.25		土坑	25.8		平坦	26	28	
	S K 1424	14次	11 T	C 9-9				0.52		土坑	25.8		平坦	26	28	
	S K 1425	14次	11 T	C 9-9				0.24		土坑	25.8		平坦	26		
	S K 1430	14次	11 T	C 9-3・4				0.32		土坑	25.4		平坦	26		

(長さ・深度・標高:m)

別表6 竪穴住居柱穴計測表

遺構名	柱穴No	深度	底面標高
S I 1307	1	52	50.40
	2a	24	50.72
	2b	10	50.82
	2c	31	50.62
	3	42	50.49
	4a	43	50.38
	4b	3	50.88
	4c	18	50.74
	5	11	50.79
	6	18	50.20
	7	3	50.90
	8	6	50.85
	9	8	50.87
	10	5	50.87
	11	16	50.74
	12	18	50.80
	13	8	50.88
	14	14	50.78
	15	7	50.80
	16	18	50.60
	16	6	50.60
	17	10	50.80
	18	4	50.90
	19	21	50.73
	20	14	50.73
	21	24	50.58
	22	12	50.78
	23	9	50.83
	24	8	50.89
	25	25	50.70
	26	8	50.89
	27	5	50.92
	28	7	50.88
29	26	50.51	
29	14	50.51	
30	8	50.88	
32	31	50.59	
33	4	50.93	
S I 1309	土坑	34	52.60
	1	63	52.15
	2	99	52.01
	3	8	52.92
	4	7	52.93
	5	26	52.71
	6	11	52.87
	7	20	52.64
	8	67	52.29
	9	7	52.91

別表7 環濠計測表

図版番号	遺構名	調査年次	セクションライン	標高	最大幅	深度	底面標高
13	S D 1402	14次16T	Aライン	37.34		1.68	35.66
13	S D 1402	14次17T	Dライン	36.07	2.08	2.17	33.90
13	S D 1402	14次15T	Eライン	36.22	2.00	1.77	34.45
13	S D 1402	14次14T	Fライン	37.48	2.36	2.10	35.38
13	S D 1402	14次12T	Gライン	38.36	2.53	2.04	36.32
13	S D 1402	14次3 T	Hライン	39.54	1.83	1.99	37.55
13	S D 1402	14次13T	Iライン	40.20	2.18	1.75	38.45
15	S D 0901	13次9 T	Aライン	39.75	2.22	1.35	38.40
15	S D 03 N 05	13次14T	Dライン	40.30	1.96	0.94	39.36
17	S D 03 S 10	13次11 T	Bライン	47.40	1.92	0.54	46.86
17	S D 03 S 10	13次8 T	Cライン	47.72	2.15	0.88	46.84
17	S D 03 S 10	13次10T	Dライン	47.47	1.97	0.58	46.89
17	S D 03 S 10	13次10T	Eライン	47.34	1.97	1.18	46.16
17	S D 03 S 10	13次7 T	Gライン	47.78	2.48	1.70	46.08
18	S D 1011	13次13T	Bライン	50.42	2.78	1.37	49.05
18	S D 1011	13次15A T	Dライン	50.46	2.48	1.43	49.03
18	S D 1011	13次15B T	Eライン	50.72	2.23	1.66	49.06
18	S D 1011	13次15C T	Fライン	51.18	2.00	1.16	50.02
19	S D 03 S 16	13次12T	Bライン	50.52	1.72	1.23	49.29

(単位：m)

遺構名	柱穴No	深度	底面標高
S I 1313	1	122	51.83
	2	126	51.79
	3	144	51.50
	4	118	51.71
	5	117	51.43
	6	124	51.56
	7	123	51.61
	8	120	51.60
	9	123	51.54
	10	127	51.48
	11	113	51.56
	12	113	51.73
	13	125	51.57
	14	136	51.20
	14	142	51.14
	15	27	53.40
	16	108	51.75
	17	106	51.76
	18	109	51.74
	19	113	51.59
	20	112	51.65
21	119	51.55	
S I 03S21 (S I 1401)	土坑	38	51.10
	2	62	50.88
	4	8	51.47
	8	11	51.36
	9	58	50.92
	10	29	51.11
	11	56	50.80
	12	63	50.85
	13	35	51.16
	14	8	51.46
	15	10	51.44
	16	6	51.48
	17	13	51.42
	18	5	51.45
S I 1407	19	25	51.17
	20	24	51.24
	21	9	51.31
	炉跡	17	51.29
	1	53	25.51
	2	52	25.46
	3	59	25.49
	4	52	25.50

(深度：cm、底面標高：m)

別表8 土器観察表

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
1	13次	北地区	2T	3区		高杯・器台	杯部			10YR8/4	10YR8/6		
2	13次	北地区	2T	11区			脚部	脚:ミガキ	ナデ	10YR8/4	10YR7/4	石・長・焼・海	
3	13次	北地区	2T	3区		甕	口縁部	口端:ハケキザミ, 口:横ハケ, 頸:ナデ	横ハケ	2.5YR4/4	10YR5/4	長・雲・海	スス
4	13次	北地区	3T	11区		甕	口縁部	口:横ナデ		10YR7/6	10YR7/6	石・長	スス
5	13次	北地区	3T	13区		壺	口縁部	口端:ハケメ, 口:横ハケ	横ハケ	7.5YR4/3	2.5YR6/4	長・雲・海	スス
6	13次	北地区	3T	2区		甕	口縁部	口:横ハケ, 横位沈線文, 刺突列	横ハケ	7.5YR5/4	10YR5/3	石・雲・海	スス
7	13次	北地区	3T	13区		甕	体部	体:LR(横位), ハケメ	ナデ	7.5YR5/4	10YR6/4	長・雲・海	スス, 炭化物
8	13次	北地区	3T	8区		壺	体~底部	体:ミガキ	ハケメ	10YR3/4	10YR8/4	石・長・チ・角・海	
9	13次	北地区	3T	13区		甕	底部	底:ハケメ, ミガキ	ハケメ, ナデ	7.5YR6/6	10YR6/4	石・長・海	スス
10	13次	北地区	4T	9区		甕	口縁部			10YR7/6	2.5YR5/8	石・海	
11	13次	北地区	7T	SD03S10A区6~8.10.14層	46.63~46.90	甕	口縁~体部	口:擬凹線文, 横ナデ, 体:ハケメ, ハケキザミ	ハケメ, 指頭痕, 横ナデ	10YR8/4	10YR8/4	石・長・チ・角・海	スス
12	13次	北地区	7T	SD03S10A区6.9・12.10.14.16.17.18層	46.22~47.05	甕	口縁~体部	口:擬凹線文, 横ナデ, 体:ハケメ, ヘラキザミ	ハケメ, ケズリ, 横ナデ	10YR8/3	10YR8/3	石・長・雲・チ・角・海	スス
13	13次	北地区	7T	SD03S10A区6.7・8.14層	46.89	甕	口縁~体部	口:擬凹線文, 横ナデ, 体:ハケメ, ハケキザミ	ハケメ, 指頭痕, 横ナデ	7.5YR6/6	10YR7/4	石・長・チ・海	スス
14	13次	北地区	7T	SD03S10A区6層		甕	口縁部			10YR6/6	10YR7/6	長・海	
15	13次	北地区	7T	SD03S10C区7~18層		甕	口縁部	口:横ナデ, ハケキザミ	横ナデ	10YR4/4	10YR4/2	石・海	
16	13次	北地区	7T	SD03S10A区6層		高杯・器台	脚部			7.5YR6/6	7.5YR7/6	石・長	
17	13次	北地区	7T	SD03S10A区7・8層		甕	体部	体:ハケメ, ハケキザミ	ハケメ	10YR4/3	10YR3/3	石・雲・海	
18	13次	北地区	7T	SD03S10A区6層		高杯・器台	脚部	脚:擬ハケ	ハケメ, ナデ	7.5YR6/6	7.5YR7/6	石・長・海	
19	13次	北地区	7T	SD03S10A区13層	46.49	甕	口縁部	口端:ハケメ, 口:横ハケ, 頸:ナデ	ナデ	10YR3/2	10YR3/4	石・雲・海	スス
20	13次	北地区	7T	SD03S10C区7層			体部	体:LR(斜位)	ナデ	10YR3/3	7.5YR2/2	石	
21	13次	北地区	7T	SD03S10A区9・12.10層	46.90	甕	底部	底:ナデ	ナデ	10YR5/4	10YR2/2	石・海	スス
22	13次	北地区	7T				体部	体:RL(縦位)	ナデ	7.5YR3/3	5YR5/6	長・海	スス, 炭化物
23	13次	北地区	8T	SD03S10 4層	46.94	壺	体部	体:横位沈線文, 連弧文	ナデ	10YR3/4	10YR4/4	石・長・雲	炭化物
24	13次	北地区	8T	4区		高杯	脚部	脚:ミガキ		7.5YR7/8	10YR6/6	石	
25	13次	北地区	8T	4区		甕	底部		ナデ	10R5/6	10YR6/6	石・チ・海	炭化物
26	13次	北地区	8T	4区		壺	体部	体:弧線文		10YR6/6	10R5/6	石・長・角・海	
27	13次	北地区	10T	SD03S10 1・2.3.4層	46.91~47.02	甕	完形	口:横ナデ, 体:ハケメ	ハケメ, ナデ, 横ナデ	10YR6/4	10YR6/4	石・長・チ・角・海	スス, 炭化物
28	13次	北地区	10T	SD03S10 4層	46.99	甕	頸~体部	横ナデ, ハケメ	ナデ, ハケメ	10YR6/6	10YR7/6	石・長・雲・チ・海	スス, 炭化物
29	13次	北地区	10T	SD03S10 4層	47.02	鉢	口縁部	口:ミガキ, 赤彩		7.5YR7/6	10YR6/6	長・チ	
30	13次	北地区	10T	SD03S10D区2・3層		高杯・器台	杯部	口:ミガキ, 赤彩	ミガキ, 赤彩	10YR7/4	10YR7/4	石・海	
31	13次	北地区	10T	SD03S10 4層		高杯・器台	杯部	口:ミガキ, 赤彩	ミガキ, 赤彩	7.5YR7/4	7.5YR7/4	石・長・海	
32	13次	北地区	10T	SD03S10 3層	47.27	高杯	脚部	脚:ハケメ, ミガキ	ナデ	10YR6/4	10YR4/2	石・長・チ・焼・海	
33	13次	北地区	10T	SD03S10D区7層			体部	体:LR(横位), ハケメ	ナデ	7.5YR4/2	5YR3/2	石・雲・海	
34	13次	北地区	10T	SD03S10 7層			体部	体:直前段多条LR(斜位)	ナデ	7.5YR4/3	10YR5/4	石・海	スス
35	13次	北地区	10T	SD03S10 7・8層	46.51		底部	底:ハケメ		10YR7/4	2.5Y5/3	石・長・チ・海	
36	13次	北地区	10T	1区		高杯・器台	脚部	脚:ミガキ	ナデ	2.5YR5/8	2.5YR5/8	長	
37	13次	北地区	10T			器台	脚部			7.5YR7/4	10YR7/4	石・長・海	
38	13次	北地区	10T				底部	底:ナデ	ハケメ	10YR7/4	10YR7/4	石・長・雲・海	
39	13次	北地区	10T	2区		甕	体部	体:連弧文	ナデ	7.5YR4/2	10YR5/2	石・角・海	炭化物
40	13次	北地区	10T	3区		甕	頸~体部	体:平行沈線文, LR, 刺突列	ナデ	7.5YR4/3	10YR4/3	石・長・海	スス, 焼成後穿孔
41	13次	北地区	11T	SD03S10A区		壺	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	石・長・チ・海	
42	13次	北地区	11T	SD03S10A区		甕	口縁部	口:捻糸文R(横位), 区画文	ナデ	7.5YR5/4	7.5YR5/4	石・長・海	スス
43	13次	北地区	11T	SD03S10A区.B区			体部	体:LR(斜位)		10YR5/4	7.5YR7/6	長・海	
44	13次	北地区	11T	SD03S10A区			底部	底:附加条第1種LR+R(横位)	ナデ	7.5YR5/4	5YR5/6	石・長	炭化物
45	13次	北地区	11T	1区			口縁部	口:二本描沈線文		10YR8/4	10YR8/4	石・角	
46	13次	北地区	11T	1区		甕	頸~体部	体:ナデ, 平行沈線文	横ハケ	10YR7/3	10YR7/4	石・長・海	
47	13次	北地区	11T	1区			体部	体:捻糸文R(縦位)	ナデ	7.5YR4/2	10YR4/2	海	スス
48	13次	北地区	9T	SD0901 1層		鉢	口縁部	口端:ヘラキザミ, 口:ナデ	板ナデ	10YR6/3	10YR5/3	石・長・海	炭化物

№	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
49	13次	北地区	9T	SD0901 2層		甕	口縁部	口端:ハケキザミ,ナデ	ハケメ,ナデ	7.5YR6/4	10YR8/4	石・長・角・海	スス
50	13次	北地区	9T	SD0901 2層			突帯部	半截竹管状刺突列		2.5YR3/1	2.5YR5/3	石・海	
51	13次	北地区	9T	SD0901 1層		高杯,器台	杯部	口:ミガキ,赤彩	ミガキ,赤彩	10YR7/4	10YR7/4	石・長・海	
52	13次	北地区	9T	SD0901 1層		高杯	杯部	閉塞部		10YR6/3	10YR4/4	石・長・角・海	
53	13次	北地区	9T	SD0901 1層		高杯,器台	脚部	脚:ハケメ,ミガキ,赤彩	ミガキ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	長・海	
54	13次	北地区	9T	SD0901 1層		壺	口縁部			10YR7/4	10YR8/4	石・長・チ・角	
55	13次	北地区	9T			壺	口縁部	口:横ナデ	横ハケ,横ナデ	7.5YR8/4	7.5YR7/4	石・長・角・海	
56	13次	北地区	9T				体部	体:横位沈線文LR(斜位)		7.5YR6/4	2.5YR6/8	石・長・角・海	
57	13次	北地区	14T	SD03N05A区4層	39.72	壺	口縁部	口:擬凹線文横ナデ	横ナデ	7.5YR4/3	10YR4/4	石・角	スス,炭化物
58	13次	北地区	14T	SD03N05A区2層	39.79	高杯	杯部	口:ミガキ	ミガキ	10YR8/6	2.5YR5/2	石・チ・焼・海	
59	13次	北地区	14T	SD03N05A区1層	40.08	鉢		口:横ハケ,ミガキ	ミガキ	10YR8/4	10YR8/4	石・長・海	
60	13次	北地区	14T	SD03N05A区4・5・6a・9層		高杯	脚部	脚:ナデ	ナデ	7.5YR7/6	5YR6/8	石・長・焼・海	
61	13次	北地区	14T	SD03N05A区1~3層		甕	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	5YR4/3	10YR5/2	石・海	
62	13次	北地区	14T	SD03N05C区2・4・5層		壺	口縁部	口:横ハケ	横ハケ	2.5YR6/8	5YR5/4	石・海	
63	13次	北地区	14T	SD03N05A区4・5・6a~6c・9層		壺	口縁部	口:LR(横位)		7.5YR6/6	10YR6/4	石・長・海	
64	13次	北地区	14T	SD03N05A区5層	39.57	壺	口縁部	口:ハケメ	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR4/4	石・長・海	
65	13次	北地区	14T	SD03N05C区1・2層		壺	口縁部	口:ハケメ,頸:ナデ	ハケメ	7.5YR7/4	10YR7/6	石・長・焼・海	
66	13次	北地区	14T	SD03N05A区1層	39.99	甕	口縁部	口:横ハケ,頸:ナデ	ナデ	7.5YR6/4	10YR6/4	石・長・海	スス,炭化物
67	13次	北地区	14T	SD03N05C区7b層	39.46	壺	口縁部	口:ナデ,平行沈線文	ハケメ,ナデ	10YR7/6	10YR7/6	石・長・チ・海	
68	13次	北地区	14T	SD03N05A区最上層			体部	体:LR(斜位)	ナデ	5YR6/6	10YR6/4	石・角	スス
69	13次	北地区	14T	SD03N05C区1・2層			体部	体:直線段多糸LR(斜位)	ナデ	7.5YR4/3	5YR5/6	石・チ	
70	13次	北地区	14T	SD03N05C区最上層			体部	体:LR(斜位)	ミガキ	10YR7/4	10YR6/4	石・長・焼・海	
71	13次	北地区	14T	SD03N05C区1・2層			体部	体:RL(斜位)	ナデ	7.5YR5/3	10YR7/4	石・海	スス
72	13次	北地区	14T	SD03N05C区2・4・5層			体部	体:附加糸第1種RL+LL(斜位)	ハケメ	7.5YR7/6	10YR7/6	石・長・海	スス,炭化物
73	13次	北地区	14T	SD03N05C区5・7b層	39.48	甕	底部	底:ハケメ	ナデ	2.5Y3/1	2.5Y8/3	石・長・チ・海	底部粗痕?
74	13次	北地区	14T	SD03N05A区最上層			底部	底:RL(斜位)	ナデ	10YR6/3	10YR7/3	石・長・チ	
75	13次	北地区	14T	SD03N05C区4.5層	39.51~39.63	壺	体部	体:横ハケ	横ハケ,ナデ	5YR5/8	5YR6/8	石・長・チ・海	
76	13次	北地区	14T	SD03N05C区1・2層		壺	口縁部	口:横ハケ,頸:ナデ	横ハケ	7.5YR6/4	7.5YR7/6	石・長・焼・海	スス
77	13次	北地区	14T	2区		壺	頸部	頸:ナデ	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	石・長・チ・海	
78	13次	北地区	14T	2区		壺	体部	体:ハケメ	板ナデ	10YR7/4	7.5YR7/6	石・長・焼・海	
79	13次	北地区	14T	2区			体部	体:附加糸第1種LR+R(斜位)	ナデ	7.5YR6/6	10YR6/4	石・長・海	
80	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		甕	口縁~体部	口:横ナデ,ハケキザミ,体:ハケメ,ハケキザミ	横ナデ,横ハケ	5YR5/8	5YR5/6	石・長・海	スス,炭化物
81	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		壺	頸~体部	頸:横ナデ,体:ハケメ,ハケキザミ	横ハケ	7.5YR6/4	7.5YR7/4	石・長・チ・海	
82	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		高杯	杯部			10YR8/4	10YR8/6	長・チ	
83	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		壺	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	7.5YR4/3	7.5YR6/6	石・長・角・海	スス
84	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		甕	口縁部	口:横ナデ,筒キザミ	横ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	長・海	スス
85	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕?	口縁部	口:擬凹線文	ナデ	7.5YR4/2	7.5YR4/3	チ・海	
86	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		甕	口縁部	口縁部		5YR5/6	5YR5/8	長	10次833と同一
87	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		甕	口縁部	口:横ナデ		10YR8/4	10YR8/4	石・長・チ	
88	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層			底部	底:ナデ	ナデ	10YR7/4	2.5YR5/1	石・長・海	
89	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		高杯	杯部			7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・チ・海	
90	13次	北地区	12T	SI1307周溝1層	51.44	高杯,器台	杯部		シボリ痕	7.5YR7/6	7.5YR6/6	長・チ・角・海	
91	13次	北地区	12T	SI1307周溝4層	51.25	高杯,器台	脚部	脚:ミガキ,赤彩	ナデ	10YR8/4	10YR7/4	石・チ・海	
92	13次	北地区	12T	SI1307周溝2層	51.36	高杯,器台	脚部		ナデ	5YR5/6	5YR5/8	石・長・海	
93	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層	51.13	壺	口縁~頸部	口:端:突起,口:交互刺突文,円形浮文,刺突,頸:ナデ	ナデ	5YR6/6	5YR6/8	石・長・チ・角・海	
94	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:横位沈線文,連弧文,交互刺突文		5YR6/6	10YR7/6	石・長・角・海	95・97と同一個体
95	13次	北地区	12T	SI1307 1層	51.01	壺	口縁部	口:LR(横位),連弧文,交互刺突文		7.5YR6/4	7.5YR6/6	石・長・焼・海	94・97と同一個体,スス
96	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:連弧文,交互刺突文		7.5YR6/6	5YR6/8	石・長・角・海	
97	13次	北地区	12T	SI1307		壺	口縁部	口:LR(横位),連弧文,交互刺突文		7.5YR5/4	7.5YR6/6	石・長・海	94・95と同一個体,スス
98	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕	口縁部	口:端:キザミ,口:縦ハケ,連弧文,LR(横位)	横ハケ	7.5YR6/4	5YR6/6	石・長・チ・焼・海	

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
99	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		甕	口縁部	口:横位沈線文		10YR6/3	10YR7/4	石・長・海	
100	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		壺	口縁部	口:擬凹線文	横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	石・長・チ・海	207と同一個体か
101	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		甕	口縁部	口:RL(横位) 頸:ハケメ	RL(横位)	10YR7/2	10YR7/3	石・長・チ・角・海	
102a	13次	北地区	12T	SI1307		壺	口縁部	口:附加条第1種LR+R(横位) 頸:ナデ	ナデ	5YR5/4	5YR6/6	石・長・海	スス
102b	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		壺	口縁部	口:附加条第1種LR+R(横位) 頸:ナデ	ナデ	7.5YR5/4	7.5YR4/3	長・海	スス
103	13次	北地区	12T	SI1307周溝5層	51.32	甕	口縁部	口:LR(横位) 頸:ナデ 体:LR(横位)		7.5YR7/4	7.5YR7/6	石・長・チ・焼・海	スス
104	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		甕	口縁部	口:燃糸文R(横位) 頸:縦ミガキ	横ハケ	7.5YR4/3	7.5YR6/6	石・長・海	10次840と同一個体。スス
105	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕	口縁部	口:端ハケキサミ 口:RL(横位) 頸:ナデ	横ハケ	10YR5/3	7.5YR5/4	石・長・チ・角・海	スス 炭化物
106	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕	口縁部	口:端ハケキサミ 口:横位沈線文	ナデ	10YR5/4	7.5YR5/4	石・長・海	
107	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:横ハケ横位沈線文刺突列	ナデ	10YR7/3	10YR7/4	石・長・焼・海	
108	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:端ハケメ 口:頸:ナデ	ナデ	10YR3/1	10YR2/1	石・チ・海	
109	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:横ハケ	ナデ	10YR6/3	10YR5/2	石・長・雲・角・海	
110	13次	北地区	12T	SI1307周溝1層	51.30	壺	口縁部	口:横ハケ	ナデ	10YR5/4	7.5YR6/6	石・長・海	
111	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:横ハケナデ	ナデ	10YR5/3	10YR5/4	石・海	スス
112a	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:ナデ	ナデ	7.5YR5/4	7.5YR6/6	石・海	スス 炭化物
112b	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	口縁部	口:ナデ	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	石・長・焼・海	スス 炭化物
113	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		壺	口縁部	口:端突起 口:ナデ	ナデ	10YR4/3	7.5YR5/4	石・長・海	スス
114	13次	北地区	12T	SI1307周溝2層	51.46	壺	口縁部	口:端突起 円形刺突文 口:ナデ		10YR6/4	10YR7/6	石・長・チ・海	
115	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層	51.61	甕	口縁部	口:ハケメ	ハケメ	7.5YR4/4	7.5YR5/6	石・焼・海	10次858と同一個体。スス
116	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕	口縁部	口:ハケメ 平行沈線文	横ハケ	10YR5/3	10YR5/3	石・長・チ・角・海	
117	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕	頸部	頸:連弧文	ナデ	7.5YR6/3	7.5YR7/6	長・海	
118	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		甕	頸部	頸:連弧文	横ハケ	7.5YR4/2	7.5YR5/4	石・焼・海	スス
119	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		甕	頸部	頸:重菱形文		10YR6/3	7.5YR7/4	石・長・チ・焼・角・海	
120	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		体部	体	体:二本描連弧文		10YR7/4	7.5YR7/4	チ・角・海	
121	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		体部	体	体:連弧文	ナデ	2.5Y3/1	2.5Y3/1	角・海	スス 炭化物
122	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		甕	体部	体:ハケメナデ区面文連弧文	ナデ	10YR7/4	10YR7/4	石・長・角・海	
123	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		甕	体部	体:区面文附加条第1種RL(斜位)	ナデ	7.5YR5/4	10YR5/4	石・長・海	スス
124	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		壺	頸部	頸:ナデ波状押引文LR(横位) 平行沈線文連統刺突列	ミガキ	7.5YR6/4	7.5YR7/6	石・チ・焼・角・海	
125	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		体部	体	体:連弧文LR(横位)		10YR6/3	10YR8/4	石・長・海	スス
126	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		体部	体	体:ナデ平行沈線文交互刺突文	ナデ	7.5YR6/4	10YR5/4	石・長・チ・海	
127	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		体部	体	体:連弧文LR(横位)		7.5YR6/4	5YR6/6	石・チ・焼・海	
128	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		体部	体	体:横位沈線文LR(横位)		10YR5/1	10YR6/2	石・長・焼・海	
129	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		体部	体	体:ハケメ連弧文	横ハケ	7.5YR4/3	10YR5/3	石・長・チ・海	
130	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		体部	体	体:横ハケ連弧文	横ハケ	7.5YR4/3	7.5YR4/3	石・角・海	
131	13次	北地区	12T	SI1307周溝2層	51.32	壺	頸~体部			7.5YR6/6	10YR7/4	長・焼・海	
132	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		体部	体	体:LR(横位) 横位沈線文連弧文	ハケメ	7.5YR5/4	10YR7/4	石・長・海	スス 炭化物
133a	13次	北地区	12T	SI1307		体部	体	体:LR(斜位) 連弧文	ミガキ	10YR5/3	7.5YR6/4	石・長・チ・海	97と同一個体か。スス
133b	13次	北地区	12T	SI1307		体部	体	体:LR(斜位) 連弧文	ミガキ	10YR5/3	7.5YR5/4	石・長・チ・海	97と同一個体か。スス
134	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		体部	体	体:LR(斜位)	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR4/3	海	135・136・137と同一個体
135	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		体部	体	体:LR(斜位)	ナデ	2.5YR5/6	7.5YR5/4	長・海	134・136・137と同一個体
136	13次	北地区	12T	SI1307		体部	体	体:LR(斜位)	ナデ	2.5YR5/6	7.5YR4/3	石・焼・海	134・135・137と同一個体
137	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		体部	体	体:LR(斜位)	ナデ	5YR5/6	7.5YR4/3	石・海	134・135・136と同一個体
138	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		縄文深鉢	体部	体:燃糸文R(斜位)		10YR8/3	10YR8/4	石・長・チ・焼・海	
139	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		底部	底			2.5Y8/2	2.5Y8/2	長・チ・焼・海	
140	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		底部	底	底:ナデ	ナデ	10YR5/3	7.5YR7/4	石・長・海	
141	13次	北地区	12T	SI1307最上層		甕	口縁部	口:横ナデハケキサミ	横ナデ	7.5YR6/4	7.5YR7/6	石・長・チ・海	
142	13次	北地区	12T	SI1307下層		壺	口縁部	口:擬凹線文	横ナデ	7.5YR7/6	10YR8/4	石・長・チ・海	10次828と同一個体?
143	13次	北地区	12T	SI1307上層		甕	口縁~体部			5YR5/6	2.5YR5/6	石・長・チ・海	
144	13次	北地区	12T	SI1307上層		壺	口縁部	口:ナデ	ナデ	7.5YR7/4	7.5YR7/6	石・長・チ・海	
145	13次	北地区	12T	SI1307最上層		壺	頸~体部	頸:ナデ	ナデ	10YR7/4	10YR7/4	石・長・チ・焼・角・海	
146	13次	北地区	12T	SI1307 1層, III層	51.10~51.63	高杯	杯部	杯:ミガキ赤彩		10YR6/4	10YR6/6	石・長・チ・焼・海	
147	13次	北地区	12T	SI1307		壺	口縁部	口:ハケメミガキ	ハケメ	10YR7/4	10YR7/4	長・チ・焼	

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
148	13次	北地区	12T	SI1307最上層		鉢	口縁部	口:ミガキ	ミガキ	7.5YR7/4	7.5YR7/4	長・海	
149	13次	北地区	12T	SI1307		壺	頸~体部	頸~体:ミガキ赤彩		10YR7/3	10YR8/4	長・チ・焼・海	10次842と同一個体?
150	13次	北地区	12T	SI1307上層		蓋	つまみ部	つまみ:ミガキ	ミガキ	7.5YR7/6	5YR7/6	焼・海	
151	13次	北地区	12T	SI1307下層		高杯	脚部	脚:ナデ	ナデ	5YR6/6	5YR5/4	石・長・海	
152	13次	北地区	12T	SI1307 1層	51.20	高杯	脚部			7.5YR8/6	7.5YR8/6	石・長・焼・海	
153	13次	北地区	12T	SI1307 1層	51.23		底部			10YR6/4	10YR8/4	石・長・チ・焼・海	
154	13次	北地区	12T	SI1307 1層	51.27		底部	底:ナデ	ハケメ	5YR6/6	5Y5/1	石・長・チ・焼・海	
155	13次	北地区	12T	SI1307 1層	51.20		底部			7.5YR7/6	5YR7/6	石・長・海	
156	13次	北地区	12T	SI1307		甕	口縁部	口:LR(横位).交互刺突文	ナデ	7.5YR6/4	7.5YR6/3	石・海	スス.炭化物
157	13次	北地区	12T	SI1307		甕	口縁~頸部	口:LR(横位).頸:ナデ	横ハケ	10YR6/4	10YR6/4	石・長・チ・海	スス
158	13次	北地区	12T	SI1307下層		壺	口縁~頸部	口:附加条第1種LR+R(斜位).頸:ナデ		7.5YR6/4	7.5YR7/6	石・長・焼・海	スス.炭化物
159	13次	北地区	12T	SI1307最上層		壺	口縁~頸部	口:横ハケ.頸:ナデ		7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・焼・海	スス
160	13次	北地区	12T	SI1307最上層		壺	口縁~頸部	口:ナデ		10YR8/4	10YR8/6	石・焼・海	スス
161	13次	北地区	12T	SI1307上層		甕	口縁部	口端:ヘラキザミ.口横ハケ		5YR6/4	10YR8/4	石・長・角・海	スス
162	13次	北地区	12T	SI1307上層		甕	口縁部	口端:附加条第1種+R.口横ハケ	横ハケ	10YR7/4	10YR7/4	石・チ	スス
163	13次	北地区	12T	SI1307		甕	頸部	頸:連弧文LR?(横位)	横ハケ	10YR8/2	10YR3/1	石・長・雲・チ・海	
164	13次	北地区	12T	SI1307上層			体部	体:横ハケ.横位沈線文.ヘラキザミ		10YR5/3	7.5YR6/4	石・海	
165	13次	北地区	12T	SI1307			体部	体:連弧文		10YR8/4	10YR8/4	石	
166	13次	北地区	12T	SI1307上層			体部	体:ナデ.半截竹管刺突列		7.5YR5/3	10YR4/1	焼・海	
167	13次	北地区	12T	SI1307上層		壺	体部	体:LR(斜位).連弧文	ナデ	10YR7/3	10YR6/3	石・長・焼・角・海	
168a	13次	北地区	12T	SI1307		壺	頸~体部	頸:ナデ.体:直前段多条R3L(斜位)	ナデ	10YR6/3	10YR8/3	石・長・焼・海	10次854と同一個体
168b	13次	北地区	12T	SI1307		壺	体部	体:直前段多条R3L(斜位)	ナデ	10YR8/4	10YR8/3	石・長・焼・海	10次854と同一個体
168c	13次	北地区	12T	SI1307		壺	底部	底:直前段多条R3L(斜位)	ナデ	10YR7/2	10YR7/3	石・長・海	10次854と同一個体
169	13次	北地区	12T	SI1307			体部	体:附加条第1種RL+L(斜位)		7.5YR8/3	7.5YR7/4	石・長・焼	
170	13次	北地区	12T	SI1307 1層.壁溝5層	50.91~51.05	壺	口縁部	口:擬凹線文.頸:縦ハケ		10YR8/3	10YR8/3	石・長・チ・海	
171	13次	北地区	12T	SI1307壁溝5層		甕	底部	底:ハケメ	ナデ	7.5YR7/4	10YR8/4	石・長・雲・海	
172	13次	北地区	12T	SI1307壁溝5層	50.90~50.95	甕	完形	口:横位沈線文.刺突列.直前段多条L3R(斜位).横位沈線文.交互刺突文.頸:ナデ.横位沈線文.交互刺突文.横位沈線文.交互刺突文.体:L3		10YR6/3	10YR6/3	石・長・焼・海	スス.炭化物
173	13次	北地区	12T	SI1307Pit1			底部			7.5YR7/6	7.5YR7/4	石・長・焼・海	
174	13次	北地区	12T	SI1307.Pit2a		甕	底部			7.5YR7/6	5YR6/6	石・焼・海	
175	13次	北地区	12T	SI1307Pit4a		壺	口縁部	口:ミガキ赤彩	ミガキ赤彩	10YR8/2	10YR8/3	焼	10次829と同一個体
176	13次	北地区	12T	SI1307Pit4a3・4層	50.68	甕	底部	底:LR(斜位)	ナデ	10YR5/4	10YR6/4	石・長・海	スス
177	13次	北地区	12T	SI1307Pit4a4・5層	50.54	甕	頸~底部	頸~底:縦ハケ	横ハケ	7.5YR5/4	7.5YR5/3	石・焼・海	スス
178	13次	北地区	12T	SI1307Pit6		甕	底部	底:ハケメ	ハケメ	2.5YR6/8	10YR8/4	石・長・焼・海	
179	13次	北地区	12T	SI1307Pit10			底部	底:ナデ		10YR3/1	2.5YR6/2	石・長・チ・焼・角・海	
180	13次	北地区	12T	SI1307.Pit4a		高杯	脚部			10YR8/6	10YR8/6	石・長・チ・焼・海	
181	13次	北地区	12T	SI1307.Pit2a.2b		高杯	脚部	脚:ミガキ	ナデ	5YR6/6	5YR6/6	石・長・焼・海	
182	13次	北地区	12T	SD03S16C区8層		甕	口縁部	口:横ナデ		7.5YR6/4	7.5YR6/6	石・チ・焼・海	スス
183	13次	北地区	12T	SD03S16C区8層		甕	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	2.5YR6/6	2.5YR6/6	石・焼	
184	13次	北地区	12T	SD03S16C区9層		甕	口縁部			5YR8/6	7.5YR6/6	石・長・焼	
185	13次	北地区	12T	SD03S16C区8層		壺	口縁部			2.5YR6/6	2.5YR6/6	石・長・海	スス
186	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層		壺	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	10YR6/6	7.5YR6/6	石・長・チ・焼・海	
187	13次	北地区	12T	SD03S16C区5.8層		壺	口縁部	口:横ナデ.頸:ハケメ	ミガキ	10YR5/4	10YR5/4	石・長・角・海	スス
188	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層		壺	頸~体部			7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・海	
189	13次	北地区	12T	SD03S16C区3・4・5層	49.56	壺	体部	体:ミガキ赤彩	ナデ	10YR8/4	10YR8/3	石・焼・海	
190	13次	北地区	12T	SD03S16C区5層		高杯	杯部	杯:ミガキ赤彩	ナデ	10YR8/3	10YR8/4	焼・海	
191	13次	北地区	12T	SD03S16C区8層		器台	杯部	杯:ミガキ赤彩	ミガキ赤彩	7.5YR7/3	7.5YR7/6	石・焼・海	
192	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層		高杯.器台	脚部	脚:ミガキ赤彩		10YR8/4	10YR8/3	石・長・海	
193	13次	北地区	12T	SD03S16C区7層	49.61	台付鉢	台部・体部	台:ナデ	ナデ	7.5YR8/6	10YR7/4	石・焼・海	
194	13次	北地区	12T	SD03S16C区		ミニチュア	台部・体部	体:指頭痕	ナデ	10YR6/4	10YR6/4	石・長・海	
195	13次	北地区	12T	SD03S16C区			底部		ナデ	10YR6/4	10YR7/2	石・焼・海	

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
196	13次	北地区	12T	SD03S16A区5・6層		甕	底部			2.5YR4/2	7.5YR5/4	チ	
197	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層		甕	口縁部	口:LR(横位).横位沈線文.連弧文	LR(横位)	10YR4/2	10YR5/4	石・長・海	スス炭化物
198	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層			体部	体:ナデ横位沈線文.連弧文	ナデ	7.5YR4/1	7.5YR4/1	長・海	スス
199	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層			体部	体:LR(横位).横位沈線文.連弧文	ナデ	7.5YR5/2	10YR4/2	石・長・チ・海	スス
200	13次	北地区	12T	SD03S16C区3・4層		壺	体部	体:LR(斜位).区画文.平行沈線文.連弧文		7.5YR6/6	7.5YR7/6	石・長・チ・海	
201a	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層		壺	口縁端部	口端:ヘラキザミ.口:LR(横位).隆帯文.ヘラキザミ	ナデ	7.5YR4/2	7.5YR5/3	石・焼	スス
201b	13次	北地区	12T	SD03S16A区1~6層		壺	口縁端部	口端:ヘラキザミ.口:LR(横位).隆帯文.ヘラキザミ	ナデ	7.5YR4/2	7.5YR5/3	石・焼	スス
201c	13次	北地区	12T	SD03S16A区5・6層		壺	頸~体部	頸:ナデ体:LR(横位)	ナデ	7.5YR4/2	7.5YR5/3	石	スス
202	13次	北地区	12T	SD03S16A区8・10・11層			体部	体:LR(縦位)		7.5YR6/6	7.5YR7/6	石・長・焼・海	スス
203	13次	北地区	12T	SD03S16C区5層	49.47		体部	体:LR(斜位)		10YR5/4	10YR6/3	石・長・海	
204	13次	北地区	12T	SD03S16A区5・6層			体部	体:LR(斜位)	ナデ	5YR4/6	10YR5/6	石	
205	13次	北地区	12T	SD03S16C区9層			体部	体:無節L(斜位)	ナデ	10YR3/1	7.5Y6/1	石・角	スス
206	13次	北地区	12T	6区		壺	口縁部	口:横ナデハケメ		7.5YR6/6	7.5YR6/6	石・長・チ・海	
207	13次	北地区	12T			壺	口縁部	口:擬凹線文	ナデ	10YR7/4	10YR6/3	長・チ・焼・海	100と同一個体か
208	13次	北地区	12T	12区		蓋	つまみ部	つまみ:ミガキ赤彩	ミガキ赤彩	10YR8/4	10YR8/4	長・チ・海	
209	13次	北地区	12T	5区			口縁部	口:ハケメ.横位沈線文.連弧文	横ハケ	10YR4/2	10YR7/3	石	スス
210	13次	北地区	12T	11区			体部	体:横位沈線文.撚糸文R(斜位)	ナデ	10YR6/3	10YR5/3	焼	
211	13次	北地区	12T	5区		壺	口縁部	口:横ハケ.二本描連弧文		7.5YR4/2	10YR7/4	石・長・海	スス炭化物
212	13次	北地区	12T	2区		甕	体部	体:LR(斜位)	ナデ	10YR3/2	5YR6/6	石・長・海	スス
213	13次	北地区	12T	11区			底部	底:RL(斜位)	ナデ	10YR7/4	10YR5/3	石・長・焼・海	底部圧痕
214	13次	北地区	13T	SD1011B区8層		壺	体部	体:ハケメ	ナデ	7.5YR7/6	5Y5/2	石・長・焼・海	
215	13次	北地区	13T	SD1011B区1・2層		壺	口縁部	口:ハケメ.連弧文.頸:沈線文	横ハケ	10YR8/4	10YR6/6	石・長・焼・海	スス
216	13次	北地区	13T	SD1011A区6層		甕	口縁部	口:ハケメ.連弧文	横ハケ	7.5YR5/4	7.5YR4/2	石・長・チ・海	スス
217	13次	北地区	13T	SD1011A区15層		甕	頸~体部	頸:ナデ.体:RL(斜位)	ナデ	7.5YR5/4	5YR6/6	石・長・焼・角・海	スス
218	13次	北地区	13T	SD1011A区6層		高杯	脚部	脚:ミガキ	ハケメ.ナデ	10YR8/4	10YR8/4	石・長・焼・海	
219	13次	北地区	13T	1区			底部	底:ハケメ		10YR7/6	7.5YR7/6	石・長・チ・焼・海	
220	13次	北地区	15AT	SD1011 2・3・5~12層		壺	口縁部	口:横ナデ.頸:ハケメ	ハケメ.横ナデ	7.5YR8/4	7.5YR7/6	長・焼・海	
221	13次	北地区	15BT	SD1011 6・8・9・13層		壺	口縁部	口:ナデ	ナデ	5YR7/6	5YR7/6	石・長・チ・焼	
222	13次	北地区	15BT	SD1011 5・6・8層		高杯器台	杯部	杯:ミガキ赤彩		10YR8/4	10YR8/4	石・長・焼	
223	13次	北地区	15AT	SD1011 2層		高杯器台	脚部	脚:ミガキ	ハケメ.ミガキ	10YR8/4	10YR8/4	石・焼・海	
224	13次	北地区	15AT	SD1011 2層		高杯器台	脚部			10YR8/6	10YR8/6	石・長・雲・焼・海	
225	13次	北地区	15BT	SD1011 6・8・9・13層		高杯器台	脚部			5YR6/6	7.5YR6/6	石・長・チ・海	
226	13次	北地区	15AT	SD1011 2層		甕	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	10YR6/3	2.5Y4/1	石・焼・海	
227	13次	北地区	15BT	SD1011 1~4層		壺	口縁部	口:ナデ		7.5YR7/4	7.5YR6/4	石・長・雲・焼・海	
228	13次	北地区	15BT	SD1011 1~4層			体部	体:LR(横位).平行沈線文.刺突列	ナデ	10YR6/4	7.5YR5/4	石・雲・焼	
229	13次	北地区	15AT	SD1011 2層			体部	体:LR(斜位)	ナデ	10YR6/4	10YR6/4	石・チ・海	スス
230	13次	北地区	15AT	4区			口縁部	口端:円形竹管刺突列.口:円形竹管刺突列	ナデ	7.5YR4/2	10YR6/4	石・雲・海	スス炭化物
231	13次	北地区	15AT	4区			体部	体:区画文LR(斜位)		10YR7/4	7.5YR7/4	長・チ・焼・海	
232	13次	北地区	17T	4区			口縁部	口:RL?刺突列		10YR7/4	10YR7/4	石・長	
233	13次	北地区	17T	3区			体部	体:LR(横位.斜位)	ナデ	10YR4/2	2.5Y4/2	長・焼・海	
234	13次	北地区	17T	1区			底部	底:ナデ		10YR6/4	7.5YR7/4	石・長・チ・海	
235	13次	北地区	18T	SI1311 2層	53.03	甕	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	2.5YR5/6	2.5YR4/4	石・長・海	
236	13次	北地区	18T	SI1311 2層	53.11	壺	口縁部			10YR8/3	2.5Y8/3	石・長・チ・海	
237	13次	北地区	18T	SI1311		壺	体部	体:突帯文.ミガキ赤彩	横ハケ	7.5YR6/6	2.5Y6/2	長・焼・海	
238	13次	北地区	18T	SI1311周溝		壺	口縁部	口:ハケメ	ハケメ	7.5YR7/4	10YR8/4	石・長・焼・海	スス炭化物
239	13次	北地区	18T	SI1311			口縁部	口端:突起ヘラキザミ.口:ナデ	ナデ	5YR5/4	7.5YR5/4	石・雲・焼・海	スス
240	13次	北地区	18T	SI1311		甕	口縁部	口:ナデ		10YR6/3	10YR8/3	長・海	スス
241	13次	北地区	18T	SI1311			体部	体:連弧文	横ハケ	10YR6/2	2.5Y4/1	石・チ・焼・海	
242	13次	北地区	18T	SI1311 2層			体部	体:連弧文LR(斜位)	ナデ	5YR5/4	5YR6/6	石・長・焼・海	スス

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
243	13次	北地区	18T	SI1311		甕	体部	体附加条第1種LR+R(縦位)		5YR7/6	10YR8/3	石・長・焼・角・海	
244	13次	北地区	18T	SI1311		甕	底部	底:縦ハケ,ミガキ	ナデ	10YR6/3	10YR7/3	石・長・チ・海	
245	13次	北地区	18T	SI1311周溝1層	53.41	甕	底部			10YR6/4	2.5Y8/2	長・チ・海	
246	13次	北地区	18T	SI1312周溝		甕	口縁部	口:横ハケ,横位沈線文	横ハケ	10YR6/3	10YR5/3	石・長・チ・海	スス,炭化物
247	13次	北地区	18T	4区		甕	体部	体:縦ハケ,ナデ,重菱形文,横位沈線文LR(横位)	横ハケ	10YR4/1	10YR6/3	長・チ・焼	炭化物,焼成後穿孔途中痕
248	13次	北地区	18T	4区		壺	頸部	頸:ナデ,連弧文	ナデ	10YR7/4	10YR8/3	石・長・焼・海	
249	13次	北地区	18T	4区		壺	頸部	頸:LR(横位),平行沈線文,連弧文	ナデ	7.5YR7/6	10YR6/3	石・焼・角・海	
250	13次	北地区	18T	3区		壺	体部	体:LR(横位),連弧文		10YR7/4	5Y6/1	石・海	スス
251	13次	北地区	18T	3区		壺	体部	体:突帯文,ミガキ,赤彩	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR8/6	石・焼・海	
252	13次	北地区	18T	4区		甕	底部	底:ハケメ	ナデ	2.5Y8/3	10YR8/4	石・チ・焼・海	
253	13次	北地区	18T	3区		甕	底部	底:ハケメ	ナデ	7.5YR7/6	10YR8/4	石・長・焼・海	
254	13次	北地区	18T	SI1312周溝,7区		須恵器無台杯	口縁~体部	口:クロナデ	ロクロナデ	7.5YR6/1	7.5YR6/1	海	
255	13次	北地区	18T	SI1312 2・3層		須恵器無台杯	体~底部	ロクロナデ	ロクロナデ,ナデ	5Y7/2	5Y7/2	海	
256	13次	北地区	18T	7区		須恵器有台杯	口縁~体部	ロクロナデ	ロクロナデ	10Y6/1	7.5Y6/1	海	
257	13次	北地区	18T	4区		土師器小甕	底部	ロクロナデ	ロクロナデ	7.5YR7/6	7.5YR6/4	チ	底部系切り
258	13次	北地区	19T	SI1313上層		壺	口縁~頸部	口:擬凹線文,頸:縦ハケ	横ハケ,ナデ	5YR6/6	7.5YR6/6	石・長・チ・焼・海	
259	13次	北地区	19T	SI1313Pit3		高杯,器台	杯部	杯:ミガキ,赤彩	ミガキ,赤彩	10YR8/2	10YR8/2	海	
260	13次	北地区	19T	SI1313		高杯,器台	脚部	脚:縦ハケ,擬凹線文		10YR8/3	10YR8/4	長・チ・海	
261	13次	北地区	19T	SI1313上層		器台	脚部	脚:ミガキ	ハケメ,ナデ	5YR6/8	2.5YR5/8	石・長・チ・角・海	
262	13次	北地区	19T	SI1313Pit2		壺	口縁~頸部	口:端突起,口:LR(横位),横位沈線文,頸:ナデ		5YR6/8	10YR7/4	焼・海	
263	13次	北地区	19T	SI1313		壺	口縁~頸部	口:LR(横位),交互刺突文,頸:ナデ	ナデ	10YR6/3	10YR6/4	石・チ・焼・海	スス
264	13次	北地区	19T	SI1313		壺	口縁部	口:LR(斜位),刺突列		7.5YR6/6	10YR7/6	石・長・焼	
265	13次	北地区	19T	SI1313Pit10		壺	体部	体:ハケメLR(横位)	横ハケ	10YR5/2	7.5YR5/4	石・海	
266	13次	北地区	19T	SI1313Pit10		壺	体部	体:RL(斜位)	ナデ	10YR5/4	10YR5/3	石・焼・角・海	
267	13次	北地区	19T	SI1313		壺	体部	体:附加条第1種LR+R(斜位)		2.5Y8/2	2.5Y8/2	長・雲・チ・海	
268	13次	北地区	19T	SI1313		壺	体部	体:無節L(横位)	ケズリ,ナデ	5YR6/8	5YR6/8	石・長・海	
269	13次	北地区	19T	7区		壺	口縁部	口:ハケメキザミ?赤彩	ミガキ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	海	
270	13次	北地区	19T	7区		壺	口縁部	口:LR(横位),円形刺突列	ナデ	7.5YR5/2	7.5YR4/1	石・海	スス
271	13次	北地区	19T	Pit15.1区		壺	体部	体:LR(斜位),区画文	ナデ	10YR8/4	7.5YR7/6	石・長・チ・焼・海	
272	13次	北地区	19T	5区		高杯,器台	脚部			10YR8/4	7.5YR8/6	長・海	
273	13次	北地区	16T	SI1309 1層		甕	口縁部	口:横ナデ	横ハケ,横ナデ	5YR5/6	7.5YR5/4	石・長・海	スス
274	13次	北地区	16T	SI1309		壺	口縁部	口:横ナデ		7.5YR6/6	7.5YR6/6	長・海	スス
275	13次	北地区	16T	SI1309 9層		壺	口縁部	口:横ナデ,ハケメ		7.5YR6/4	5YR6/6	石・長・チ・焼・海	スス
276	13次	北地区	16T	SI1309 1層, I e層		壺	頸部	頸:縦ハケ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	長・焼・海	
277	13次	北地区	16T	SI1309 11層		高杯,器台	杯部	杯:ミガキ,赤彩	ミガキ,赤彩	7.5YR7/4	5YR7/6	焼・海	
278	13次	北地区	16T	SI1309土坑		鉢	口縁部	口:ミガキ,赤彩	ミガキ,赤彩	7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・焼・海	
279	13次	北地区	16T	SI1309土坑4層	52.66	鉢	脚部	脚:ハケメ		7.5YR8/6	10YR7/4	長・チ・焼・海	
280	13次	北地区	16T	SI1309 1層		高杯,器台	脚部	脚:ミガキ,赤彩	ハケメ,ナデ	10YR7/4	10YR5/3	焼・海	
281	13次	北地区	16T	SI1309 1層		甕	口縁部	口:横ナデ		2.5Y5/2	10YR7/4	長・焼・海	スス
282a	13次	北地区	16T	SI1309土坑	52.90	壺	頸部	頸:横ナデ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	チ	
282b	13次	北地区	16T	SI1309土坑	52.90	壺	体部	体:ハケメ,ミガキ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	チ・角	
283	13次	北地区	16T	SI1309 1層		甕	底部	底:ミガキ	ナデ	10YR6/4	10YR6/4	石・長・焼・海	
284	13次	北地区	16T	SI1309 1層		甕	底部	底:縦ハケ	ケズリ	2.5YR6/6	10YR8/4	石・長・チ・海	
285	13次	北地区	16T	SI1309 9層		甕	底部	底:ハケメ	ハケメ,指頭痕	2.5YR6/6	2.5Y7/2	石・長・焼・海	底面ハケメ
286	13次	北地区	16T	SI1309		甕	底部	底:ハケメ	ハケメ,ナデ	5YR6/6	7.5YR6/6	長・チ・海	
287	13次	北地区	16T	SI1309Pit1		甕	口縁部	口:平行沈線文,刺突列		10YR8/3	2.5Y8/2	長・海	
288	13次	北地区	16T	SI1309 1層, I e層		甕	口縁部	口:燃糸文R(縦位),連弧文	ナデ	5YR5/4	5YR6/6	海	スス,炭化物
289	13次	北地区	16T	SI1309 1層		甕	口縁部	口:側面圧痕RL,RL(斜位),横位沈線文	ナデ	10YR5/2	7.5YR3/2	海	炭化物
290	13次	北地区	16T	SI1309 1層, I e層		甕	口縁部	口:LR(横位),横位沈線文,連続刺突列	ナデ	2.5YR5/6	7.5YR3/2	長・海	
291	13次	北地区	16T	SI1309Pit1		甕	体部	体:ナデ,区画文	ナデ	10YR6/4	10YR5/4	チ・焼・海	スス
292	13次	北地区	16T	SI1309		壺	頸~体部	頸:ナデ,体:RL(斜位)	ナデ	7.5YR5/3	7.5YR7/4	長・チ・角・海	スス

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
293	13次	北地区	16T	SI1309 1層	53.26		体部	体LR(斜位)		2.5YR5/2	10YR8/4	チ・焼・海	
294	13次	北地区	16T	SI1309 1層			体部	体RL(横位・斜位)		2.5YR5/8	7.5YR6/6	石・長・角・海	
295	13次	北地区	16T	SK1310		甕	完形	板ナデ・ナデ	板ナデ・ナデ	7.5YR6/3	10YR6/4	石・長・チ・海	スス・炭化物
296	13次	北地区	16T	1区I d層		甕	口縁部	口横ナデ	横ハケ・横ナデ	7.5YR5/3	7.5YR6/6	石・長・チ・海	スス
297	13次	北地区	16T	2区I d層		甕	口縁部	口横ナデ	横ナデ	10YR6/4	7.5YR6/4	長・焼・海	
298	13次	北地区	16T	1区I d層		高杯・器台	脚部	脚・横ナデ		7.5YR7/6	7.5YR7/6	長・焼・海	
299	13次	北地区	16T	1区I d層		高杯・器台	脚部			7.5YR6/6	10YR4/1	石・チ・焼・海	
300	13次	北地区	16T	1区I d層		高杯	脚部	脚・ミガキ・赤彩		7.5YR6/6	7.5YR6/8	石・長	
301	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3・5層	51.50~51.56	壺	完形	口・横ナデ・頸・縦ハケ(板ナデ)・体・ハケメ(板ナデ)	ハケメ(板ナデ)・ナデ	2.5YR6/6	2.5YR6/6	石・長・海	
302	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)Pit9.3・5層	51.47	壺	口縁~頸部	口~頸横ナデ	横ナデ・指頭痕	10YR8/4	10YR8/4	石	
303	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)4層	51.66	高杯・器台	脚部	脚・ミガキ・赤彩	板ナデ	7.5YR8/4	7.5YR6/6	石・長・焼・海	
304	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層		甕	口縁部	口・ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	10YR6/3	10YR7/4	石・海	
305	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層	51.62	甕	口縁部	口・横ハケ	横ハケ	10YR7/4	10YR6/4	石・長・海	スス
306	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層		甕	口縁部	口・RL(横位)		10YR7/6	10YR8/4	石・チ	スス・314と同一個体
307	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)土坑3・5層		甕	口縁部	口・端RL・口・RL(斜位)	ナデ	10YR6/4	10YR3/2	長	スス・炭化物
308	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層			体部	体・直前段多条R3L(斜位)	ナデ	7.5YR6/4	7.5YR6/3	石・焼・海	
309	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層		壺	体部	体・ナデ・RL(横位)	ナデ	10YR7/4	10YR4/1	石・長・チ・焼・海	スス
310	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層			体部	体LR(横位)	ナデ	10YR6/2	10YR7/3	石・海	
311	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)4層	51.64	壺	頸~体部	頸・ナデ・体・RL(斜位)	ハケメ・ナデ	10YR8/4	10YR8/4	焼・海	
312	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層	51.57		底部	底・RL(斜位)		7.5YR6/6	10YR7/4	石・焼	
313	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)3層	51.60	甕	底部	底・ハケメ・ナデ	ナデ	10YR7/4	10YR6/4	石・長・焼・海	
314	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)土坑1~3・5層		甕	口縁~頸部	口・RL(横位)・頸・ナデ・ハラキザミ		10YR7/4	10YR8/4	石・長・焼	スス・306と同一個体
315	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)土坑1・2層			体部	体・交互刺突文・RL(横位)	ナデ	7.5YR7/6	10YR6/3	石・長・焼・海	
316	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)土坑3・5層			体部	体LR(斜位)	ハケメ	10YR6/3	10YR7/3	石・焼・海	スス
317	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)土坑3・5層			体部	体RL(斜位)	ナデ	10YR7/3	7.5YR8/4	石・長・海	
318	14次	北地区	1T	SI03S21(SI1401)土坑1・2層		高杯・器台	脚部	脚・ミガキ	ナデ	10YR8/3	10YR8/4	長・焼・海	
319	14次	北地区	1T	17区		壺	口縁部	口・RL(横位)・頸・ナデ		7.5YR8/4	7.5YR8/6	石・長・チ・焼・海	
320	14次	北地区	1T	3区		壺	口縁部	口・ナデ・頸・ナデ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	石・長・焼・海	
321	14次	北地区	1T	9c区		甕	口縁部	口・ナデ	横ハケ・ナデ	7.5YR5/3	10YR6/4	石・長・焼・海	スス
322	14次	北地区	1T	7~9区			底部	底・ナデ	ナデ	10YR7/2	10YR8/4	石・焼・海	
323	14次	北地区	2T	2・3区		甕	口縁~体部	口・ナデ・頸~体・ハケメ	ナデ	7.5YR7/6	10YR6/4	石・長・焼・海	
324	14次	北地区	2T	6区		高杯・器台	杯部	杯・ミガキ	ミガキ	5YR7/6	5YR7/6	石・海	
325	14次	北地区	2T	3区		蓋	つまみ部	つまみ・ナデ	ナデ	7.5YR8/6	7.5YR8/6	石	
326	14次	北地区	2T	2・3区			底部	底・ケズリ	ハケメ・ナデ	10YR6/4	10YR7/4	石・長・チ・焼・海	
327	14次	北地区	2T	9区			底部	底・無節L(縦位)	ナデ	7.5YR7/6	10YR6/6	石・長	
328	14次	北地区	2T	8区			体部	体・附加条第1種LR+R(横位)	横ハケ	7.5YR6/6	10YR6/4	石・長・海	
329	14次	北地区	4T	16区		縄文深鉢	口縁部	口・ミガキ・円形刺突・横位・平行沈線文	ミガキ	7.5YR7/6	7.5YR6/6	石・長・焼	
330	14次	北地区	5T	1区		高杯	杯部	杯・ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	7.5YR7/4	7.5YR7/3	石・雲・焼・海	
331	14次	北地区	5T	2区		縄文深鉢	口縁部	口・無節L(横位)	ナデ	10YR6/2	10YR7/4	石・長・チ・焼・角・海	
332	14次	北地区	8T	22区		高杯・器台	脚部	脚・ミガキ	ナデ	10YR7/4	10YR7/4	石・雲・チ・焼・海	
333	14次	北地区	9T	20区			口縁部	口・ナデ	ケズリ・ナデ	10YR7/4	10YR7/4	長・雲・焼	
334	14次	北地区	9T	21区		高杯	脚部	脚・ミガキ		5YR6/6	10YR7/6	長・焼・海	
335	14次	北地区	9T	13区		縄文深鉢	口縁部	口・LR(横位)	ナデ	5YR6/6	5YR6/6	石・長・雲・海	
336a	14次	北地区	9T	14区		縄文深鉢	口縁部	口・LR(横位)・横位沈線文	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	雲・焼	
336b	14次	北地区	9T	14区		縄文深鉢	体部	体LR(横位)・横位沈線文	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・雲・焼・海	
336c	14次	北地区	9T	14区		縄文深鉢	体部	体LR(横位)・横位沈線文	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・雲・焼・海	
336d	14次	北地区	9T	14区		縄文深鉢	体部	体LR(横位)	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・雲・焼・海	
337	14次	北地区	9T	19区		縄文深鉢	体部	体LR(斜位)	ナデ	7.5YR6/4	7.5YR6/6	石・長・焼	
338	14次	北東地区	10T	SK1419上層		甕	口縁部	口・LR(横位)・頸・ナデ	ナデ	7.5YR6/4	7.5YR3/2	石・海	スス・炭化物
339	14次	北東地区	10T	SK1419上層		甕	体部	体RL(斜位)	ハケメ・ナデ	10YR6/3	10YR7/4	石・長・チ	
340	14次	北東地区	10T	SK1419上層		甕	体部	体RL(横位)	ナデ	10YR7/3	10YR8/3	石・長・焼・海	
341	14次	北東地区	10T	SK1419上層		甕	体部	体・擦系文R(縦位)	ナデ	7.5YR6/4	5YR7/6	石・長・焼・海	

No	調査年次	調査区	トレンナ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
342	14次	北東地区	10T	SK1419上層		甕	体部	体附加条第1種LR+R(斜位)	ナデ	10YR5/1	10YR6/1	石・チ・焼・海	
343	14次	北東地区	10T	SI1407 1層	26.04	甕	底部	底:ナデ		10YR6/4	10YR8/4	石・長・焼・海	
344	14次	北東地区	10T	SI1407 4・5層		縄文深鉢	体部	体RL(横位)		2.5Y8/3	10YR8/3	石・長・海	
345	14次	北東地区	10T	SK1419上層		縄文深鉢	体部	体LR(斜位)	ナデ	7.5Y6/8	7.5YR6/8	石・長・チ・海	
346	14次	北東地区	10T	SI1407 2層	26.05	縄文深鉢	体部	体LR(横位)	ナデ	2.5Y6/2	10YR5/3	石・長・角	
347	14次	北東地区	10T	SI1407 4・5層		縄文深鉢	体部	体LR(横位)	ナデ	10YR5/2	10YR6/2	石・海	
348	14次	北東地区	10T	SI1407 1層	26.02	縄文深鉢	体部	体・縄文?		7.5Y6/8	10YR7/6	石・長・雲・チ・焼・海	
349	14次	北東地区	10T	SI1407 1層	26.02	縄文深鉢	体部	体・燃糸文R(縦位)	ナデ	5YR6/8	5YR5/8	石・長・海	
350	14次	北東地区	10T	SK1419上層		縄文深鉢	体部	体・燃糸文R(縦位)	ナデ	10YR7/2	5YR6/6	石・焼・角	
351	14次	北東地区	10T	SK1419下層		縄文深鉢	体部	体・燃糸文R(縦位)	ナデ	7.5YR8/6	5YR6/8	石・雲・焼・角	
352	14次	北東地区	10T	34区Pit1		高杯・器台	杯部			10YR7/6	7.5YR7/8	石・焼・角・海	
353	14次	北東地区	10T	SD1410		甕	口縁部	口:RL(横位)・頸:ナデ		10YR8/4	10YR8/4	石・長・チ・海	
354	14次	北東地区	10T	33区Pit1		縄文深鉢	口縁部	口:LR(横位)		10YR7/2	2.5YR8/3	石・長・焼・海	
355	14次	北東地区	10T	33区Pit1		縄文深鉢	体部	体:ナデ・沈線文	ナデ	5YR6/8	5YR7/8	石・長・焼・海	
356	14次	北東地区	10T	SK1415b		縄文深鉢	体部	体LR(横位)	ミガキ	2.5Y7/2	10YR6/3	石・長・焼	
357	14次	北東地区	10T	SK1416c		縄文深鉢	体部	体LR(横位)	ナデ	5YR6/8	5YR5/6	石・長・焼・海	
358	14次	北東地区	10T	SK1416c		縄文深鉢	体部	体LR(斜位)	ナデ	5YR7/8	5YR5/6	石・長・海	
359	14次	北東地区	10T	SK1417a		縄文深鉢	体部	体・隆帯文・刺突列		2.5YR6/6	5YR7/8	石・長・焼・海	
360	14次	北東地区	10T	53区Pit1		縄文深鉢	口縁部	口・隆帯文・沈線文		5YR6/8	5YR6/8	石・長・海	
361	14次	北東地区	10T	25区			口縁部	口・横ナデ	横ナデ	10YR8/4	5YR8/3	石・長・焼・海	
362	14次	北東地区	10T	26区		高杯	杯部	杯:ハケメ	ミガキ	10YR8/6	5YR8/6	石・長・焼・海	
363	14次	北東地区	10T	25区・26区		高杯・器台	脚部	脚:ミガキ・赤彩	ナデ	7.5YR7/4	10YR8/4	石・焼	
364a	14次	北東地区	10T	42区		縄文深鉢	口縁部	口・隆帯文・縦位・沈線文	ナデ	10YR8/4	10YR7/4	石・長・チ・焼・角	
364b	14次	北東地区	10T	42区		縄文深鉢	口縁部	口・隆帯文・縦位・沈線文	ミガキ	10YR8/4	10YR7/4	石・長・チ・焼・角	
365	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層		甕	口縁部	口・横ナデ	横ナデ	10YR5/2	10YR6/6	石・長・焼・海	スス
366	14次	北地区	3T	SD1402 1区5・7・8層		甕	口縁部	口・頸・横ナデ・体:ハケメ		7.5YR7/8	10YR6/6	石・長・焼	スス
367	14次	北地区	3T	SD1402 2区10層	38.65	甕	口縁部	口:ハケメ	ナデ	7.5YR7/6	10YR7/6	石・長・チ・焼・海	
368	14次	北地区	3T	SD1402 1区14層		甕	頸部	頸:ナデ・体・横ハケ・ハケキザミ	横ハケ	7.5YR6/6	5YR6/8	石・焼・海	
369	14次	北地区	3T	SD1402 1区12・14・16~18層		甕	頸部	頸:ナデ・体・縦ハケ	横ハケ	2.5YR4/4	2.5YR5/8	石・長・チ・海	スス
370	14次	北地区	3T	SD1402 2区6・10層	38.53	壺	完形	ミガキ	ミガキ・ナデ	10YR7/8	10YR7/8	石・長・チ・海	
371	14次	北地区	3T	SD1402 2区5・6・10層		壺	口縁部	口:ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	10YR8/4	10YR8/4	石・長・チ	
372	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層		鉢	底部		ミガキ	7.5YR7/6	7.5YR6/4	海	
373	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層		高杯・器台	杯部	口:ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	7.5YR8/6	7.5YR8/6	石・海	
374	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層		高杯・器台	脚部	脚:ミガキ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	長・海	
375	14次	北地区	3T	SD1402 1区5・7・8層			底部	底:ハケメ・ナデ	ナデ	10YR7/4	10YR8/6	長・海	
376	14次	北地区	3T	SD1402 2区1~3・5層		甕	底部	底:ナデ	ハケメ	10YR7/6	2.5Y5/1	長・焼・チ・海	
377	14次	北地区	3T	SD1402 1区3・5・8層			底部	底:ハケメ	ハケメ	7.5YR7/8	5YR7/8	石・長・海	
378	14次	北地区	3T	SD1402 2区10層	38.76	壺	体部	体:ハケメ・ミガキ	ハケメ	7.5YR6/6	10YR7/6	長・焼・海	
379	14次	北地区	3T	SD1402 2区6・10層	38.78	壺	完形	口:連弧文4単位・頸:ナデ・体:連弧文4単位・LR(横位)・ハケメ・底:縦ハケ	ハケメ・ナデ	10YR7/6	2.5Y4/1	石・長・焼・海	
380	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層		壺	口縁部	口:有段部2段半截竹管刺突列・楕円形浮文・ハラキザミ・赤彩		10YR7/6	5YR6/8	石・長・海	
381	14次	北地区	3T	SD1402 2区10・12層		壺	口縁部	口:端LR・ナデ・口:LR(横位)・ハケメ・頸:ナデ	ナデ	10YR7/3	10YR6/4	石・長・チ・海	スス
382	14次	北地区	3T	SD1402 1区5・7・8層		壺	口縁部	口:板ナデ・頸:ナデ		7.5YR7/8	10YR7/6	チ・焼・海	スス
383	14次	北地区	3T	SD1402 2区10・12層		甕	口縁部	口:ハケメ	ナデ	7.5YR7/4	7.5YR6/6	石・長・焼・海	スス
384	14次	北地区	3T	SD1402 2区5・6・10層		壺	頸部	頸:横位・沈線文・鋸歯文	ナデ	5YR6/8	5YR6/8	石・雲・焼・海	
385	14次	北地区	3T	SD1402 2区5・6・10層		壺	体部	体:直前段多条L3R(横位)	ナデ	10YR3/2	10YR7/6	チ・海	スス
386	14次	北地区	3T	SD1402 1区5・7・8層		壺	体部	体:直前段多条L3R(斜位)	ナデ	10YR3/2	10YR7/6	チ・海	スス
387	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層			体部	体LR(斜位)	ナデ	5YR6/6	5YR6/8	石・長・海	
388	14次	北地区	3T	SD1402 2区5・6・10層			体部	体:沈線文LR(横位)	ナデ	2.5Y3/1	5YR6/6	石・長・角・海	
389	14次	北地区	3T	SD1402 2区5・6・10・12層			体部	体RL(斜位)		7.5YR7/8	10YR8/6	長・海	
390a	14次	北地区	3T	SD1402 1区7・8層		壺	口縁部	口:板ナデ・頸:ナデ		5YR6/8	10YR8/6	チ・海	スス

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
390b	14次	北地区	3T	SD1402 2区5・6・10・12層		壺	体部	体附加条第1種RL+L(斜位)		7.5YR6/6	7.5YR7/6	石・チ・焼・海	スス
390c	14次	北地区	3T	SD1402 1区3・5・8層		壺	体部	体附加条第1種RL+L(横位,斜位)		7.5YR6/6	7.5YR7/6	石・チ・焼・海	スス
391	14次	北地区	3T	2区		高杯,器台	杯部	杯,横ナデ	ミガキ,赤彩	10YR7/4	10YR7/6	海	
392	14次	北地区	3T	1区		甕	口縁部	口端,ハケキザミ,口,横ハケ	横ハケ	7.5YR6/6	7.5YR6/6	石・海	スス
393	14次	北地区	3T	2区		甕	体部	体,RL(斜位)	横ハケ	10YR7/4	10YR7/4	石・チ・海	
394	14次	北地区	3T	2区		壺	頸~体部	頸~体,交互刺突文,横位,沈線文		10YR6/6	5YR6/8	石・長・海	
395	14次	北地区	3T	2区		壺	頸~体部	頸,ハケメ,ナデ,交互刺突文	横ハケ	5YR6/8	5YR6/8	石・長・焼・海	
396	14次	北地区	12T	SD1402 3・5~7・11層		壺	口縁部	口,ハケメ,ナデ	ハケメ,ナデ	7.5YR6/6	10YR6/4	石・海	
397	14次	北地区	12T	SD1402 5~7・9層		甕	口縁部	口,横ナデ	横ナデ	10YR6/4	10YR5/3	石・長・焼・海	スス
398	14次	北地区	12T	SD1402 3・5~7・11層		高杯,器台	杯部	杯,横ナデ	横ナデ	10YR7/4	10YR7/4	海	
399	14次	北地区	12T	SD1402 3・5~7・9・11層		高杯	杯部	杯,ミガキ	ミガキ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・チ・焼・海	
400	14次	北地区	12T	SD1402 3・5~7・11層		甕	口縁部	口,LR(横位),ハケメ,円形浮文,頸,ナデ	ナデ	10YR7/4	10YR7/6	石・焼・海	スス
401	14次	北地区	12T	SD1402 5~7・9層		甕	口縁部	口端,ハケメ,口,ハケメ,頸,ナデ	ハケメ,ナデ	10YR6/3	10YR8/4	石・長・焼・海	
402	14次	北地区	12T	SD1402 5~7・9層		甕	口縁部	口端,ハケメ,ナデ,口,ハケメ,頸,ナデ	ハケメ,ナデ	10YR5/3	10YR8/3	石・長・雲・焼・海	スス
403	14次	北地区	12T	SD1402 5~7・9層			体部	体,無節L(斜位)	ナデ	7.5YR6/6	10YR6/6	長・チ・海	スス
404	14次	北地区	12T	2区			体部	体,隆帯文,ミガキ	横ハケ	7.5YR6/4	7.5YR6/6	石・長・焼・海	
405	14次	北地区	14T	SD1402 8~10・12層			底部	底,ナデ	ナデ	5YR5/6	5YR5/6	長・チ・海	
406	14次	北地区	15T	SD1402 10・11層		鉢	口縁部	口,ミガキ	ミガキ	7.5YR6/6	10YR6/4	長・チ・焼・海	
407	14次	北地区	15T	SD1402 1~5層		高杯,器台	脚部	脚,ミガキ,赤彩	横ハケ	7.5YR8/6	10YR8/4	海	
408	14次	北地区	15T	SD1402 1~5層		甕	口縁部	口,ナデ	ナデ	7.5YR6/4	7.5YR6/4	雲・海	スス
409	14次	北地区	15T	SD1402 1~5層			底部	底,ハケメ,ナデ	ナデ	10YR6/4	10YR6/4	長・海	
410	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	口縁部	口,横ナデ,ハケメ	ハケメ,横ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	長・チ・海	スス
411	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	口縁部	口,横ナデ,ハケメ	横ナデ	7.5YR6/4	7.5YR7/6	長・チ・海	スス
412	14次	北地区	13T	SD1402 1層		甕	体部	体,ハケメ,ハケキザミ	横ハケ	10YR7/6	10YR6/3	長・チ・海	
413	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		鉢	口縁部	口,ミガキ,赤彩	ミガキ,赤彩	7.5YR7/6	7.5YR7/6	長・焼・海	
414	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		高杯,器台	杯部	杯,ミガキ	ミガキ	10YR7/4	10YR7/4	長・海	
415	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		壺	体部	体,ミガキ,赤彩	ナデ	5YR6/6	2.5YR6/2	長・チ・海	
416	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		高杯,器台	脚部	脚,ミガキ,赤彩	ハケメ,ナデ	5YR7/8	5YR7/8	長・チ・海	
417	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層			底部	底,ナデ	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	焼・海	
418	14次	北地区	13T	SD1402 4~6・8・10・13層		甕	底部	底,ミガキ	ハケメ,ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	長・焼・海	スス
419	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	底部	底,ハケメ,ナデ	ハケメ,ナデ	7.5YR7/6	7.5YR5/3	石・長・焼・海	
420	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	底部	底,ハケメ	ハケメ	10YR7/6	10YR7/4	石・長・チ・焼・海	スス
421	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層			口縁部	口,横ナデ,ハケメ	ナデ	10YR6/3	10YR7/4	長・焼・海	スス
422	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		壺	口縁部	口端,縄文,側面,圧痕,口,直前段,多条L3R(横位,斜位),頸,ナデ	ナデ	7.5YR6/4	7.5YR6/4	長・焼・海	
423	14次	北地区	13T	SD1402 4~6・8・10・13層		甕	口縁部	口,LR(横位),頸,ナデ	ナデ	7.5YR7/8	7.5YR7/8	長・海	
424a	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	口縁部	口,LR(横位),頸,ナデ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	長・海	
424b	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	口縁部	口,LR(横位),頸,ナデ	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	長・海	
425	14次	北地区	13T	SD1402 16~18層		壺	体部	体,ナデ,区画文,横位,沈線文	ナデ	5YR6/6	5YR7/8	長・海	
426	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	体部	体,LR(斜位)	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR5/3	石・長・焼・海	炭化物
427	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		壺	体部	体,直前段,多条L3R(縦位,斜位)	ナデ	10YR8/4	10YR8/4	長・焼・海	
428	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層		甕	体部	体,LR(斜位)	ナデ	7.5YR7/6	10YR7/6	石・長・海	スス
429	14次	北地区	13T	SD1402 4~6・8・10・13層		壺	口縁部	口,附加条第1種LR+R(横位,斜位),頸,ハケメ,ナデ	ナデ	7.5YR7/6	5YR6/6	石・長・チ・焼・海	
430	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層			体部	体,附加条第1種RL+L(斜位)	ナデ	10YR7/3	10YR8/4	石・チ・焼・海	
431	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層			底部	底,RL(斜位)	ナデ	7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・焼・海	
432	14次	北地区	13T	SD1402 2~7層			底部	底,LR(横位)	ナデ	7.5YR7/6	10YR7/4	石・長・焼・海	
433	14次	北地区	16T	SD1402		甕	口縁~体部	口~頸,ナデ,体,ハケメ,ハケキザミ	ハケメ,ナデ	10YR7/4	10YR6/4	石・長・チ・海	
434	14次	北地区	16T	SD1402		壺	完形	ハケメ,ナデ	ナデ	10YR7/6	10YR7/6	石・長・チ・海	
435	14次	北地区	16T	SD1402			底部	底,ナデ	ハケメ,ナデ	10YR8/4	10YR8/4	石・長・チ・海	
436	14次	北地区	16T	SD1402		壺	口縁部	口,ミガキ	ナデ	10YR8/6	7.5YR8/6	石・長・海	
437	14次	北地区	16T	SD1402			体部	体,LR(斜位)	ナデ	7.5YR6/6	7.5YR5/4	石・チ・海	スス,炭化物
438	14次	北地区	16T	SD1402		壺	口縁~体部	口,ハケメ,ナデ,頸,ナデ,体,ハケメ	ハケメ,ナデ	7.5YR6/6	5YR6/8	石・長・雲・海	スス,炭化物

No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
439	14次	北地区	16T	6区		甕	頸~体部	頸~体:ナデ 櫛波状文		7.5YR5/4	7.5YR6/6	雲・海	
440	14次	北地区	16T	4区		甕	口縁部	口:横ナデ	横ナデ	10YR5/4	10YR5/3	石・長・チ・海	スス
441	14次	北地区	16T	4区		壺	口縁部	口:横ハケ 頸:ナデ	ハケメ:ナデ	5YR5/6	7.5YR6/6	石・長・雲・海	スス
442	14次	北地区	16T	3区		壺	口縁部	口:横ハケ	ナデ	10YR6/6	5YR6/8	石・長・海	
443	14次	北地区	16T	8区			有台部	有台:ナデ 赤彩	ナデ 赤彩	7.5YR7/6	7.5YR7/6	長・チ・焼・海	
444	14次	北地区	16T	6区		壺	体部	体:ナデ LR(横位)		10YR7/4	10YR7/4	チ・海	
445	14次	北地区	16T	6区			体部	体:LR(縦位)	ナデ	10YR8/4	7.5YR7/6	石・長・海	
446	14次	北地区	17T	SD1402 4~8層		甕	口縁部	口:横ナデ		10YR7/6	10YR6/6	石・長・海	
447	14次	北地区	17T	SD1402 3・4・7層			体部	体:LR(縦位)		7.5YR6/6	10YR8/6	石・角・海	
448	14次	北地区	17T				口縁部	口:横ハケ 区画文 交互刺突文	横ハケ	10YR7/4	10YR5/3	石・長・チ・焼・海	
449	14次	北地区	17T			壺	体部	体:LR(横位)	ナデ	10YR7/6	10YR6/4	石・長・海	スス
450	12次	八幡山古墳				高杯器台	脚部	脚:ミガキ	ミガキ	10YR8/4	10YR8/4	石・焼	
451	12次	八幡山古墳				須恵器無台杯	口縁部	ロクロナデ	ロクロナデ	10Y6/1	10Y6/1		
452	11次	八幡山古墳	3T	SD1101	47.21	土師器無台碗	底部	ロクロナデ	ロクロナデ	5YR6/6	10YR8/6	長	底部糸切り
453	12次	八幡山古墳				土師器無台碗	底部	ロクロナデ	ロクロナデ	5YR6/6	10YR8/6	長	底部糸切り
454	11次	八幡山古墳	3T	SD1101	47.20	土師器無台碗	底部	ロクロナデ	ロクロナデ	5YR6/6	10YR8/6	長	底部糸切り
455	12次	八幡山古墳					底部	底:ナデ		10YR7/6	7.5YR7/6	石・長・焼・海	
456	14次	北東地区	10T	64~67区		縄文土器				5YR7/6	5YR6/6	石・チ・角・海	
457	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				5YR7/8	5YR6/6	石・長・チ・焼・海	2・3同一個体?
458	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				7.5YR7/6	5YR6/6	石・長・チ・海	2・3同一個体?
459	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				5YR7/8	5YR6/8	石・長・雲・海	
460	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				10YR7/6	10YR5/4	石・雲・焼・海	
461	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				10YR4/1	10YR8/3	石・焼・海	
462	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				5YR6/6	10YR4/3	石・チ・海	
463	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				10YR7/3	10YR7/3	石・長	
464	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				5YR7/6	5YR6/6	石	
465	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				2.5YR4/3	2.5YR3/2	石・焼・海	
466	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				7.5YR7/6	7.5YR7/6	石・長・チ・焼・角・海	
467	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				7.5YR5/2	10YR6/4	石・長・チ・海	
468	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				5YR5/6	5YR6/8	石・長・角・海	
469	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				7.5YR8/4	7.5YR8/4	長・雲・チ・焼・海	
470	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				7.5YR4/2	7.5YR5/2	石・焼	
471	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				7.5YR7/6	5YR5/8	石・長・チ・海	
472	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				7.5YR5/3	7.5YR3/1	石・焼・海	
473	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				5YR6/4	7.5YR4/6	石・長・焼・海	
474	14次	北東地区	10T	SI1409 2層		縄文土器				5YR6/6	7.5YR4/6	石・長・雲・焼・海	
475	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				5YR6/8	5YR5/8	石・チ・海	
476	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				5YR7/8	5YR7/8	石・長・チ・焼・海	
477	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				5YR6/8	5YR6/8	石・長・チ・焼・海	
478	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				10YR7/6	10YR7/4	石・長・焼・海	
479	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				10YR5/4	2.5Y5/4	石・焼・海	
480	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				10YR5/3	7.5YR6/6	石・海	
481	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				5YR7/8	5YR6/8	石・長・焼・海	
482	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				10YR8/6	10YR7/4	石・長・焼・海	
483	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				7.5YR7/6	10YR8/6	石・長・焼・海	
484	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				7.5YR8/6	7.5YR8/6	石・長・チ・焼・海	
485	14次	北東地区	10T	SI1409 2層		縄文土器				7.5YR6/4	7.5YR7/6	石・長・焼	

No.	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	器種	部位	外面調整・施文	内面調整	色調(外面)	色調(内面)	胎土	備考
486	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				7.5YR7/6	10YR8/6	石・長・焼・海	
487	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器							No32写真なし
488	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				10YR6/3	7.5YR7/6	石・長・角・海	
489	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器							No34写真なし
490	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器							No35写真なし
491	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				10YR8/4	7.5YR7/6	石・チ・焼・海	
492	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器				2.5YR5/8	2.5YR5/8	石・長・焼・海	
493	14次	北東地区	10T	SI1409 2・3・5層		縄文土器							No38写真なし
494	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器							No39写真なし
495	14次	北東地区	10T	SI1409 2・3・5層		縄文土器							No40写真なし
496	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器							No41写真なし
497	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器							No42写真なし
498	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器							No43写真なし
499	14次	北東地区	10T	SI1409 2層		縄文土器				7.5YR6/6	10YR6/4	石・長・海	
500	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				7.5YR6/4	7.5YR6/4	石・長・海	
501	14次	北東地区	10T	SI1409 5層		縄文土器				10YR6/3	10YR6/3	石・長・チ・焼・海	
502	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器							No47写真なし
503	14次	北東地区	10T	SI1409 3層		縄文土器							No48写真なし
504	14次	北東地区	10T	SI1409 2層		縄文土器				10YR5/2	10YR7/4	石・長・チ・焼・海	
505	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器							No50写真なし
506	14次	北東地区	10T	SI1409 3・5層		縄文土器				10YR8/4	10YR7/4	石・長・焼・海	
第3図1	13次	北地区	12T	SI1308 5層	50.44	甕	口縁部	口・横ナデ		10YR7/6	10YR7/6	石・長・チ・焼・海	
第3図2	13次	北地区	12T	SI1308下層		甕	口縁部	口・ハケメ・横ナデ	ハケメ・横ナデ	10YR6/4	7.5YR7/6	長・チ・焼・海	スス
第3図3	13次	北地区	12T	SI1308下層		甕	口縁部	口・ハケメ・横ナデ		10YR8/4	10YR7/4	石・長・焼・海	
第3図4	13次	北地区	12T	SI1308		甕	口縁部	口・横ナデ	横ナデ	10YR6/3	10YR6/4	長・チ・海	スス
第3図5	13次	北地区	12T	SI1308 3層		甕	口縁部	口・横ナデ	横ナデ	10YR4/2	10YR5/3	石・長・チ・海	
第3図6	13次	北地区	12T	SI1308 4層	50.36	高杯・器台	脚部	脚・ミガキ		10YR8/4	10YR8/6	長・海	
第3図7	13次	北地区	12T	SI1308 5層	50.41	甕	底部	底・ナデ		10YR6/6	10YR7/6	石・長・チ・角・海	
第3図8	13次	北地区	12T	SI1308 5層	50.40~50.44	壺	底部	底・ハケメ・ナデ	ハケメ	10YR6/4	10YR6/3	石・長・焼・海	
第3図9	13次	北地区	12T	SI1308		甕	口縁部	口・横ハケメ・連弧文	横ハケメ・ナデ	10YR6/4	10YR7/4	石・長・海	スス
第3図10	13次	北地区	12T	SI1308 5層	50.40	壺	頸~体部	頸・ナデ・体・RL(横位)		5YR6/6	7.5YR6/6	チ・海	
第3図11	13次	北地区	12T	SI1308			体部	体・直前段多条L3R(斜位)	ナデ	10Y6/1	7.5YR6/6	石・長・海	
第3図12	13次	北地区	12T	SI1308			体部	体・ナデ・RL(横位)	ナデ	10YR5/1	10YR5/4	石・海	
第3図13	13次	北地区	12T	SI1308 2層			体部	体・ナデ・RL(斜位)	ナデ	10YR6/4	10YR6/4	石・海	
第3図14	13次	北地区	12T	SI1308 3層			体部	体・LR(縦位)	ナデ	10YR6/3	10YR7/6	石・長・焼・海	
第3図15	13次	北地区	12T	SI1308 3層		壺	頸~体部	頸・ナデ・体・LR(斜位)	ケズリ・ナデ	5YR7/6	10YR8/4	石・焼・海	
第3図16	13次	北地区	12T	SI1308 5層	50.44		体部	体・RL(斜位)	ナデ	7.5YR5/6	7.5YR7/6	石・長	スス・炭化物

別表9 土製品観察表

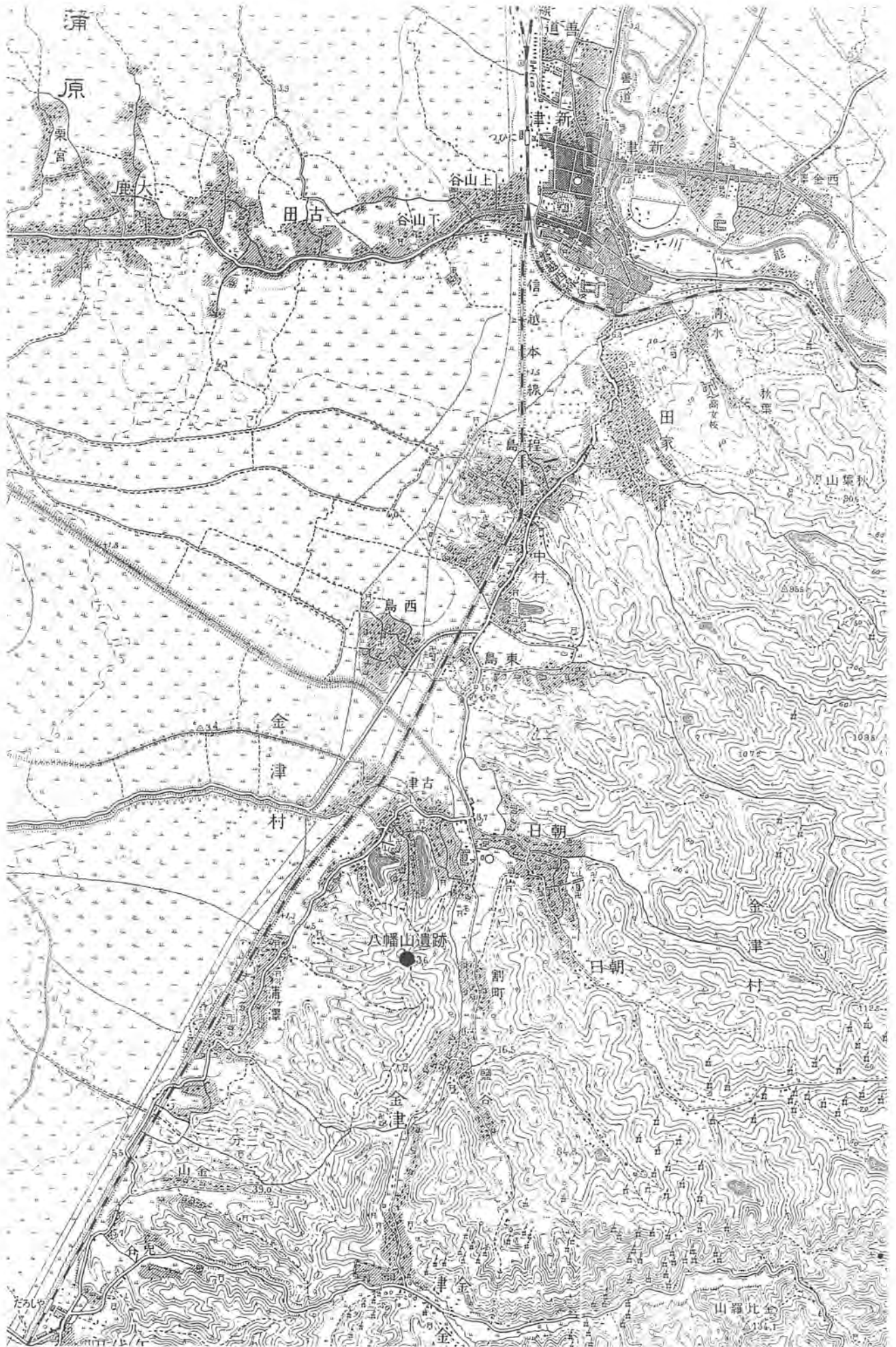
遺物No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	種別	石材	時代	長さ	幅	厚さ	重量	備考
第3園1	14次	北地区	10T	SK1419 1区下層		土製品	紡錘車	弥生	24.50	18.20	13.20	4.89	
第3園2	13次	北地区	16T	SI1309 1層	53.29	土製品	紡錘車	弥生	51.50	49.40	16.20	42.62	
第3園3	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		土製品	球状土製品	弥生	27.40	28.70	17.40	7.74	

(遺物標高：m、長さ・幅・厚さ：mm、重量：g)

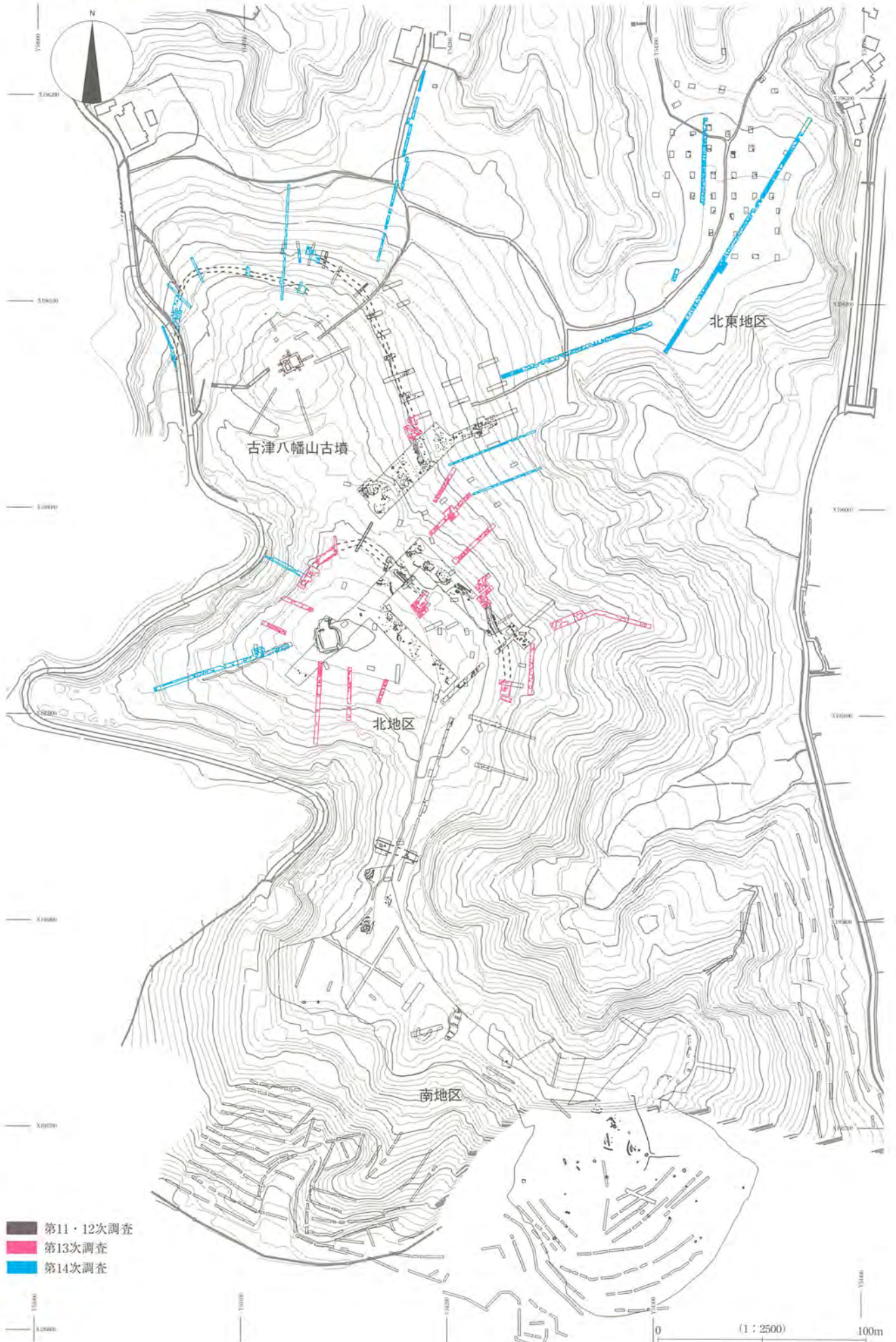
別表10 石器・ガラス製品観察表

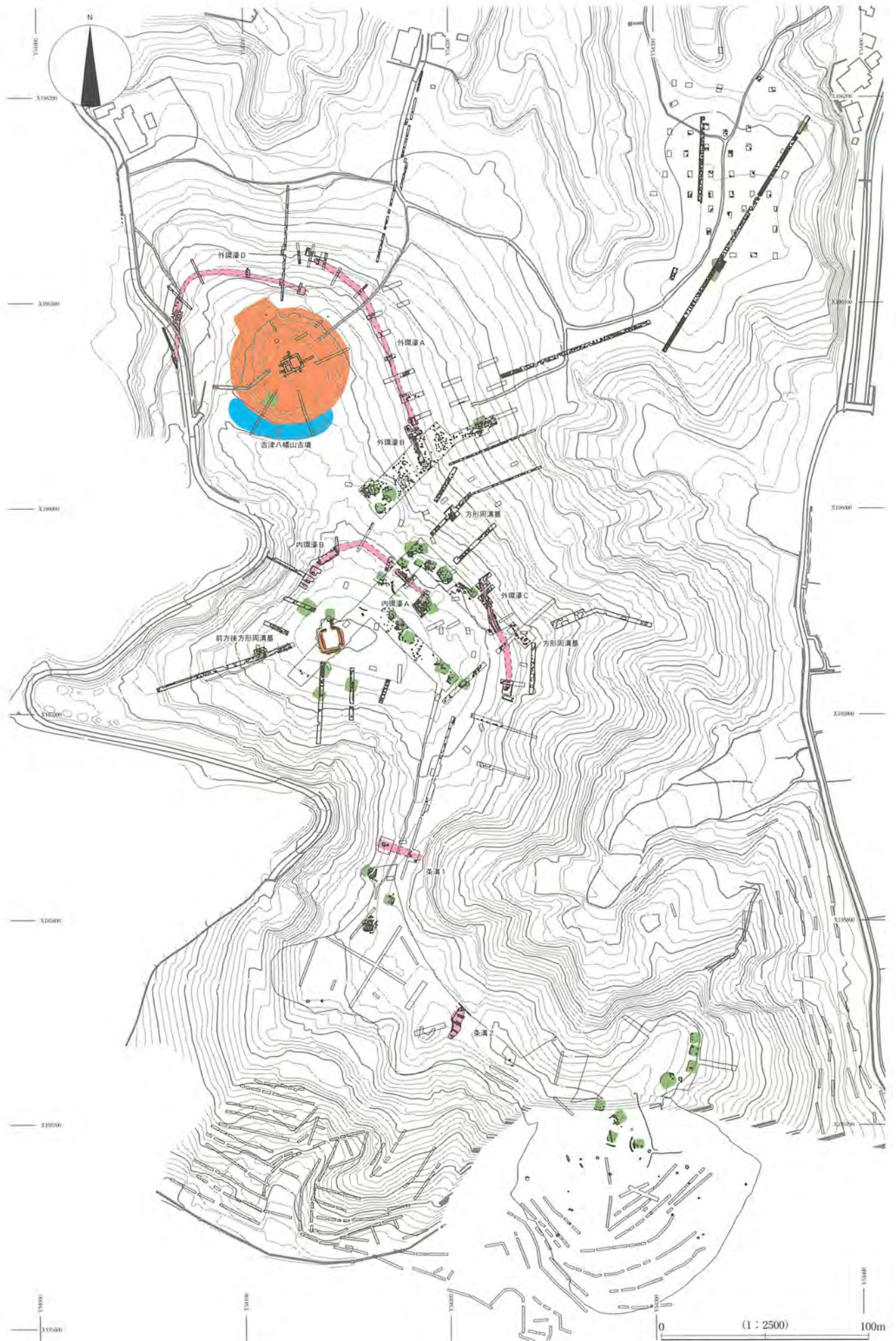
遺物No	調査年次	調査区	トレンチ名	出土位置	遺物標高	種別	石材	時代	長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	13次	北地区	10T	SD03S10C区3層		ナイフ形石器	珪質凝灰岩	旧石器	57.70	28.30	9.70	9.38	
2	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 6層	51.54	石鏃	珪質頁岩	弥生	33.70	15.95	4.15	1.58	アメリカ式石鏃
3	13次	北地区	18T	SI1312 1層		石鏃	珪質頁岩	弥生	30.50	16.00	4.30	1.40	アメリカ式石鏃
4	13次	北地区	16T	SI1309		石鏃	玉髓	弥生	18.70	15.30	4.50	0.78	アメリカ式石鏃
5	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 1層	51.50	石鏃	凝灰岩	弥生	29.55	11.00	4.65	0.88	アメリカ式石鏃
6	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層	51.56	石鏃	凝灰岩	弥生	17.25	12.20	3.40	0.31	アメリカ式石鏃
7	13次	北地区	3 T	9区		石鏃	珪質頁岩	弥生	33.20	16.30	5.30	1.80	
8	14次	北地区	1 T	23区 Pit 1		石鏃	珪質凝灰岩	弥生	31.90	16.90	6.90	1.96	
9	13次	北地区	20T	1区IV層		石鏃	珪質流紋岩	弥生	28.30	13.60	5.10	1.33	
10	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		石鏃	珪質流紋岩	弥生	31.70	16.10	8.10	2.36	
11	13次	北地区	12T	SI1307 1層	51.16	石鏃	珪質流紋岩	弥生	25.30	13.30	8.00	1.45	
12	13次	北地区	10T	SD03S10C区1・2層		石鏃	珪質頁岩	弥生	19.30	14.10	5.00	0.85	
13	13次	北地区	13T	SD1011A区最上層		石鏃	凝灰岩	弥生	26.00	12.50	5.40	1.40	
14	13次	北地区	3 T	7区		石鏃	玉髓	弥生	16.40	13.80	4.80	0.96	
15	13次	北地区	16T	SI1309		石鏃	珪質流紋岩	弥生	27.40	18.20	5.70	1.84	
16	13次	北地区	2 T	3区		石鏃	珪質頁岩	弥生	16.10	15.70	4.10	0.85	
17	13次	北地区	12T	SI1307		石鏃	珪質凝灰岩	弥生	13.40	11.00	5.00	0.53	
18	13次	北地区	18T	SI1311		石鏃	珪質頁岩	弥生	19.10	14.70	5.10	1.01	
19	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 4層	51.58	石鏃	凝灰岩	弥生	22.75	12.60	5.00	1.00	
20	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 土坑		石鏃	珪質頁岩	弥生	13.95	8.25	1.80	0.25	
21	14次	北地区	1 T	2区 Pit 2		石鏃	珪質頁岩	弥生	16.20	9.10	1.75	0.30	
22	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層	51.58	石鏃	凝灰岩	弥生	12.30	10.00	4.25	0.41	
23	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 土坑		石鏃	珪質頁岩	弥生	13.45	9.60	3.20	0.48	
24	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層		石鏃	黒曜石	弥生	16.30	8.60	2.00	0.25	
25	13次	北地区	12T	SI1307最上層		石鏃	珪質流紋岩	弥生	46.30	16.50	8.40	3.84	
26	13次	北地区	12T	SI1307周溝		石鏃未成品	凝灰岩	弥生	34.20	19.80	10.60	3.69	
27	13次	北地区	13T	SD1011A区6層		石鏃未成品	珪質頁岩	弥生	30.40	17.80	6.70	2.33	
28	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層		石鏃未成品	凝灰岩	弥生	19.80	12.55	3.55	0.84	
29	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) Pit12		石鏃未成品	珪質流紋岩	弥生	19.45	6.65	3.40	1.24	
30	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401)		石鏃未成品	珪質流紋岩	弥生	24.50	16.80	5.70	2.06	
31	13次	北地区	18T	SI1311		石鏃未成品	珪質流紋岩	弥生	22.00	9.80	3.80	0.71	
32	13次	北地区	13T	SD1011A区1・4・6層		石鏃未成品	凝灰岩	弥生	22.30	17.50	10.50	2.35	
33	13次	北地区	19T	SI1313Pit 4		石鏃	珪質頁岩	弥生	39.50	19.10	9.80	6.56	
34	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3・4層		石鏃	珪質頁岩	弥生	24.20	8.85	6.20	1.51	
35	13次	北地区	12T	SI1307周溝下層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	31.30	43.10	12.60	15.32	
36	13次	北地区	12T	SI1307周溝最上層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	34.80	48.60	17.80	29.25	
37	13次	北地区	19T	2区		不定形石器	黒曜石	弥生	21.60	18.90	7.80	2.63	
38	13次	北地区	12T	SI1307壁溝5層		不定形石器	珪質凝灰岩	弥生	27.00	20.50	6.20	3.51	
39	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		不定形石器	珪質頁岩	弥生	34.90	28.30	6.50	6.56	
40	13次	北地区	12T	SI1307Pit 4 a		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	34.60	28.80	8.60	6.94	
41	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3・4層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	35.05	27.25	6.55	5.10	
42	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層		不定形石器	珪質凝灰岩	弥生	29.65	18.40	5.30	3.43	
43	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層	51.58	不定形石器	珪質流紋岩	弥生	44.50	46.50	9.50	20.09	
44	13次	北地区	12T	SI1307周溝上層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	32.00	35.80	15.10	12.15	
45	13次	北地区	12T	SD03S16A区1～6層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	36.90	21.20	9.80	7.81	
46	13次	北地区	12T	13区		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	41.50	19.90	7.30	4.86	
47	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	41.10	51.10	8.90	14.68	
48	13次	北地区	12T	SI1307		不定形石器	珪質頁岩	弥生	54.00	43.20	11.20	22.10	
49	13次	北地区	16T	SI1309 1e・1層		不定形石器	珪質頁岩	弥生	44.30	28.20	13.10	12.93	
50	13次	北地区	12T	SI1307壁溝5層		不定形石器	珪質流紋岩	弥生	62.70	60.20	15.30	51.89	
51	13次	北地区	19T	SI1313		両極石器	緑色凝灰岩	弥生	31.90	25.00	9.20	9.08	
52	13次	北地区	13T	4区		両極石器	珪質流紋岩	弥生	23.20	21.00	8.40	3.48	
53	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3層		両極石器	黒曜石	弥生	19.30	11.00	7.80	1.46	
54	13次	北地区	15B T	SD1011 10～14層		両極石器	緑色凝灰岩	弥生	34.80	22.70	11.70	8.35	
55	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 4層	51.53	石核	凝灰岩	弥生	39.35	45.30	43.30	61.86	
56	13次	北地区	12T	4区		大型蛤刃石斧	緑色安山岩	弥生	55.20	50.80	22.40	90.66	
57	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 4層	51.54	菅玉	緑色凝灰岩	弥生	15.40	10.00	5.00	1.06	
58	14次	北地区	10T	32区		ガラス玉	ガラス	弥生	7.50	7.55	5.90	0.42	
59	13次	北地区	2 T	1区		ガラス玉	ガラス	弥生	4.10	4.00	2.30	0.06	
60	13次	北地区	16T	1区 I d層		石包丁横石器	凝灰岩	弥生	38.10	58.20	9.60	16.54	
61	13次	北地区	12T	13区		軽石製石製品	軽石	弥生	55.80	56.20	33.40	24.78	
62	13次	北地区	12T	SD03S16A区1～6層		軽石製石製品	軽石	弥生	51.50	48.60	25.00	13.79	
63	13次	北地区	15A T	2区		石鏃	安山岩	弥生	74.60	76.50	24.90	169.08	
64	13次	北地区	12T	10次10T排土		砥石	凝灰岩	弥生	17.30	29.50	24.80	13.64	
65	13次	北地区	12T	13区		砥石	緑色凝灰岩	弥生	56.40	42.30	16.80	30.36	
66	13次	北地区	6 T	10区		砥石	緑色凝灰岩	弥生	63.20	29.00	28.90	62.54	
67	13次	北地区	16T	SI1309 1層		砥石	軽石	弥生	33.20	28.90	23.40	5.03	
68	13次	北地区	2 T	2区		砥石	凝灰岩	弥生	73.40	30.00	26.40	76.64	
69	13次	北地区	4 T	10区		砥石+叩石	凝灰岩	弥生	79.60	61.70	39.50	134.74	
70	13次	北地区	18T	4区		砥石	安山岩	弥生	119.40	72.00	37.00	401.48	
71	13次	北地区	15A T	SD1011 1層		砥石	頁岩	弥生	99.70	57.00	36.90	238.03	
72	13次	北地区	7 T	SD D03S10C区1・2層		砥石	安山岩	弥生	191.50	124.00	89.00	2369.28	
73	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 4層	51.54	磨石	安山岩	弥生	32.30	73.10	61.50	170.52	
74	14次	北地区	1 T	SI03S21 (SI1401) 3・5層	51.48	凹石	安山岩	弥生	149.85	106.85	77.10	1571.72	炉脇出土

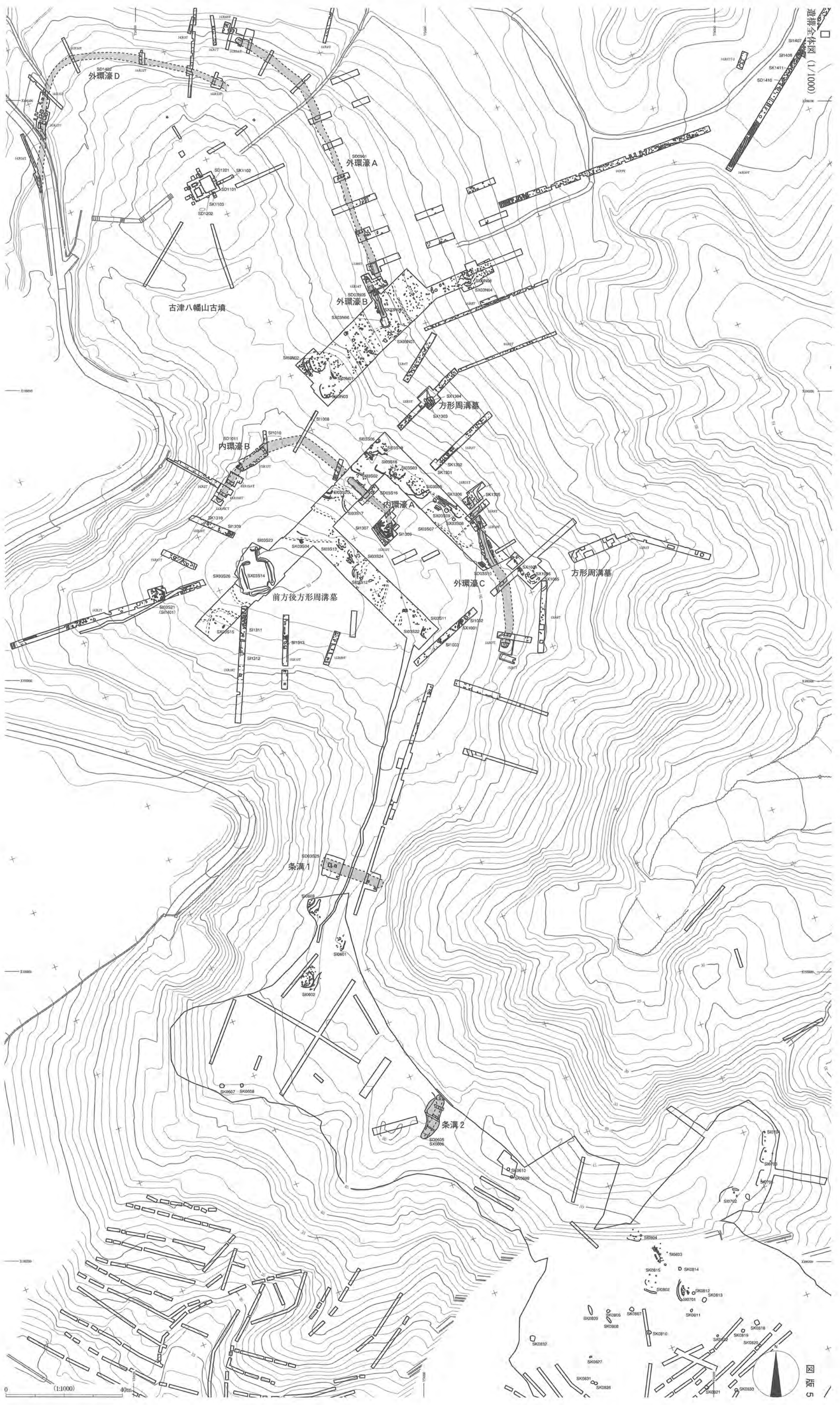
(遺物標高：m、長さ・幅・厚さ：mm、重量：g)

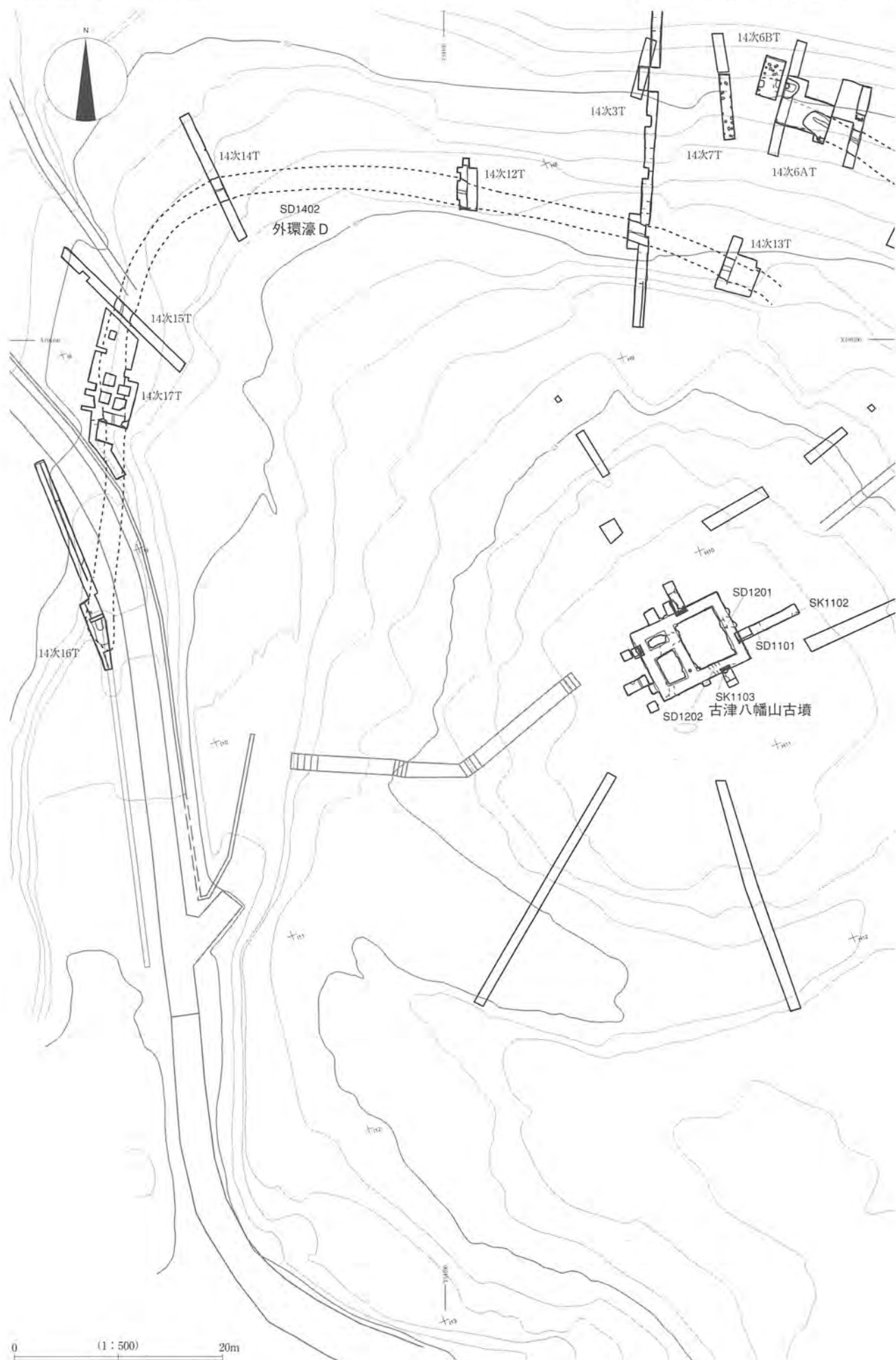




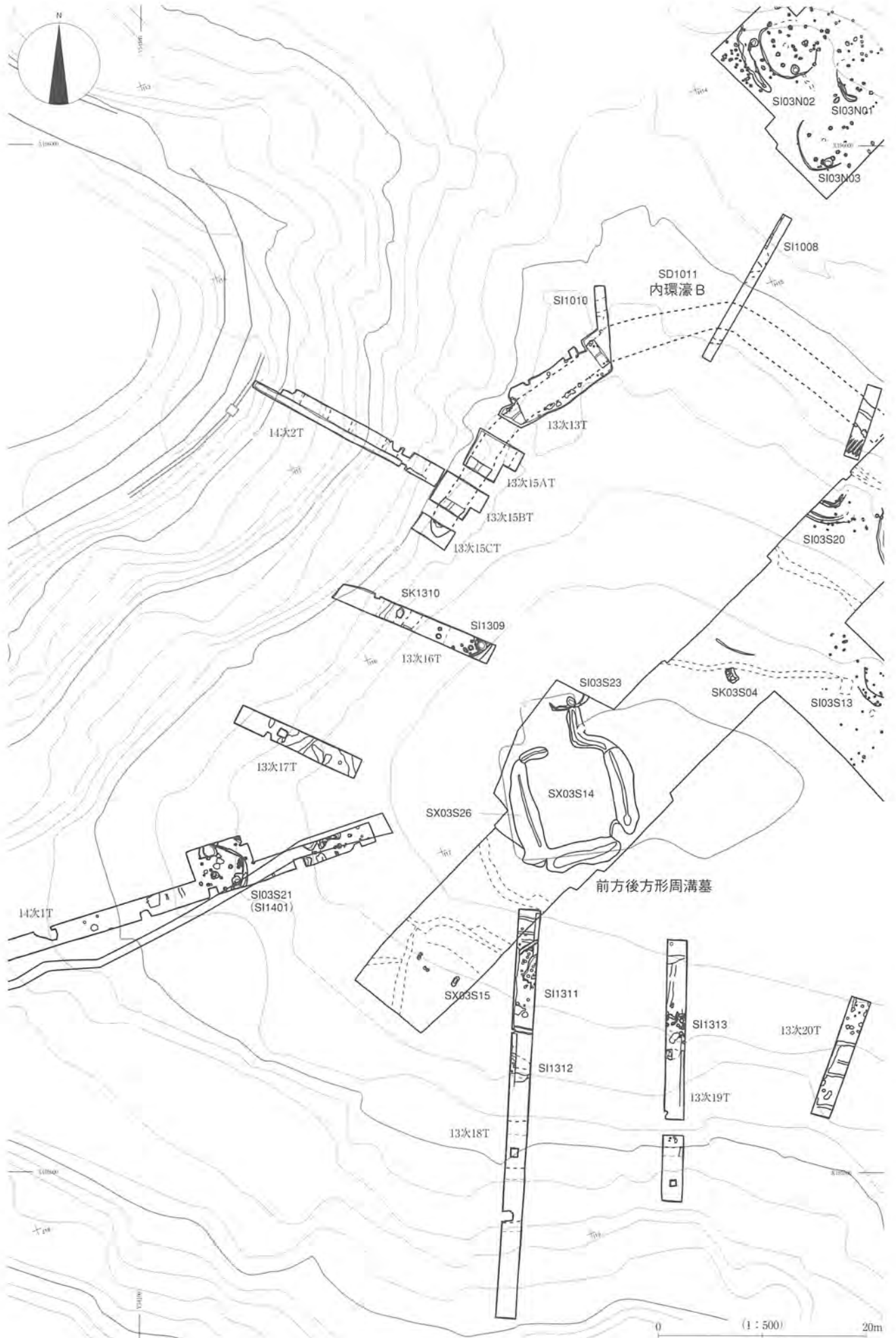


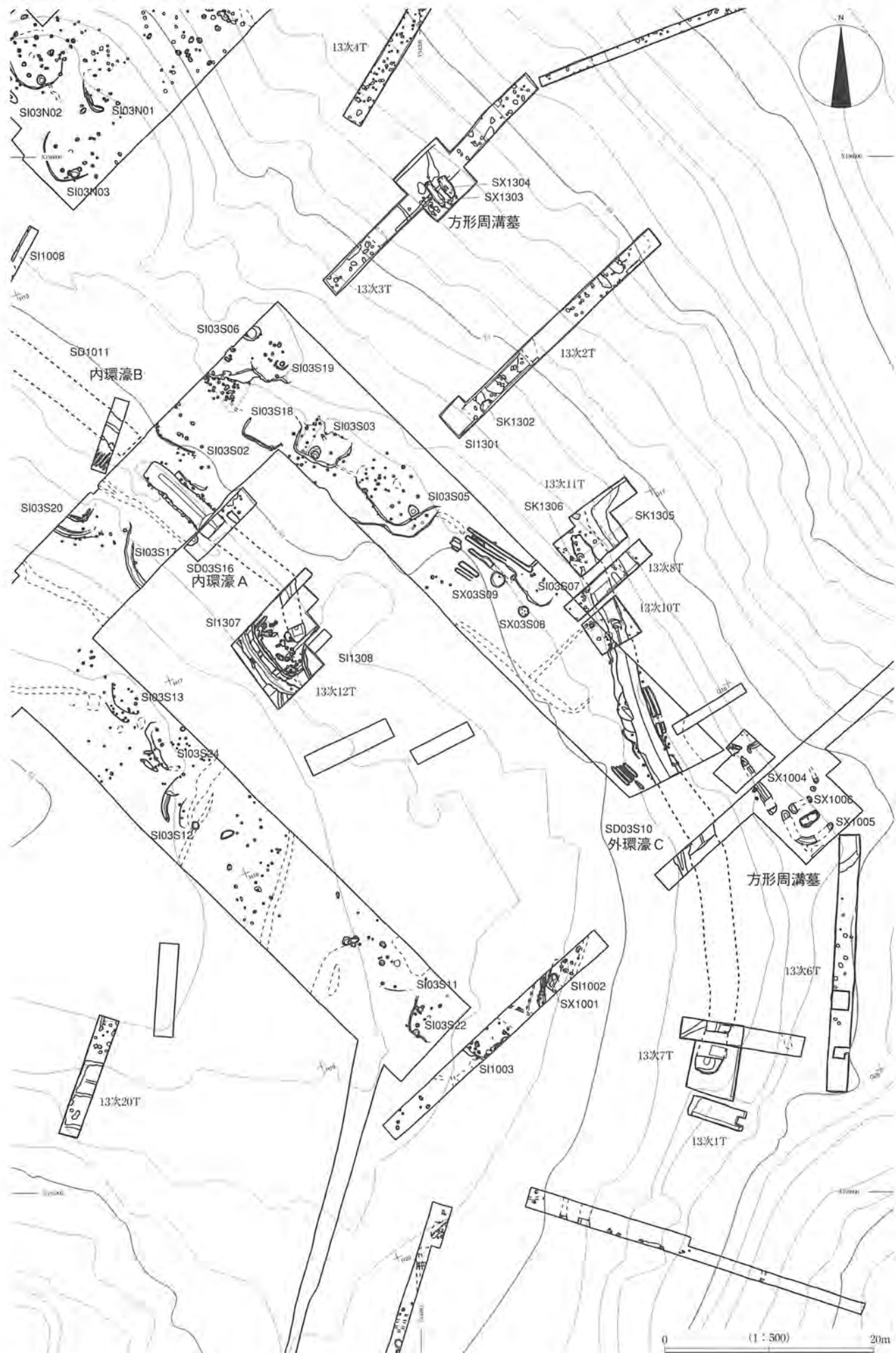


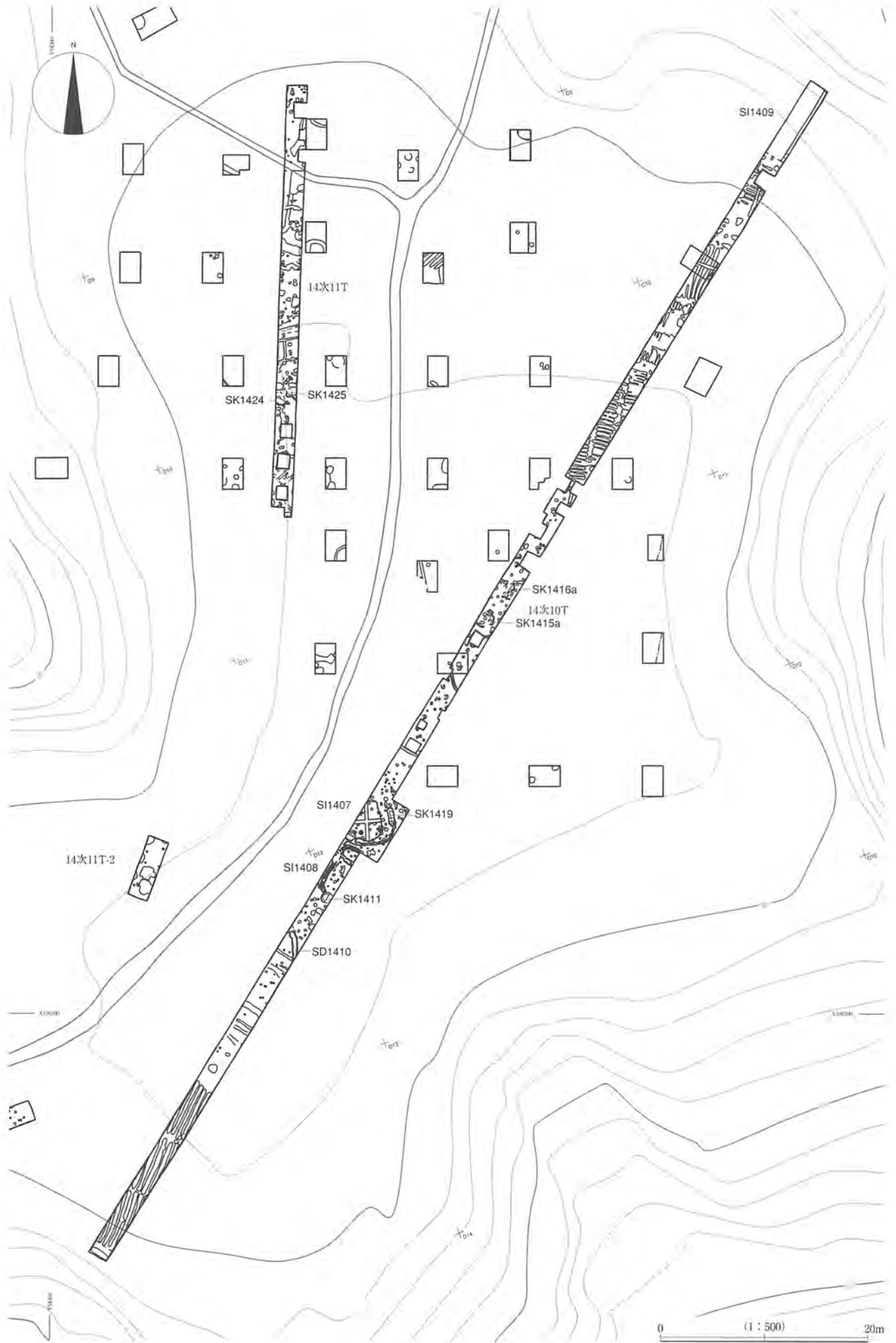


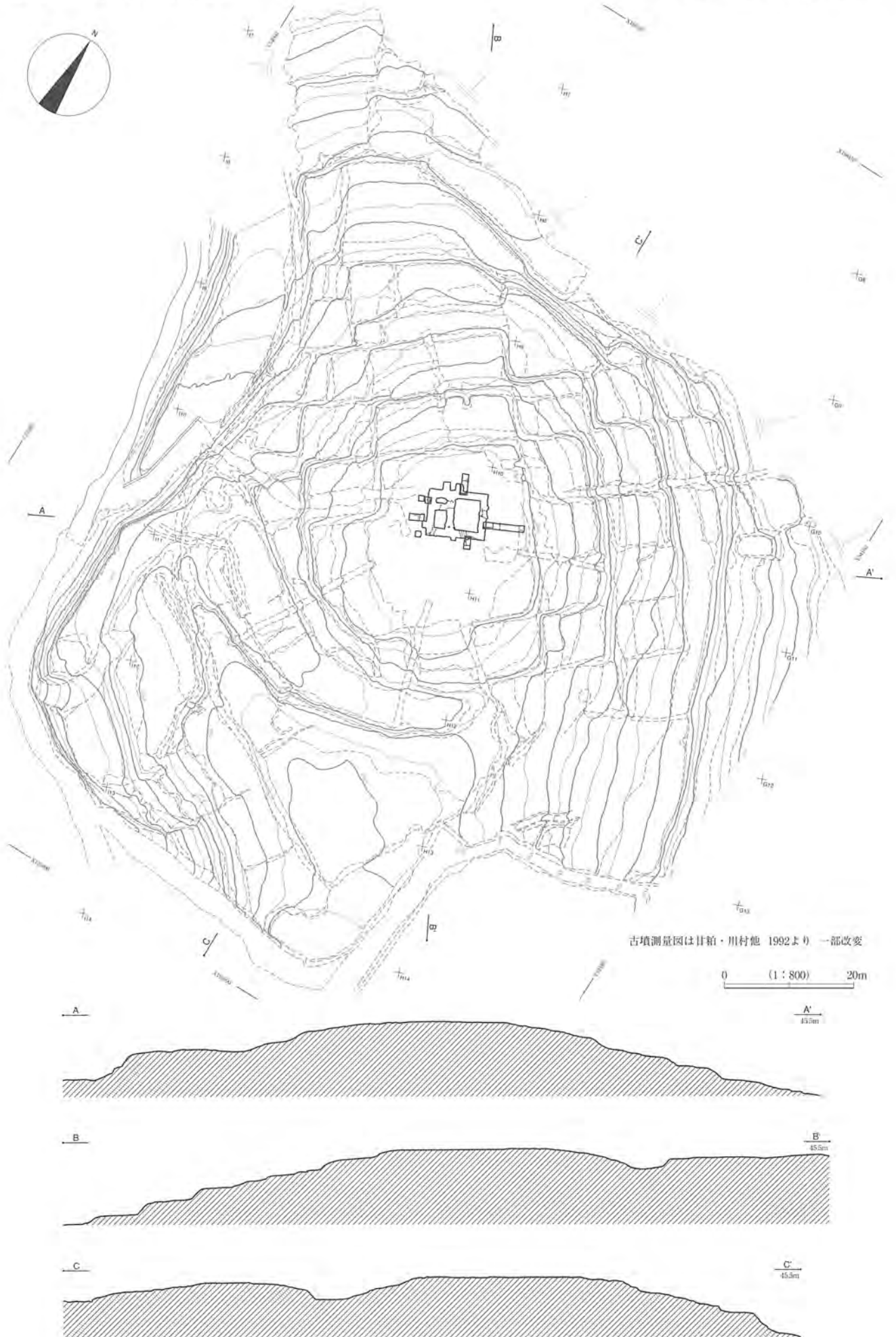


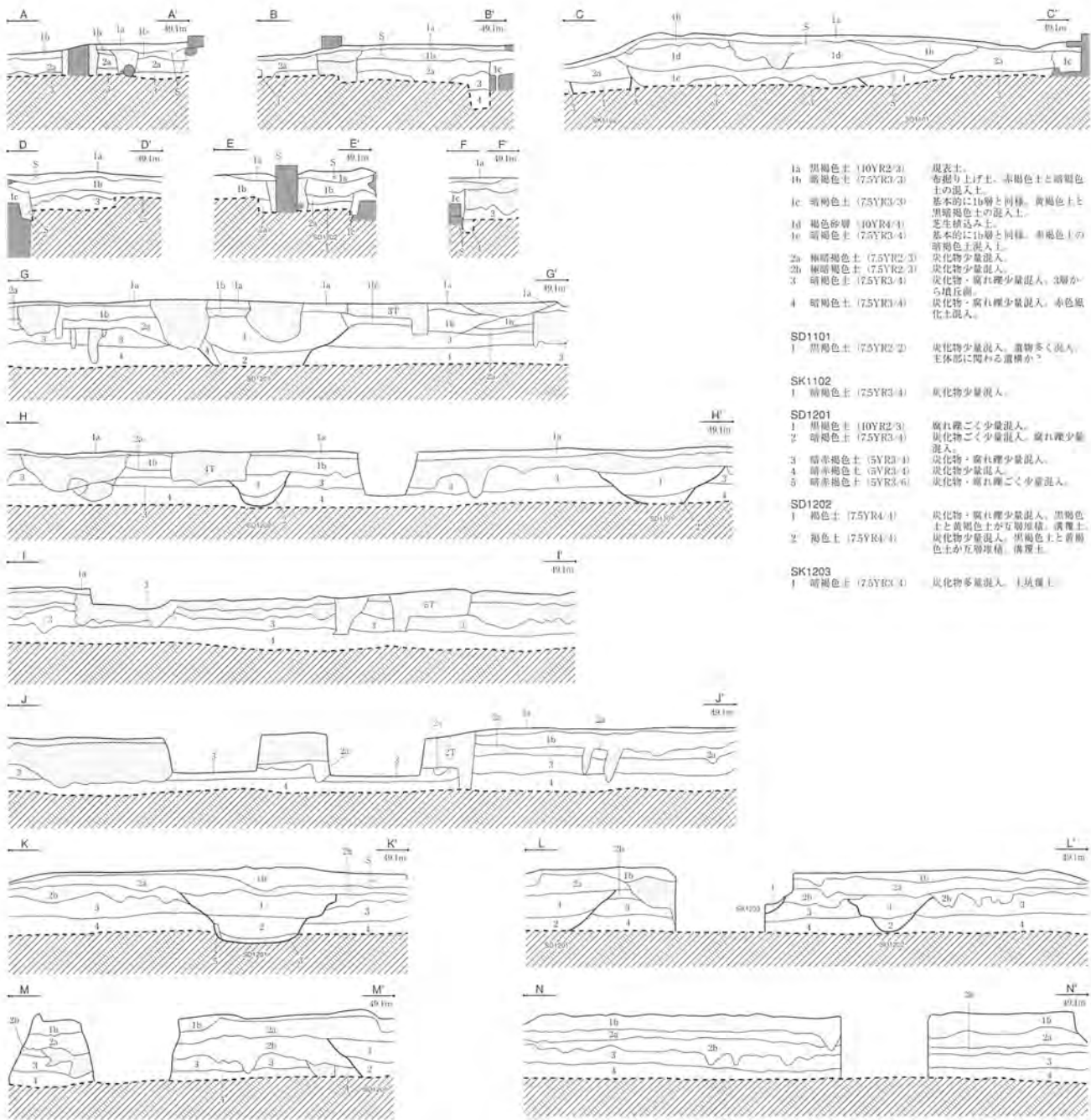
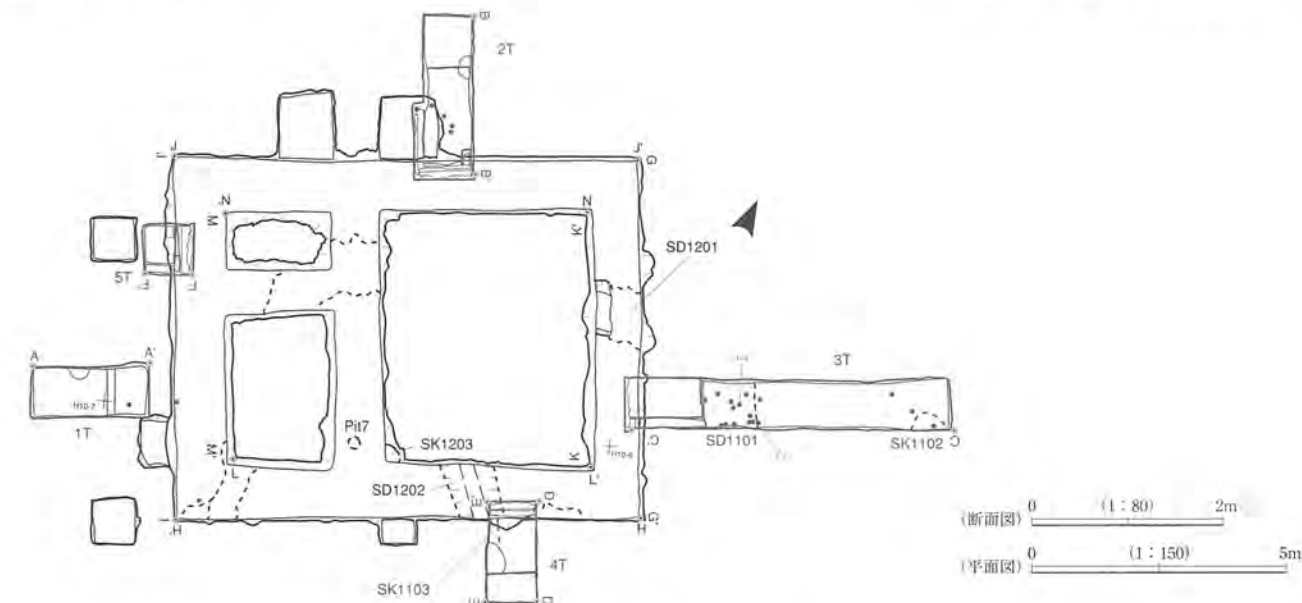




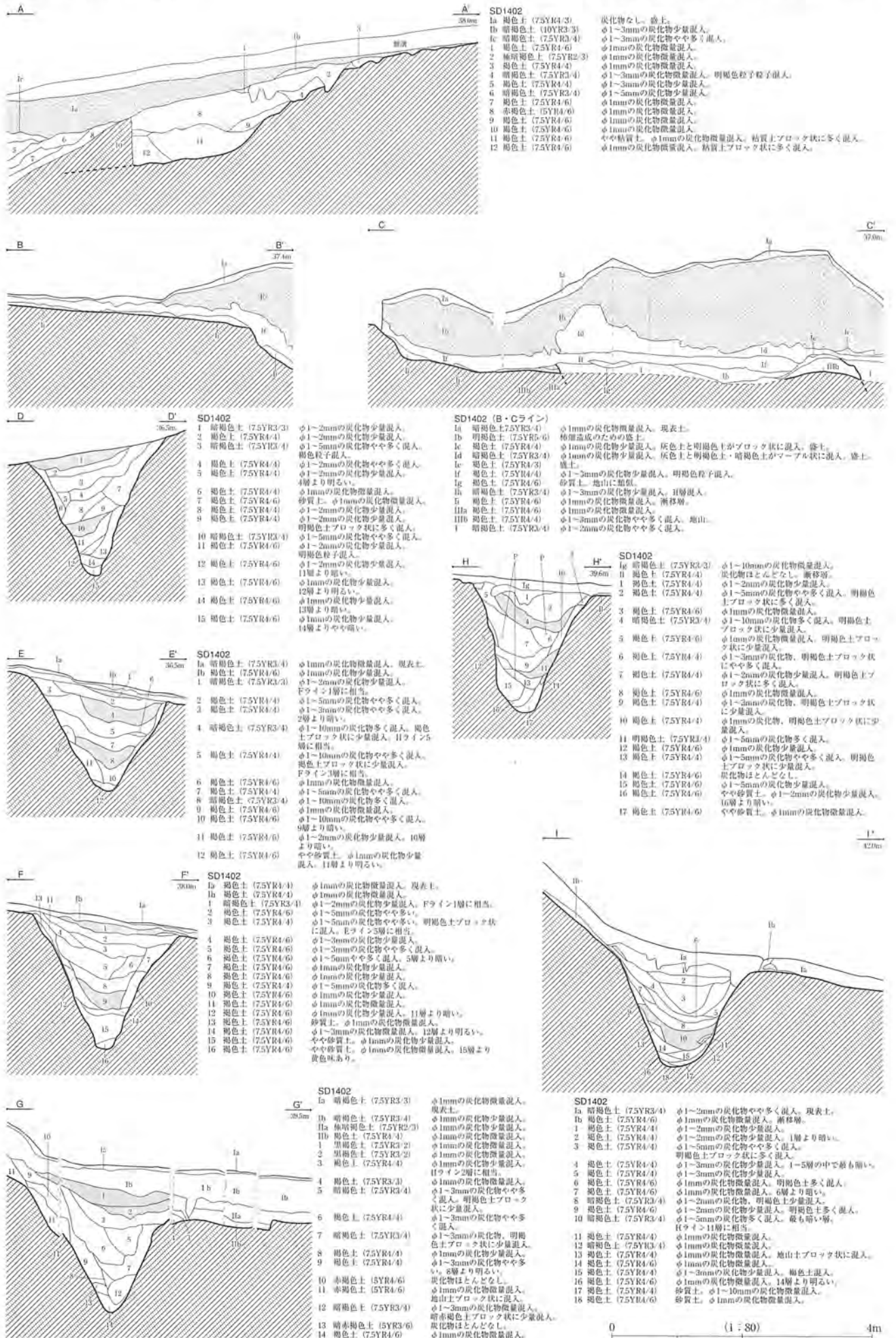




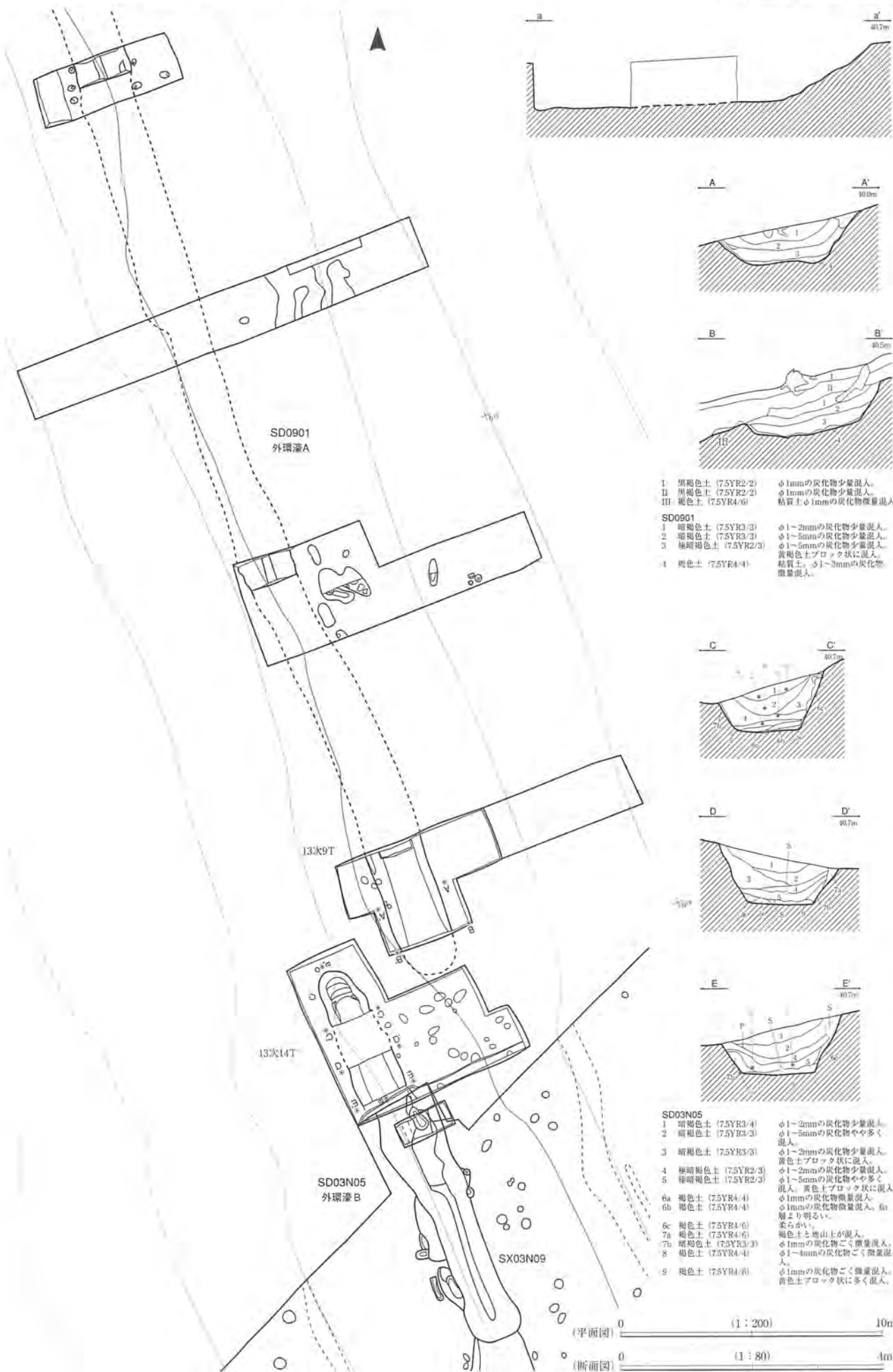


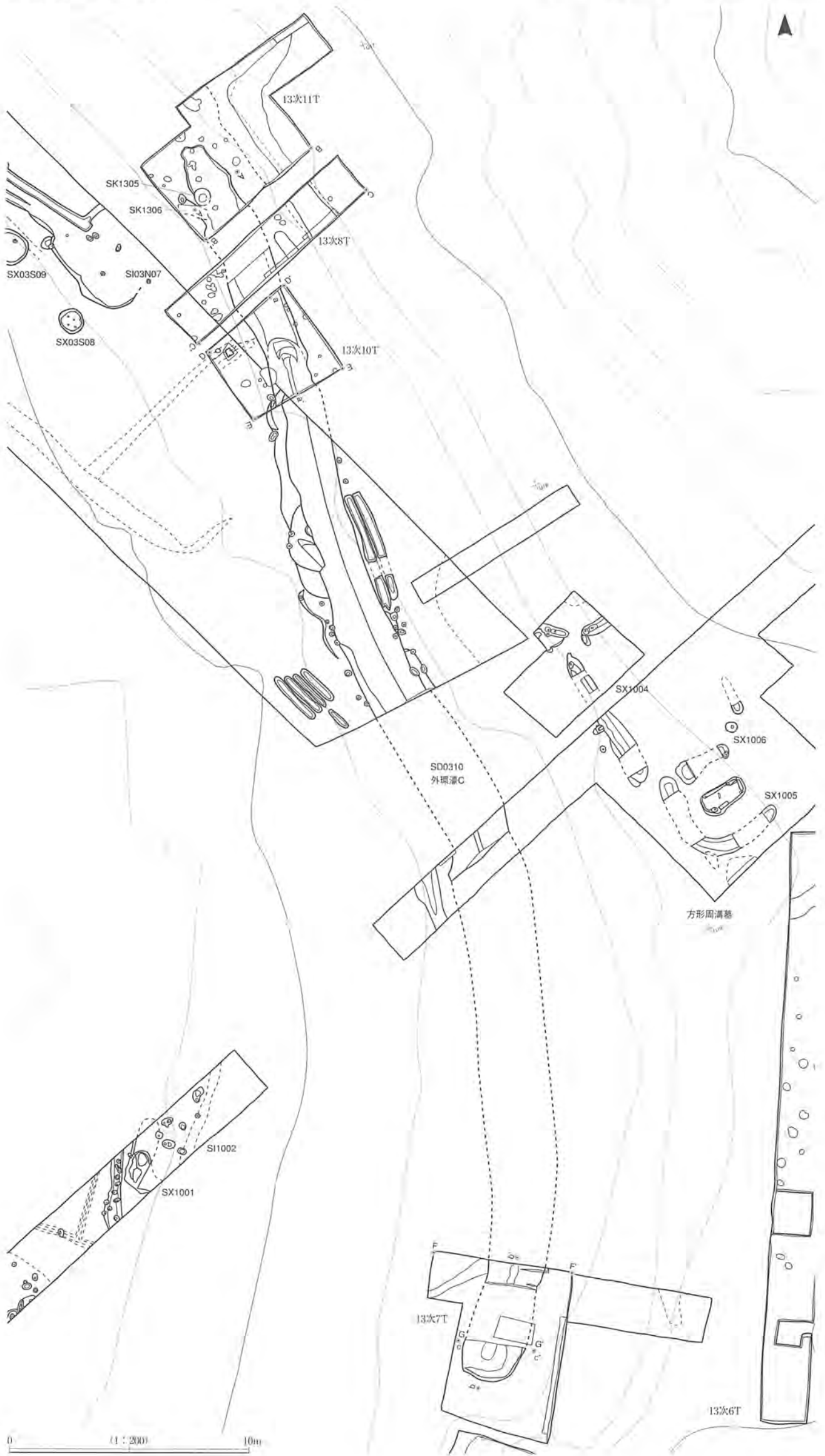


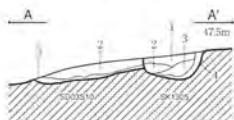
- 1a 黒褐色土 (10YR2/3) 表層土。
 - 1b 黄褐色土 (7.5YR3/3) 巻起り上り土。赤褐色土と暗褐色土の混入土。
 - 1c 暗褐色土 (7.5YR3/3) 基本的に1b層と同様。黄褐色土と黒暗褐色土の混入土。
 - 1d 褐色砂質 (10YR4/4) 芝生踏み込み土。
 - 1e 暗褐色土 (7.5YR3/4) 基本的に1b層と同様。赤褐色土の暗褐色土混入土。
 - 2a 黒暗褐色土 (7.5YR2/3) 炭化物少量混入。
 - 2b 黒暗褐色土 (7.5YR2/3) 炭化物少量混入。
 - 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物・腐れ鏝少量混入。3層から堆積層。
 - 4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物・腐れ鏝少量混入。赤色炭化物土混入。
- SD1101
- 1 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物少量混入。遺物多く混入。主体系に開ける遺構か？
- SK1102
- 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物少量混入。
- SD1201
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 腐れ鏝ごく少量混入。
 - 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物ごく少量混入。腐れ鏝少量混入。
 - 3 暗赤褐色土 (5YR3/4) 炭化物・腐れ鏝少量混入。
 - 4 暗赤褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物少量混入。
 - 5 暗赤褐色土 (5YR3/6) 炭化物・腐れ鏝ごく少量混入。
- SD1202
- 1 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物・腐れ鏝少量混入。黒褐色土と黄褐色土が互層堆積。溝層土。
 - 2 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物少量混入。黒褐色土と黄褐色土が互層堆積。溝層土。
- SK1203
- 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物多量混入。土坑層土。







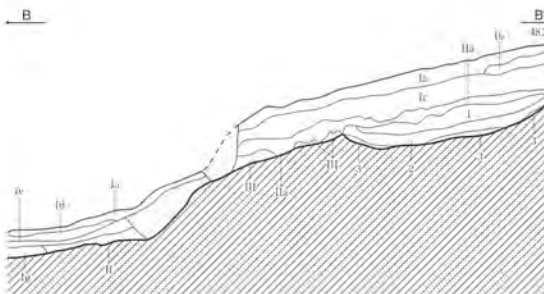




SK1305
 1 暗褐色土 (10YR3/4) φ2~5mmの炭化物少量混入。
 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~5mmの炭化物少量混入。腐葉土3層混入。
 3 褐色土 (7.5YR4/4) φ2mmの炭化物少量混入。腐葉土3層混入。
 4 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。

SD03S10

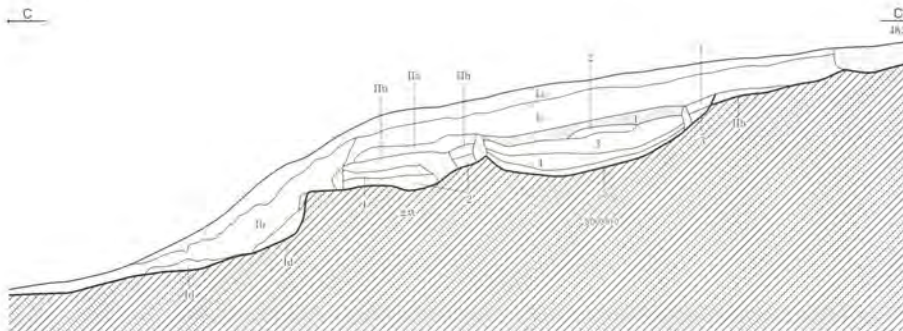
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~5mmの炭化物少量混入。
 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。



Ia 暗褐色土 (10YR3/3) φ5mmの炭化物少量混入。現表土。
 Ib 極暗褐色土 (7.5YR2/3) φ2mmの炭化物少量混入。黄褐色土ブロック状に混入。
 Ic 黒褐色土 (10YR2/3) φ5mmの炭化物少量混入。
 Id 暗褐色土 (10YR2/3) φ5mmの炭化物少量混入。
 Ie 極暗褐色土 (7.5YR2/3) φ1~2mmの炭化物ごく少量混入。炭化物はほとんどなし。
 If 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ1~2mmの炭化物ごく少量混入。炭化物はほとんどなし。
 Ig 極暗褐色土 (7.5YR2/3) φ1~2mmの炭化物ごく少量混入。炭化物はほとんどなし。
 III 暗褐色土 (7.5YR3/4)

SD03S10

1 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ1~2mmの炭化物少量混入。
 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ5mmの炭化物少量混入。
 3 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。



Ia 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物混入。公園造成土(黄褐色土)混入。現表土。
 Ib 暗褐色土 (7.5YR3/3) 畑造成の段切。
 Ic 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物少量混入。
 Id 暗褐色土 (7.5YR3/3) 地山土ブロック状に混入。畑造成の段切。
 IIa 暗褐色土 (7.5YR3/4) Ic層より明るい。
 IIb 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物少量混入。

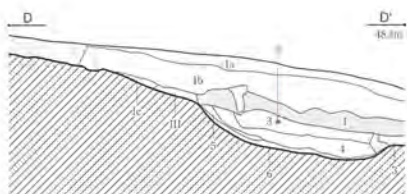
土坑

1 暗褐色土 (7.5YR3/4) 土坑覆土

2 暗褐色土 (7.5YR3/3) 土坑覆土

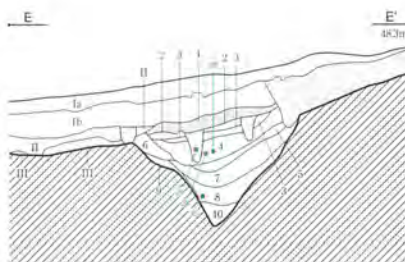
SD03S10

1 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物少量混入。
 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物少量混入。
 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭化物少量混入。φ3~4mmの炭化物混入。
 4 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物やや多く混入。

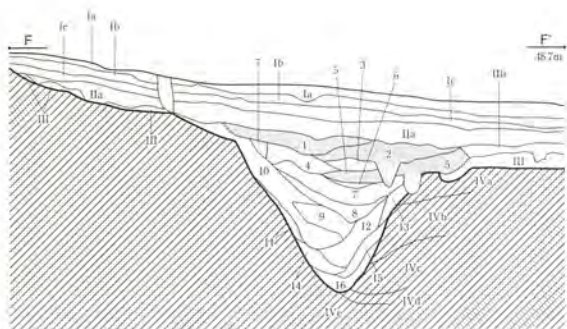


SD03S10

1 黒褐色土 (10YR3/1) φ1~2mmの炭化物微量混入。
 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ1~2mmの炭化物微量混入。
 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~5mmの炭化物少量混入。
 4 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~3mmの炭化物少量混入。
 5 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ2~4mmの炭化物少量混入。黄褐色粒子混入。
 6 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ2~3mmの炭化物少量混入。黄褐色粒子混入。
 7 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ2~3mmの炭化物少量混入。黄褐色土。黒色粒子混入。
 8 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ2~3mmの炭化物少量混入。黄褐色土。黒色粒子混入。
 9 褐色土 (7.5YR4/4) やや砂質土。
 10 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。黄褐色土ブロック状に混入。黒色粒子混入。



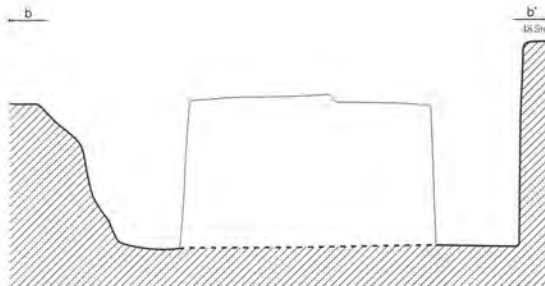
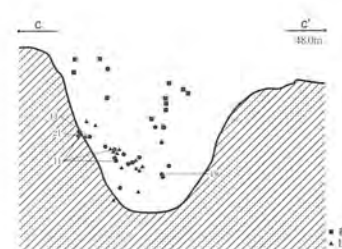
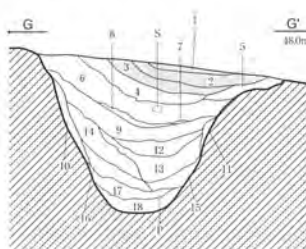
Ia 褐色土 (7.5YR4/4) 現表土。
 Ib にぶ・黄褐色土 (10YR4/3) 炭化物少量混入。
 II 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量混入。
 III 褐色土 (7.5YR4/6)

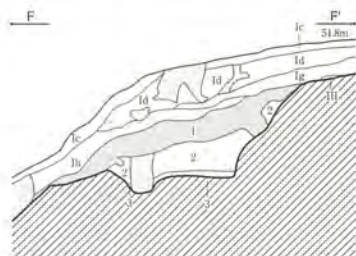
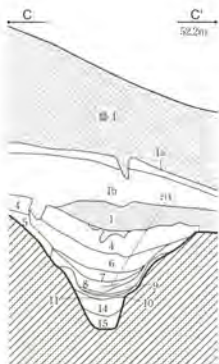
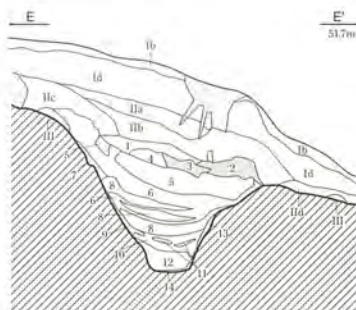
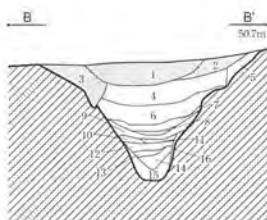
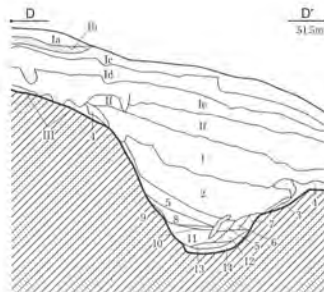
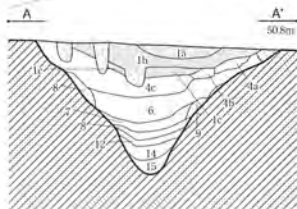
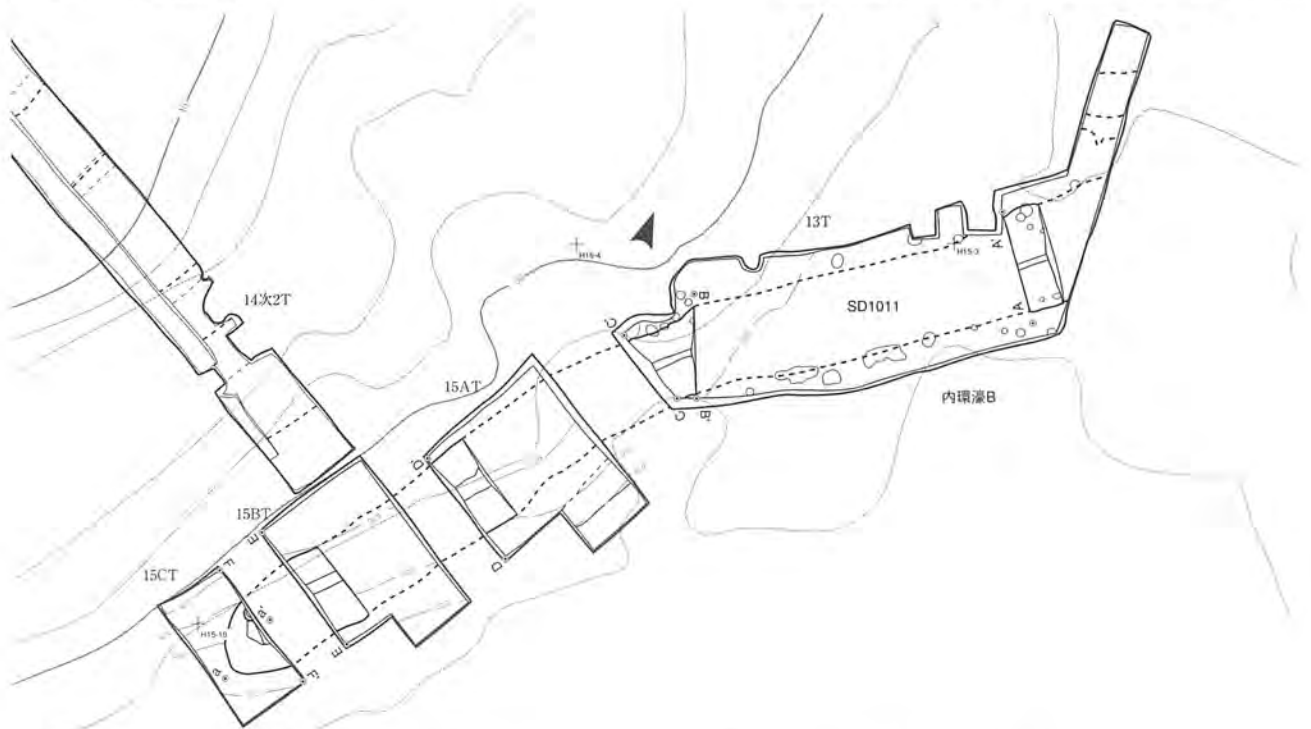


Ia 褐色土 (7.5YR4/4) φ3mmの炭化物少量混入。現表土。
 Ib 褐色土 (7.5YR4/4) φ2~4mmの炭化物少量混入。
 Ic 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~4mmの炭化物微量混入。
 IIa 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~4mmの炭化物微量混入。
 IIb 暗褐色土 (7.5YR2/4) φ2mmの炭化物微量混入。
 III 褐色土 (7.5YR4/6)
 IVa 褐色土 (7.5YR4/6)
 IVb 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。φ2mmの炭化物ごく微量混入。
 IVc 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質土。黒色粒子ブロック状に混入。
 IVd 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質土。φ3mmの炭化物ごく微量混入。黒色粒子ブロック状に混入。
 IVe 褐色土 (7.5YR4/6) 粘質土。黒色粒子ブロック状に多く混入。

SD03S10

1 極暗褐色土 (7.5YR2/3) φ3mmの炭化物ごく微量混入。
 2 黒褐色土 (7.5YR2/2) φ3mmの炭化物ごく微量混入。
 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~3mmの炭化物微量混入。
 4 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ3~10mmの炭化物少量混入。ロームブロック混入。
 5 黒褐色土 (7.5YR2/2) φ2~5mmの炭化物少量混入。ロームブロック混入。
 6 褐色土 (7.5YR4/4) φ2~10mmの炭化物少量混入。ロームブロック混入。
 7 褐色土 (7.5YR4/4) φ10mmの炭化物少量混入。ロームブロック混入。
 8 褐色土 (7.5YR4/4) φ2~3mmの炭化物微量混入。7層より少量のロームブロック混入。
 9 暗褐色土 (7.5YR3/4) やや砂質土。φ2~5mmの炭化物少量混入。黒色粒子混入。
 10 褐色土 (7.5YR4/4) やや砂質土。φ3~5mmの炭化物少量混入。
 11 褐色土 (7.5YR4/4) やや砂質土。φ2mmの炭化物ごく微量混入。
 12 暗褐色土 (7.5YR3/4) やや砂質土。φ2~3mmの炭化物微量混入。
 13 暗褐色土 (7.5YR3/4) やや砂質土。φ2mmの炭化物微量混入。黒色粒子9層より多く混入。
 14 暗褐色土 (7.5YR3/3) やや砂質土。φ2mmの炭化物微量混入。A区では遺物多く混入。
 15 暗褐色土 (7.5YR3/4) やや砂質土。φ2mmの炭化物微量混入。黒色粒子混入。A区では遺物多く混入。
 16 褐色土 (7.5YR4/4) 砂質土。φ2mmの炭化物微量混入。黒色粒子混入。
 17 褐色土 (7.5YR4/4) 15・16層より砂質弱い。φ2mmの炭化物微量混入。
 18 明褐色土 (7.5YR5/8) 砂質土。黒色粒子混入。





1a 黒褐色土 (10YR2/2) φ2~5mmの炭化物少量混入。遺物混入。
 1b 黒褐色土 (10YR2/2) φ2~5mmの炭化物少量混入。遺物混入。

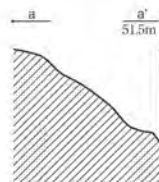
SD1011
 1a 黒色土 (7.5YR1/7) φ1mmの炭化物微量混入。
 1b 黒色土 (10YR1/7) φ1~3mmの炭化物微量混入。
 1c 黒色土 (10YR1/7) φ1~3mmの炭化物少量混入。下部にφ2cmの炭化物混入。
 2 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物ほとんどなし。
 3 黒褐色土 (7.5YR2/2) φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 4a 黒褐色土 (10YR3/4) φ1mmの炭化物微量混入。
 4b 黒褐色土 (10YR2/3) φ1mmの炭化物微量混入。
 4c 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2~5mmの炭化物多く混入。
 5 赤褐色土 (5YR4/6) 砂質土。褐色土と赤褐色土がマゼル状に混入。
 6 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ1~5mmの炭化物多く混入。黄色粒子混入。遺物混入。
 7 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物微量混入。黄色粒子混入。
 8 褐色土 (7.5YR4/4) A区は粘質土。B区はやや砂質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。黄色粒子・遺物混入。
 9 褐色土 (7.5YR4/6) 粘質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 10 褐色土 (7.5YR4/6) A区は粘質土。B区は砂質土。φ1~5mmの炭化物少量混入。
 11 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質土。炭化物ほとんどなし。
 12 褐色土 (7.5YR4/4) A区は粘質土。B区は砂質土。φ1mmの炭化物微量混入。赤褐色粘質土混入。
 13 褐色土 (7.5YR4/4) やや粘質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 14 褐色土 (7.5YR4/4) やや粘質土。φ2~5mmの炭化物微量混入。赤褐色粘質土少量混入。遺物混入。13層より薄い。
 15 褐色土 (7.5YR4/6) A区は粘質土。B区は砂質土。黄白色粘質土少量混入。炭化物ほとんどなし。
 16 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質土。炭化物ほとんどなし。

Ia 灰黄褐色土 (10YR4/2) 現表土。
 Ib 黄褐色土 (10YR5/8) 公園造成土。
 Ic 黒褐色土 (7.5YR3/2) 現表土。
 Id 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 Ie 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 If 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。黄色粒子わずかに混入。
 Ig 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ1~2mmの炭化物ごく微量混入。
 Ih 褐色土 (7.5YR4/3) φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 IIa 暗褐色土 (10YR3/4) φ1~3mmの炭化物やや多い。
 IIb 極暗褐色土 (7.5YR2/3) φ1mmの炭化物少量混入。
 IIc 暗褐色土 (10YR3/4) φ1mmの炭化物少量混入。
 IId 暗褐色土 (10YR3/4) φ1mmの炭化物少量混入。

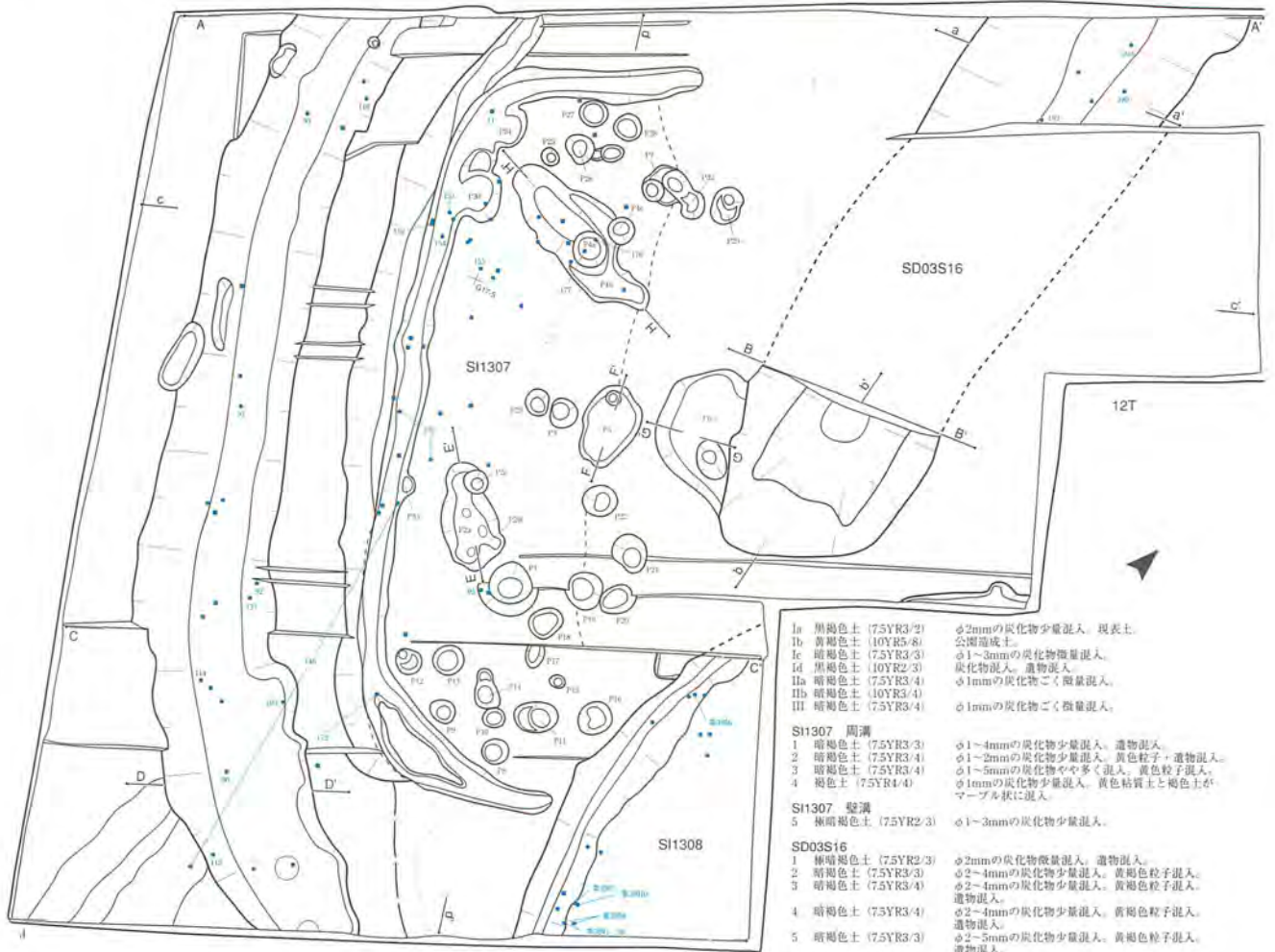
SD1011
 1 黒色土 (7.5YR1/7) φ1mmの炭化物微量混入。
 2 黒褐色土 (10YR2/4) φ1mmの炭化物微量混入。
 3 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。地山土混入。
 4 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。地山土・黄色粒子混入。
 5 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物微量混入。黄色粒子混入。
 6 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物微量混入。φ5~10mmの白色粒子混入。
 7 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物微量混入。φ5mmの白色粒子混入。6層よりやや明るい。
 8 褐色土 (7.5YR4/4) A区は粘質土。B区はやや砂質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。黄色粒子・遺物混入。
 9 明褐色土 (7.5YR5/6) 砂質土。
 10 褐色土 (7.5YR4/6) 砂質土。
 11 褐色土 (7.5YR4/4) A区は粘質土。B区は砂質土。φ1mmの炭化物微量混入。白色粒子φ5~10mm混入。6層よりやや暗い。
 12 褐色土 (7.5YR4/4) やや粘質土。φ2~5mmの炭化物微量混入。赤褐色粘質土少量混入。遺物混入。
 13 褐色土 (7.5YR4/4) A区は粘質土。B区は砂質土。黄白色粘質土少量混入。
 14 褐色土 (7.5YR4/6) A区は粘質土。B区は砂質土。黄白色粘質土少量混入。

SD1011
 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ1mmの炭化物少量混入。黄色粒子混入。
 2 黒褐色土 (7.5YR2/2) φ1~3mmの炭化物少量混入。
 3 黒色土 (7.5YR1/7) φ1mmの炭化物微量混入。
 4 黒褐色土 (10YR2/3) φ1mmの炭化物微量混入。
 5 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。地山土・黄色粒子混入。
 6 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物微量混入。φ5~10mmの白色粒子混入。
 7 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物少量混入。地山土混入。
 8 褐色土 (7.5YR4/4) φ1~3mmの炭化物やや多く混入。
 9 褐色土 (7.5YR4/4) 砂質土。
 10 褐色土 (7.5YR4/4) φ1mmの炭化物ごく微量混入。地山土・黄色粒子混入。
 11 褐色土 (7.5YR4/4) 砂質土。φ1mmの炭化物ごく微量混入。
 12 明赤褐色土 (5YR5/6) φ1~3mmの炭化物少量混入。白色粒子混入。
 13 褐色土 (7.5YR4/4) 砂質土。
 14 明褐色土 (7.5YR5/8) 砂質土。黒色粒子混入。

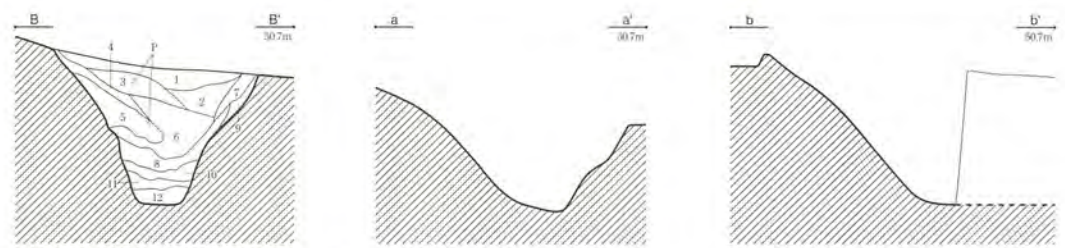
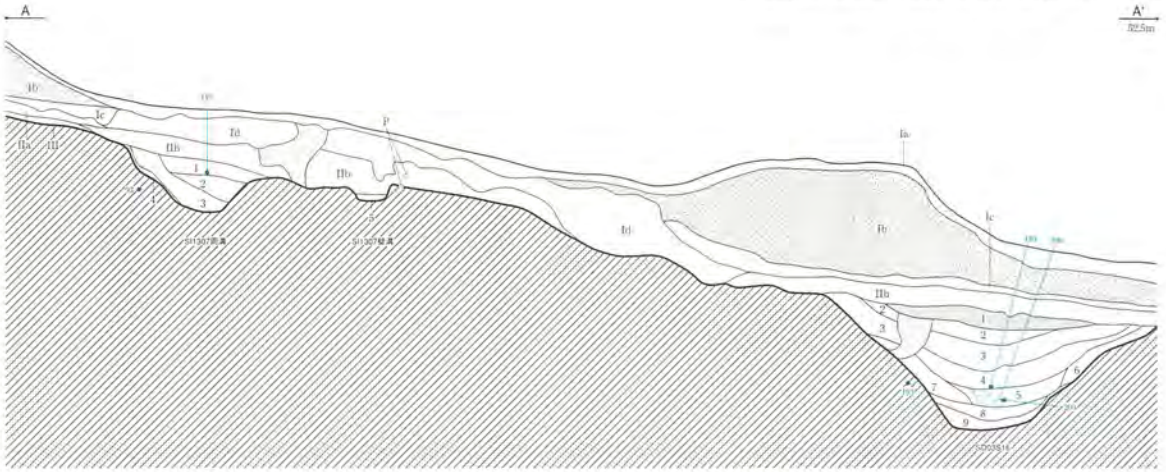
SD1011
 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ1~5mmの炭化物やや多く混入。黄色粒子混入。
 2 褐色土 (7.5YR4/4) φ1~5mmの炭化物やや多く混入。
 3 褐色土 (7.5YR4/4) 地山土混入。



(断面図) 0 (1:80) 4m
 (平面図) 0 (1:200) 10m

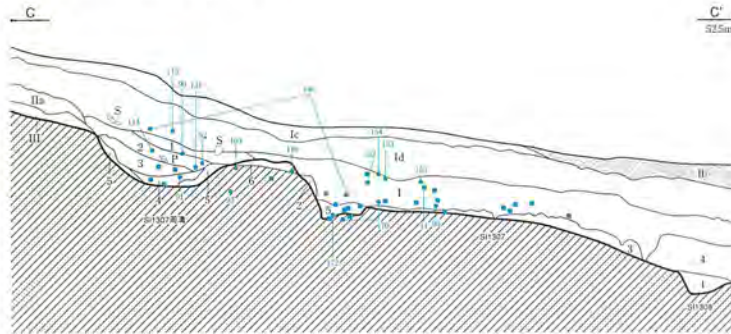


- IIa 黒褐色土 (7.5YR3/2) ϕ 2mmの炭化物少量混入。現表土。
 - IIb 黄褐色土 (10YR5/6)
 - IIc 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1-3mmの炭化物微量混入。
 - IIa 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物混入。遺物混入。
 - IIa 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。
 - IIb 暗褐色土 (10YR3/4)
 - III 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。
- SI1307 周溝**
- 1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1-4mmの炭化物少量混入。遺物混入。
 - 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1-2mmの炭化物少量混入。黄色粒子・遺物混入。
 - 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1-5mmの炭化物やや多く混入。黄色粒子混入。
 - 4 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1mmの炭化物少量混入。黄色結晶土と褐色土がマール状に混入。
- SI1307 竪溝**
- 5 黒暗褐色土 (7.5YR2/3) ϕ 1-3mmの炭化物少量混入。
- SD03S16**
- 1 黒暗褐色土 (7.5YR2/3) ϕ 2mmの炭化物微量混入。遺物混入。
 - 2 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 2-4mmの炭化物少量混入。黄褐色粒子混入。
 - 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 2-4mmの炭化物少量混入。黄褐色粒子混入。遺物混入。
 - 4 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 2-4mmの炭化物少量混入。黄褐色粒子混入。遺物混入。
 - 5 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 2-5mmの炭化物少量混入。黄褐色粒子混入。遺物混入。
 - 6 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。
 - 7 褐色土 (7.5YR4/6)
 - 8 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。
 - 9 暗赤褐色土 (5YR3/6) 粘質土。茶褐色土と暗赤褐色土がマール状に混入。



- SD03S16**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 1-3mmの炭化物微量混入。遺物混入。
 - 2 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 2mmの炭化物少量混入。黄色土ブロック状に混入。
 - 3 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 2mmの炭化物少量混入。黄色土が2層より多くブロック状に混入。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) ϕ 2mmの炭化物少量混入。黄色土ブロック状に混入。遺物混入。
 - 5 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 2mmの炭化物少量混入。黄色土ブロック状に混入。遺物混入。
 - 6 褐色土 (7.5YR4/3) ϕ 2-5mmの炭化物少量混入。5層より少ないが黄色土ブロック状に混入。遺物混入。
 - 7 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 2-3mmの炭化物微量混入。黄色土ブロック状わずかに混入。
 - 8 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 2-3mmの炭化物微量混入。黄色粒子・遺物混入。
 - 9 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 2-3mmの炭化物微量混入。黄色土混入。
 - 10 暗褐色土 (10YR3/3) ϕ 1mmの炭化物微量混入。黄色土と暗褐色土がほぼ同割合。
 - 11 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 1mmの炭化物微量混入。暗褐色土ブロック状に混入。
 - 12 褐色土 (10YR4/4) ϕ 1mmの炭化物微量混入。暗褐色土ブロック状に混入。

0 (1:60) 3m

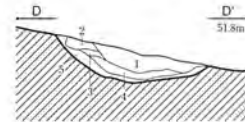


Ib 黄褐色土 (10YR5/8) 公園造成土。
Ic 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~3mmの炭化物微量混入。
Id 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物混入。遺物混入。
IIa 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。
III 褐色土 (7.5YR4/4)

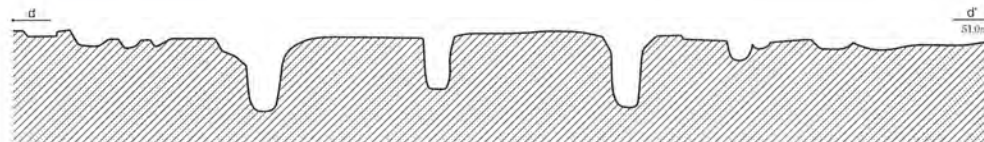
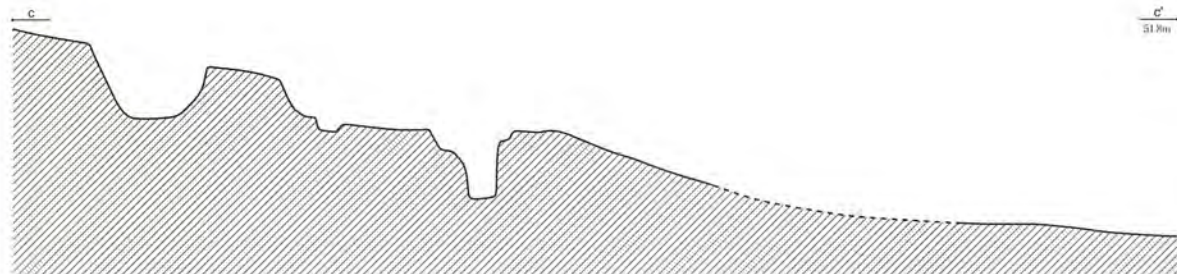
SI1307 周溝
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1mmの炭化物微量混入。
2 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 2mmの炭化物少量混入。遺物混入。1層よりやや暗い。
3 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~5mmの炭化物やや多く混入。黄色粒子・遺物混入。2層よりやや暗い。
4 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~5mmの炭化物やや多く混入。黄色粒子混入。
5 褐色土 (7.5YR4/4) 黄色粘質土混入。

SI1307
1 極暗褐色土 (7.5YR2/3) ϕ 2mmの炭化物少量混入。遺物混入。
2 褐色土 (7.5YR4/4)
3 褐色土 (7.5YR4/4)
4 褐色土 (7.5YR4/4)
5 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
6 褐色土 (7.5YR4/4)

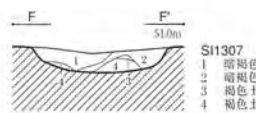
SI1308
1 褐色土 (7.5YR4/3) ϕ 1~2mmの炭化物少量混入。



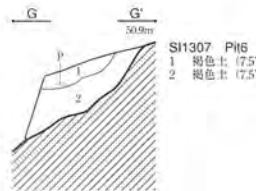
SI1307 周溝
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~4mmの炭化物少量混入。黄色粒子・遺物混入。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物微量混入。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物微量混入。黄色粒子混入。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~5mmの炭化物やや多く混入。
5 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 10mmの炭化物少量混入。黄色粘質土・遺物混入。



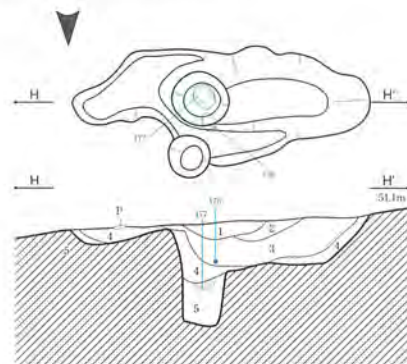
SI1307 Pit2
1 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1~10mmの炭化物多く混入。黄色粘土ブロック状に混入。
2 褐色土 (7.5YR4/3) ϕ 1~10mmの炭化物やや多く混入。黄色粘土ブロック状に混入。
3 褐色土 (7.5YR4/6) ϕ 1mmの炭化物少量混入。地山土混入。



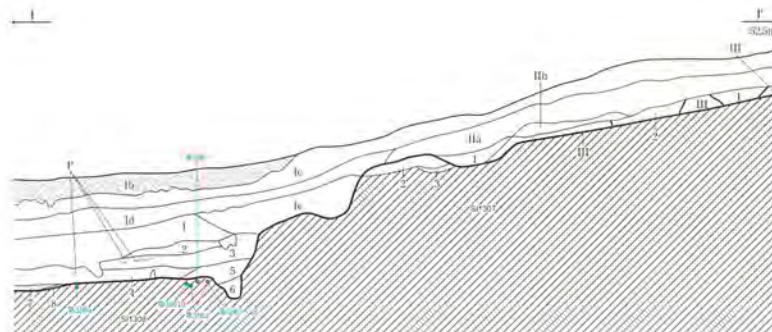
SI1307 Pit5
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1mmの炭化物少量混入。地山土粒子状にやや多く混入。
2 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~2mmの炭化物少量混入。
3 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物ほとんどなし。
4 褐色土 (7.5YR4/4) 炭化物ほとんどなし。地山に1層が混入。



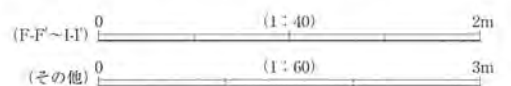
SI1307 Pit6
1 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1mmの炭化物少量混入。
2 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1~3mmの炭化物やや多く混入。1層よりやや暗い。

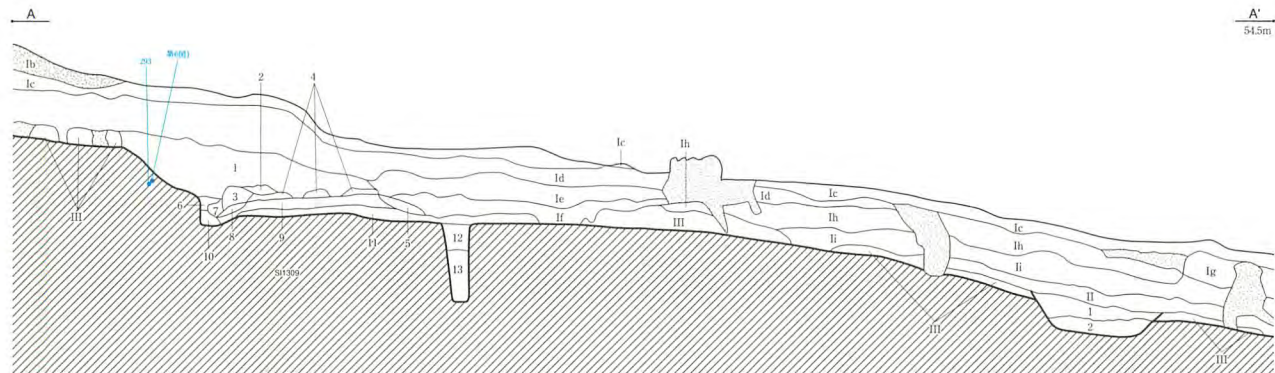


SI1307 Pit4
1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~5mmの炭化物多く混入。黄色粘土粒子状に少量混入。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~5mmの炭化物多く混入。黄色粘土ブロック状にやや多く混入。
3 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~5mmの炭化物。黄色粘土ブロック状に多く混入。
4 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~10mmの炭化物やや多く混入。黄色粘土ブロック状に少量混入。
5 褐色土 (7.5YR4/4) やや粘質土。 ϕ 1mmの炭化物少量混入。

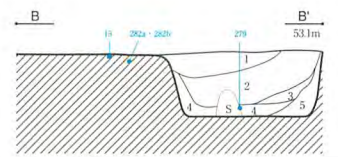
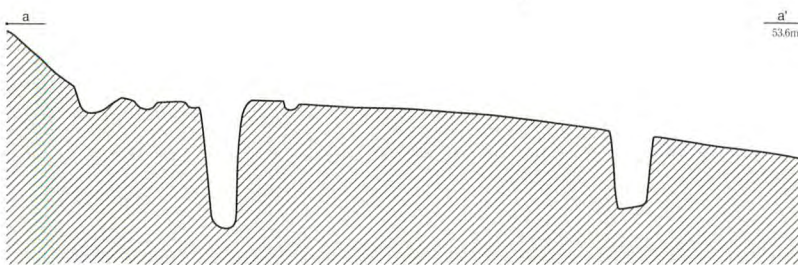
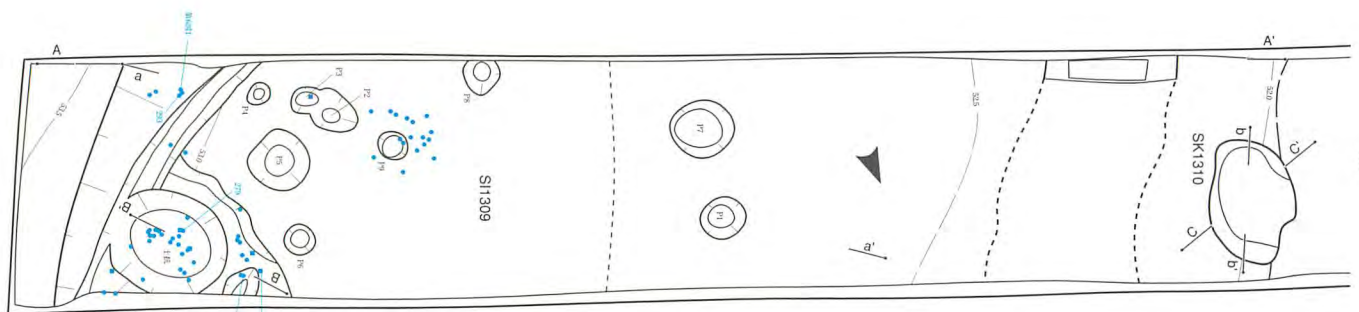
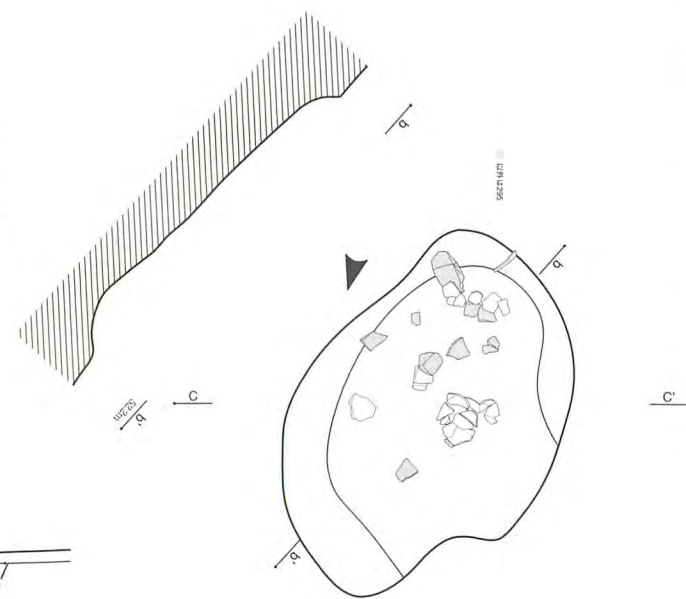


Ib 黄褐色土 (10YR5/8) 公園造成土。
Ic 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~3mmの炭化物微量混入。
Id 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物混入。遺物混入。
IIa 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~5mmの炭化物少量混入。遺物混入。
IIb 暗褐色土 (10YR3/2) ϕ 1~2mmの炭化物少量混入。遺物混入。
III 暗褐色土 (10YR3/4)
IV 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。
1 暗褐色土 (10YR3/4) ϕ 1mmの炭化物少量混入。遺物混入。
2 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~3mmの炭化物やや多く混入。清潔土。
SI1307 周溝
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~3mmの炭化物やや多く混入。
2 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1mmの炭化物少量混入。地山土ブロック状に少量混入。周溝。
3 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。周溝。
SI1308
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ϕ 1~2mmの炭化物。地山土ブロック状に少量混入。
2 褐色土 (7.5YR4/3) ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。白色粘質土マーブル状に混入。
3 褐色土 (7.5YR4/3) ϕ 1~3mmの炭化物少量混入。白色粘質土マーブル状に混入。2層よりやや暗い。
4 褐色土 (7.5YR4/4) ϕ 1~5mmの炭化物やや多く混入。
5 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1~2mmの炭化物。地山土ブロック状に多く混入。
6 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 1mmの炭化物少量混入。地山土混入。
7 褐色土 (7.5YR4/4) 粘質土。 ϕ 1mmの炭化物少量混入。
8 褐色土 (7.5YR4/6) 粘質土。 ϕ 1mmの炭化物ごく微量混入。粘土。

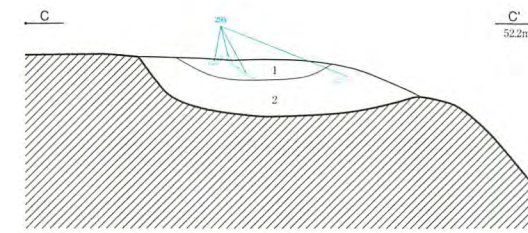




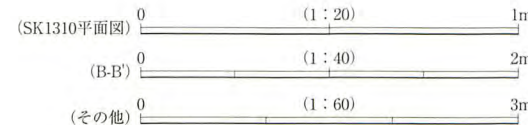
- | | | | | | | |
|-----|------------------|--------------------------|--------|------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| Ib | 明黄褐色土 (10YR6/6) | 公園造成土。 | SH1309 | 1 | 暗褐色土 (7.5YR3/3) | 地山土ブロック状に混入。遺物混入。 |
| Ic | 極暗褐色土 (7.5YR2/3) | φ1mmの炭化物ごく微量混入。現表土。 | 2 | 褐色土 (7.5YR4/3) | φ1~2mmの炭化物少量混入。地山土混入。 | φ1~2mmの炭化物少量混入。 |
| Id | 極暗褐色土 (7.5YR2/3) | φ1~3mmの炭化物少量混入。 | 3 | 褐色土 (7.5YR4/6) | φ1mmの炭化物少量混入。 | φ1mmの炭化物少量混入。 |
| Ie | 褐色土 (7.5YR4/3) | φ1mmの炭化物微量混入。 | 4 | 褐色土 (7.5YR4/3) | φ1~3mmの炭化物、地山土ブロック状に少量混入。 | φ1~3mmの炭化物、地山土ブロック状に少量混入。 |
| If | 褐色土 (7.5YR4/3) | φ1mmの炭化物少量混入。Ie層よりやや暗い。 | 5 | 褐色土 (7.5YR4/3) | φ1~3mmの炭化物少量混入。地山土混入。Ie・If層より明るい。 | φ1~3mmの炭化物少量混入。地山土混入。Ie・If層より明るい。 |
| Ig | 黒褐色土 (10YR2/3) | φ1mmの炭化物ごく微量混入。 | 6 | 褐色土 (7.5YR4/4) | φ1mmの炭化物少量混入。地山土混入。 | φ1mmの炭化物少量混入。地山土混入。 |
| Ih | 暗褐色土 (7.5YR3/3) | φ1~2mmの炭化物少量混入。 | 7 | にぶい赤褐色土 (5YR4/4) | φ1mmの炭化物微量混入。 | φ1mmの炭化物微量混入。 |
| II | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1mmの炭化物少量混入。 | 8 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1mmの炭化物、地山土ブロック状に少量混入。 | φ1mmの炭化物、地山土ブロック状に少量混入。 |
| III | 暗褐色土 (7.5YR3/3) | φ1~3mmの炭化物少量混入。 | 9 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1~3mmの炭化物やや多く混入。 | φ1~3mmの炭化物やや多く混入。 |
| IV | 褐色土 (7.5YR4/4) | φ1mmの炭化物ごく微量混入。 | 10 | 褐色土 (7.5YR4/3) | φ1mmの炭化物、地山土ブロック状に少量混入。 | φ1mmの炭化物、地山土ブロック状に少量混入。 |
| I | 褐色土 (7.5YR4/4) | φ1mm少量混入。溝覆土。 | 11 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1mmの炭化物少量混入。 | φ1mmの炭化物少量混入。 |
| 2 | 褐色土 (7.5YR4/4) | φ1~2mm少量混入。1層よりやや暗い。溝覆土。 | 12 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1~10mmの炭化物やや多く混入。地山土ブロック状にやや多く混入。 | φ1~10mmの炭化物やや多く混入。地山土ブロック状にやや多く混入。 |
| | | | 13 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1~3mmの炭化物やや多く混入。 | φ1~3mmの炭化物やや多く混入。 |

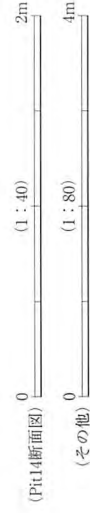
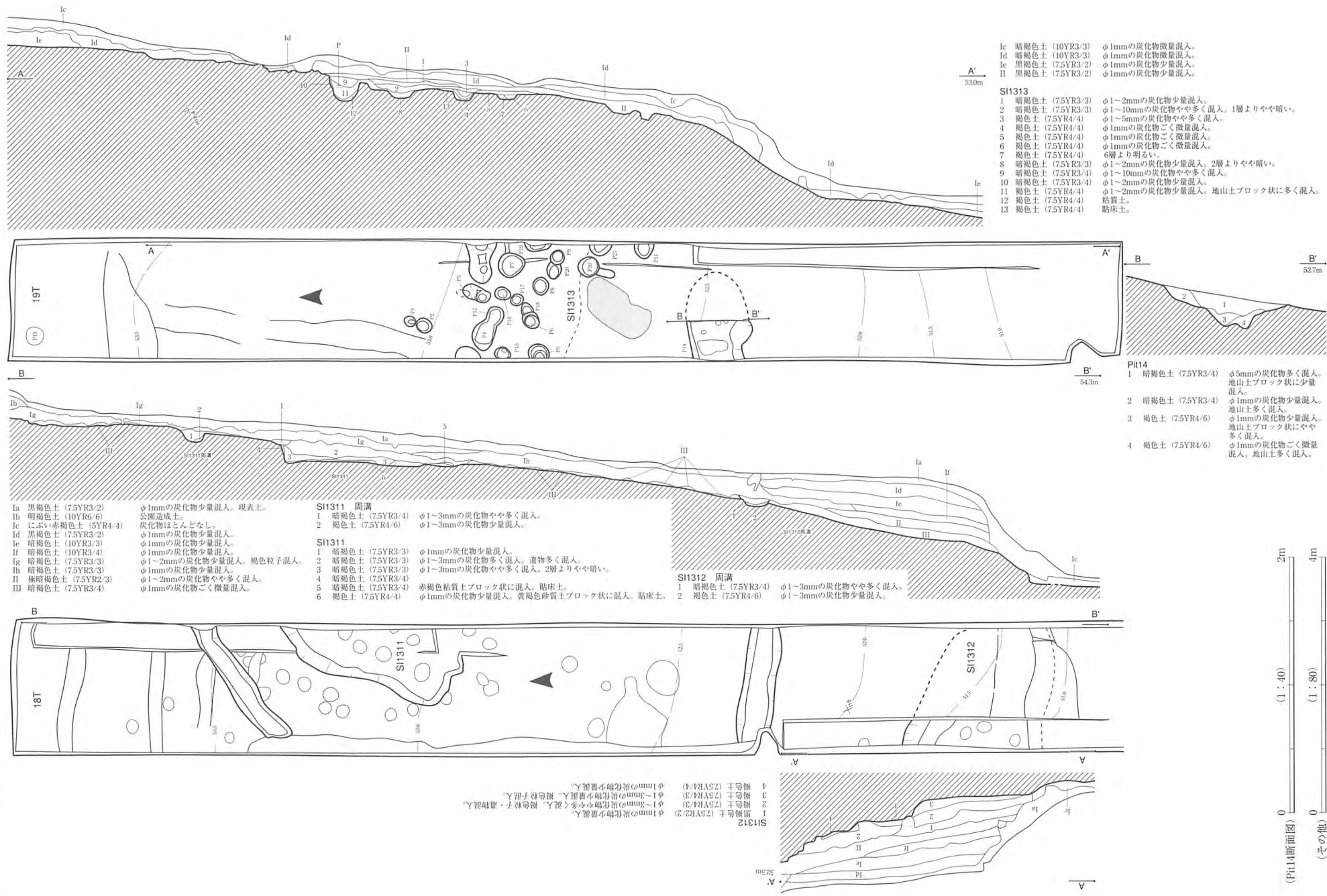


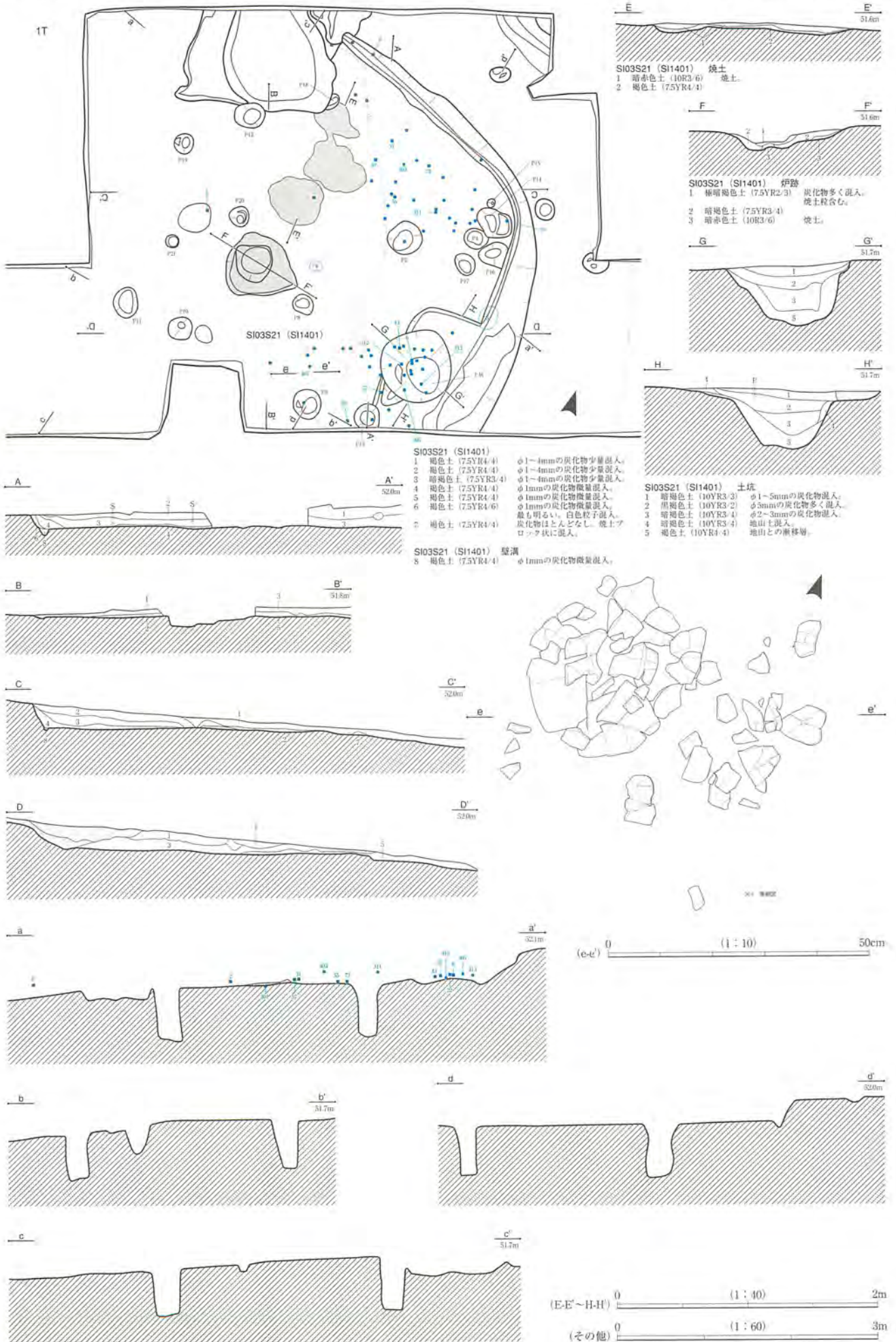
- SH1309 土坑
- | | | |
|---|-----------------|------------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1~10mmの炭化物、黄褐色粘土ブロック状に多く混入。 |
| 2 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1~10mmの炭化物多く混入。黄褐色粘土ブロック状にやや多く混入。 |
| 3 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | φ1~5mmの炭化物やや多く混入。地山土ブロック状に少量混入。 |
| 4 | 暗褐色土 (10YR3/4) | φ1~10mmの炭化物やや多く混入。地山土粒子状に少量混入。 |
| 5 | 褐色土 (7.5YR4/6) | φ1~2mmの炭化物少量混入。地山土混入。 |

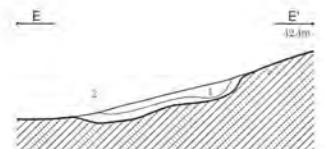
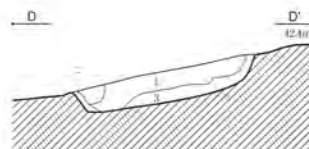
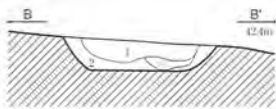
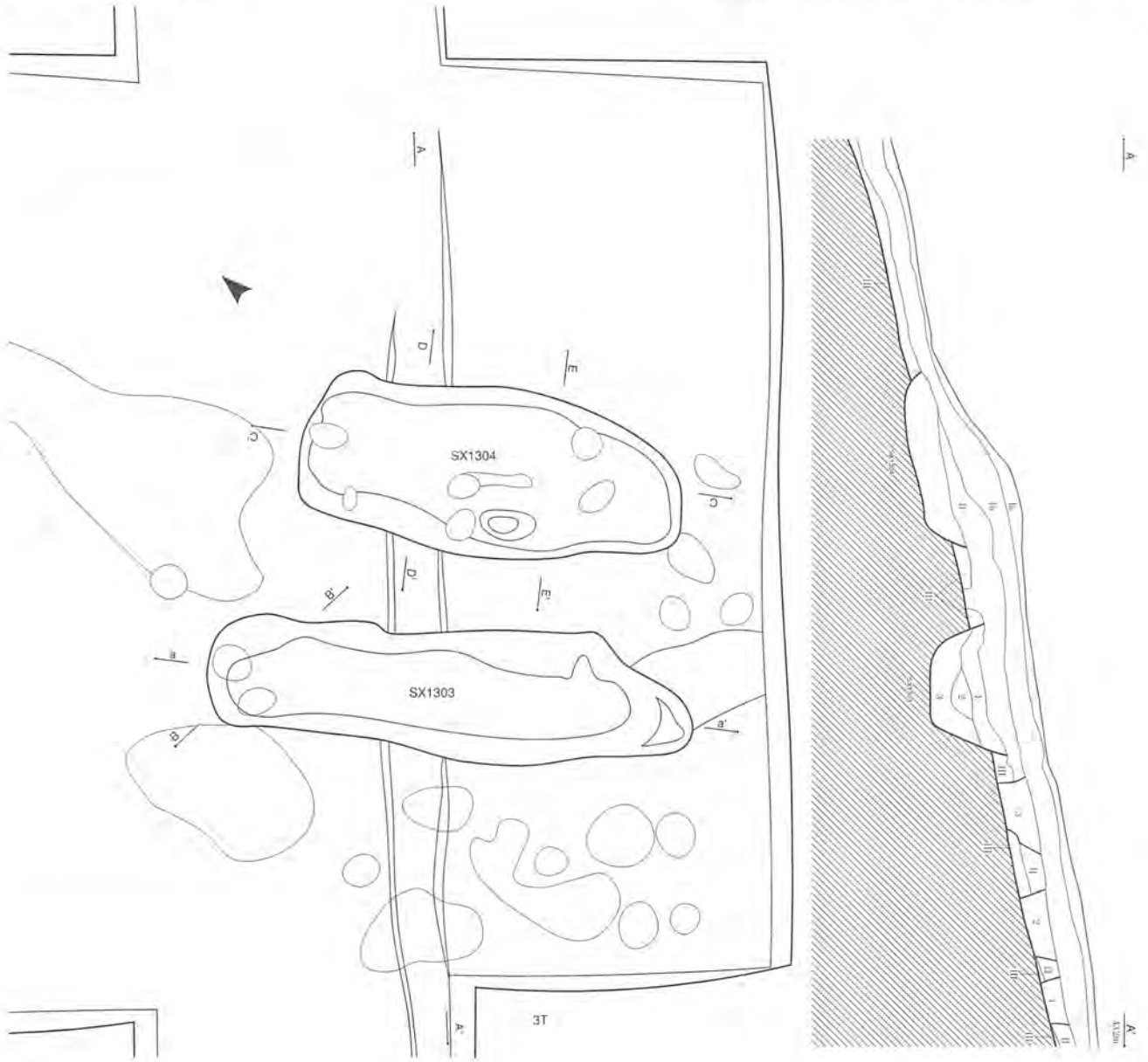


- SK1310
- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 2 | 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物混入。 |









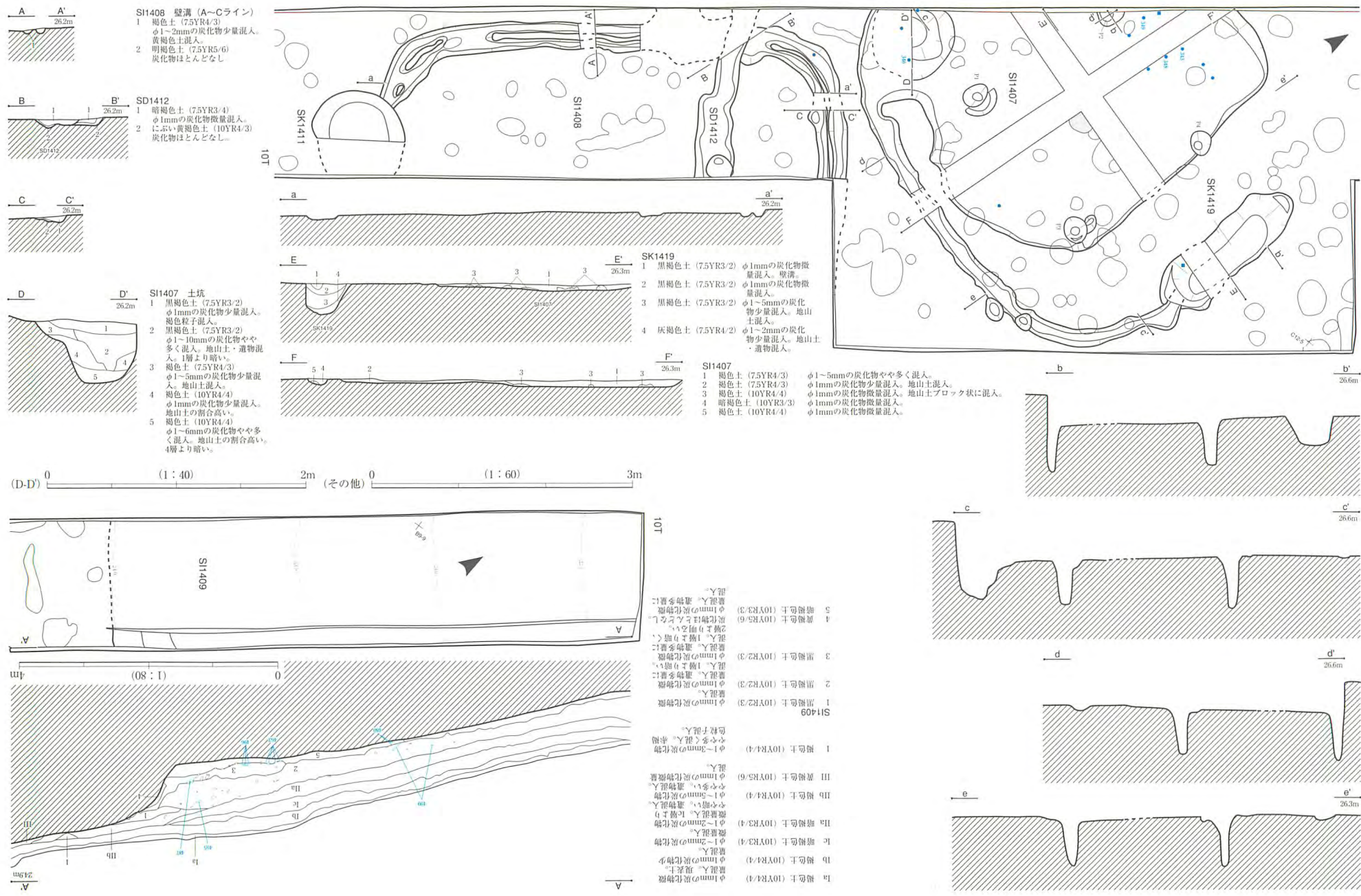
- Ⅰa 暗褐色土 (7.5YR3/4)
- Ⅰb 暗褐色土 (7.5YR3/4)
- ⅠⅡ 暗褐色土 (10YR3/4)
- Ⅲ 褐色土 (7.5YR4/4)
- Ⅳ 暗褐色土 (7.5YR3/4)
- Ⅴ 暗褐色土 (7.5YR3/4)
- Ⅵ 暗褐色土 (7.5YR2/3)

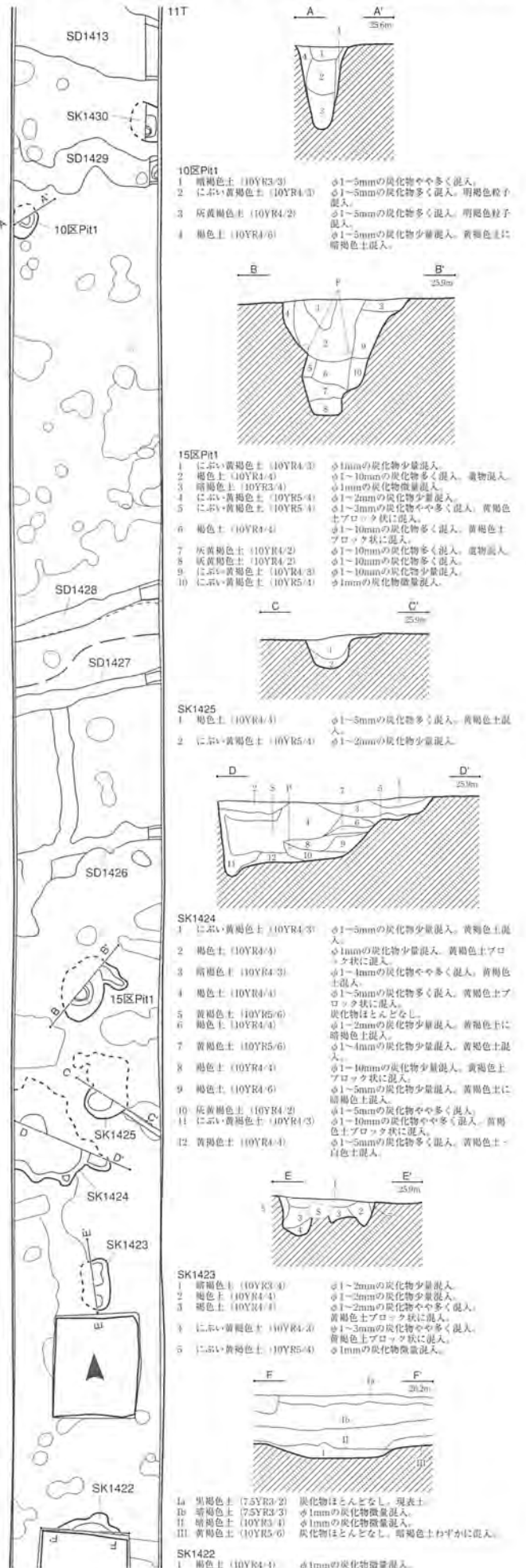
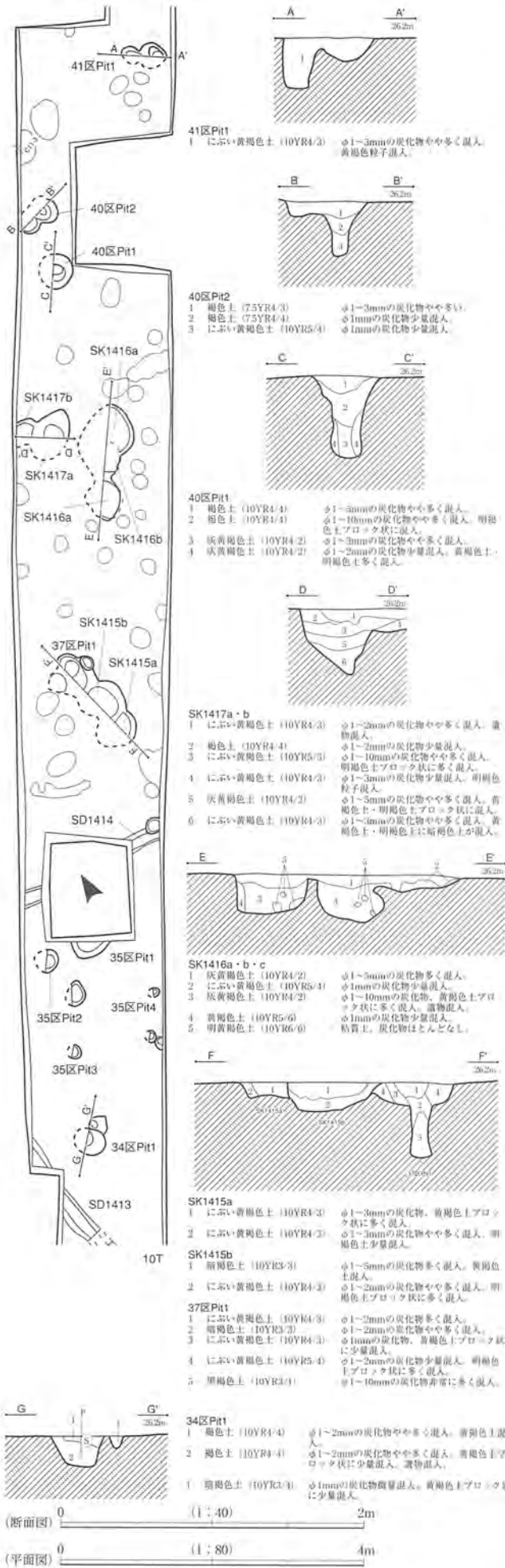
- SX1303**
- 1 暗褐色土 (7.5YR2/3)
 - 2 暗褐色土 (7.5YR2/2)
 - 3 暗褐色土 (7.5YR2/2)

- 現表土。
 φ5mmの炭化物微量混入。
 炭化物微量混入。
 φ5mmの炭化物微量混入。土塊層上。
 炭化物ごく微量混入。土塊層上。
 炭化物ごく微量混入。土塊層上。
- φ2-3mmの炭化物ごく微量混入。
 炭化物ほとんどなし。
 炭化物ほとんどなし。

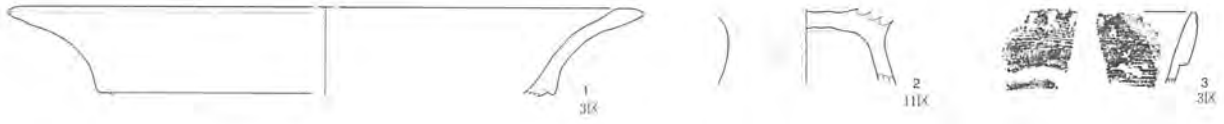
- SX1304**
- 1 暗褐色土 (7.5YR3/3) φ1-2mmの炭化物ごく少量混入。
 - 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) φ2-3mmの炭化物ごく少量混入。
 - 3 褐色土 (7.5YR4/1) φ2-3mmの炭化物ごく少量混入。2層よりやや細かい。

0 (1:40) 2m

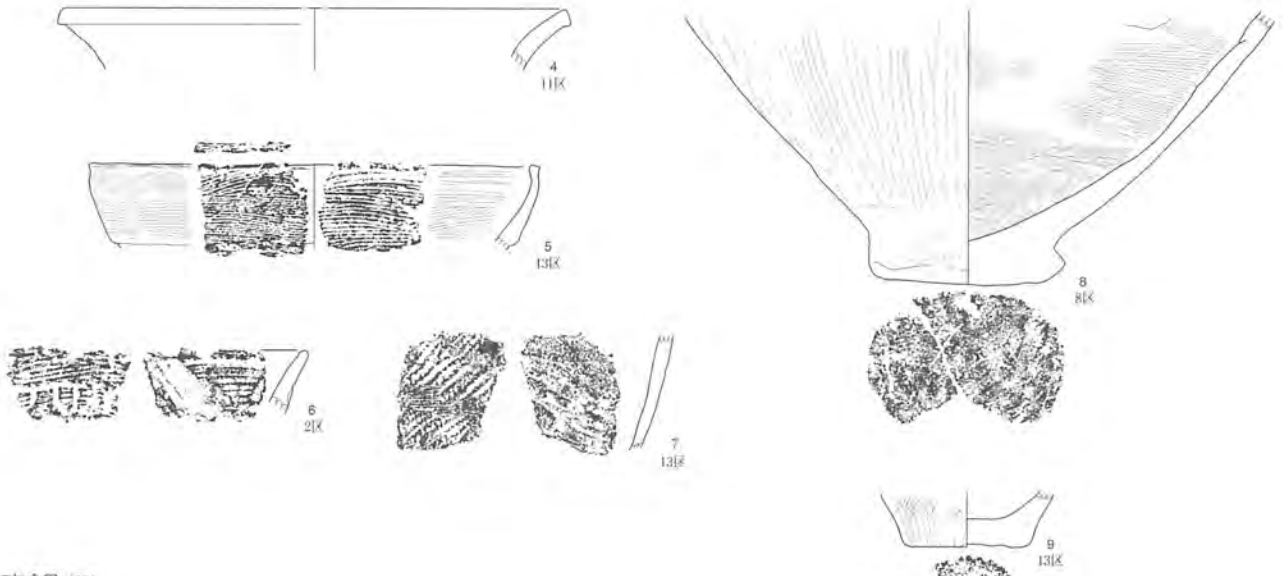




2T包含層 (1~3)



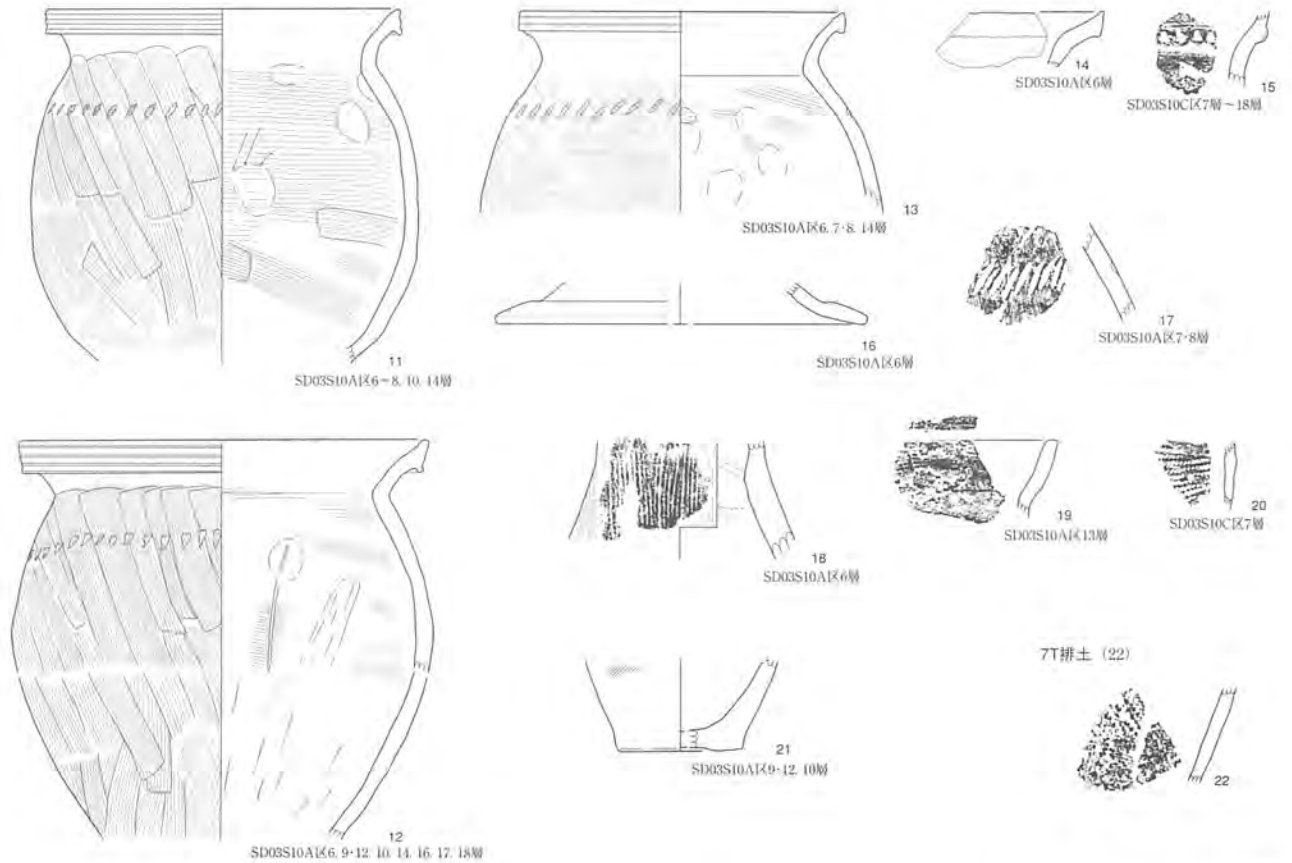
3T包含層 (4~9)



4T包含層 (10)



7TSD03S10 (11~21)

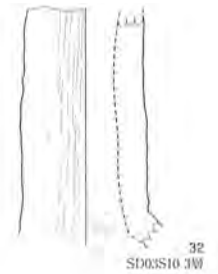
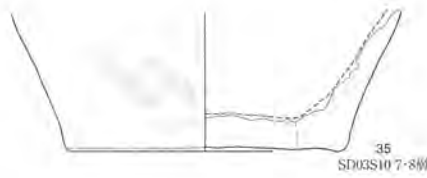
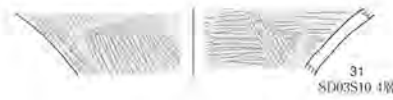
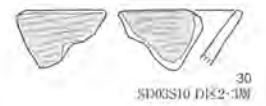
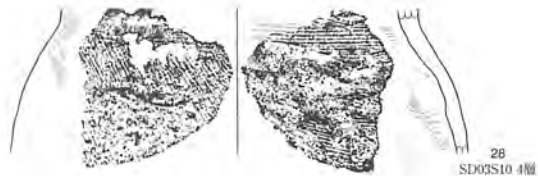
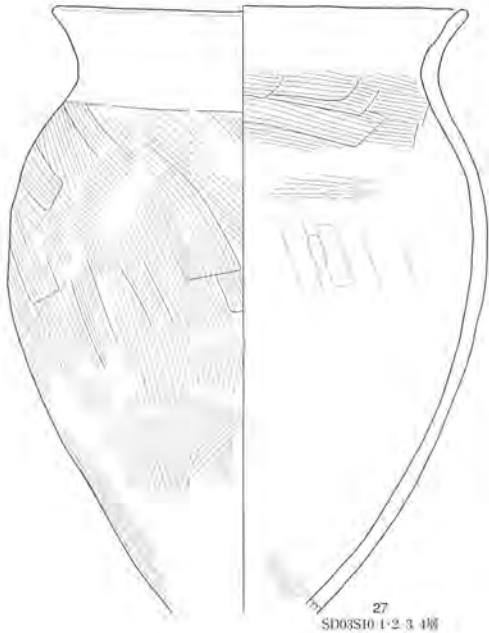


8TSD03S10 (23)

8T包含層 (24~26)



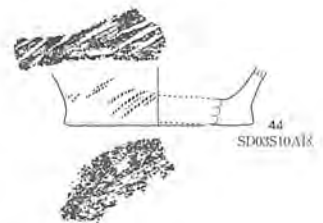
10TSD03S10 (27~35)



10T包含層 (36~40)



11TSD03S10 (41~44)



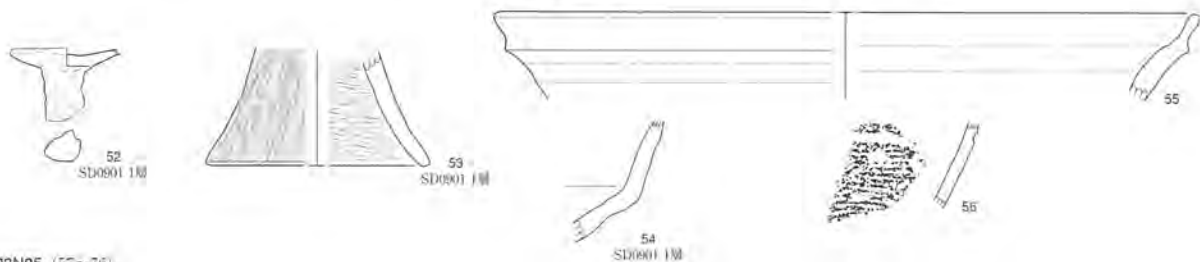
11T包含層 (45~47)



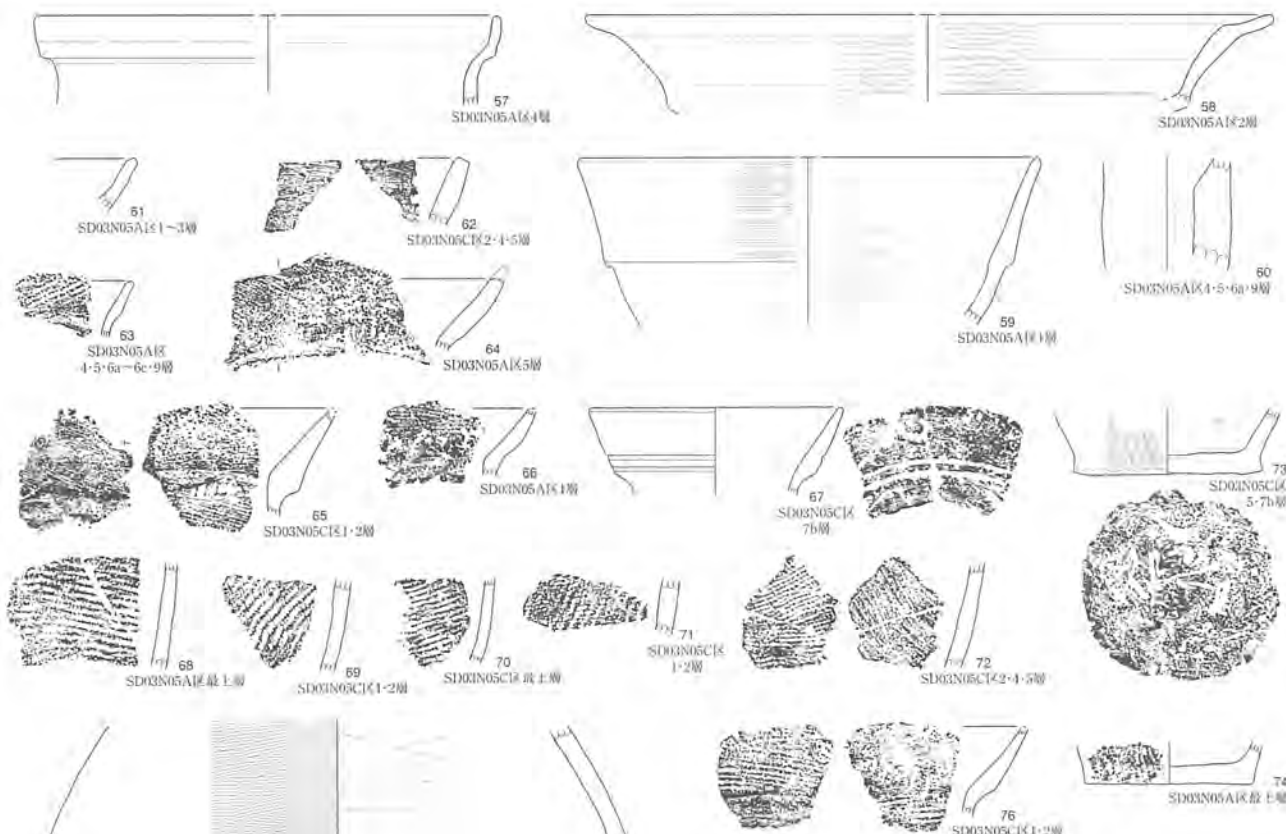
9TSD0901 (48~54)



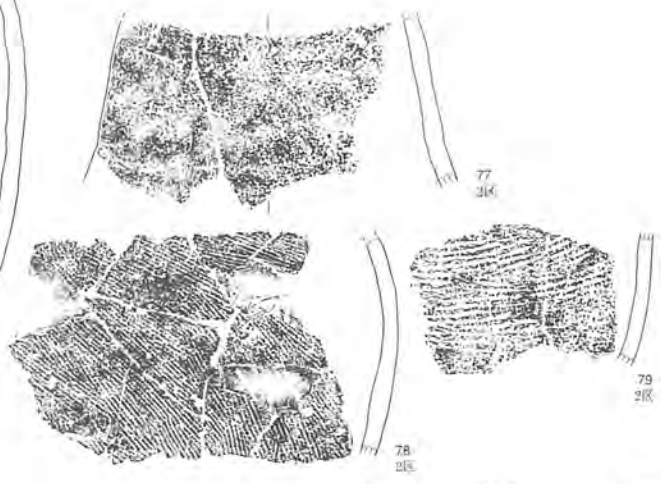
9T包含層 (55~56)



14TSD03N05 (57~76)



14T包含層 (77~79)

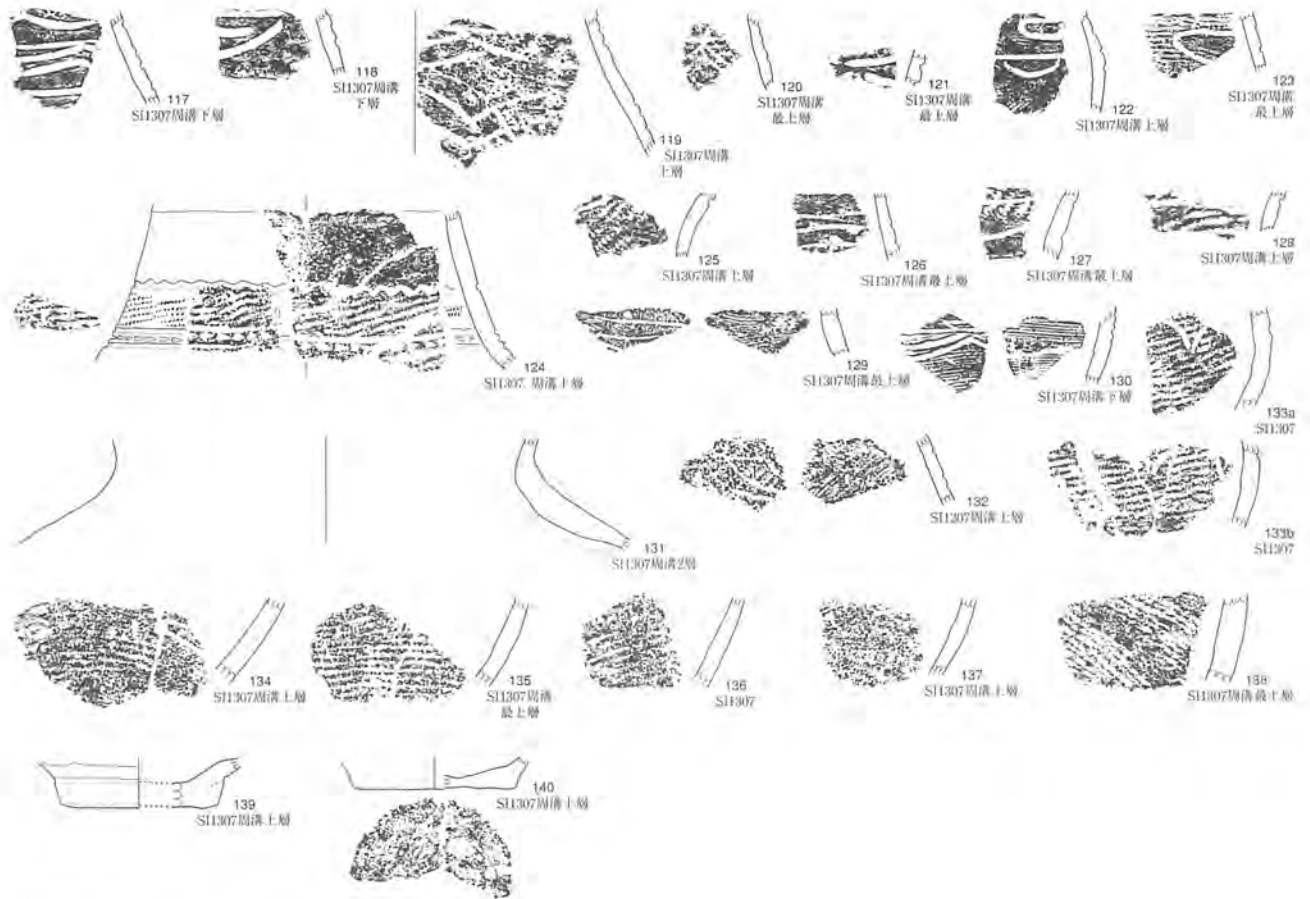


0 1:3 10cm

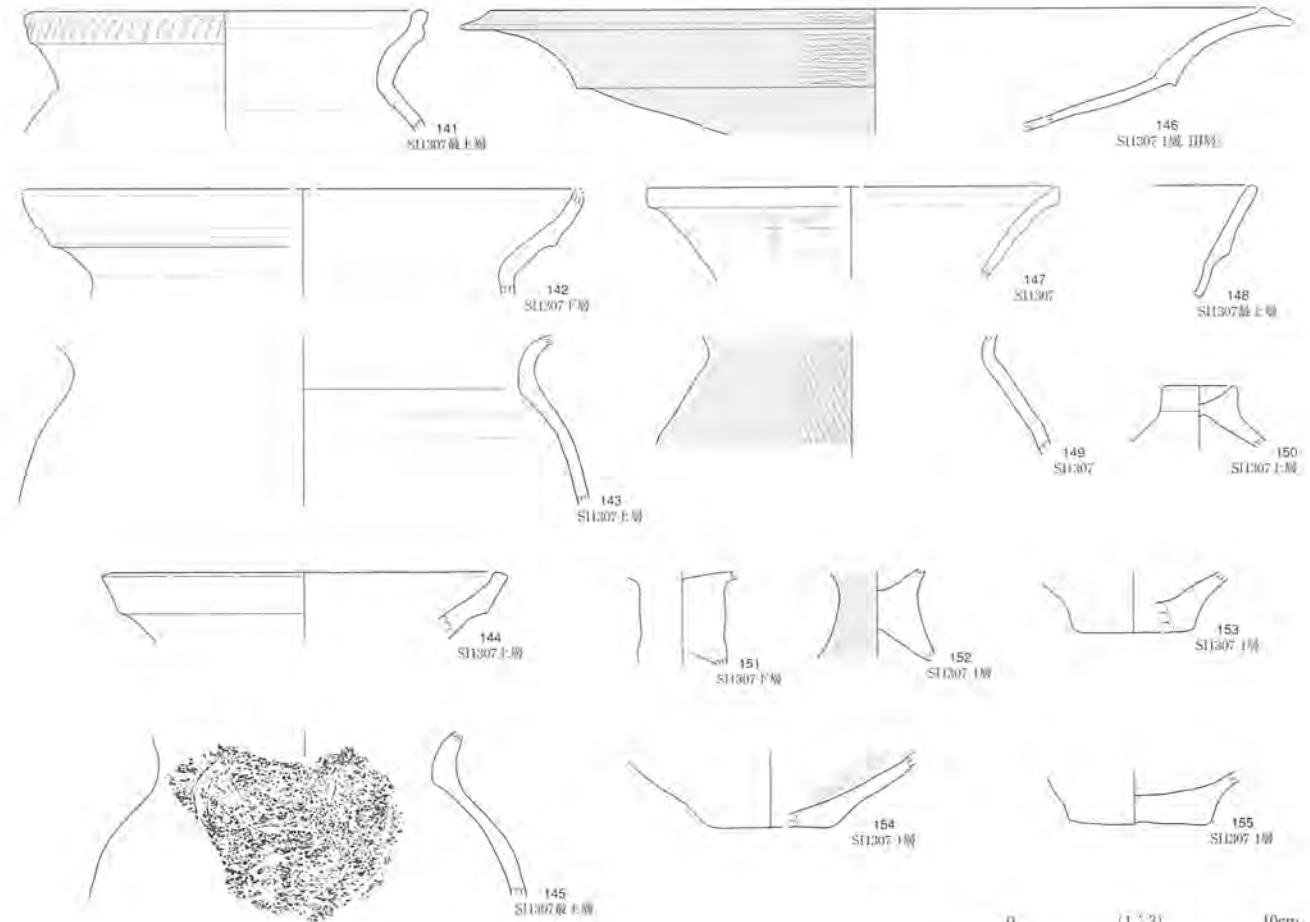
12TS11307周溝 (80~116)



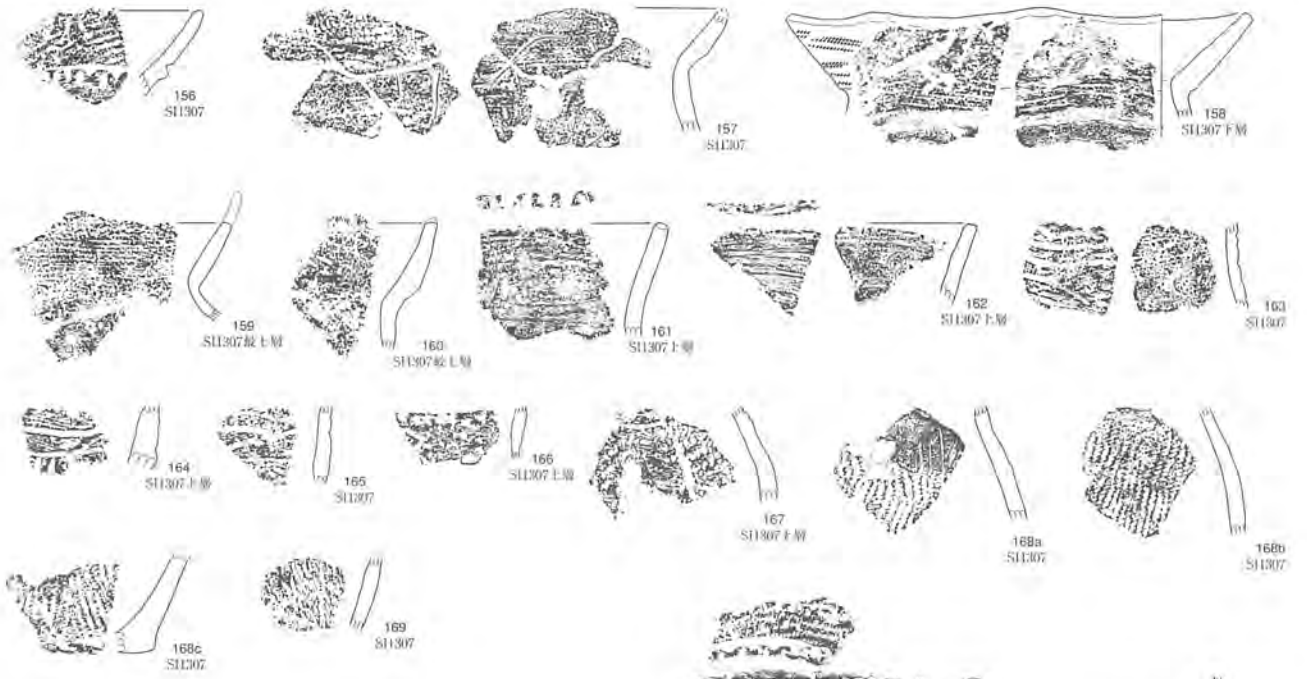
12TSI1307周溝 (117~140)



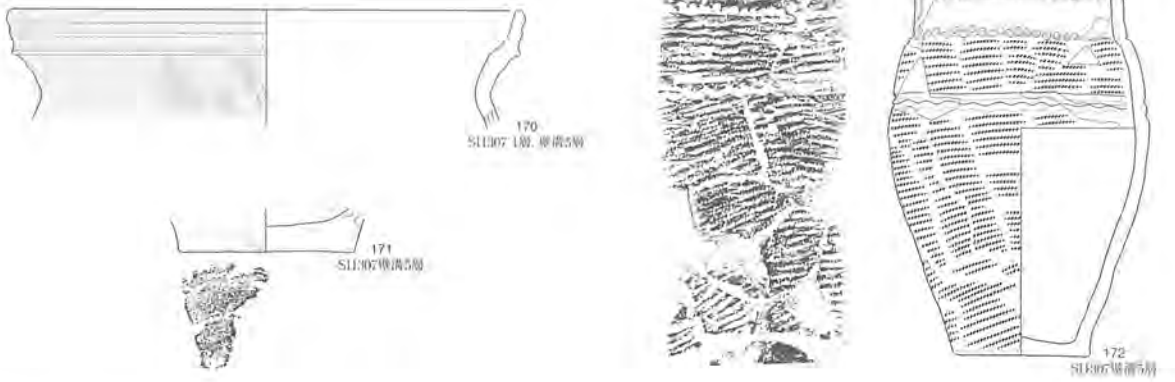
12TSI1307 (141~155)



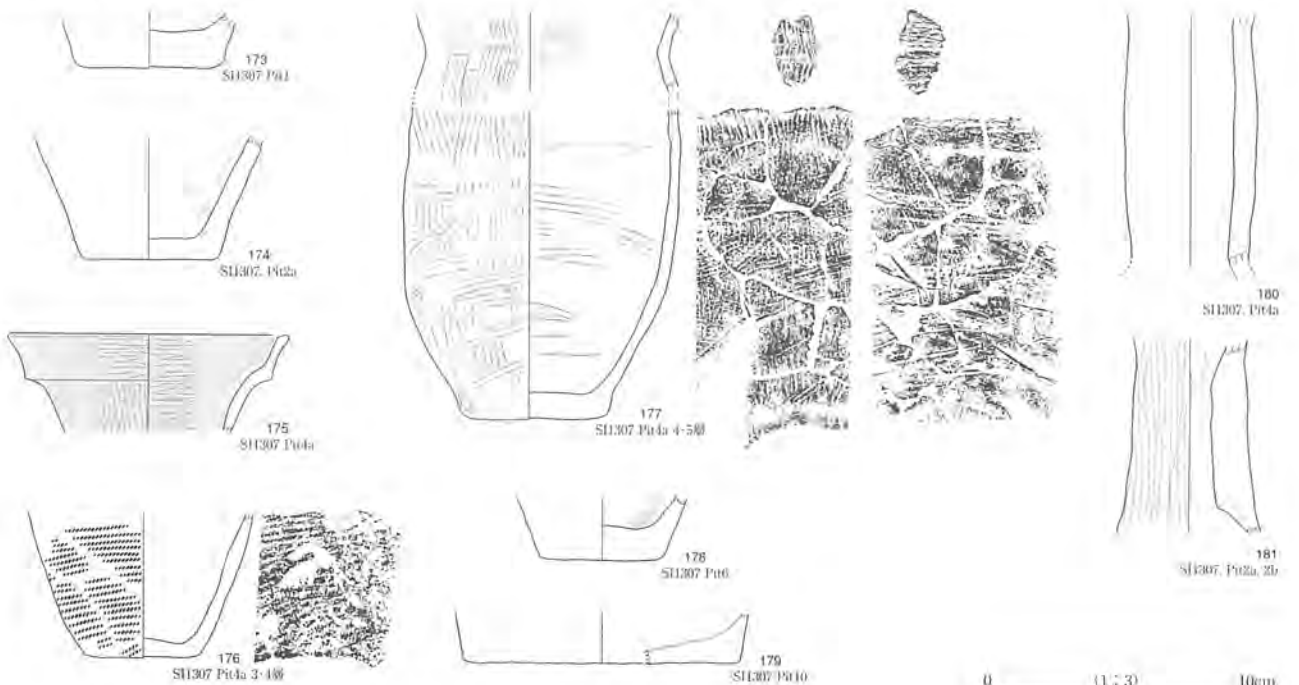
12TS1307 (156~169)



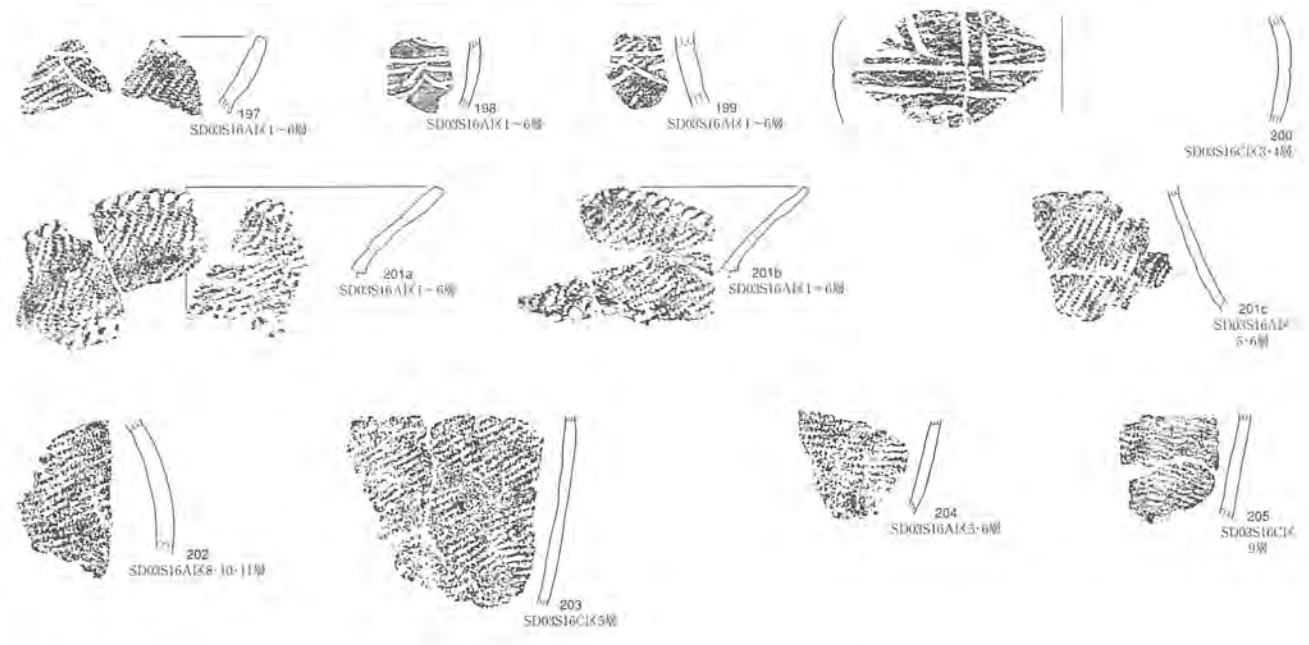
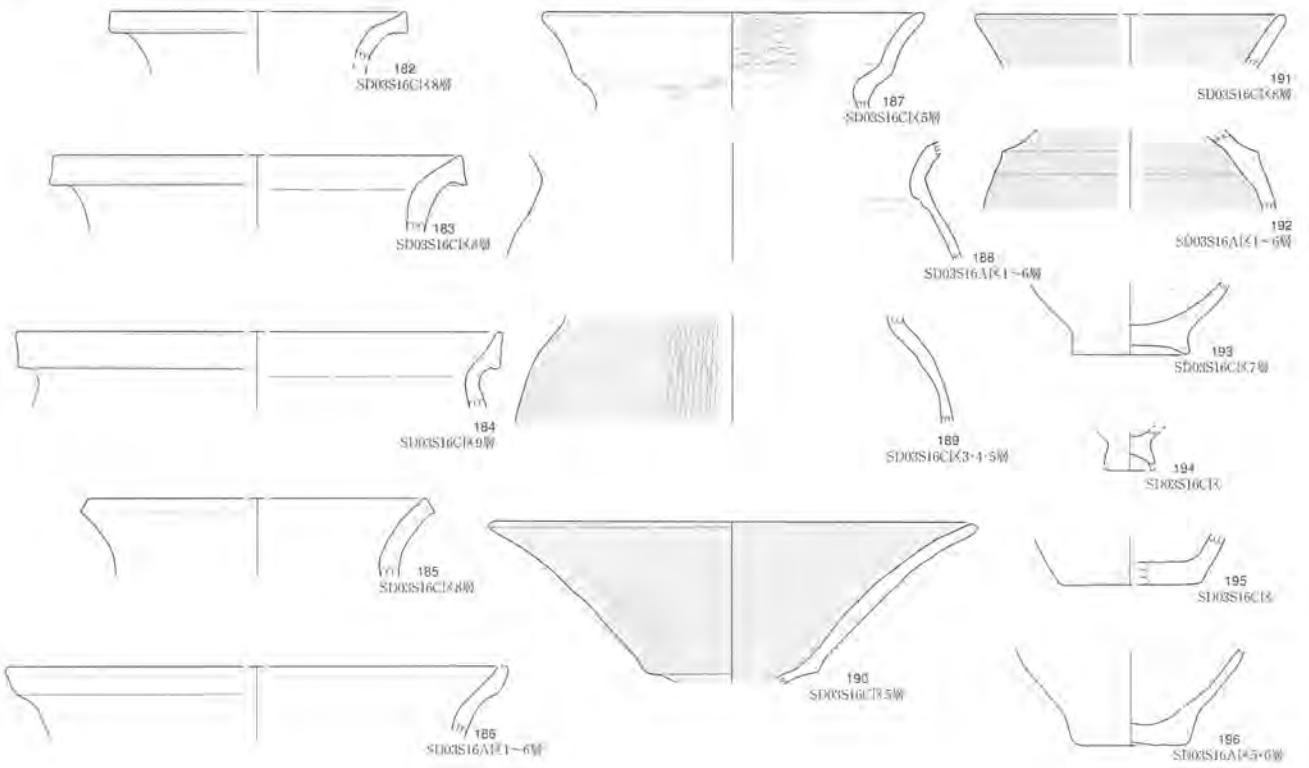
12TS1307壁溝 (170~172)



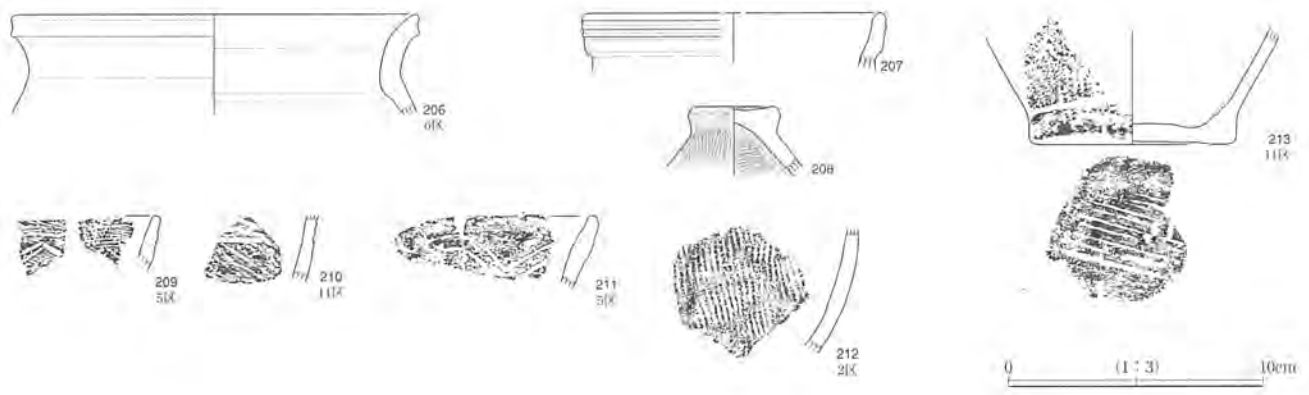
12TS1307Pit (173~181)



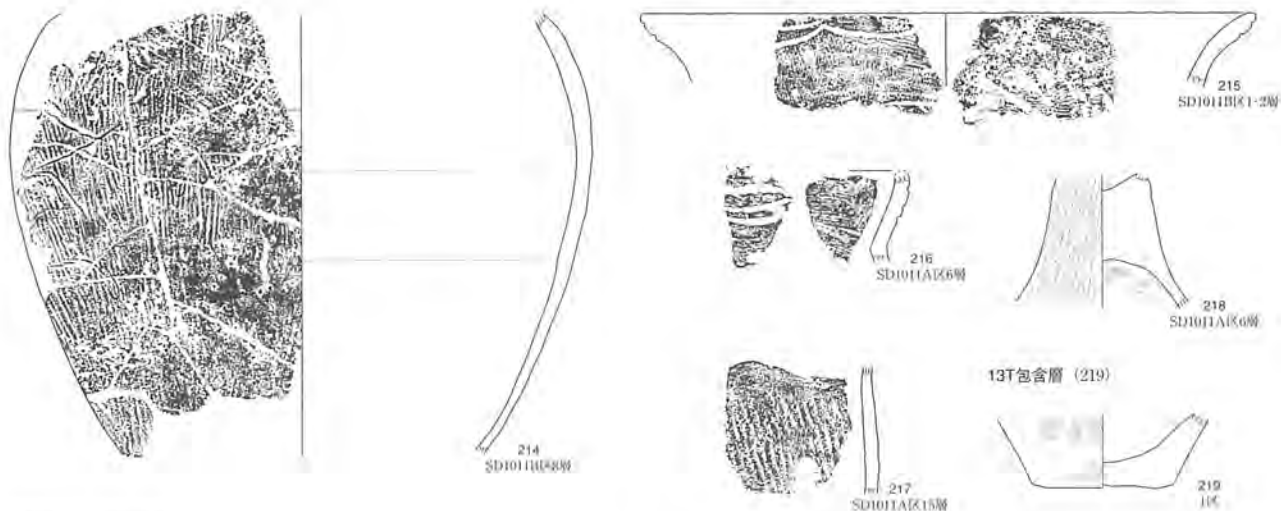
12TSD03S16 (182~205)



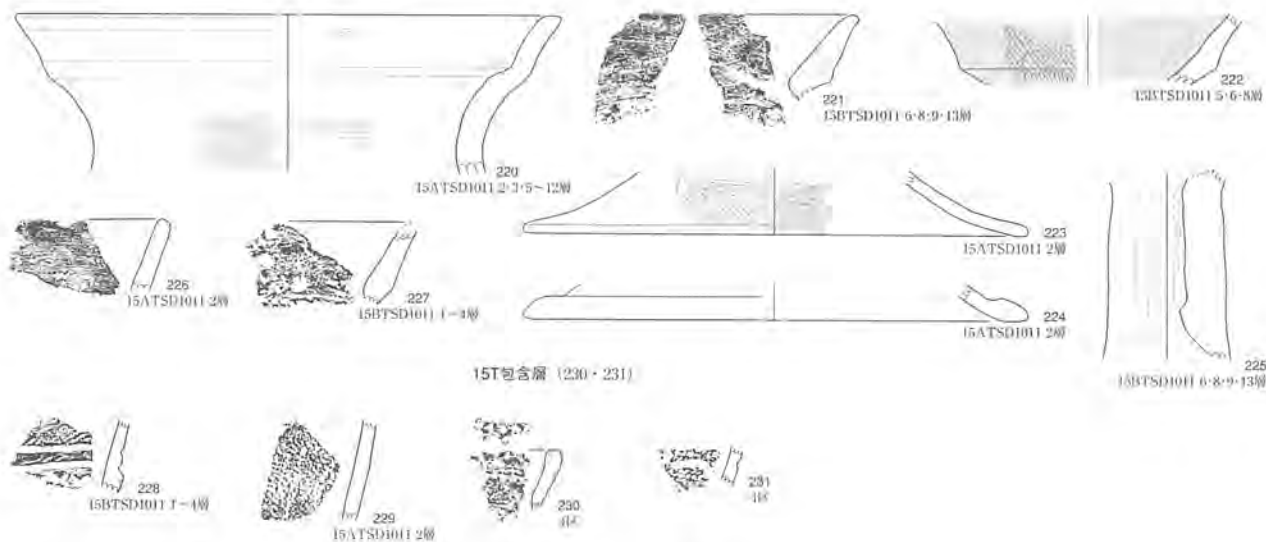
12T包含層 (206~213)



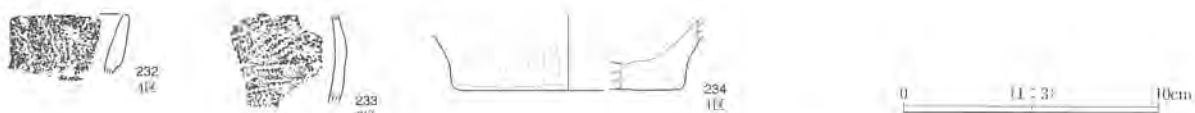
13TSD1011 (214~218)



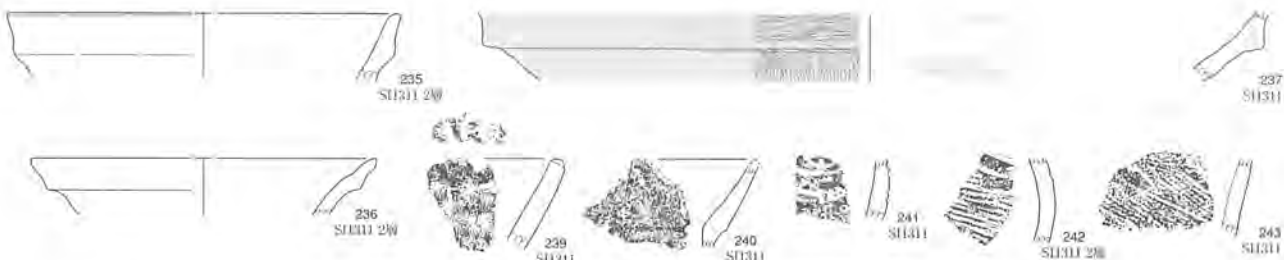
15TSD1011 (220~229)



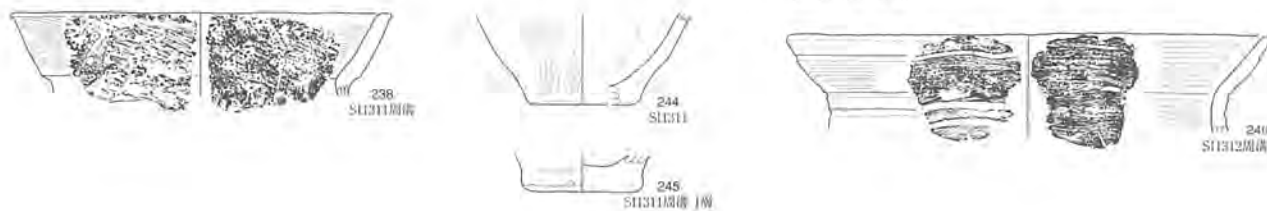
17T包含層 (232~234)



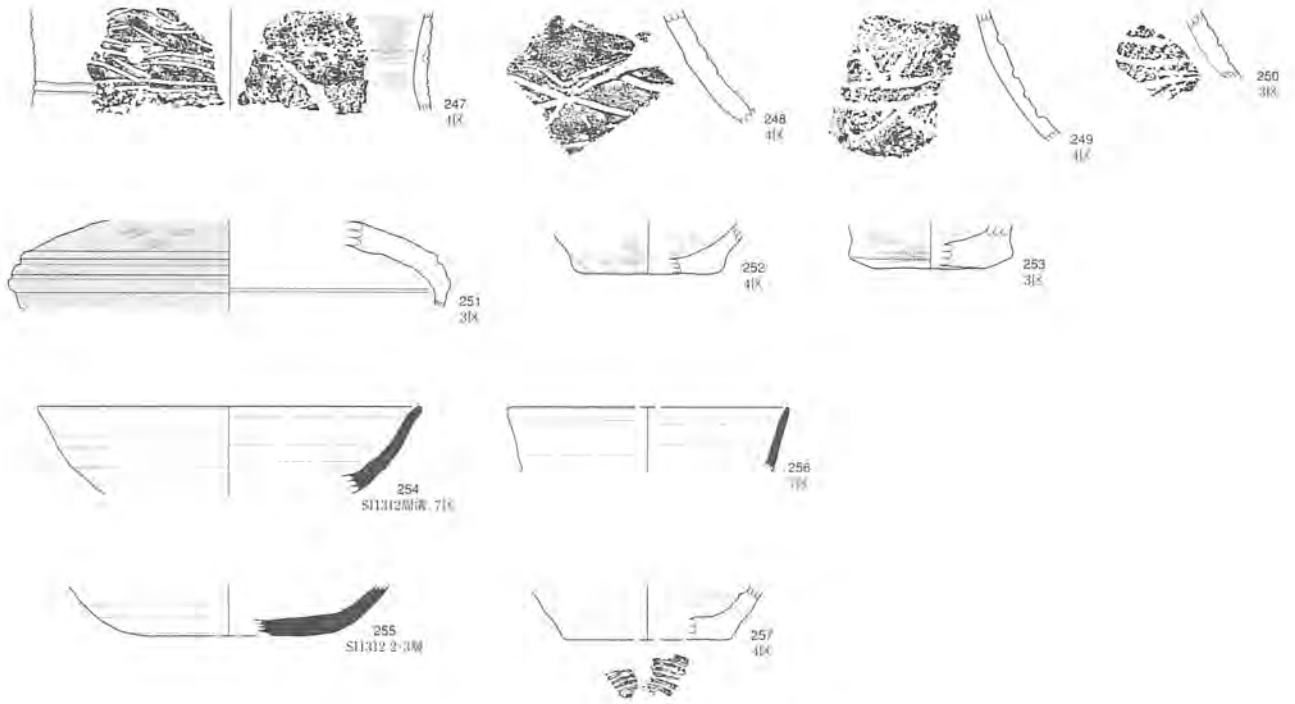
18TSH1311 (235~243)



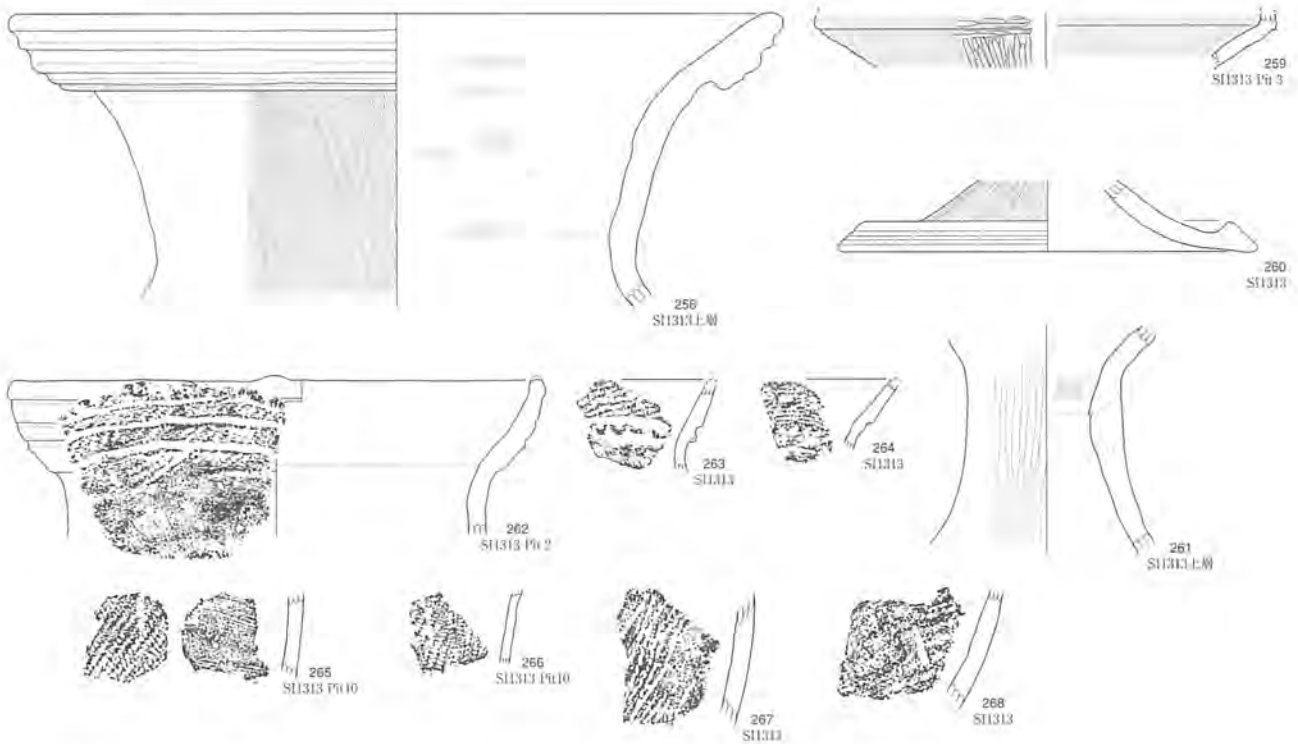
18TSH1312 (244)



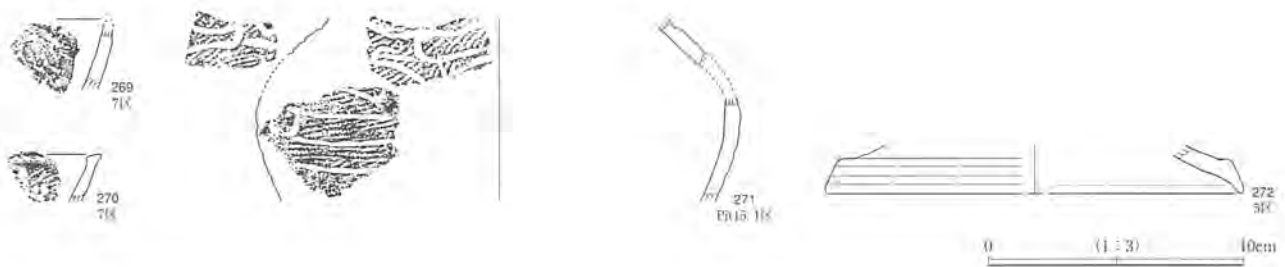
18T包含層 (247-257)



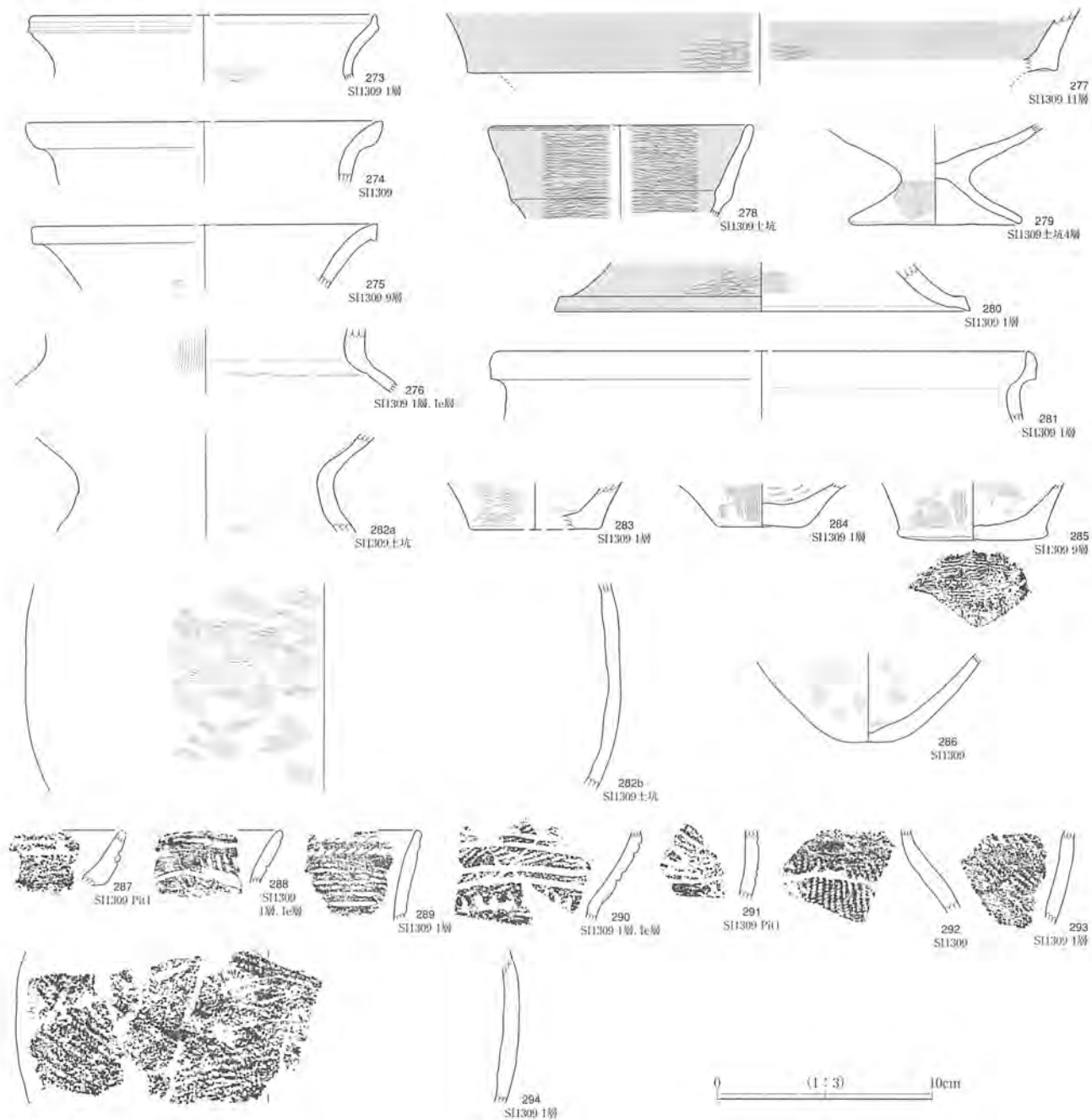
19TSH1313 (258-268)



19T包含層・Pit (269-272)

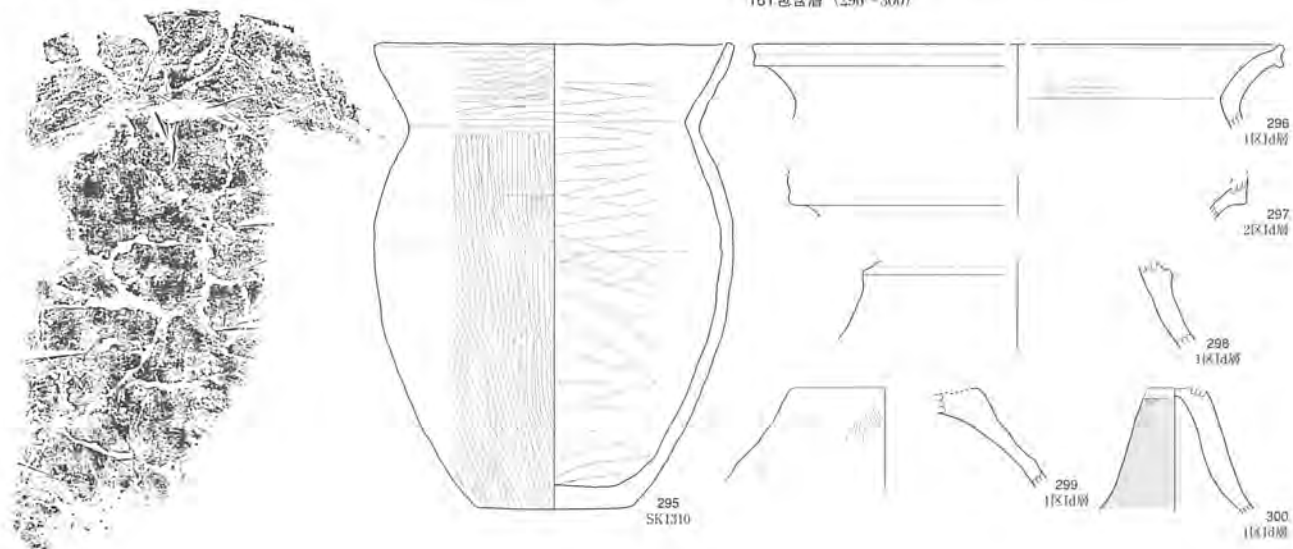


16TSI1309 (273~294)

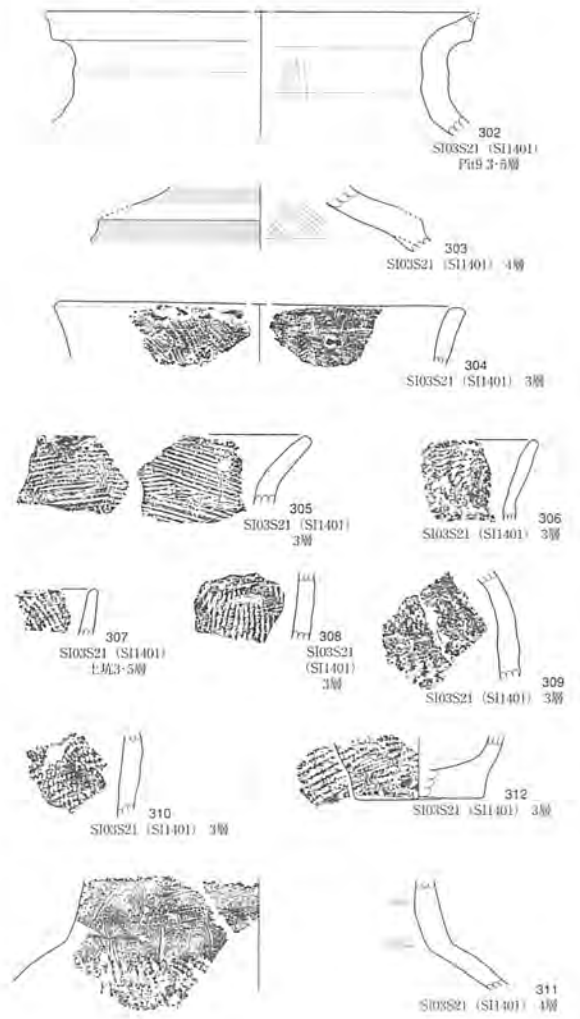
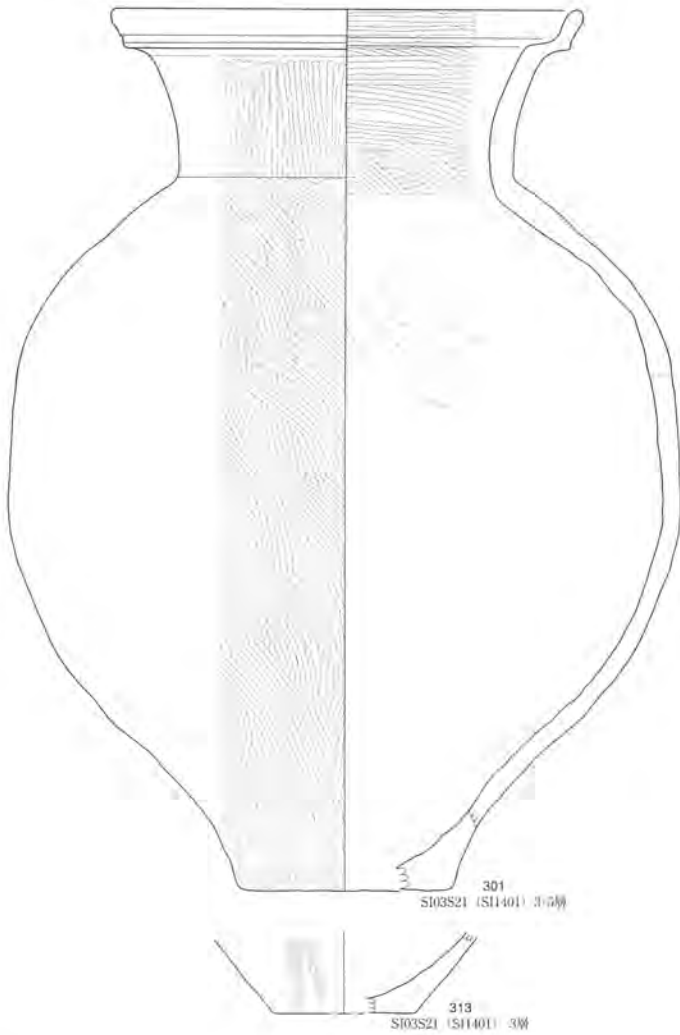


16TSK1310 (295)

16T包含層 (296~300)



1T·SI03S21 (SI1401) (301~318)



1T包含層 (319~322)



2T包含層 (323~328)



4T包含層 (329)



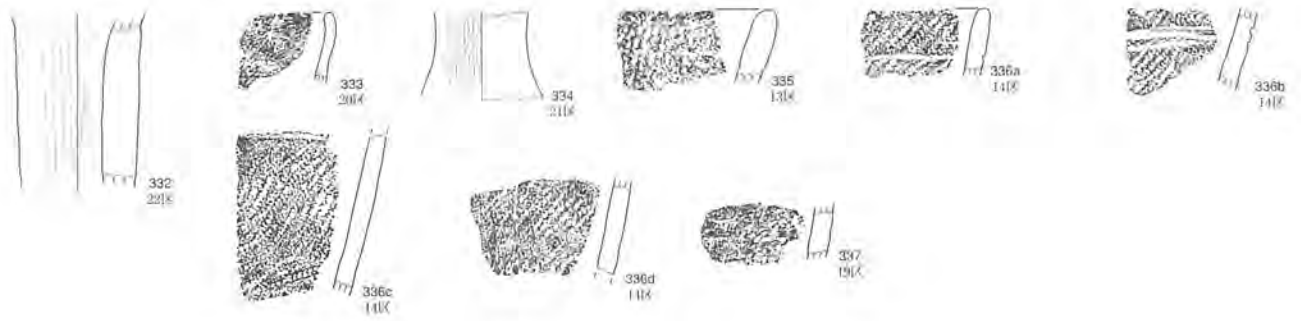
5T包含層 (330~331)



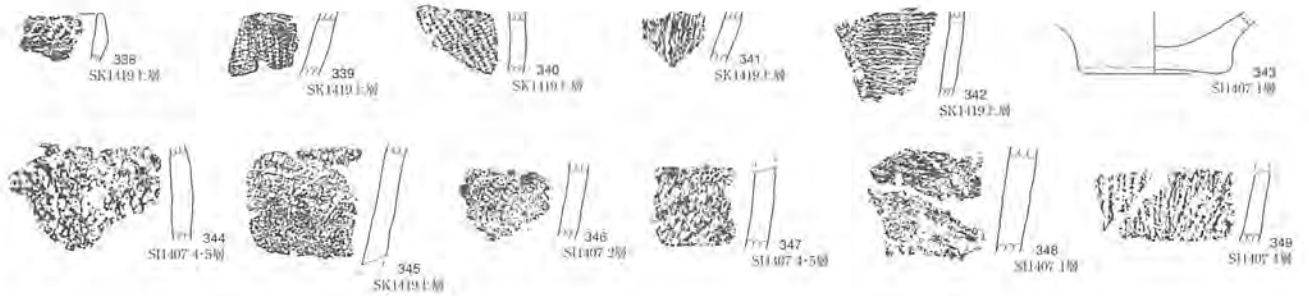
0 (1:3) 10cm

8T包含層 (332)

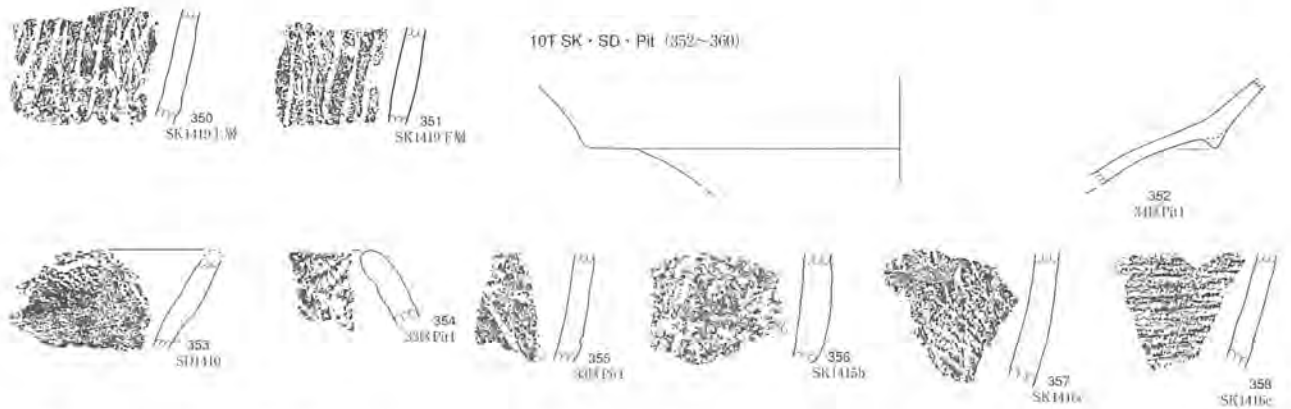
9T包含層 (333~337)



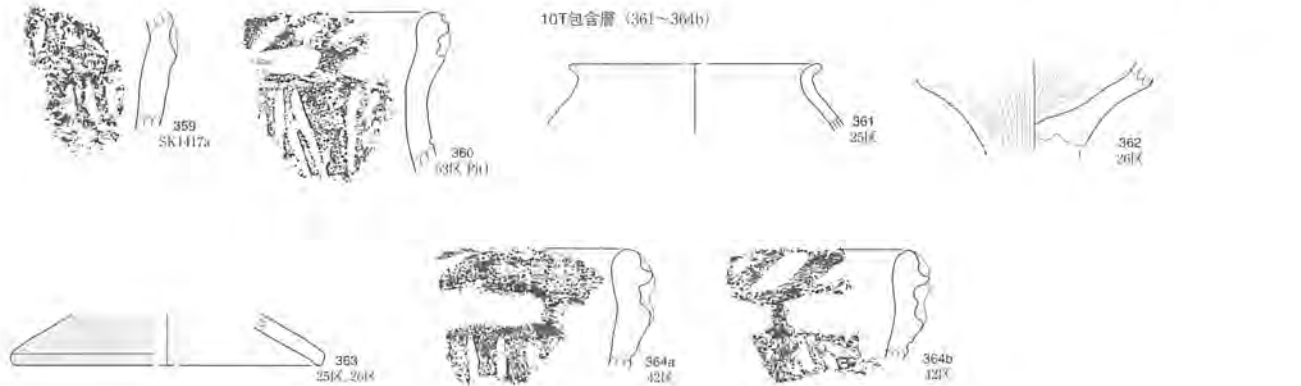
10T・SI1407・SK1419 (338~351)



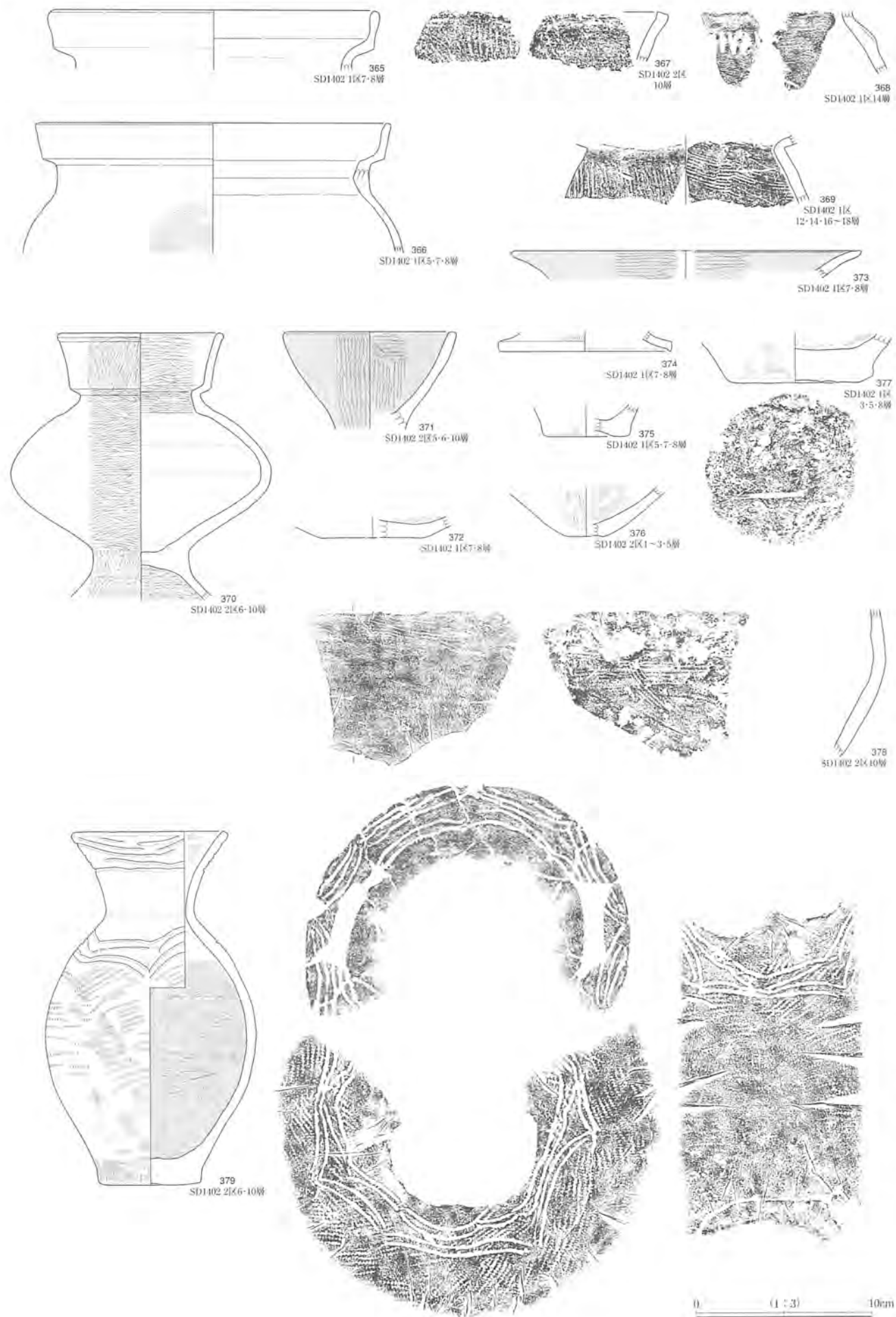
10T SK・SD・Pit (352~360)



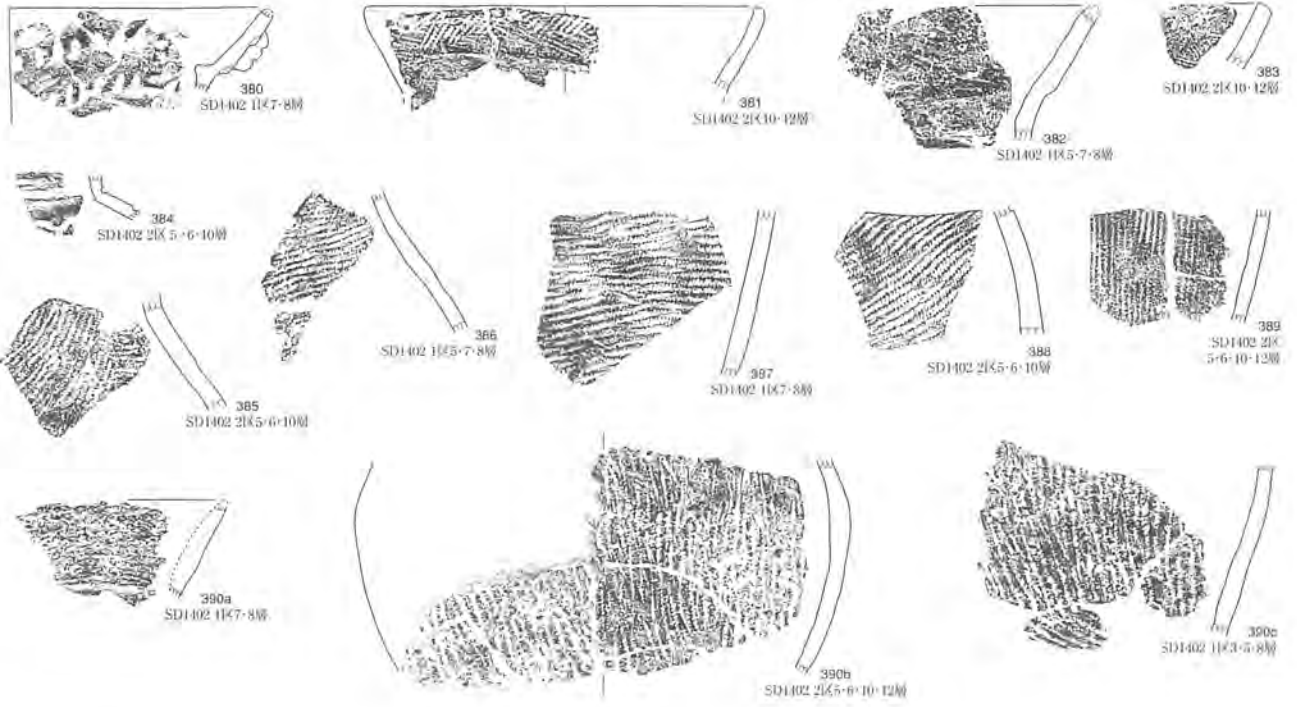
10T包含層 (361~362b)



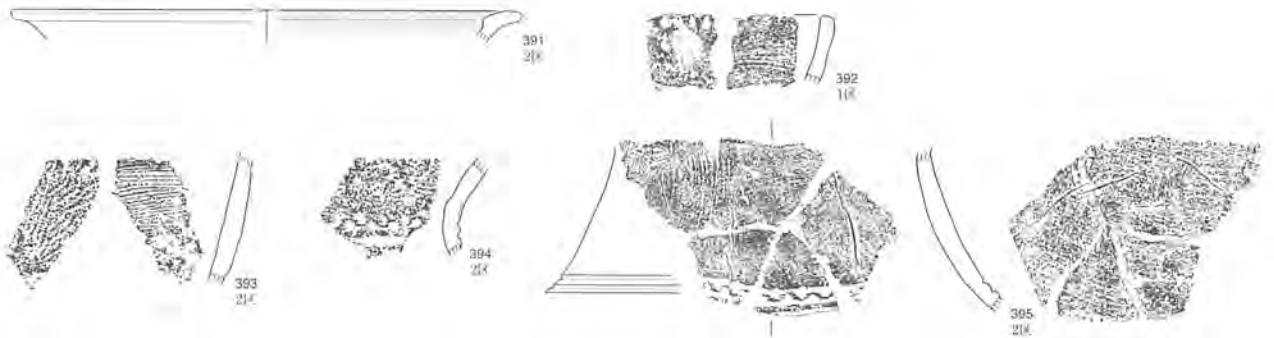
3TSD1402 (365~379)



3TSD1402 (380~390c)



3T包含層 (391~395)



12TSD1402 (396~403)



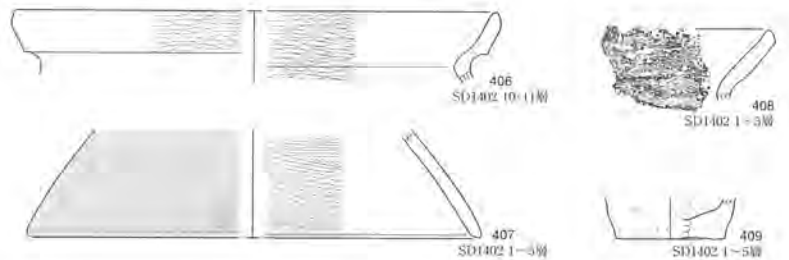
12T包含層 (404)



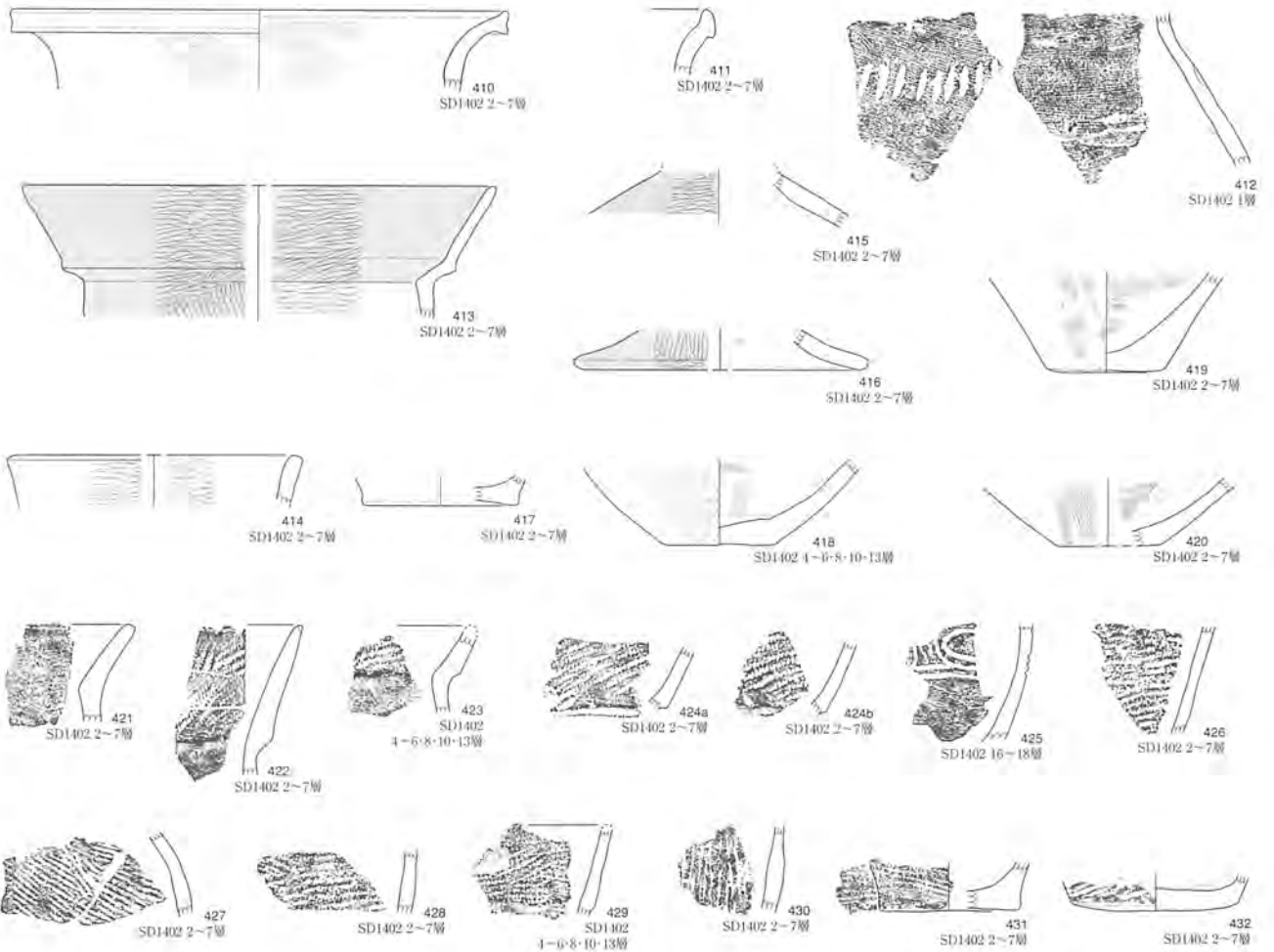
14TSD1402 (405)



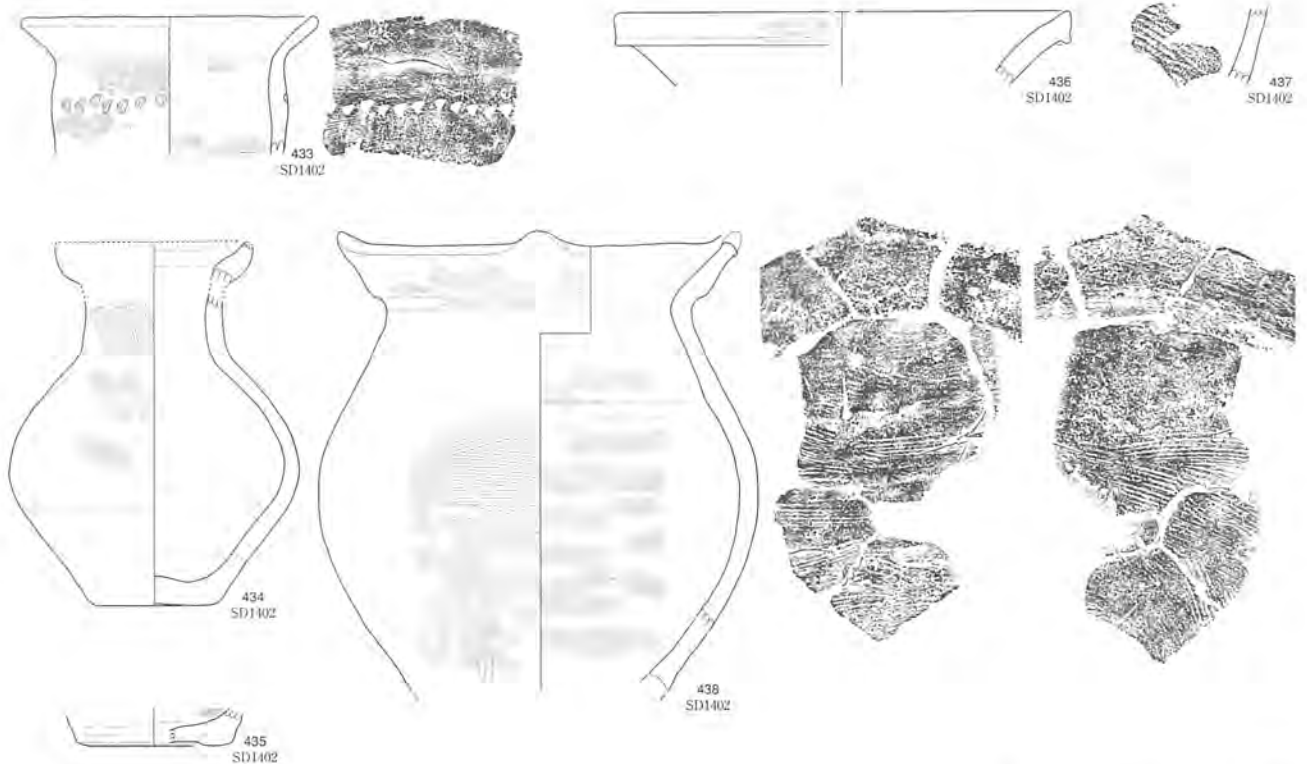
15TSD1402 (406~409)



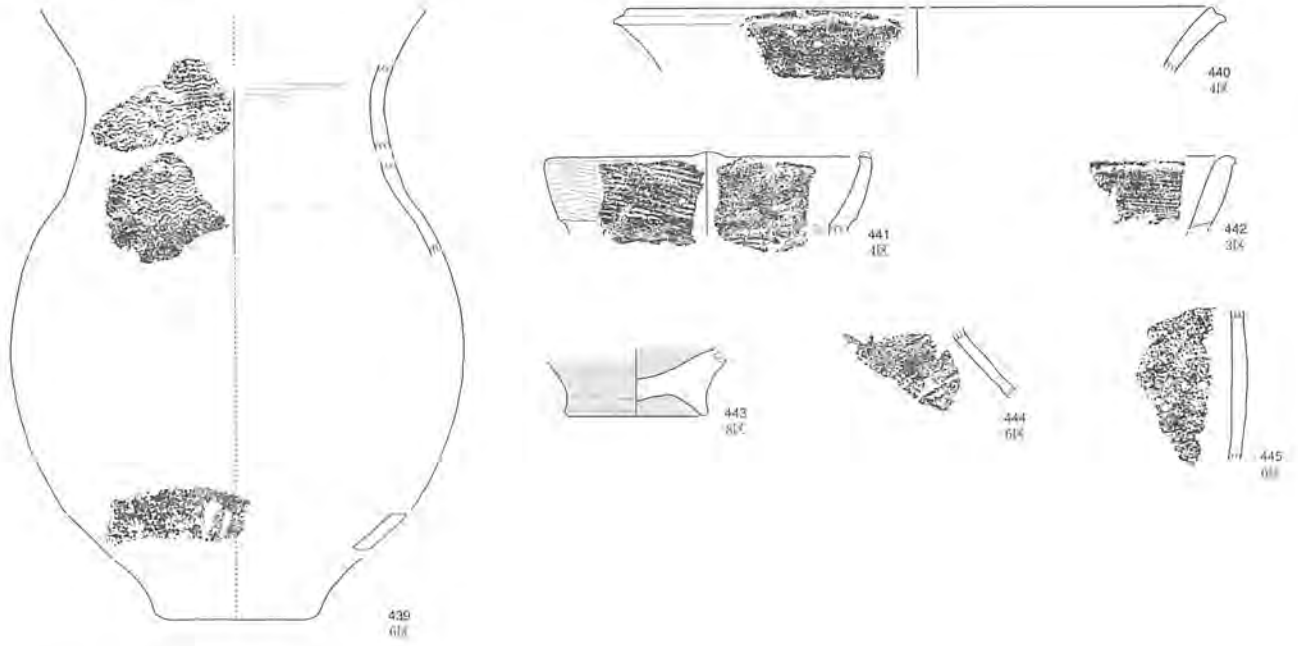
13TSD1402 (410~432)



16TSD1402 (433~438)



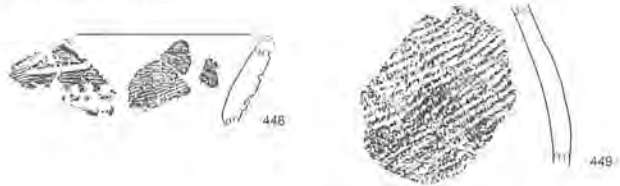
16T包含層 (439-445)



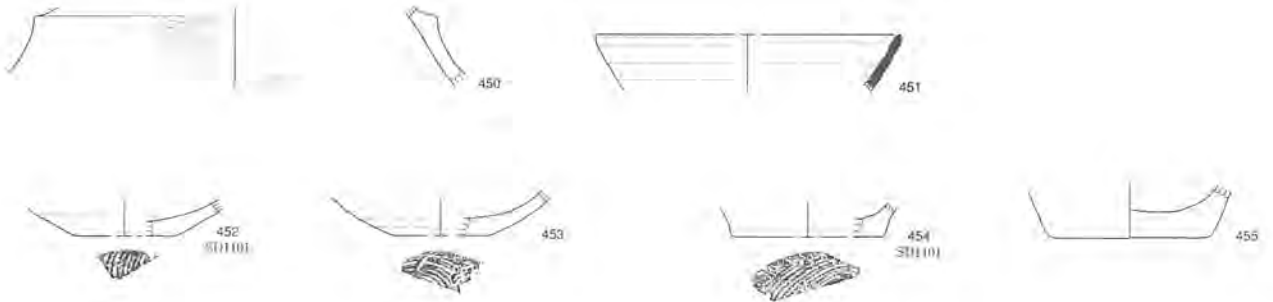
17TSD1402 (446-447)



17T包含層 (448-449)

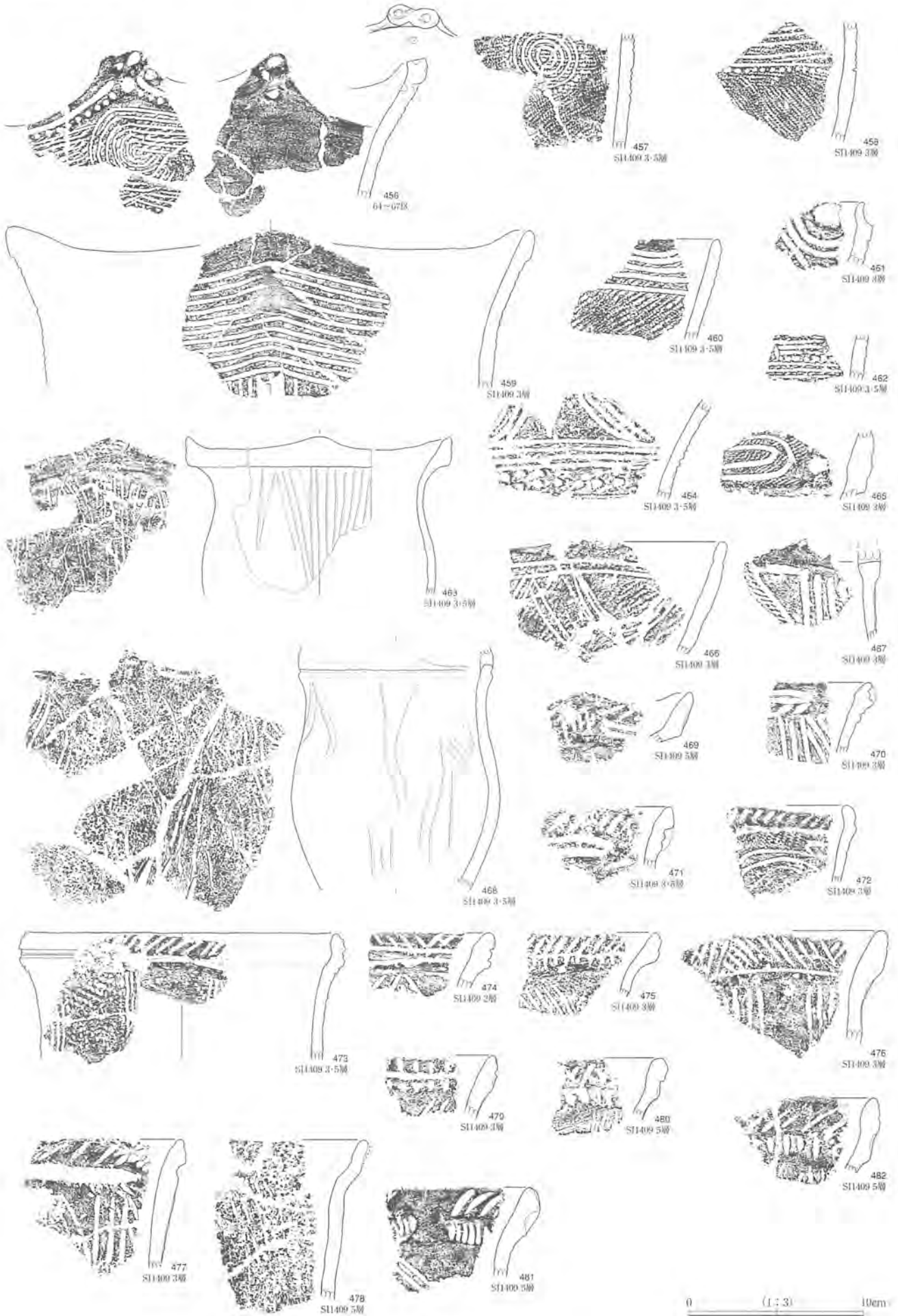


古津八幡山古墳 (450-455)

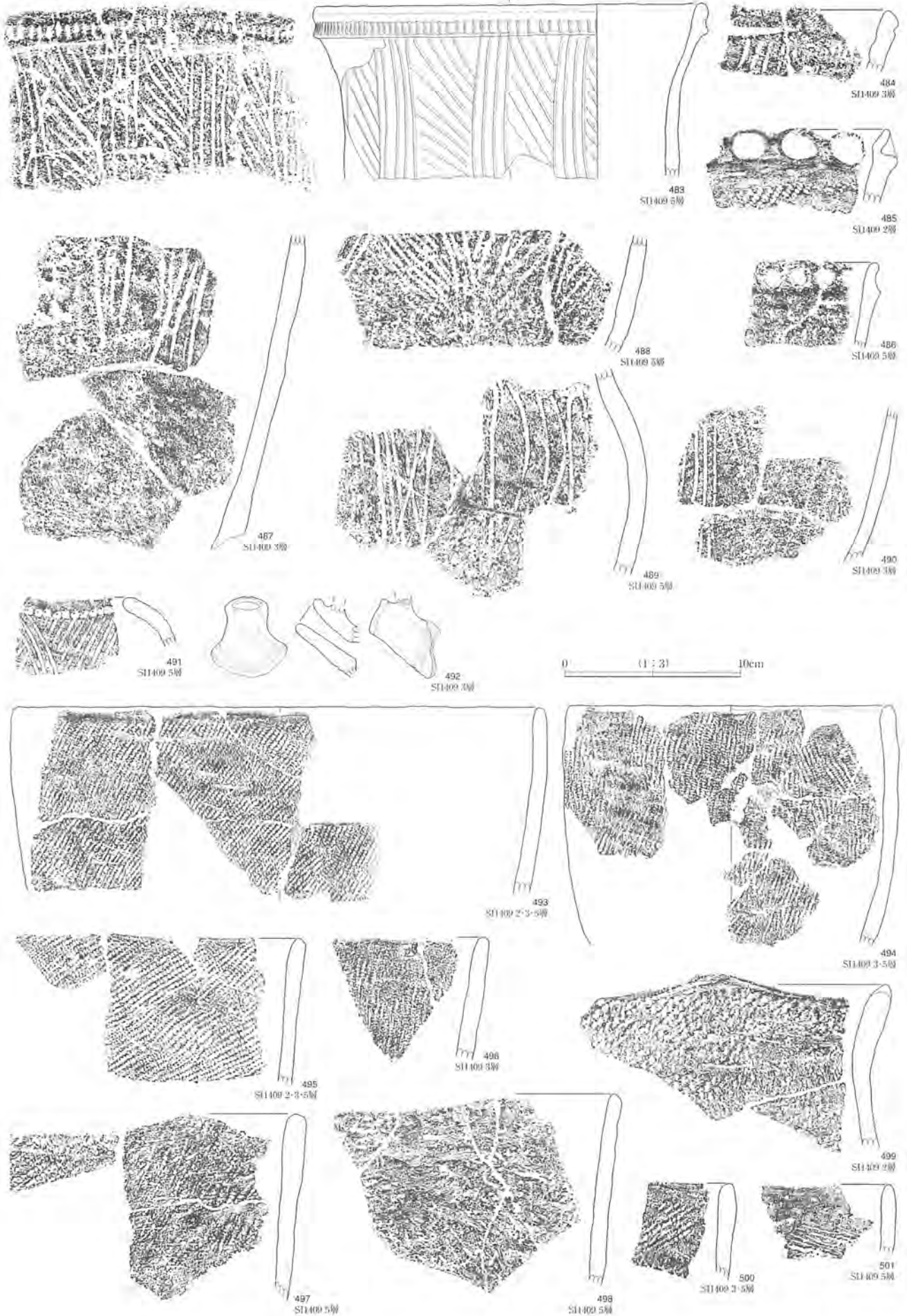


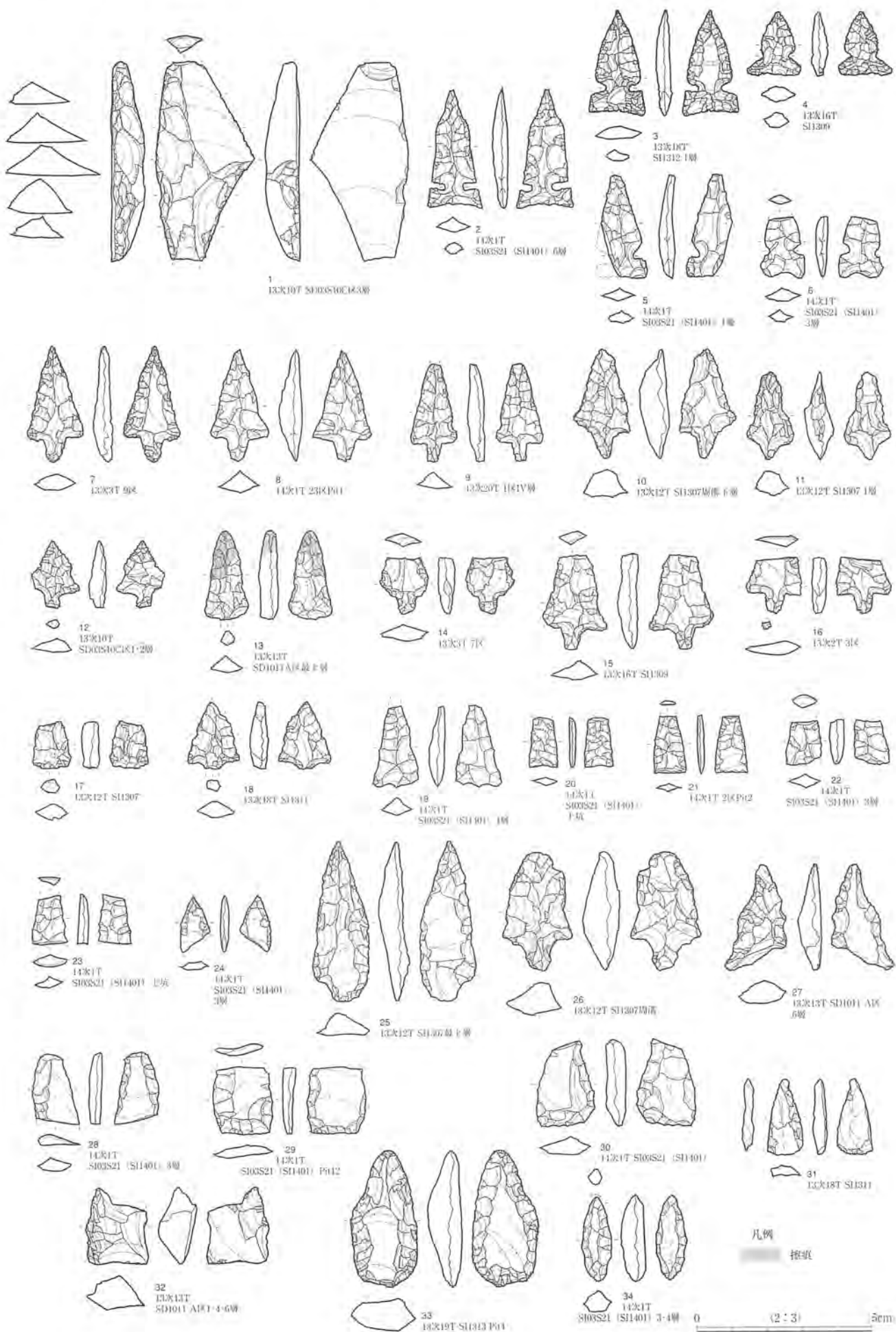
0 (1:3) 10cm

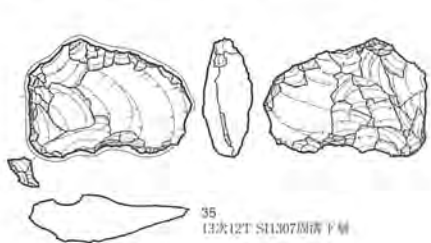
10TSH1409 (456~482)



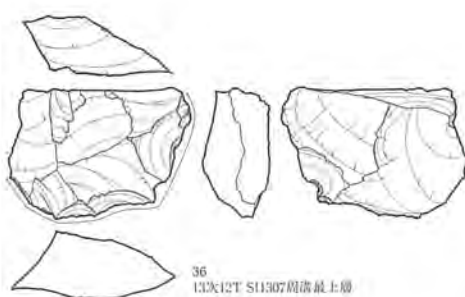
10TSH1409 (483-501)







35
13次12T S11307周溝下層



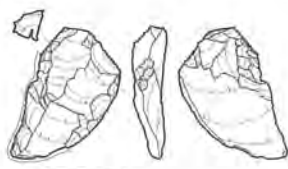
36
13次12T S11307周溝最上層



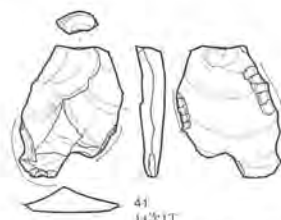
37
13次10T 2枚



38
13次12T S11307周溝5層



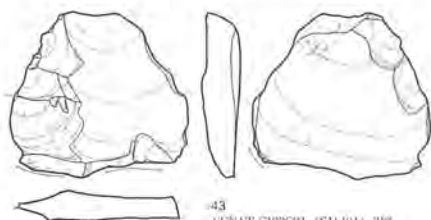
39
13次12T S11307周溝上層



40
14次1T S103S21 (S11401) 3~4層



41
13次12T S11307周溝5層



42
14次1T S103S21 (S11401) 3層



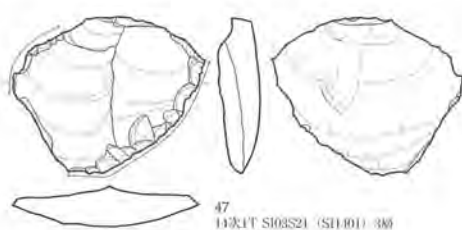
43
13次12T S11307周溝上層



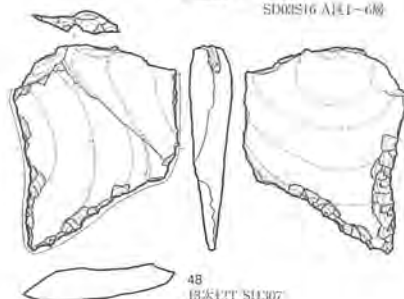
44
13次12T S103S16 A層1~6層



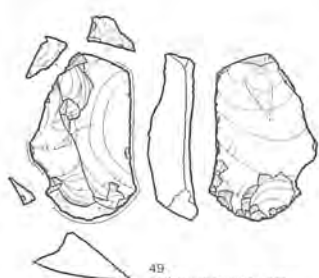
45
13次12T 13枚



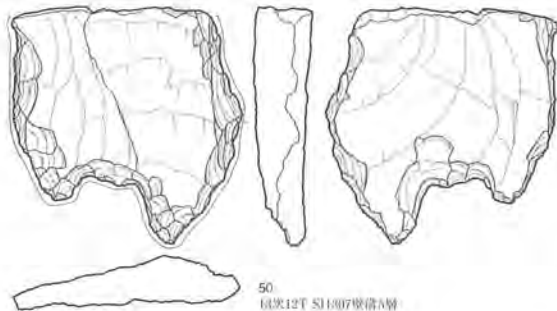
46
14次1T S103S21 (S11401) 3層



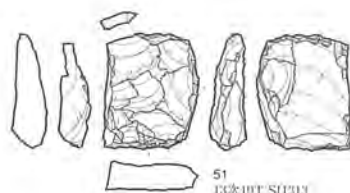
47
13次12T S11307



48
13次16T S11309 1c~1層



49
13次12T S11307周溝3層



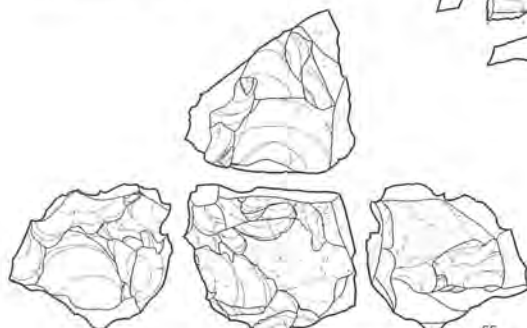
50
13次10T S11313



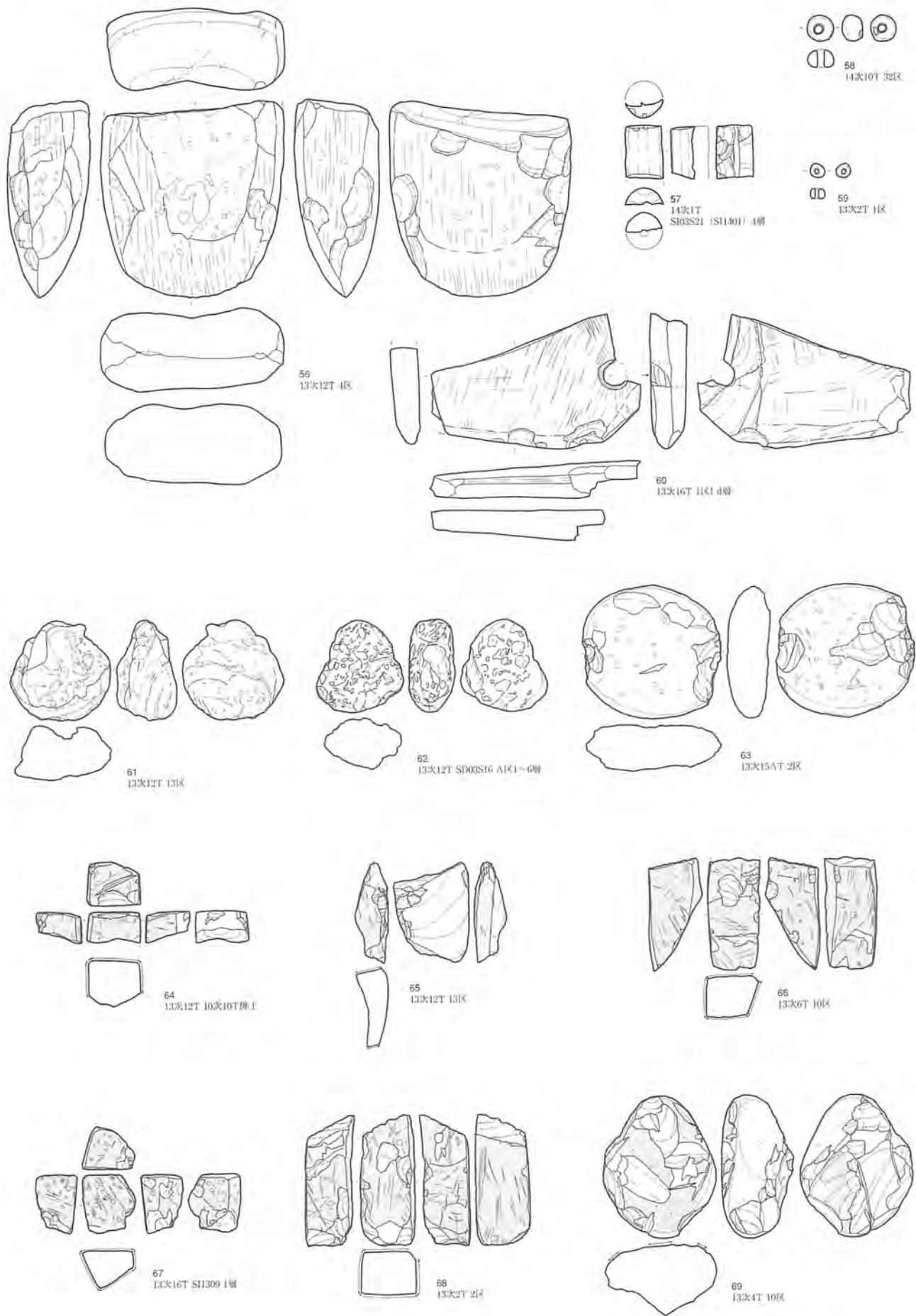
51
14次1T S103S21 (S11401) 3層



52
13次150T SD1011 10~14層

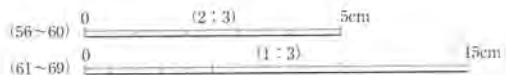


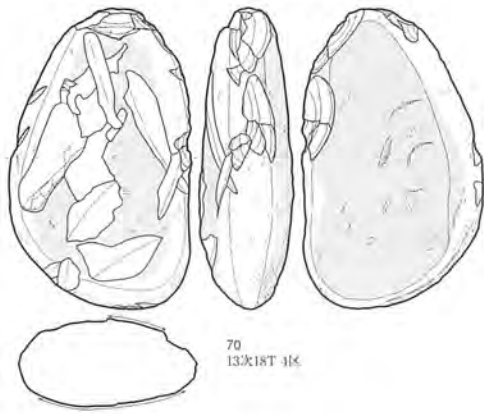
53
14次1T S103S21 (S11401) 4層



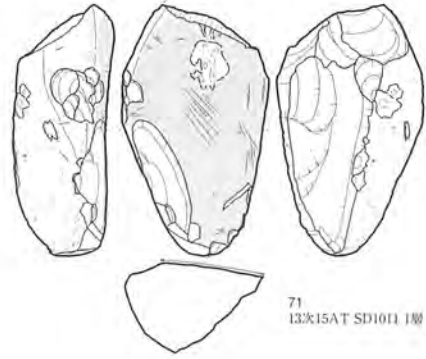
凡例

紙面

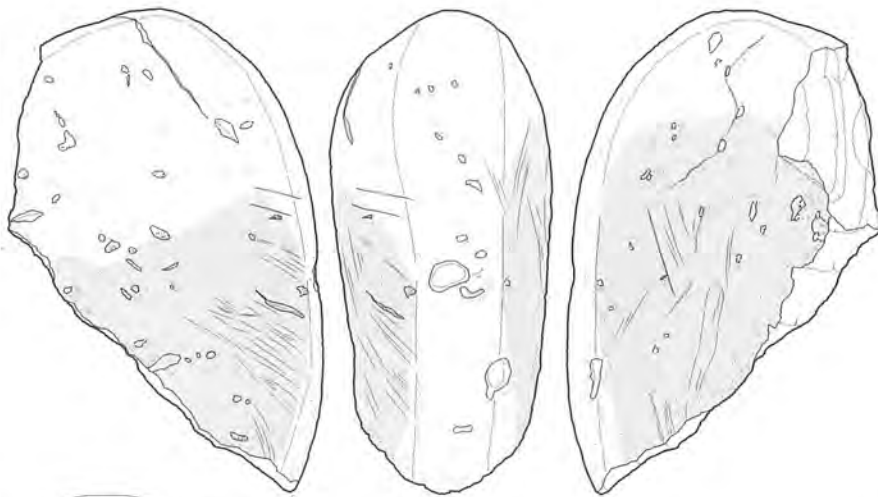




70
13次18T 3区

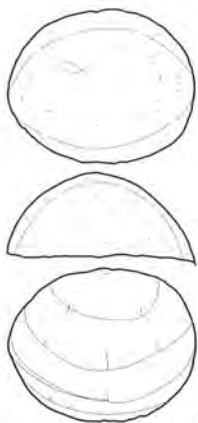
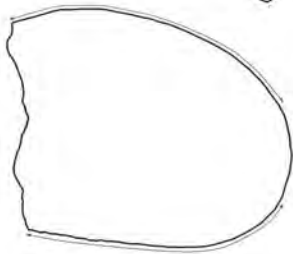


71
13次15AT SD1011 1層

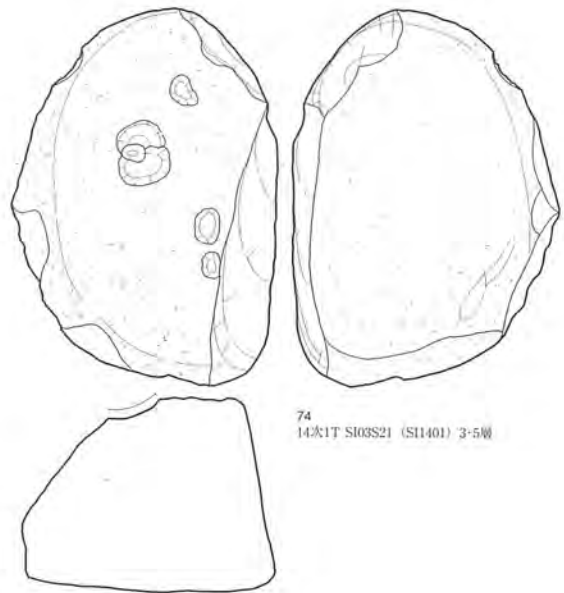


72
13次7T SD03S10 C1(1-2層)

凡例
砥面

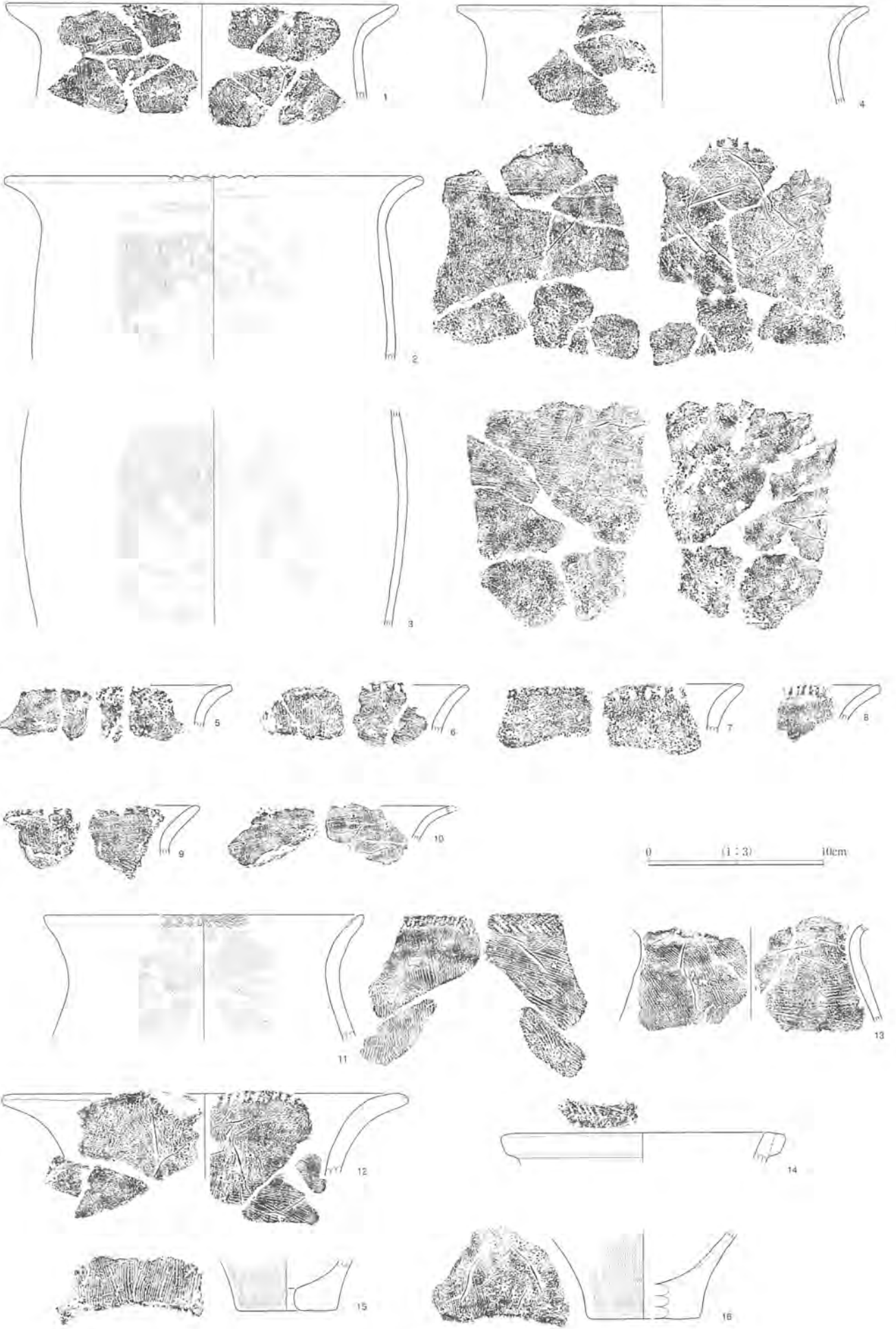


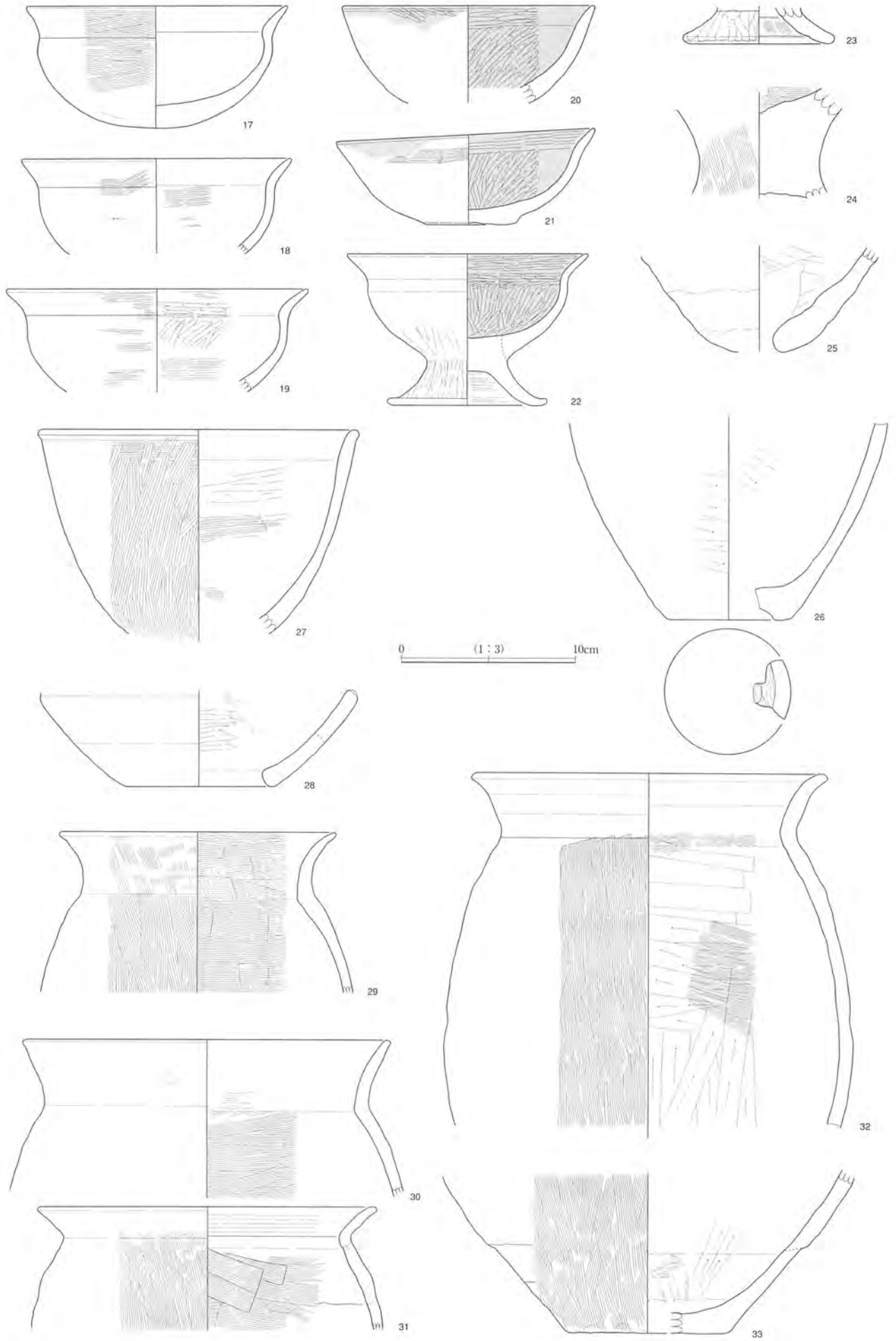
73
14次1T SI03S21 (SI1401) 4層



74
14次1T SI03S21 (SI1401) 3-5層

0 (1:3) 15cm







八幡山遺跡周辺航空写真 (2001年撮影)



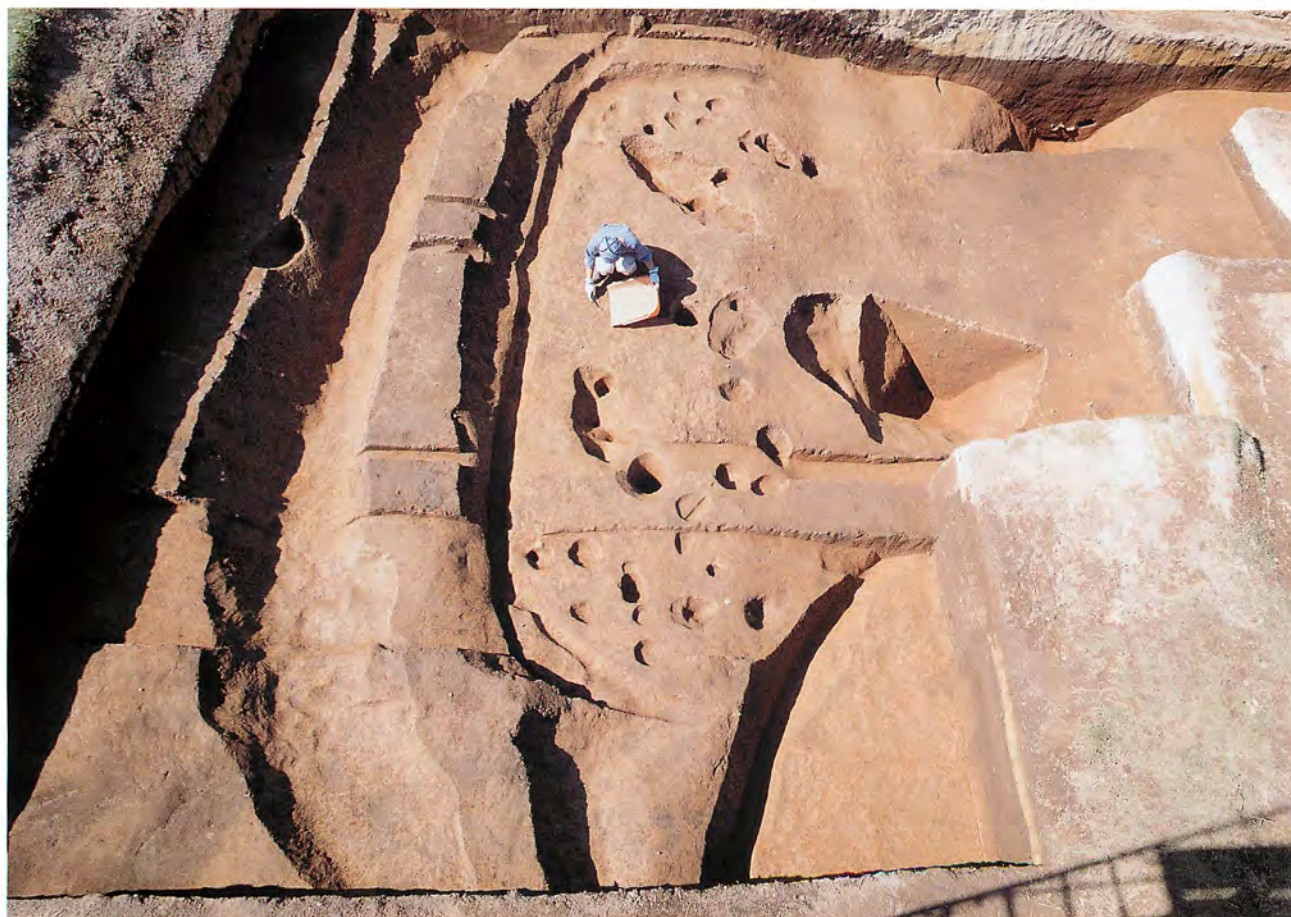
1 7TSD03S10環濠 (南から)



2 10TSD03S10環濠 (北西から)



1 9TSD0901・14TSD03N05環濠 (南東から)



2 12TSD03S16環濠、SI1307・SI1308竪穴住居 (南東から)



1 13TSD1011環濠（北東から）



2 13TSD1011環濠土層断面（北東から）



3 15ATSD1011環濠（北東から）



4 15ABCTSD1011環濠（北東から）



5 15BTSD1011環濠土層断面（北東から）



1 1TSl03S21 (Sl1401) 竪穴住居 (北から)



2 10TSl1407・Sl1408 竪穴住居 (北東から)



1 13TSD1402環濠 (東から)



2 3TSD1402環濠土層断面 (西から)



1 17TSD1402環濠 (北から)



2 10T北側遺構検出状況 (南西から)



1 航空写真



2 1T土層断面 (南西から)



3 2T土層断面 (西から)



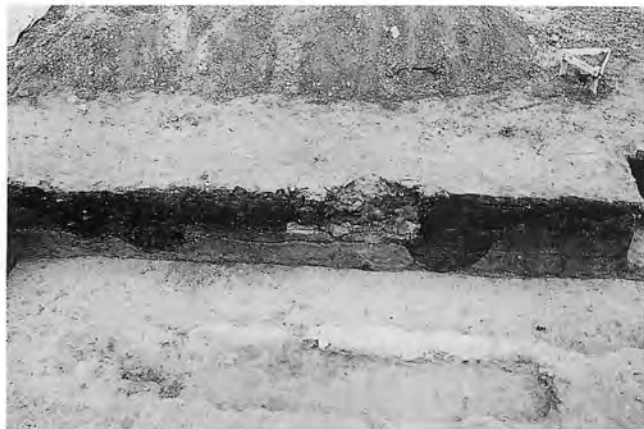
4 3T遺物出土状況 (北から)



5 4T土層断面 (北東から)



1 トレンチ全景 (南東から)



2 Hライン土層断面 (北西から)



3 Hライン土層断面 (北西から)



4 Kライン土層断面 (北東から)



5 Lライン土層断面 (南東から)



1 2T全景 (北東から)



2 2TSI1301 竪穴住居 (南西から)



3 2TSI1301 竪穴住居土層断面 (北西から)



4 4T全景 (北東から)



5 5T全景 (西東から)



6 5T全景 (東から)



7 6T全景 (北から)



1 3TSX1303・SX1304方形周溝墓（北東から）



2 3TSX1303・SX1304方形周溝墓検出状況（北東から）



3 3TSX1303方形周溝墓土層断面（北西から）



4 3TSX1304方形周溝墓土層断面（北東から）



5 3TSX1304方形周溝墓土層断面（北西から）



1 7TSD03S10環濠 (南から)



2 7TSD03S10環濠土層断面 (南から)



1 7TSD03S10環濠末端土層断面 (南から)



2 7TSD03S10環濠末端 (西から)



3 7TSD03S10環濠礫石出土状況 (南から)



4 7TSD03S10環濠遺物出土状況 (南から)



5 7TSD03S10環濠 (南から)



1 8・10・11TSD03S10環濠 (南東から)



2 10TSD03S10環濠 (南西から)



1 10TSD03S10環濠土層断面（北西から）



2 10TSD03S10環濠土層断面（南東から）



1 9TSD0901・14TSD03N05環濠（南東から）



2 9TSD0901・14TSD03N05環濠（北西から）



1 14TSD03N05環濠末端 (北東から)



2 9TSD0901環濠土層断面 (北から)



3 14TSD03N05環濠土層断面 (北から)



4 14TSD03N05環濠検出状況 (南から)



5 14TSD03N05環濠遺物出土状況 (南から)



1 12TSD03S16環濠、SI1307・SI1308竪穴住居（南東から）



2 12TSI1307竪穴住居周溝土層断面（南東から）



3 12TSI1307竪穴住居（南東から）



4 12TSI1307竪穴住居壁溝遺物出土状況（北東から）



5 12TSI1307竪穴住居ピット遺物出土状況（北から）



1 12TSD03S16環濠土層断面 (南から)



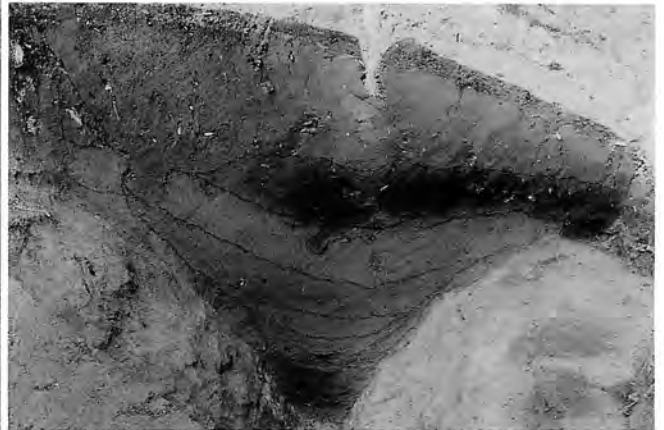
2 2TSD03S16環濠末端土層断面 (南から)



1 13TSD1011環濠（北東から）



2 13TSD1011環濠（南西から）



3 13TSD1011環濠土層断面（北東から）



4 13TSD1011環濠土層断面（北東から）



1 15ABCTSD1011環濠（北東から）



2 15ABCTSD1011環濠（南西から）



3 15ATSD1011環濠（北東から）



4 15BTSD1011環濠（南東から）



5 15BTSD1011環濠断面（北東から）



6 15CTSD1011環濠末端土層断面（南西から）



1 16T全景 (南東から)



2 16TSI1309 竪穴住居貯蔵穴 (南西から)



3 16TSI1309 竪穴住居土層断面 (北東から)



4 16TSI1309 竪穴住居遺物出土状況 (北から)



5 16TSK1310 土坑 (北から)



1 18T全景 (北から)



2 18TSI1311 竪穴住居 (西から)



3 18TSI1312 竪穴住居 (南から)



4 18TSI1312 竪穴住居 (東から)



5 19TSI1313 竪穴住居焼土 (北から)



6 19TSI1313 竪穴住居 (西から)



7 19TSI1313 竪穴住居土層断面 (北西から)



8 20T 土層断面 (西から)



1 1TSl03S21 (Sl1401) 竪穴住居 (東から)



2 1TSl03S21 (Sl1401) 竪穴住居土層断面 (北西から)



3 1TSl03S21 (Sl1401) 竪穴住居焼土土層断面 (西から)



4 1TSl03S21 (Sl1401) 竪穴住居貯蔵穴土層断面 (北西から)



5 1TSl03S21 (Sl1401) 竪穴住居遺物出土状況 (北から)



1 2T全景 (北西から)



2 4TSK1404土坑 (南から)



3 4T全景 (北から)



4 4TSK1403土坑 (北から)



5 5T全景 (西から)



6 5T土層断面 (西から)



7 8T全景 (西から)



8 8T土層断面 (北から)



1 9T全景 (東から)



2 9T遺構検出状況 (西から)



3 9TSD1405溝 (北東から)



4 9T土層断面 (北東から)



5 9T土層断面 (北西から)



1 10TSI1407・SI1408 竪穴住居 (北東から)



2 10TSI1407・SI1408 竪穴住居検出状況 (北東から)



3 10TSI1407 竪穴住居貯藏穴土層断面 (北東から)



4 10TSI1408 竪穴住居壁溝 (北東から)



5 10TSK1419 土坑土層断面 (北から)



6 10T 南側遺構検出状況 (北東から)



1 10T北側遺構検出状況 (南西から)



2 10T北側遺構検出状況 (北東から)



3 10TSK1416abc土坑土層断面 (南東から)



4 10T40区Pit 1土層断面 (南東から)



5 10TSI1409竪穴住居 (北から)



6 10TSI1409竪穴住居土層断面 (北から)



1 11T遺構検出状況(南から)



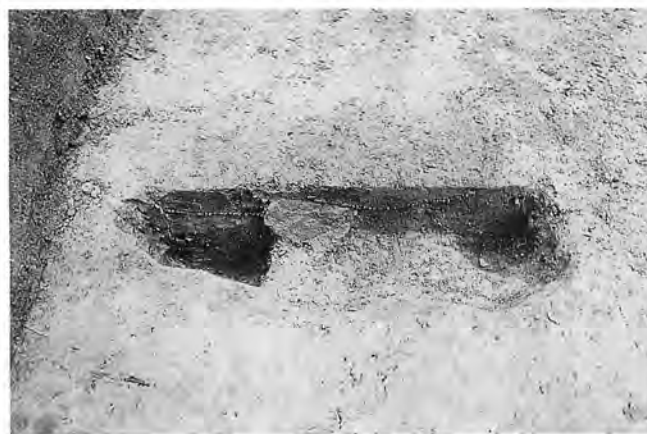
2 11T遺構検出状況(北から)



3 11T遺構半截状況(南から)



4 11TSK1424土坑土層断面(南から)



5 11TSK1423土坑土層断面(東から)



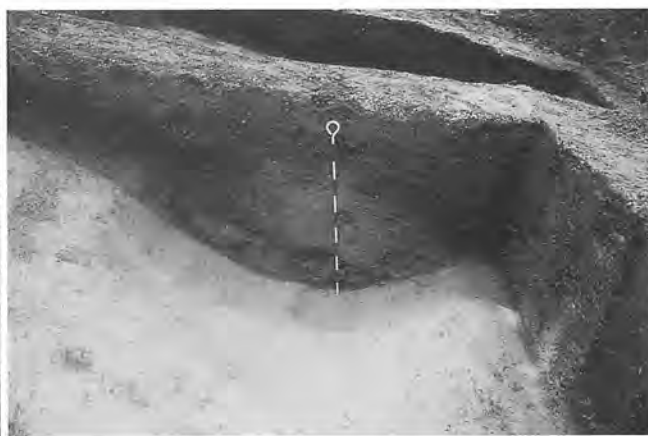
6 11T15区Pit 1土層断面(南東から)



1 6ABTSD0901環濠、風倒木（北西から）



2 6ATSD0901環濠末端土層断面（西から）



3 6AT風倒木土層断面（東から）



4 6ABT全景（南東から）



5 7T全景（北から）



1 13TSD1402環濠 (東から)



2 13TSD1402環濠土層断面 (東から)



1 3T全景 (南から)



2 3T南側土層断面 (南西から)



1 3TSD1402環濠 (西から)



2 3TSD1402環濠土層断面 (東から)



1 12TSD1402環濠 (北東から)



2 12TSD1402環濠土層断面 (東から)



3 14TSD1402環濠 (北西から)



4 14TSD1402環濠土層断面 (東から)



5 15TSD1402環濠土層断面 (北から)



1 17TSD1402環濠 (北から)



2 17TSD1402環濠土層断面 (北から)



3 17TSD1402環濠土層断面 (南から)



4 16T・17T (北西から)



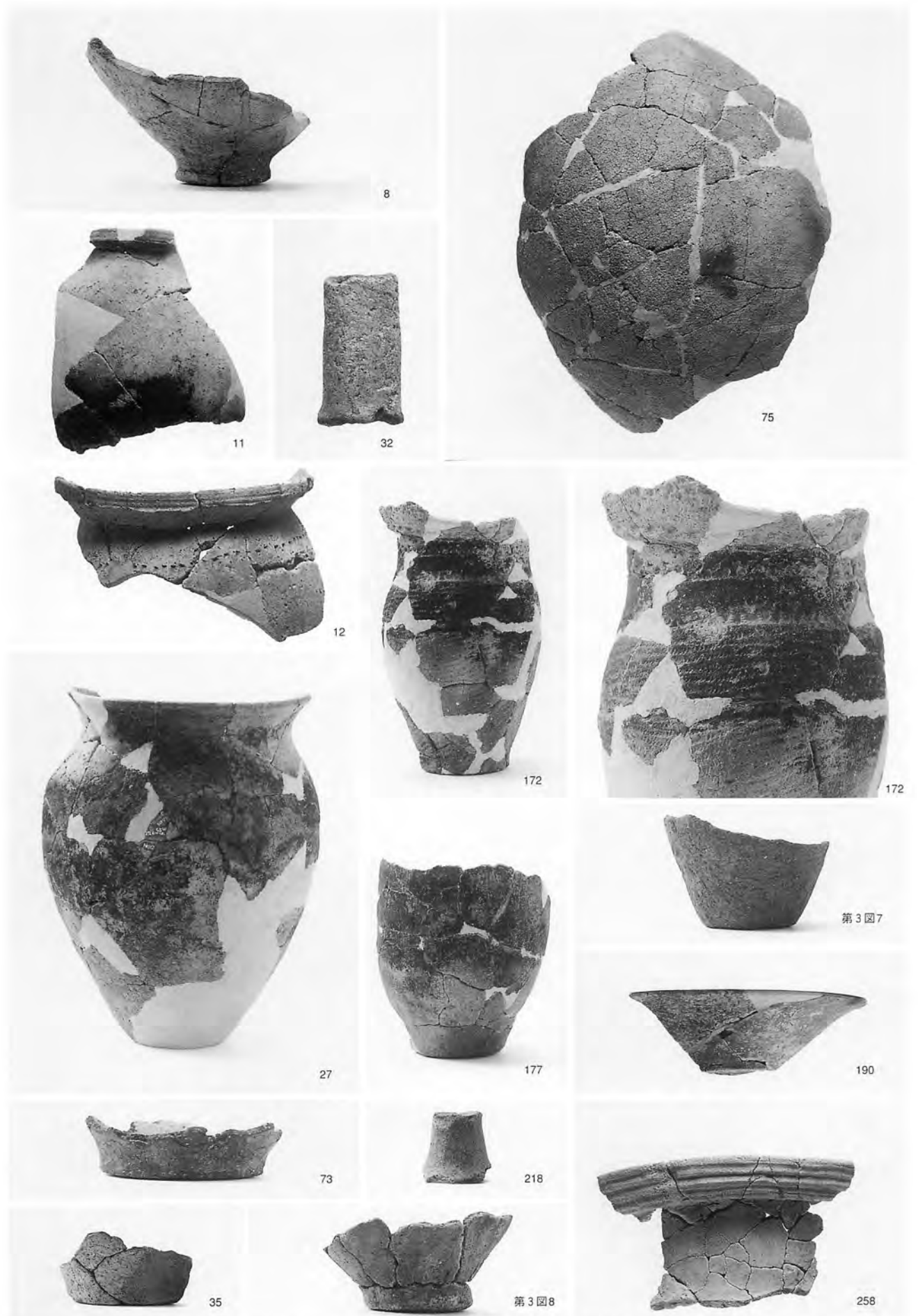
5 16TSD1402環濠末端 (北から)



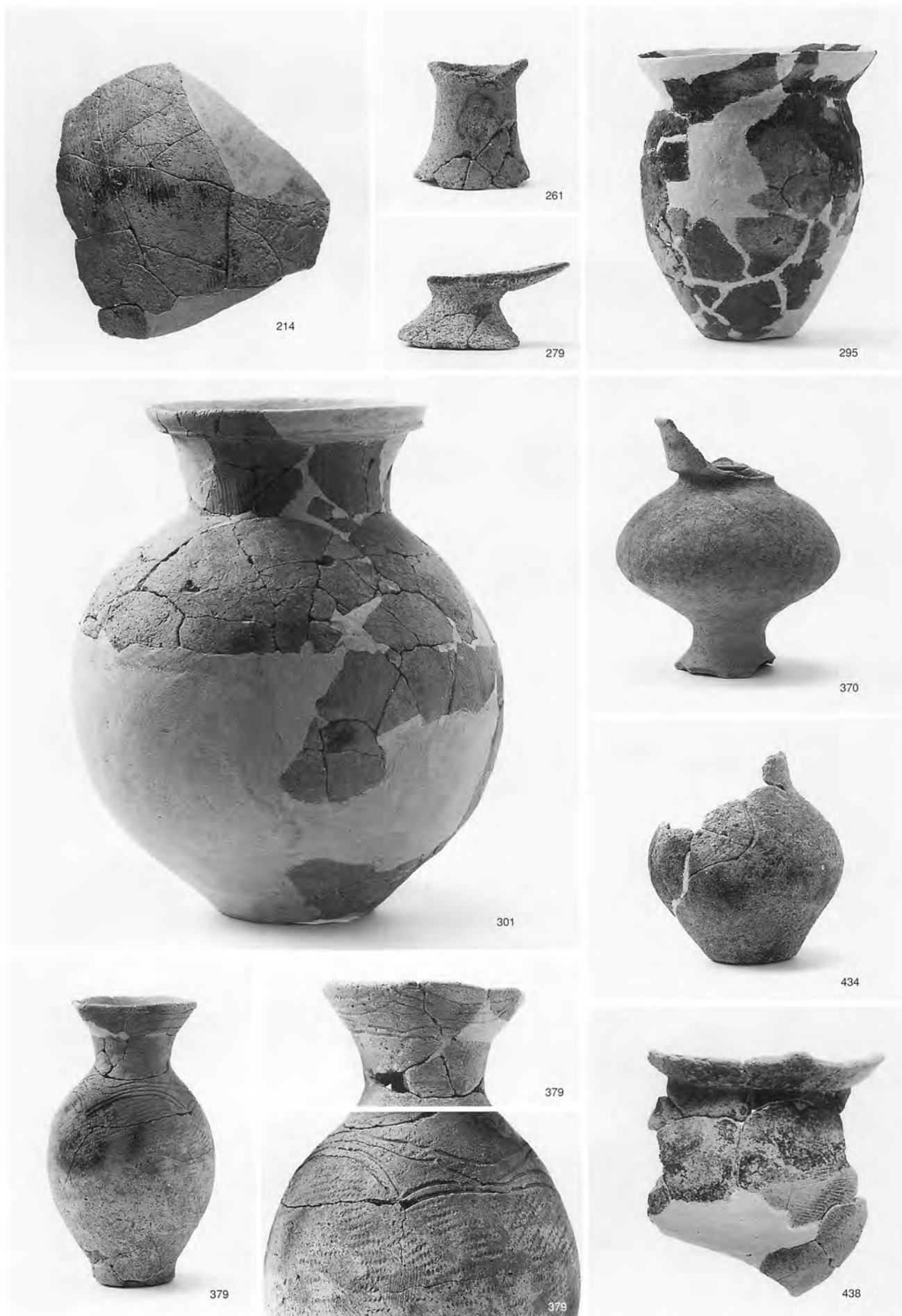
1 SD1402 (370・379)



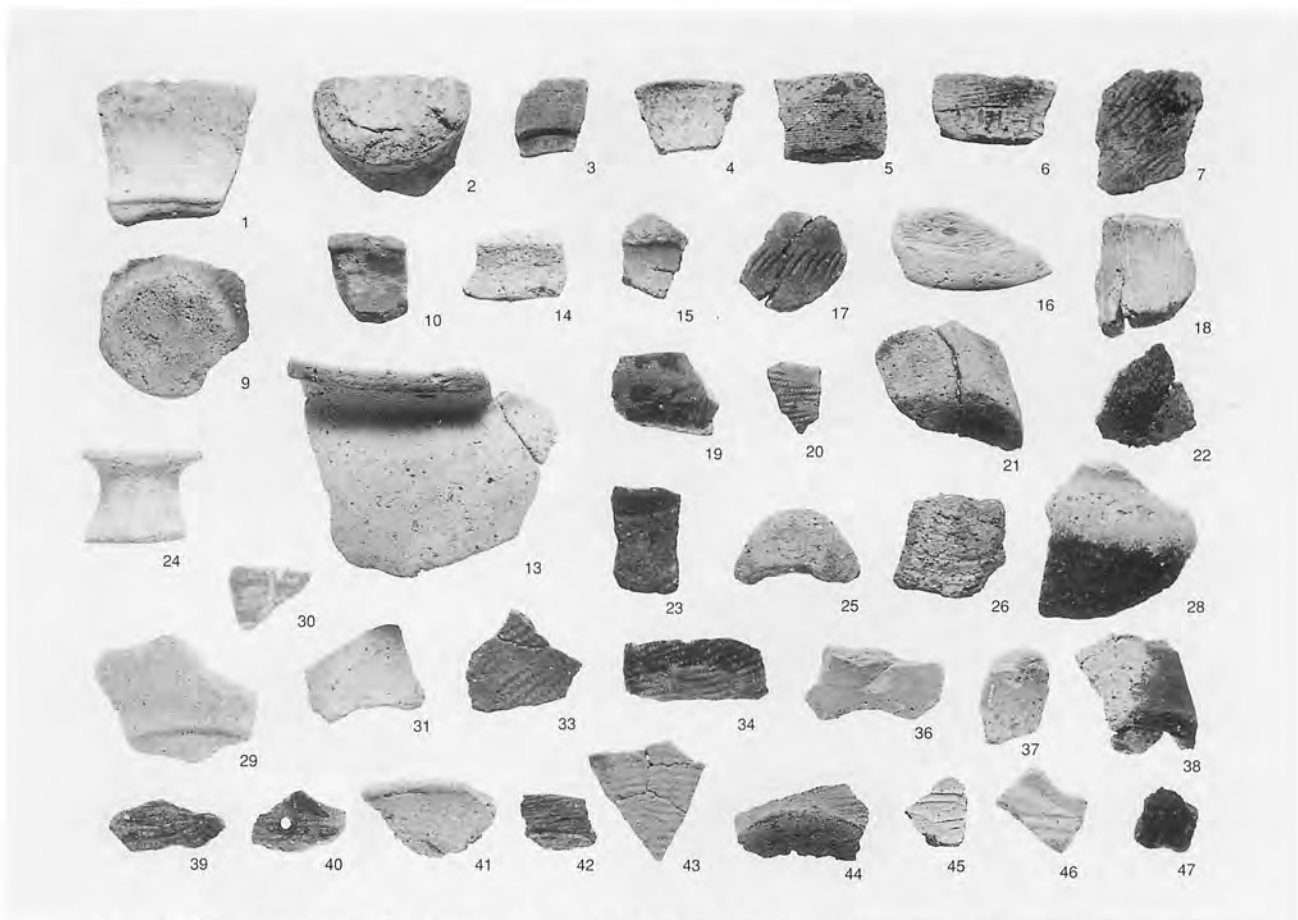
2 SK1310 (295) SD03S10 (27)



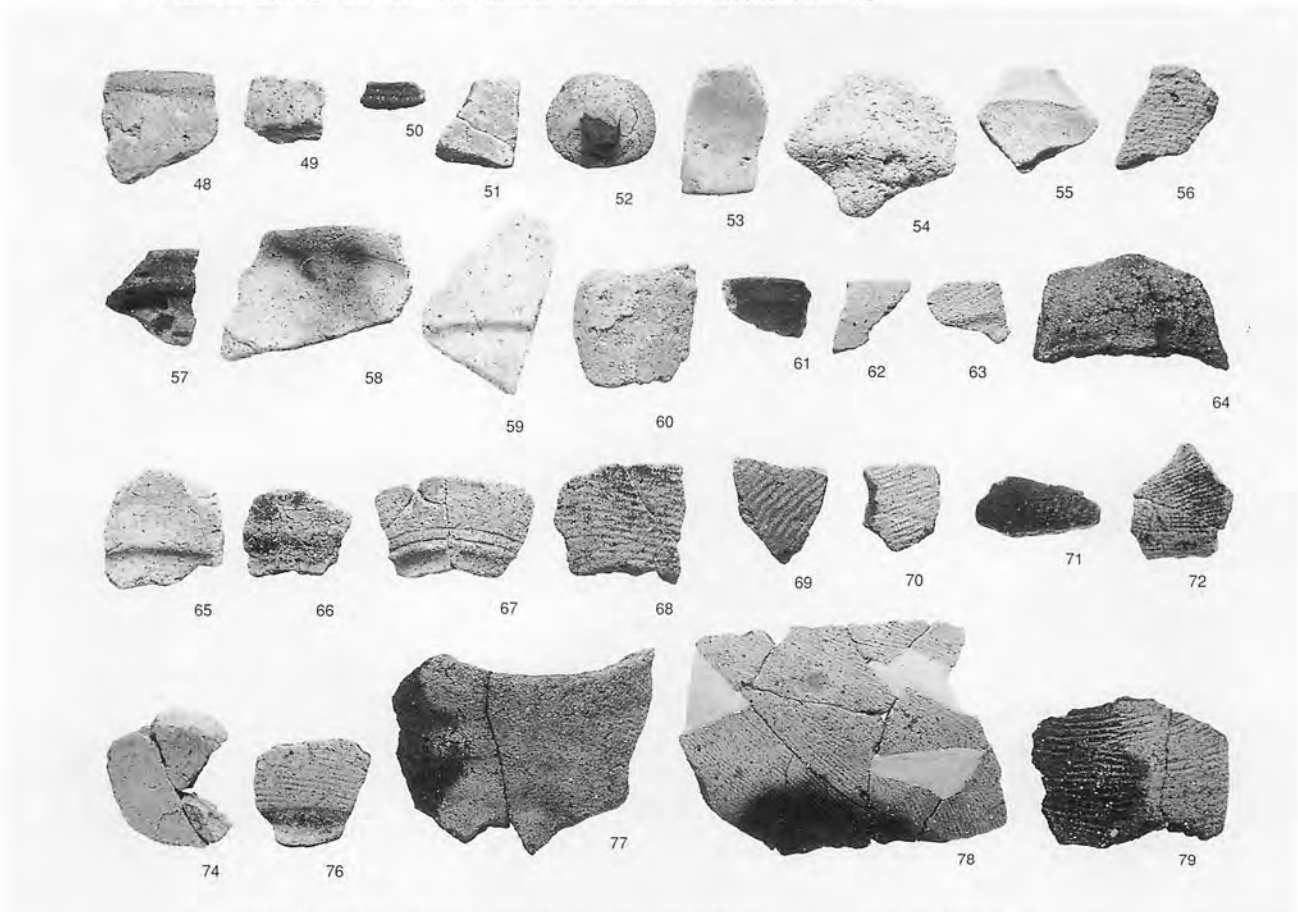
3T包含層 (8) SD03S10 (11・12・27・32・35) SD03N05 (73・75) SII307 (172・177) SD03S16 (190)
SD1011 (218) SII313 (258) SII308 (第3図7・8)



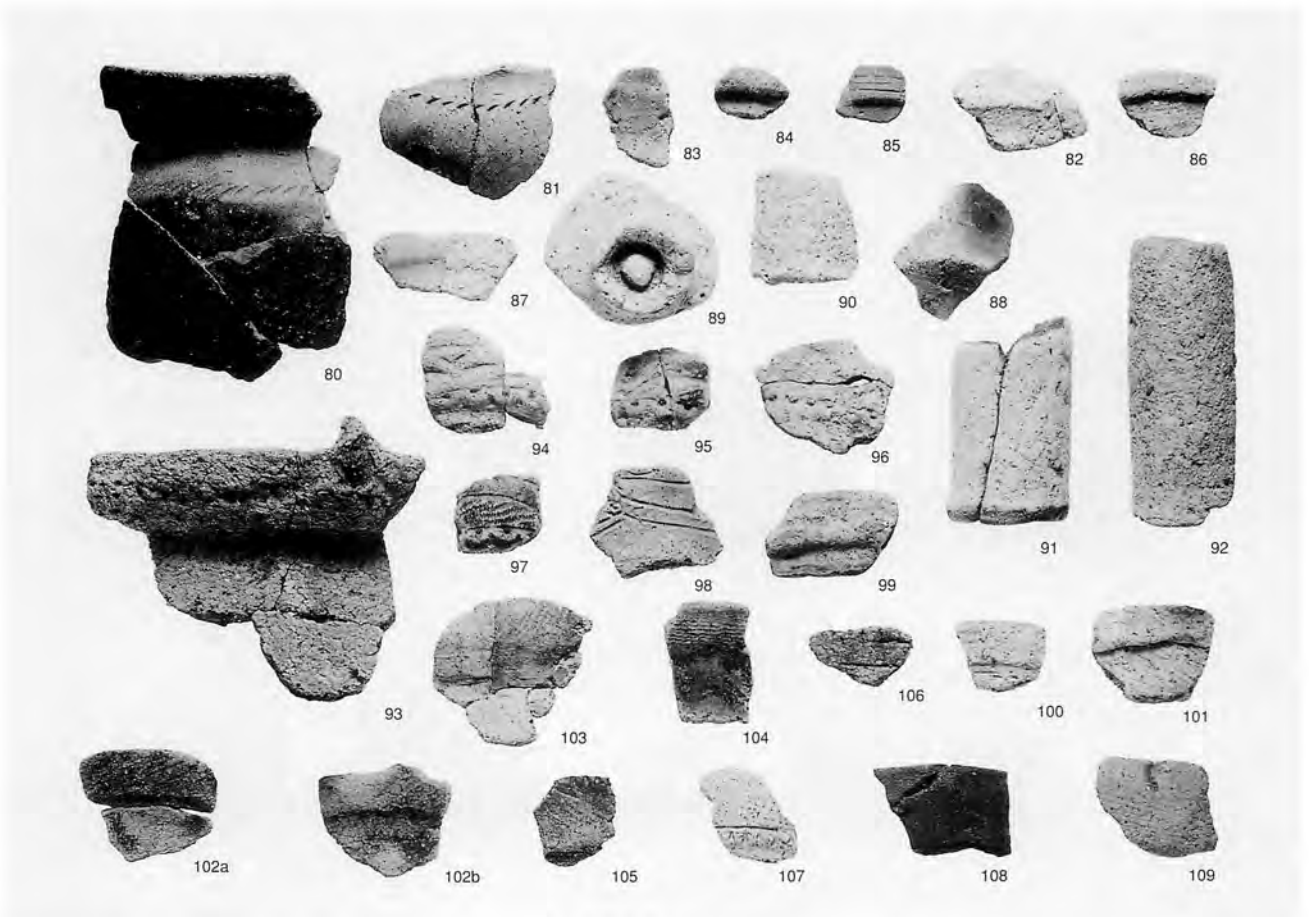
SD1011 (214) SI1313 (261) SI1309 (279) SK1310 (295) SI03S21 (301) SD1402 (370・379・434・438)



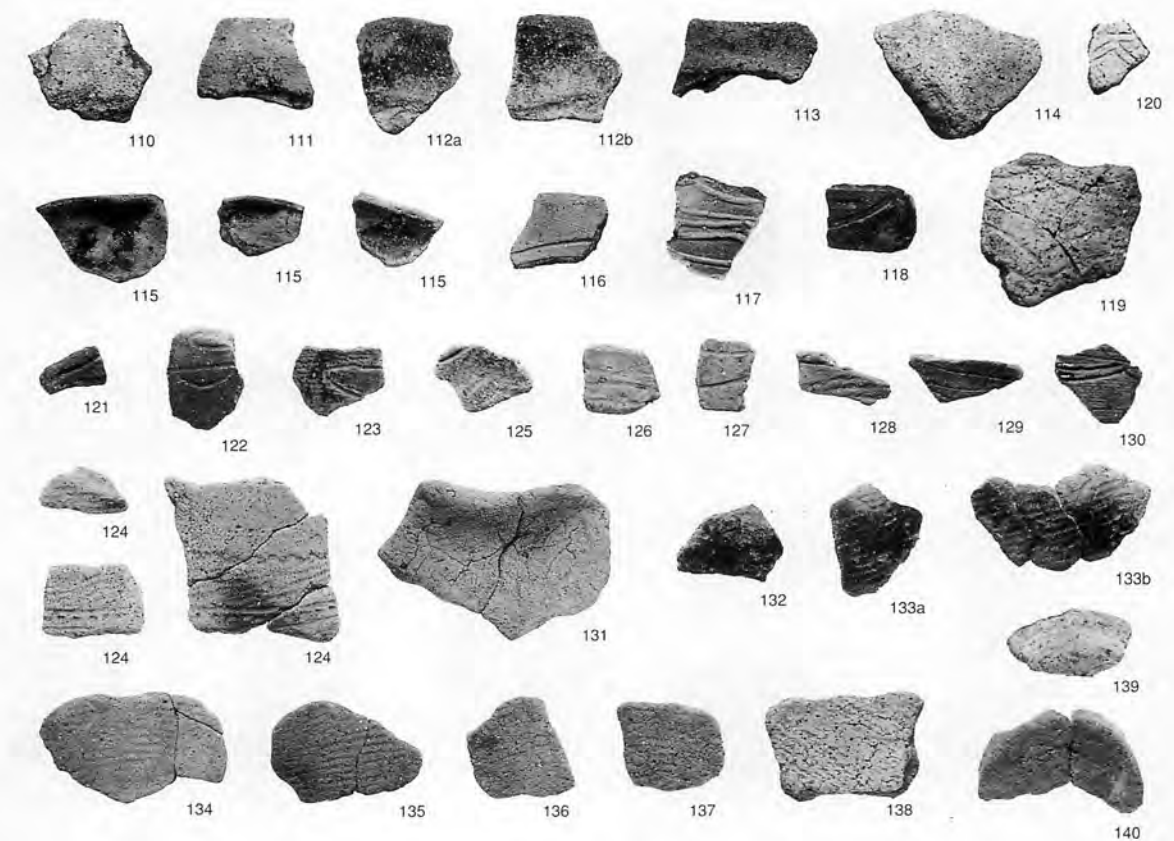
1 2T包含層 (1~3) 3T包含層 (4~7・9) 4T包含層 (10) SD03S10 (13~21・23・28~31・33・34・41~44) 7T (22) 8T包含層 (24~26) 10T包含層 (36~40) 11T包含層 (45~47)



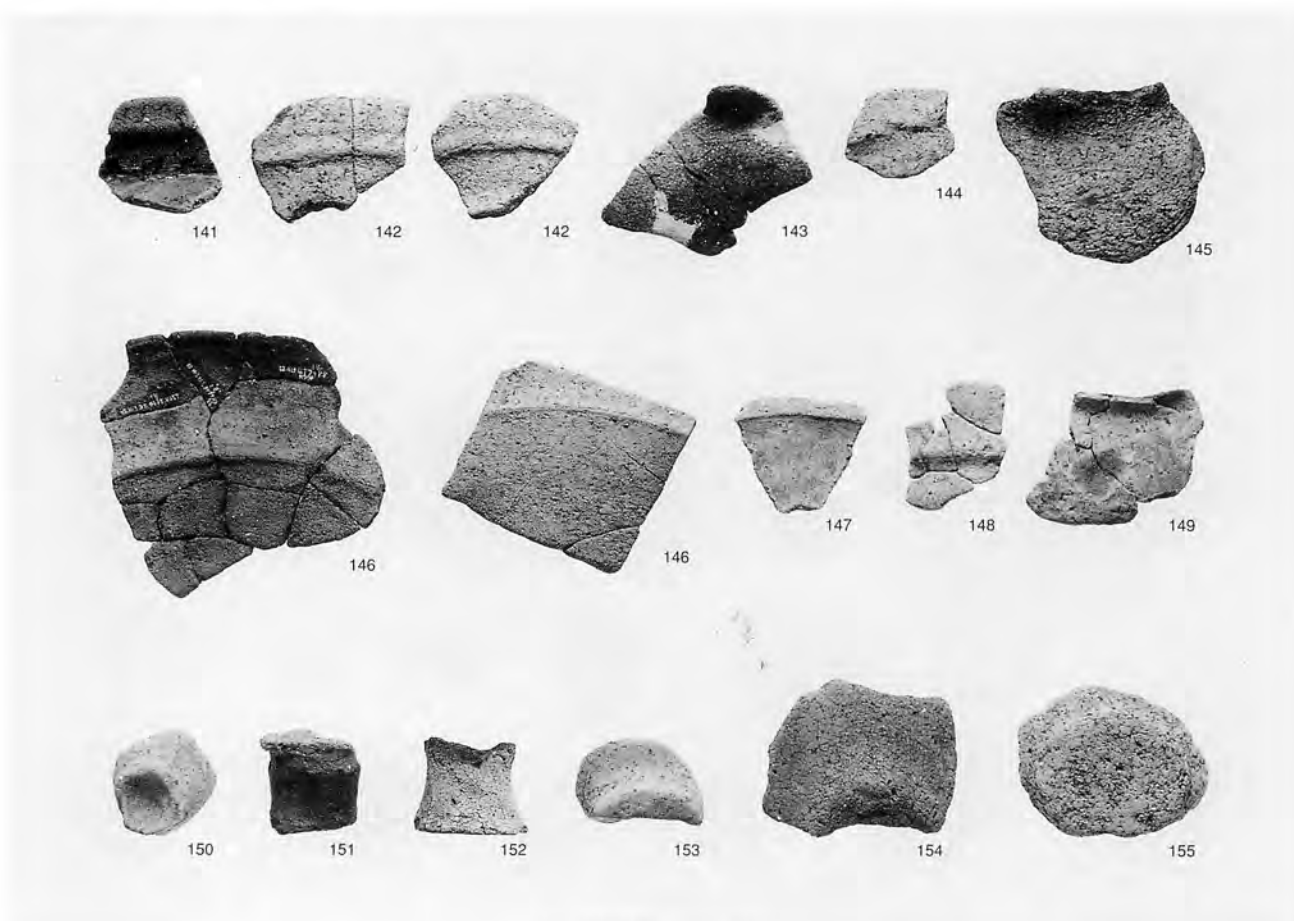
2 SD0901 (48~54) 9T包含層 (55・56) SD03N05 (57~72・74・76) 14T包含層 (77~79)



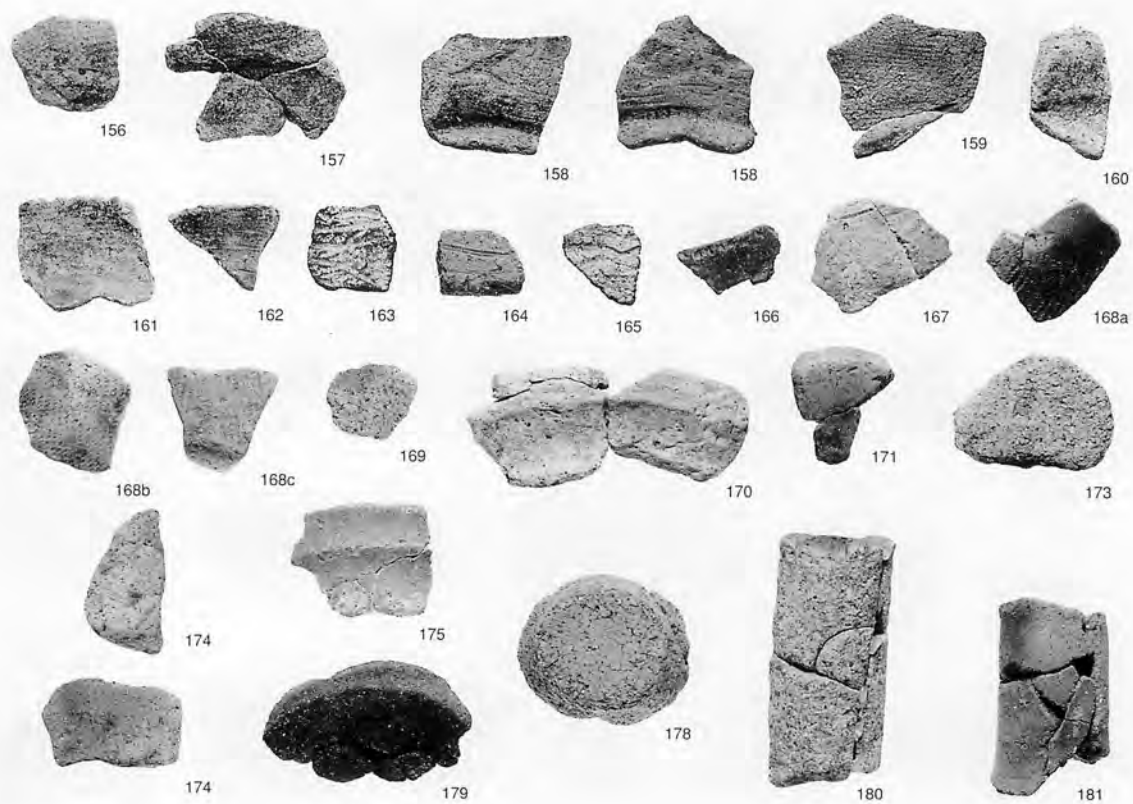
1 SI1307 (80~109)



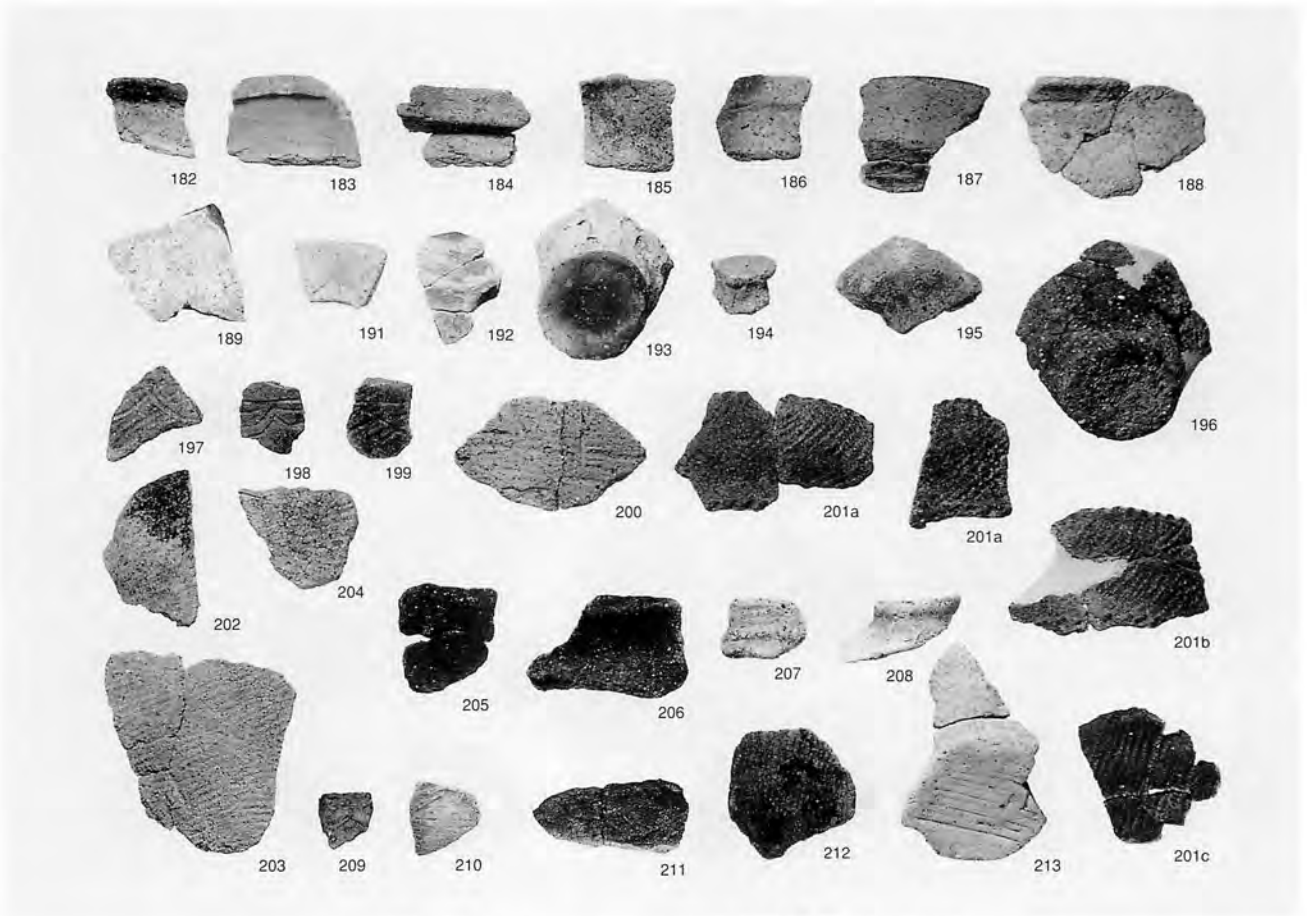
2 SI1307 (110~140)



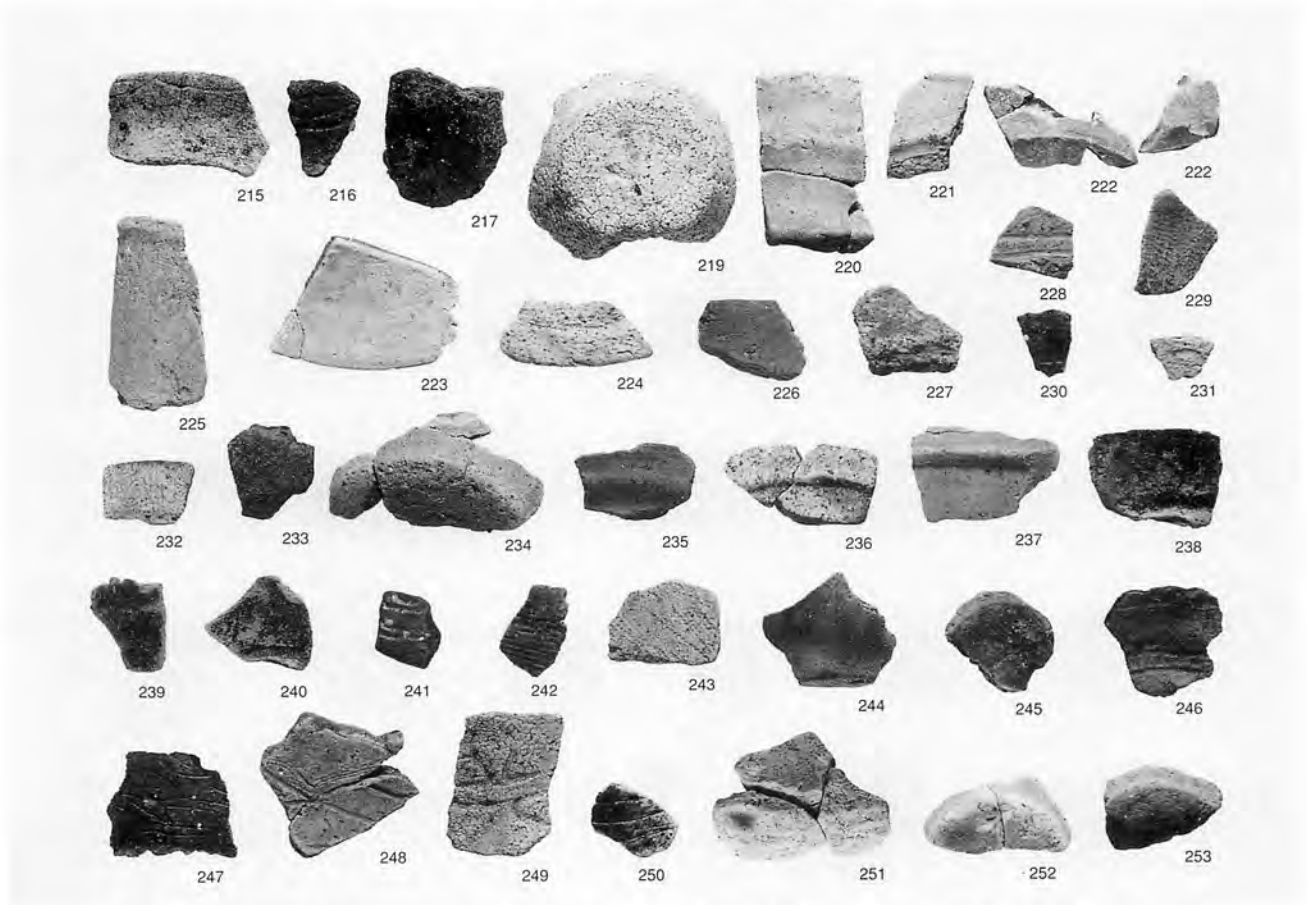
1 SII307 (141~155)



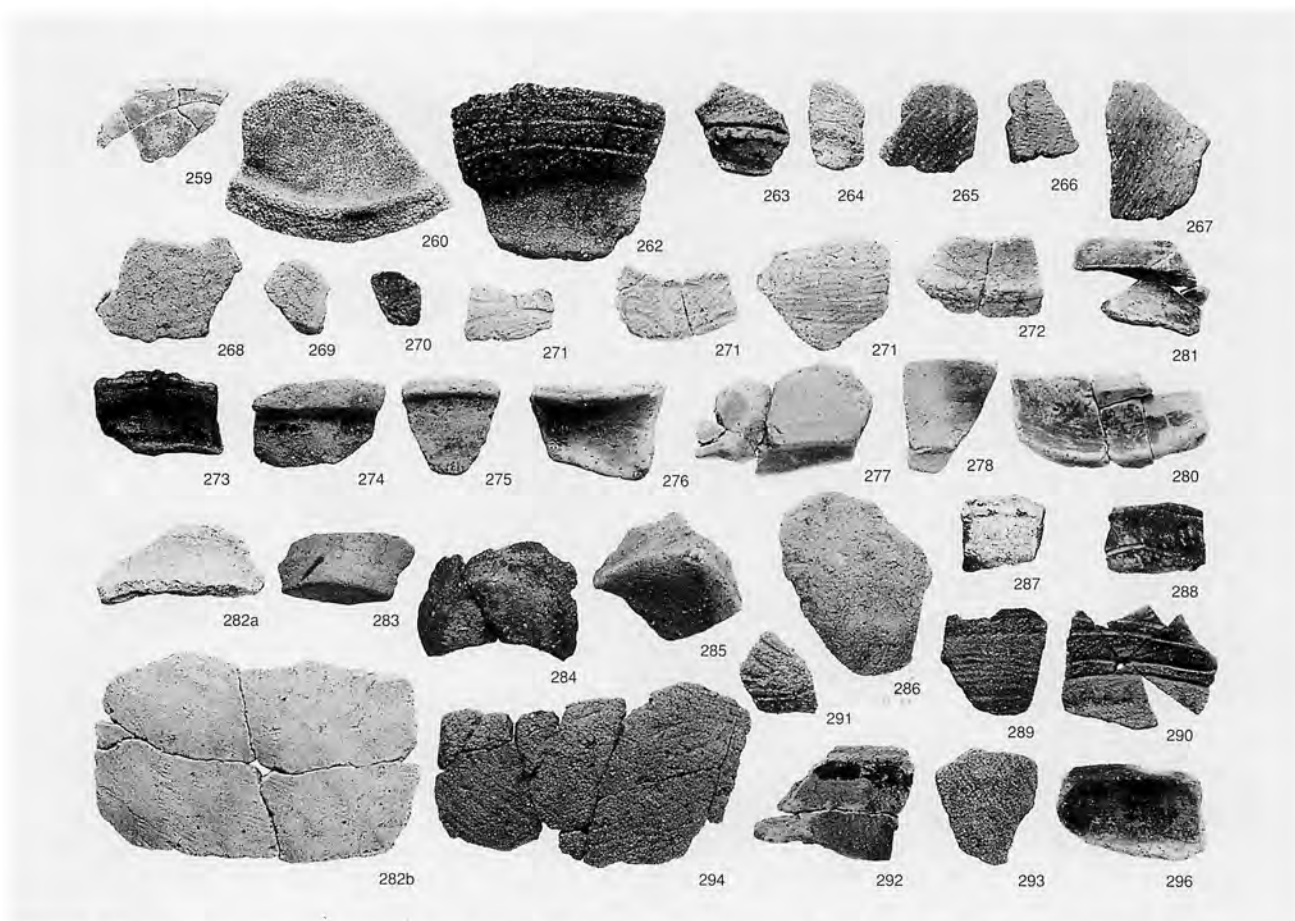
2 SII307 (156~171・173~175・178~181)



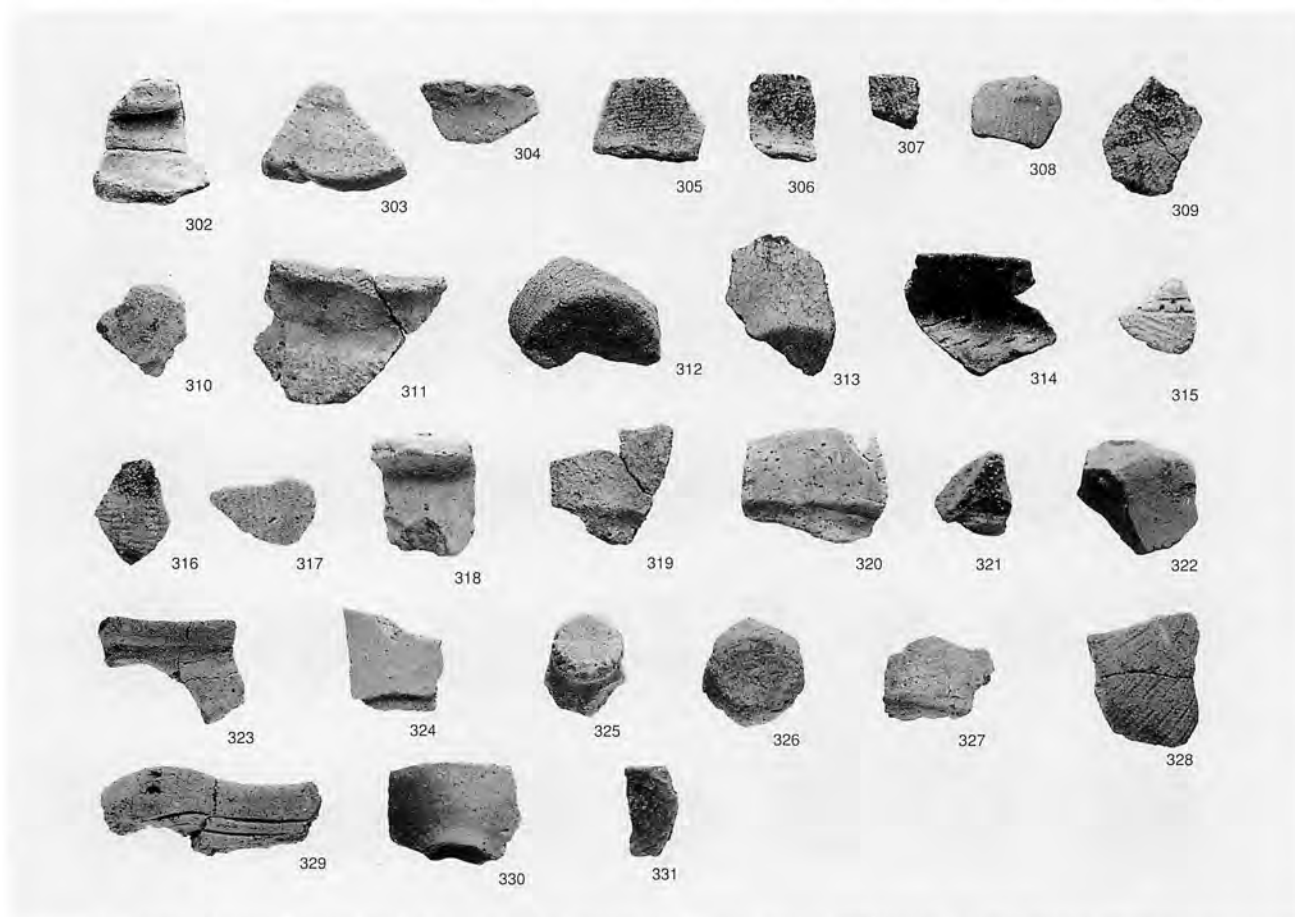
1 SD03S16 (182~189・191~205) 12T包含層 (206~213)



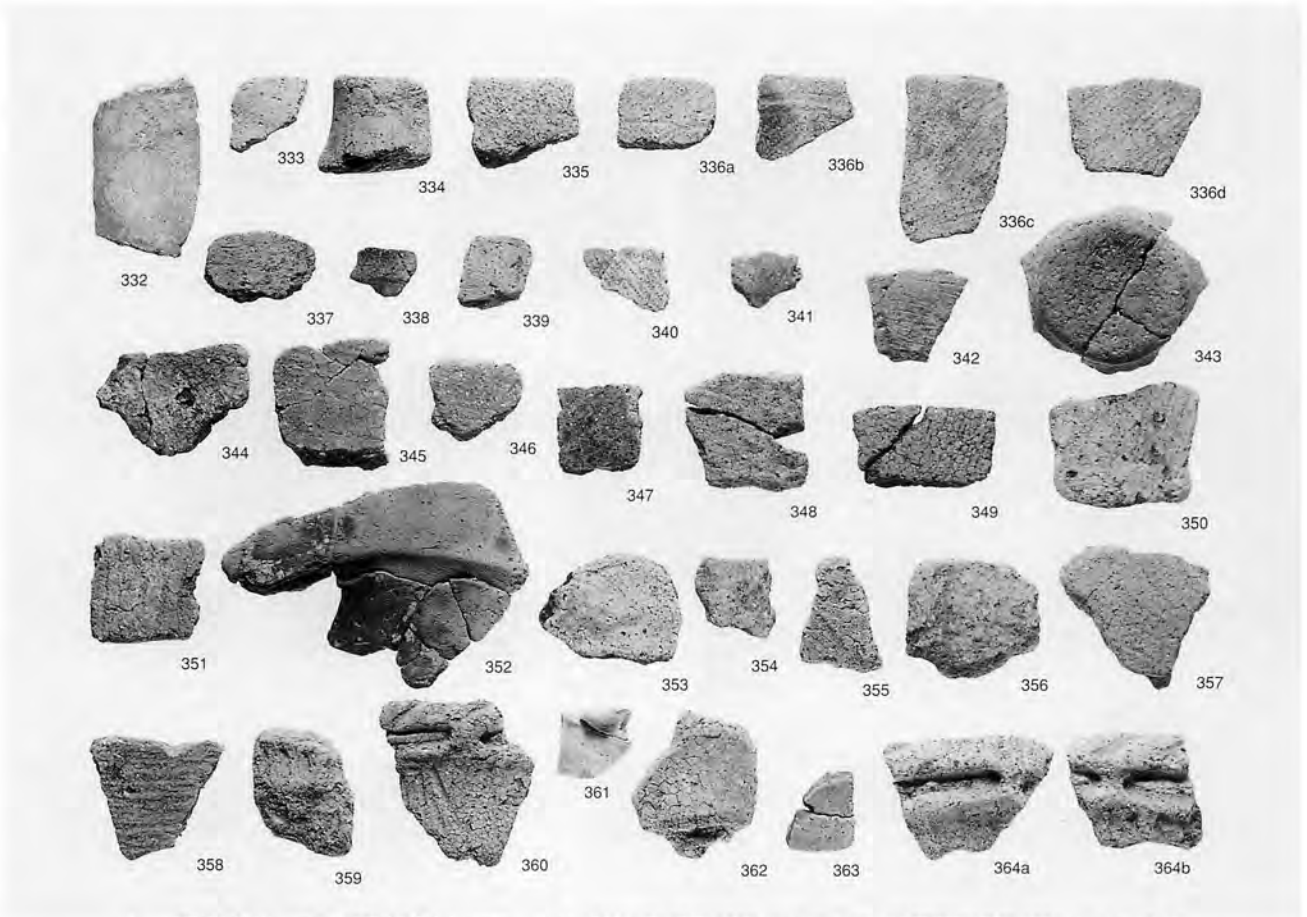
2 SD1011 (215~217・220~229) 13T包含層 (219) 15T包含層 (230・231) 17T包含層 (232~234)
SI1311 (235~245) SI1312 (246) 18T包含層 (247~253)



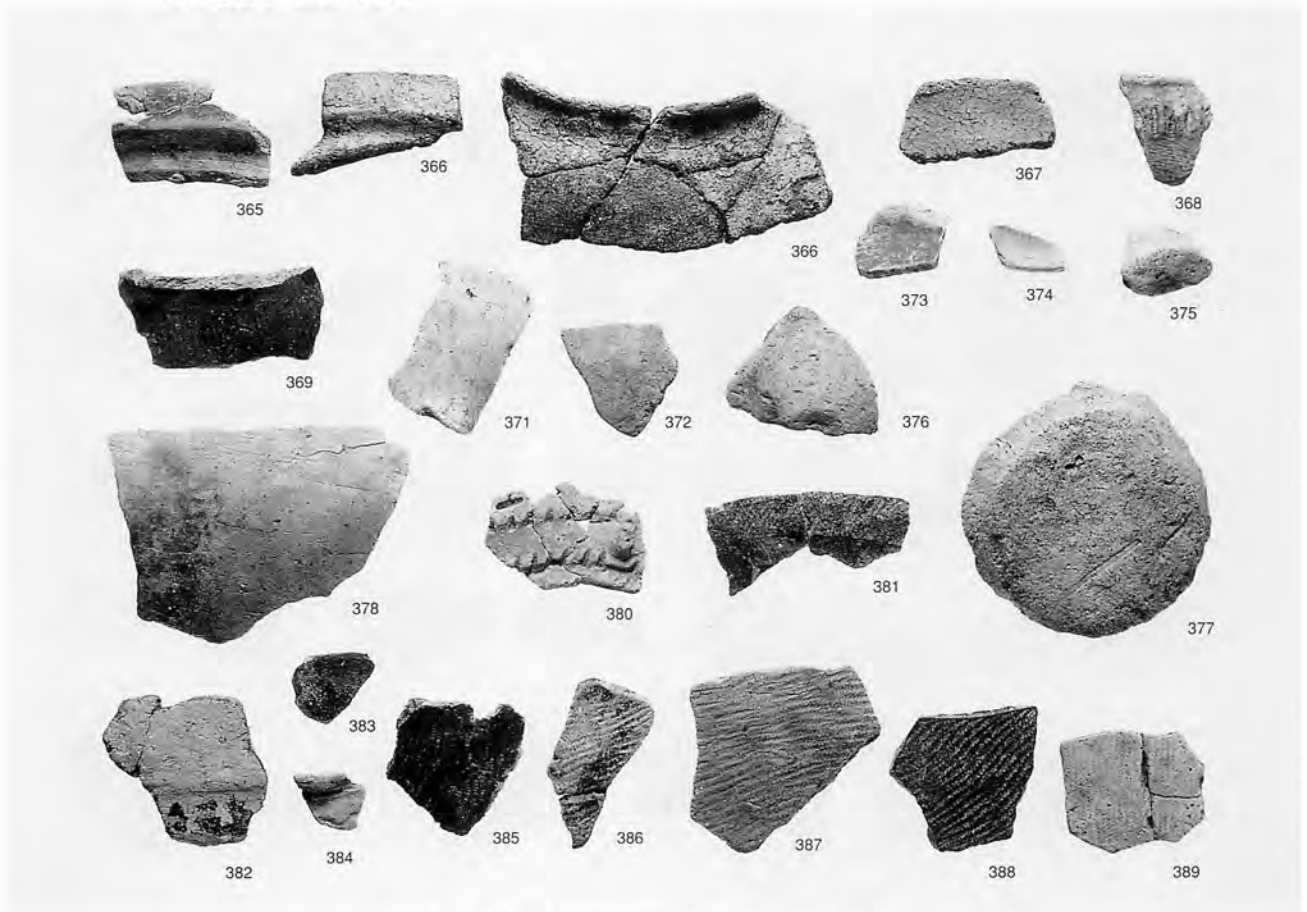
1 SI1313 (259・260・262～268) 19T 包含層・Pit (269～272) SI1309 (273～278・280～294) 16T 包含層 (296)



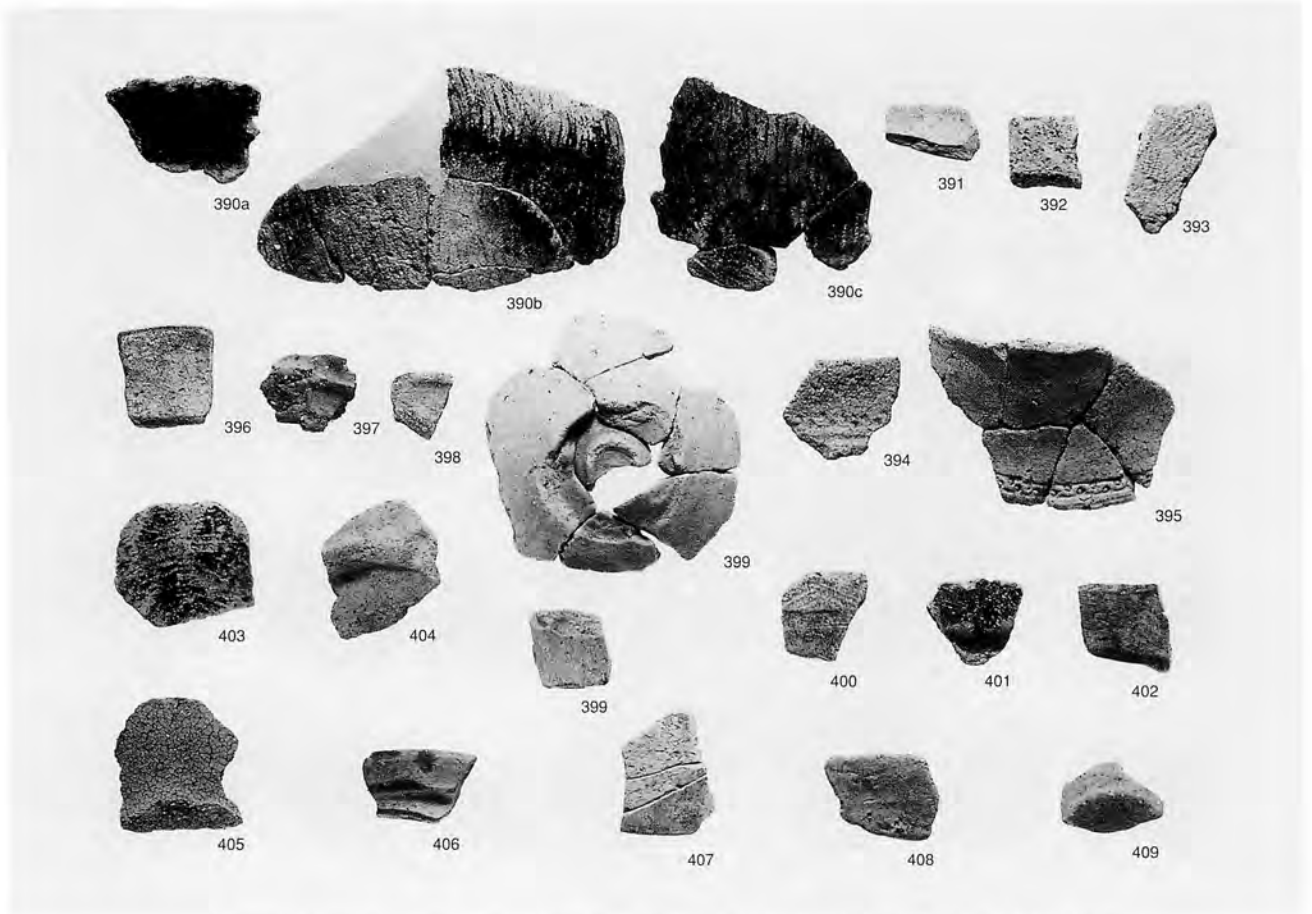
2 SI03S21 (302～318) 1T 包含層 (319～322) 2T 包含層 (323～328) 4T 包含層 (329) 5T 包含層 (330・331)



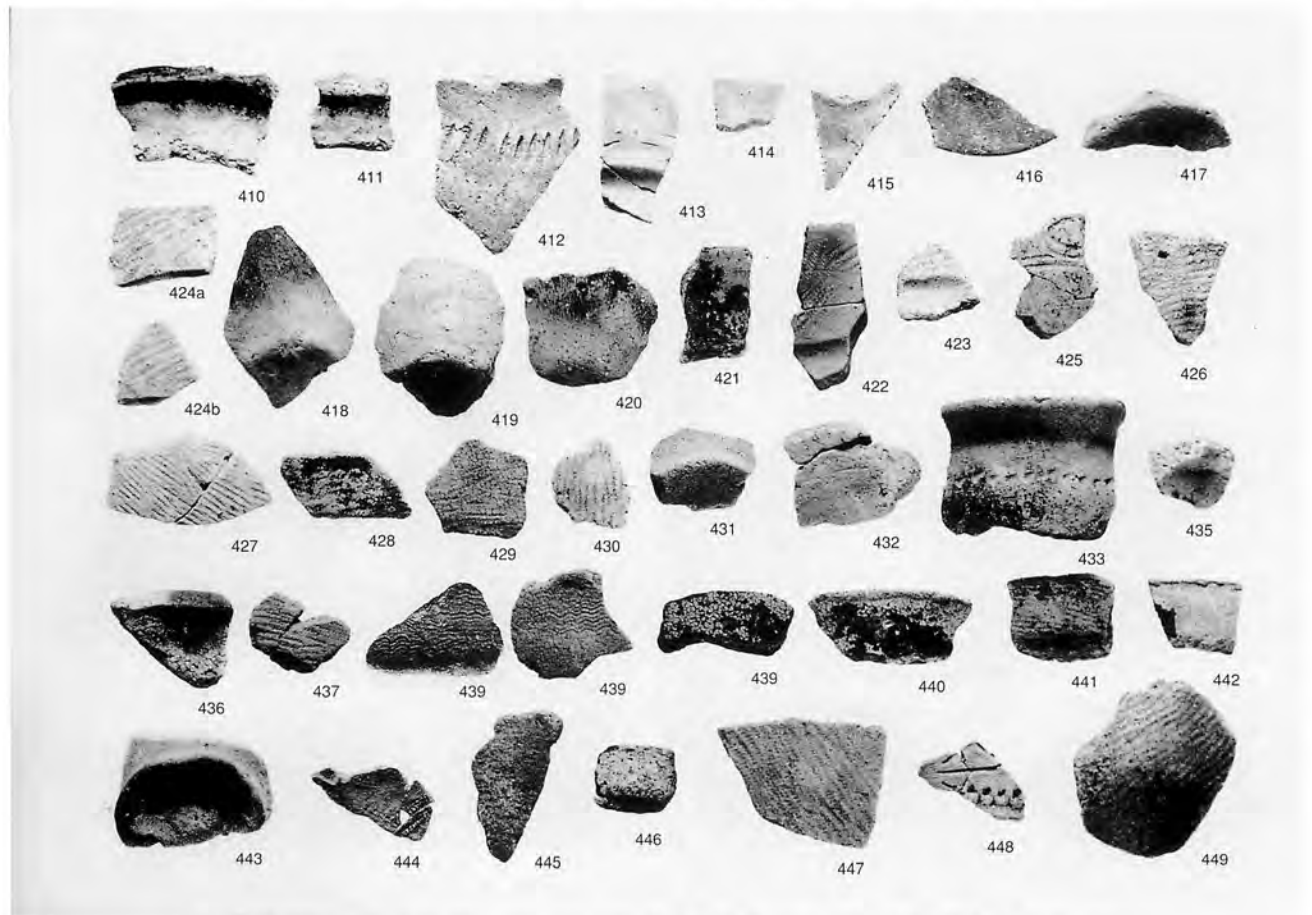
1 8T包含層 (332) 9T包含層 (333~337) SII407・SK1419 (338~351) 10TSK・SD・Pit (352~360)
10T包含層 (361~364b)



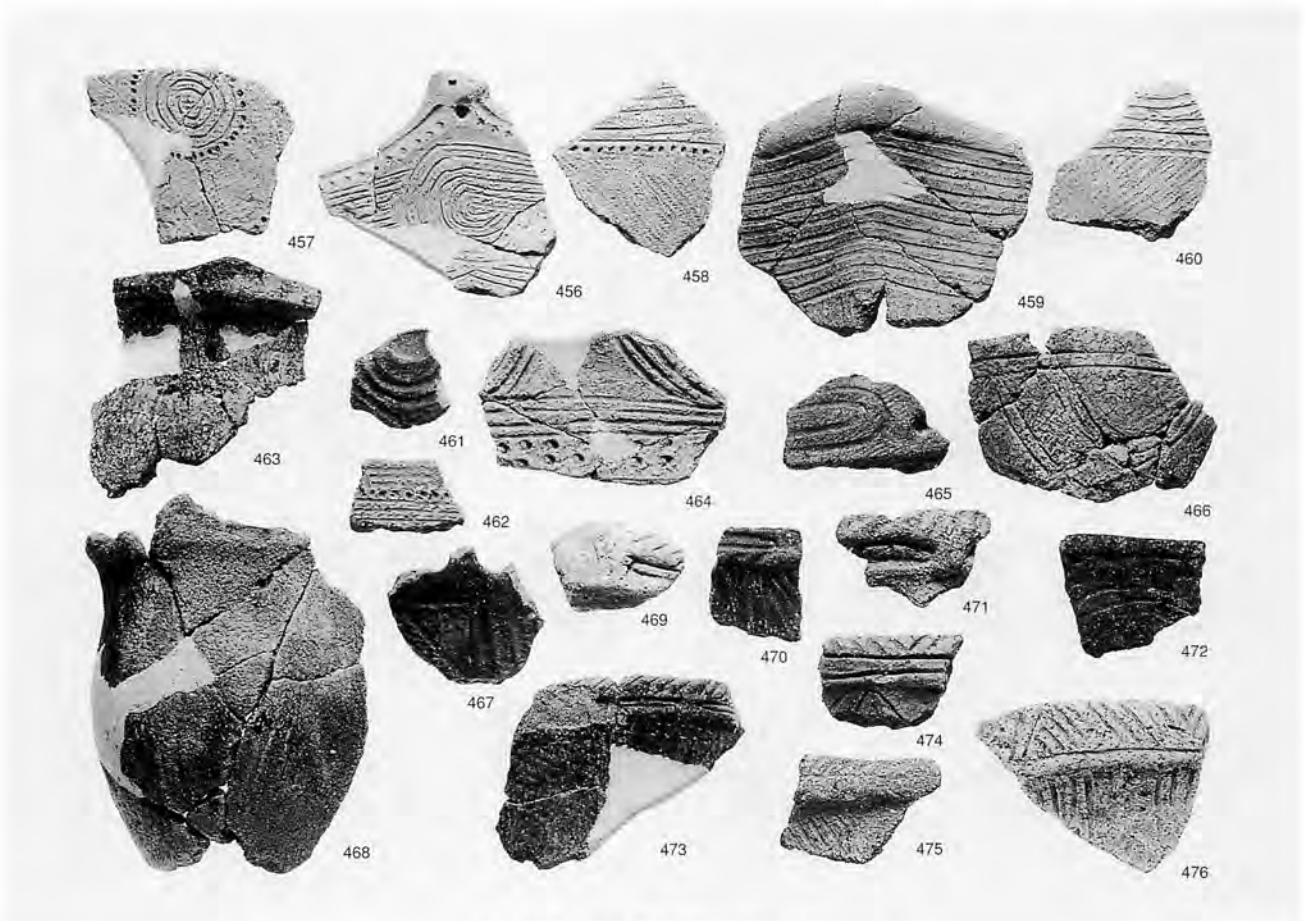
2 SD1402 (365~369・371~378・380~389)



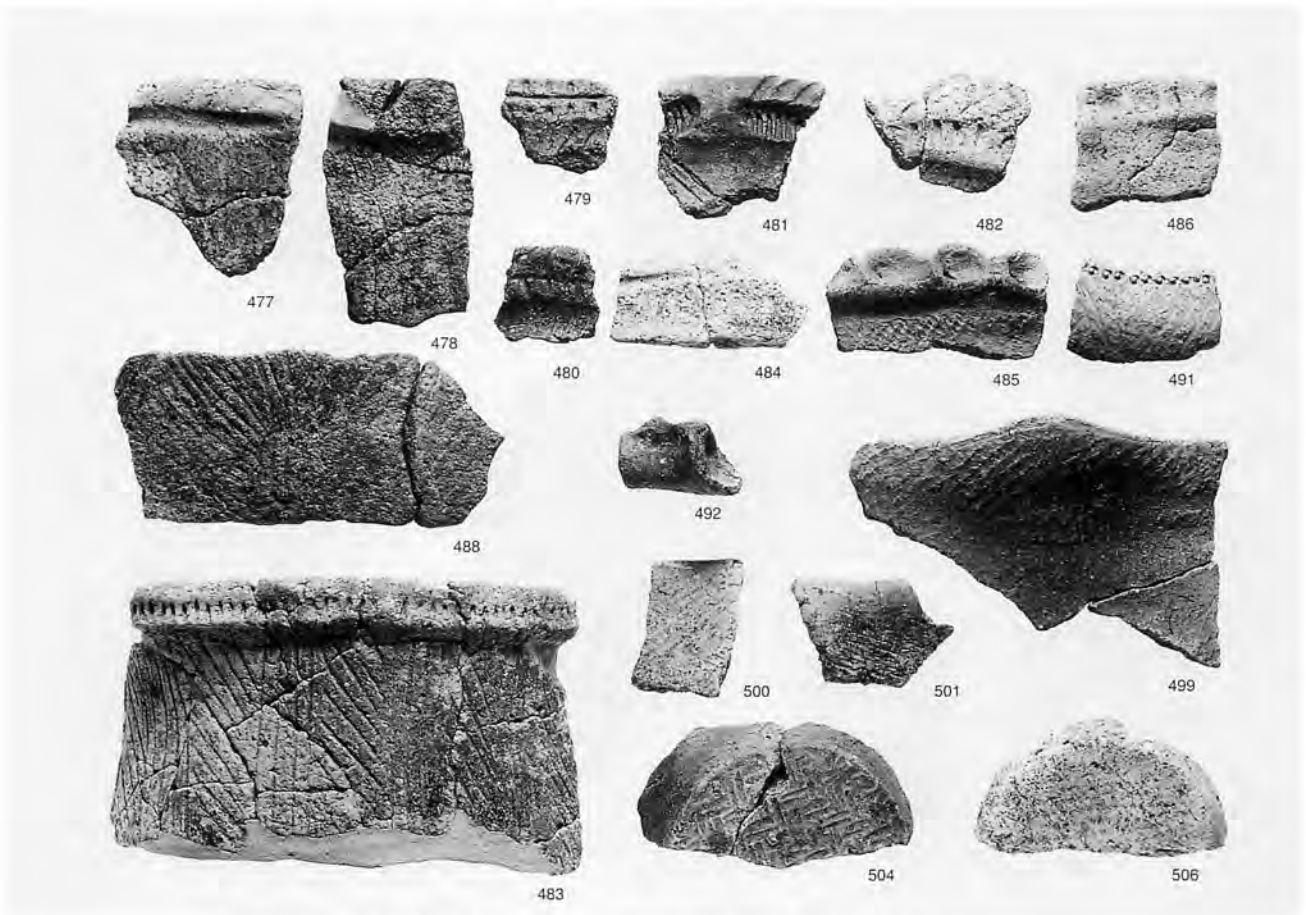
1 SD1402 (390a~390c・396~403・405~409) 3T包含層 (391~395) 12T包含層 (404)



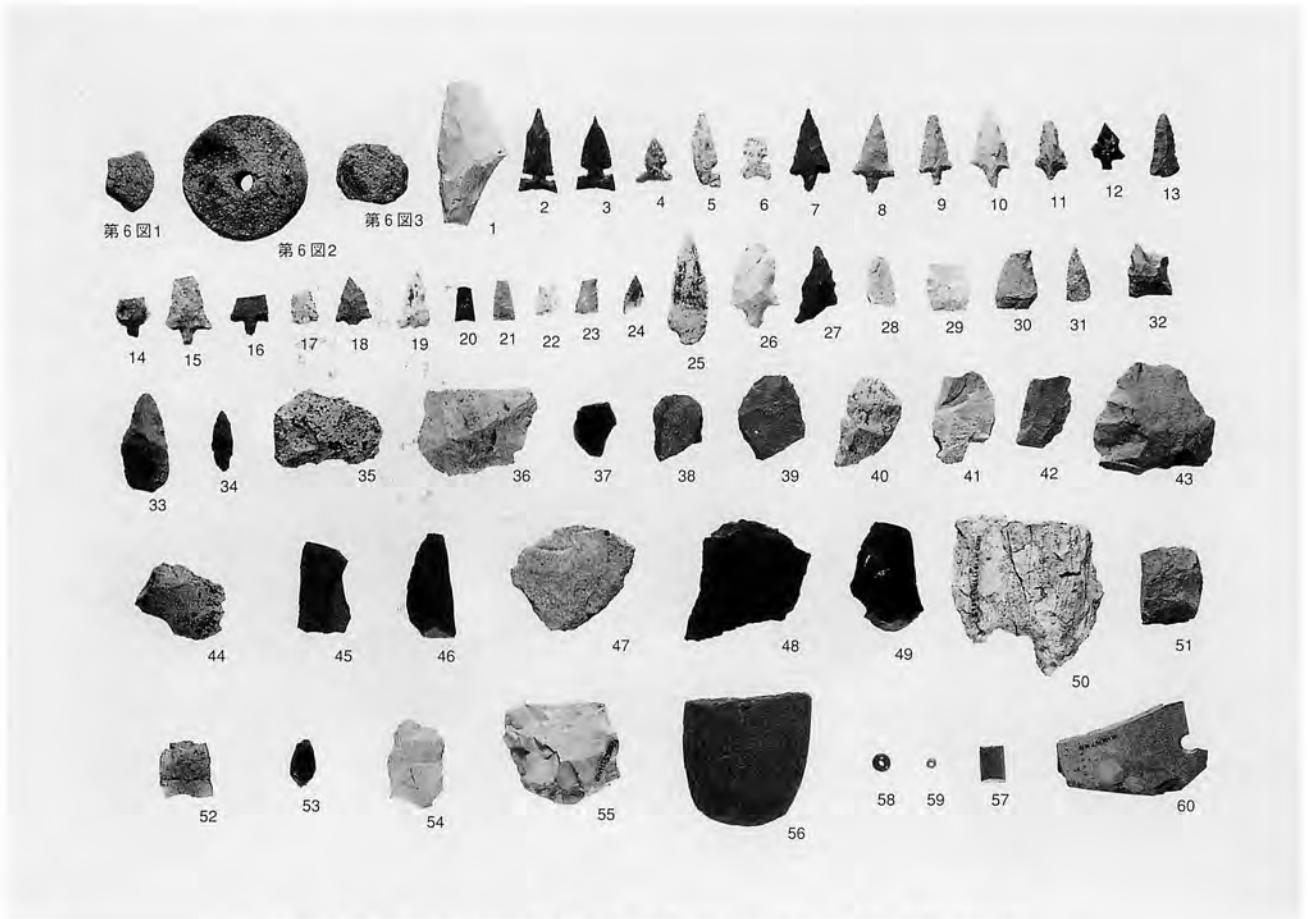
2 SD1402 (410~433・435~437・446・447) 16T包含層 (439~445) 17T包含層 (448・449)



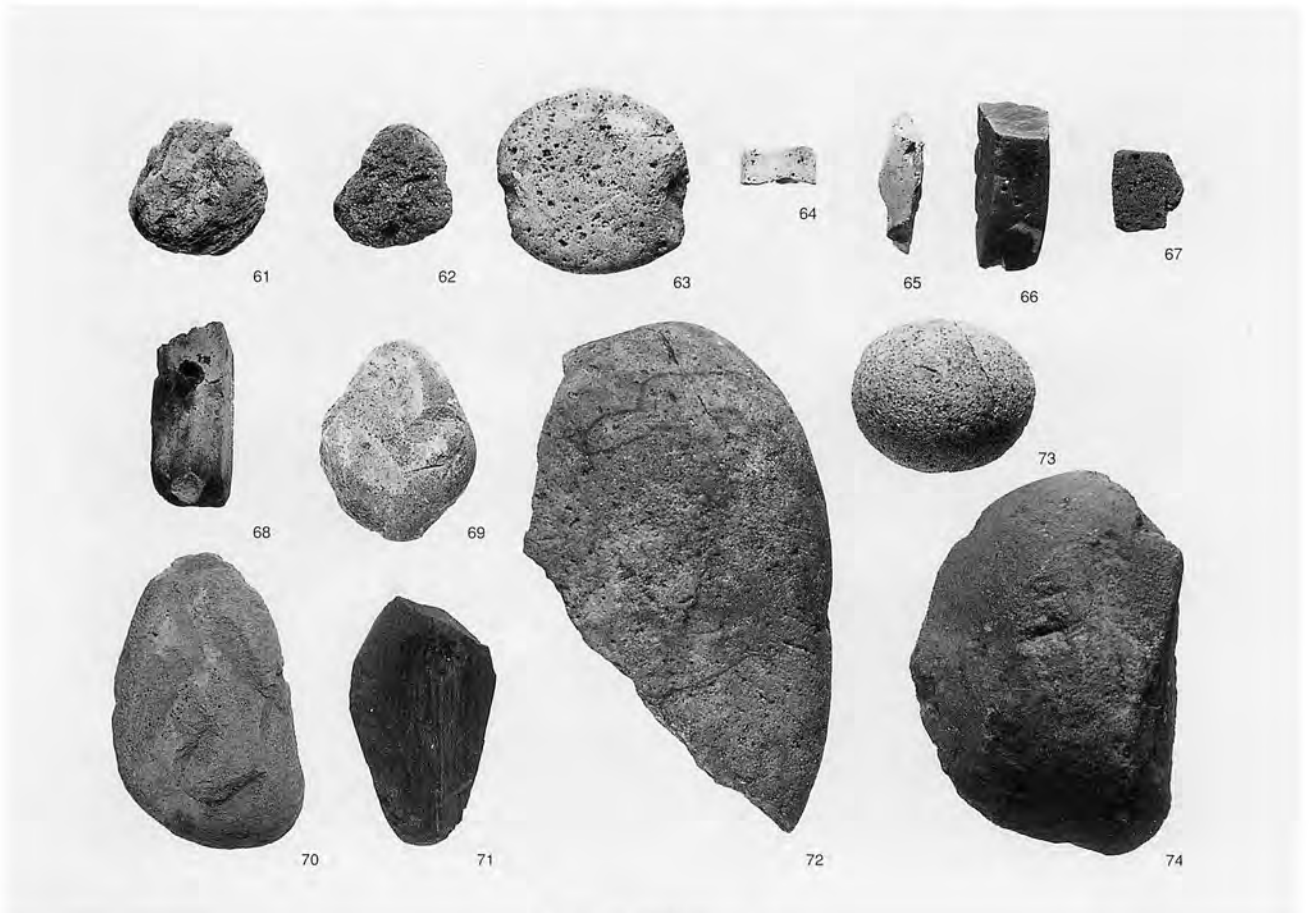
1 10T (456) SI1409 (457~476)



2 SI1409 (477~486・488・491・492・499~501・504・506)



1 土製品 (第6図1~3) 石器・石製品 (1~57・60) ガラス製品 (58・59)



2 石器・石製品 (61~74)

報告書抄録

ふりがな	はちまんやまいせきぐんはつつちょうさほうこくしょー ーだい11・12・13・14じちょうさー							
書名	八幡山遺跡群発掘調査報告書 ー第11・12・13・14次調査ー							
副書名								
巻次								
シリーズ名	新津市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	渡邊朋和・立木宏明・高野裕子							
編集機関	新津市教育委員会							
所在地	〒956-0035 新潟県新津市程島2009番地 0250-24-2111							
発行年月日	西暦 2004年3月29日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふるつはちまんやまこかん 古津八幡山古墳	新潟県新津市 大字古津字 八幡腰	207	16	37度 45分 55秒	139度 6分 51秒	11次20000703 ～20000707	15	大気測定所撤去工事に伴う 確認調査
						12次20010316 ～20010518	46	大気観測所撤去工事に伴う 確認調査
はちまんやまいせき 八幡山遺跡	新潟県新津市 大字古津字 八幡腰	207	50	37度 45分 51秒	139度 6分 53秒	13次20020603 ～20021007	843	範囲確認調査
						14次20030523 ～20031023	1060	範囲確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
古津八幡山古墳	古墳	古墳時代						
八幡山遺跡	高地性 環濠集落	縄文時代後期 弥生時代後期	環濠・堅穴住居・ 方形周溝墓・土坑	縄文土器・弥生土器・ 石器・土製品・ガラ ス製品				

八幡山遺跡群発掘調査報告書ー第11・12・13・14次調査ー

2004年3月29日発行

発行 新津市教育委員会
新潟県新津市程島2009番地
〒956-0035 TEL (0250) 24-2111

印刷 (株)平電子印刷所
福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地
〒970-8024 TEL (0246) 23-9051